33 H
144
1

Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY

Keiogijuku Library

寄贈者

東亜経済調査局

[illegible]五年八月一二日

慶應義塾圖書館

Digitized by Google

Original from KEIO UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY

滿洲讀本

昭和五年版

財團法人東亞經濟調査局

Digitized by Google
Original from KEIO UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY

33H
144
1

昭和五年版

滿洲讀本

慶應義塾圖書館

財團法人 東亞經濟調查局

Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
KEIO UNIVERSITY

はしがき

日本が眞に興亡を賭してロシアと戰ひ、十萬の死傷者と二十億の戰費とを犧牲にし、つひにロシアの野心を打倒することがなかつたとすれば、疑ひもなく滿洲と朝鮮とは其の領土となり、支那本部は恐らく今日までに歐米列强の俎上に上り、白人の世界制覇は完成されて居たことであらう。深甚なる世界史的意義を有する日露戰爭に於ける日本の勝利によつて、ロシアの侵略の歩みは見事に挫かれ、朝鮮・滿洲・支那本部を含む東亞全體の治安を維持し平和を護持する任務が、吾國の双肩に負はせらるゝこととなり、而して吾國は此の重任を盡して今日に及んで居る。

日本が滿洲治安維持の重任を負荷してより既に四半世紀、而して此の四半世紀に於ける滿洲史は、恐らく世界史に比類を見ざるべき經濟的發展の記錄である。過去二十年間に、滿洲の人口は二倍に增加し、その貿易額は殆ど三十五倍に增加した。昔時の寒村が一切の文明的施設を具備せる文化都市となつた。旅順は朝日に匂ふ櫻の名所となつた。乃木將軍の詩によつて名高き金州は苹果の名產地になつた。關東州をして支那に於ける

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

唯一の安全地帯たらしめた。いまや滿洲は、全體として支那の最も繁榮なる地方となつたのである。しかも此間に於ける日本の國際的進路は、決して坦々たるものでなかつた。日露戰爭直後から、日本は不斷に米國の經濟的挑戰に應酬せねばならなかつた。而して世界大戰後に於ては、更にロシアの赤化政策と、支那の利權回收運動とに直面して、さなきだに容易ならざりし路が、今や嶮難一層を加ふるに至つた。

日本は、一切の國際的紛糾に處しつゝ、滿洲に於ける特殊權益を今日まで維持して來た。而して日本以外の如何なる國が此の地位を占めたとしても、斷じて企及すべからざる平和と幸福とを滿洲に與へて來たに拘らず、種々なる攻撃が日本の滿洲政策に加へられた。日本の滿洲維持なかりせば、必ずや分割の運命を免れざりし支那共者は、日本の威力によつて僅に事なきを得つゝある事實を無視して、今や露骨なる排日運動を滿洲に轉向せしめつゝある。而してロシアは不凍港獲得の宿望を夢にも拋棄しやうとしない。その希望は今後國力の充實と共に強大を加へるだけである。米國は三十年來の滿洲進出計畫を斷念する心は毛頭ない。日本の努力によつて滿洲の經濟的價値が異常に向上せる今日に於て、その計畫はいよいよ熱心の度を加へるだけである。かくて今日の滿洲は、

屢々歐米諸國に於て『アジアのバルカン』と呼ばれ、また多くの記者は好んで此の地域を『次の世界戰』の舞臺とさへ呼んで居る。

滿洲をアジアのバルカンたらしむるものは決して日本ではない。若し此地をして次の世界戰の舞臺たらしむる虞ありとすれば、それは有てるが上にも有ち、富めるが上にも富まんとする列强の貪婪に其責を負はせねばならぬ。日本の滿洲に對する關係は、米露のそれと同日に語るべくもない。太平洋の西に向つて、また南に向つても、嚴重に進路を阻まれたる吾國にとりて、僅かに殘されたる唯一の進路は滿洲である。そは國防の上から言つても、經濟の上から見ても、吾國にとりて死活の關係を有して居る。從つて滿洲より吾國を驅逐せんとする如何なる國の企圖も、それは吾國の國家的生存を拒むものである。而も吾國は滿洲に於て己れ獨り榮えんとするのでない。現に滿洲の驚くべき發達が、主として日本の努力に負へるに拘らず、日本のこれによつて得たる利益は、その拂へる犧牲に比べて極めて少ない。之に反して滿洲及び在滿支那人の得たる利益は莫大なるものである。日本は未開の地を開拓して世界の富を增し、治安を維持して住民の安寧を圖り、あらゆる文明的施設によつて滿洲を改善したることによつて、人類のために

偉大なる寄與をなせるもの。日本の滿洲經營は、日本人が昂然として世界に誇り得る事業である。日本は何者をも畏るゝ所なく滿洲に於ける地位と事業とを進めねばならぬ。

然るに今日の日本人が、腦裡に描く滿洲は、實に三十年前の滿洲、とりも直さず日露戰爭の戰場としての滿洲である。當時の滿洲は、僻陋未開の曠野なりし上に、兵火相交はる修羅場なりしが故に、出征軍人の滿洲より受けたる印象は決して快いものではない。而して勝つて凱旋するや、日本の津々浦々より出征せる三十萬の士卒が、それ〴〵鄕關に歸りて滿洲の陰慘と窮乏とを故老子弟に物語つた。かくて三十年後の今日に於ても、滿洲は荒涼窮寒の地なるかの如く想像されて居る。而も繰返して述べたる如く、此の過去四半世紀間の日本の努力は、實に滿洲の面目を一變せしめた。その變化は、文字通りに人をして隔世の感を抱かしめねば止まぬ變化である。吾等は此の小册によつて、其の變化の實相を示して滿洲の現狀を彷彿せしめ、國民の關心を滿洲に向つて一層深刻ならしめんことを期するものである。

昭和五年七月

財團法人東亞經濟調査局

大川周明

滿洲讀本目次

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

挿入寫眞

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY



南満洲の平原

Digitized by Google
Original from KEIO UNIVERSITY



北滿洲の平原

Digitized by Google
Original from KEIO UNIVERSITY

○滿洲の展望

○滿蒙の地勢
一、面積

	方里
○東三省	六五、二〇四
遼寧省	二一、八六九
吉林省	一五、五八〇
黒龍江省	二七、七五五
熱河省	一〇、一六八
○日本	四二、七四七
内地	二四、七六二
朝鮮	一四、三三二
臺灣	二、三三二
樺太	二、三三九
南洋	一三九

一、山脈
長白山系
興安嶺系
陰山々系

第一　滿洲の展望

地勢――氣候――動植物――住民――行政――交通――物産――商工業――
農耕地の開拓――南滿洲――關東租借地――滿鐵會社附屬地――開放商埠地

地　勢

滿洲は行政上遼寧(奉天)吉林及黒龍江の三省に分れて居る支那版圖の東北部を占むる地域であつて、西は蒙古及支那本土と、東北は露領シベリアと、南は我國の朝鮮及黄海と接して居る。緯度は北緯三十八度四十五分から五十三度三十分に亘り、東徑八十八度二十分から百三十五度二十分に亘つて居て、我巖手縣乃至北海道と等しく、又歐洲の南半部と同位である。三省の總面積は六萬五千餘方里であるから、我國の總面積四萬三千餘方里の一倍半よりは稍々廣い。

一、河流
黑龍江
松花江
嫩江
洮兒河
烏蘇里江
大綏芬河
圖們江
鴨綠江
遼河
灤河
大凌河
小凌河

一、湖沼
興凱湖
達巴庫湖
必爾騰湖
呼倫池
貝爾池
同亮泡
大漁濼
達里諾爾
大布蘇諾爾

○休火山
ウユン
ホルドンギ

滿洲の地勢は其の中央部が最も高く、全域の屋臺骨を組成し、傾斜は南と北とに兩分され、南方の傾斜は白頭山を起點として遼東及朝鮮南部に向ひ、北方の傾斜は大部分黑龍江に向つて延びて居る。而して此の兩傾斜は各々分水嶺を形成する山脈を介在して降下し、自ら全域を南北に二分して居る。此の兩域は鐵道開通前迄は住民の文化程度に尠らず差異を見たが、現在に於ては此の地勢的文化の優劣が除かれ且又南北滿洲の境界が、漠然ながらも此の地形に據らず、交通上又は行政上の區分を限度とする關係上、その境界の判然しないのと等しく、住民や文化程度も南北によつて大差のないようになつた。

沃野千里を誇る滿洲は、山岳に富み、長大なる河川に潤ふて居る。その略々不規則三角形をなす地域中には、西・北に崛起して東南に派走する陰山々系と最高點三千七百呎の大・小興安嶺を始めとして、最高峰八千呎の白頭山を含む長白山脈は、東南に起つて西走北進し、折々三千呎以上六千呎の高峰を突起せしめてゐるが大勢は、北東より南西に竝んで蜿蜒たる連峰を成し、小丘は概ね北西より東南に向ふものが尠くない。北部滿洲には休火山がある。

○人口
東三省二九、五三七、三〇四
遼寧省一五、九七九、四〇四
吉林省八、五九二、三〇〇
黑龍江省　四、九六五、六〇〇
熱河省四、五〇〇、〇〇〇

○地質

此等の高峰は夫々に大小の河川を發して居る。即ち長白山脈より東流するを豆滿江といひ、南流するを遼河及鴨綠江とし、更に北方へ流れて黑龍江に朝する松花江、烏蘇里江等又此處に源を發して居る。而して南方を流れて松花江に合する嫩江とを合せて、此等滿洲の五大水系は、廣袤七萬五千方里の滿蒙の地域を環流し、舟筏の便を與へ、農耕灌漑の利を惠み、人文の發達に寄與して居る。更に深谷又は平原中に、往々湖沼の存在を見るが、此等湖沼中には鹽湖と稱ばれて、食用天然鹽を產するものもある。

大平原地方は、此等の河流に沿ふて展開して居るが、主要なものは、松花江及遼河流域、通肯、齊々哈爾一帶及興凱湖畔の平原等である。

滿洲の平原は、北部滿洲に於て五分の三以上を占めて居るが、特に黑龍江の北部より起つて、滿洲の中央部への大展開地帶の平原は最も廣い。而して南滿洲の遼河流域、東部の伊通河流域、北部の嫩江地域より蒙古平原へと連續し滿目山峰の支障のない視野は、悠々と萬里の曠原を展開して居る。

地質は北滿洲の河川沿岸に露出する部分は、第三紀層が多いが、亞細亞大

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

一、太古代層―庁麻岩・庁岩・結晶質石灰岩
二、前寒武利亞紀層―庁岩・苦土質石灰岩・粘板岩・硅岩
三、寒武利亞紀層―苦土質石灰岩・頁岩質石灰岩・硅質砂岩・頁岩
四、奥陶紀層―苦土質石灰岩・頁岩
五、古期古生層―苦土質石灰岩・頁岩・庁岩・礫岩
六、二疊石炭紀層―砂岩・頁岩・含化石石灰岩・炭層
七、侏羅紀層―砂岩・頁岩・礫岩・凝灰岩・岩層
八、第三紀層―凝灰岩・頁岩・砂岩・油母頁岩
九、第四紀層―黃土・粘土・砂礫
一〇、古期酸性岩類―花崗石・閃長石・斑岩
一一、古期鹽基性岩類―玢岩・閃綠岩・輝綠岩
一二、新期噴出岩類―玄武岩・安山岩・石英粗面岩

陸の東縁を形成して居る關係上、北支那、朝鮮と同質の地方が多く、特長としては海成層の新しい部分は上部石炭紀のもので、以後は陸成層となつて居り、主に湖沼其他淡水の沈積層から成つて居る。地質學上太古代層から第四紀層迄を大體九紀層に分けられ、なほ岩類は三期に分けられて居る。而して頁岩・石灰岩・砂岩・礫岩・炭層・黃土・粘土其他の岩石類より成る地層中には、金・砂金・銀・銅・鐵・滿俺・鉛・亞鉛・硫化鐵等の金屬鑛物、石炭・菱苦土鑛・粘土・石綿・曹達等の非金屬鑛物を多量に包含して居る。

又農耕適地の大部分は第四紀古層又は新層に屬する部分が多く、土壤は大體に於て植土又は植質壤土であるが、北滿地方の新開地域は屢々黑色の腐植土を見受けられる。總體的に滿洲の農耕地域の地味は肥沃な壤土で充されて居る。

氣候

滿洲の緯度は、我が東北、北海道地方と等しく、歐羅巴の中部及南部の一

○氣候

一、各地氣溫（攝氏）

	最高	最低
長春	32.4	(−)31.6
（札幌	32.9	(−)34.2
奉天	35.2	(−)36.8
（青森	32.6	(−)17.4
營口	33.2	(−)25.1
（函館	30.3	(−)23.9
大連	32.9	(−)16.3
（仙臺	32.5	(−)10.8
旅順	34.2	(−)15.0
（秋田	34.0	(−)10.6

一、累年平均氣溫（攝氏）

	最高	最低
大連	14.4	6.5
京城	16.1	5.9
臺北	25.9	18.3
長崎	19.9	13.1
下關	18.8	13.2
大阪	19.9	10.8
東京	18.6	9.8
秋田	14.7	6.4
札幌	13.0	1.8

○濕度日照時平均

	濕度 %	日照時 晝時間 %
大連	66.4	62
京城	69.9	56
臺北	81.6	37
長崎	73.6	47
下關	75.5	44
大阪	73.8	49
東京	74.2	48

部に相應するが、氣候は此の地方特有のものであつて、海洋・平原・森林の影響を受けて、更に夫々に異つた氣象、氣溫を表して居る。然れども大體に於て大陸的・平原的氣象が特質である。

此の大平原の溫・熱に對する吸收・放射作用は共に活潑であつて、氣壓に急劇な變化を招來し、寒・暖の推移が極めて高速度に轉化し、夏・冬の季節が長く、春・秋は極めて短かい。而して冬期の氣壓は七八五粍以上の高度に昇ることが珍らしくない。風位は、夏季に於て東風又は東南風が多く、冬季には北風又は西北風が多く、隨つて夏季は比較的凉しく殊に朝夕は春秋の氣溫に下るが、冬季は嚴寒が多い。滿洲の冬季の氣溫は高・低兩氣壓が西から東へと三・四日間に交代するから所謂「三寒四溫」が生ずるのである。

滿洲の氣候は大陸的で、寒暑の差は激しい。而して降水量が尠くて蒸發が甚しく乾燥の度が高い。滿洲は北緯卅九度から五十度の間に跨つて居るが、地勢風位等の關係上、南北によつて、氣溫の差は相當に大きい。而して南滿洲の關東州一帶は、日本內地の東北地方よりは遙かに凌ぎ易いが、北滿地方

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

秋田	八〇・八	三八
札幌	七九・〇	四二

○降水量・風速度

	降水總量 粍	風速度 米秒
大連	六一八・八	四・七
京城	一三六四・五	一・八
臺北	二一二七・八	三・二
長崎	一九五八・八	三・一
下關	一六〇三・四	三・四
大阪	一三五七・六	二・八
東京	一五六一・三	二・六
秋田	一八二三・二	三・八
札幌	一〇三〇・五	三・二

○快晴・降水日數

	快晴日	降水日
大連	一二四	七三・三
京城	七二	一三三・八
臺北	三〇	一八六・六
長崎	四一	一六五・九
下關	三五	一六一・八
大阪	四四	一三七・三
東京	三七	一四六・二
秋田	一七	二三三・七
札幌	三五	一九四・七

○動物

は北海道よりは寒暑が激しい場合が多い。每年四月下旬から五月にかけて急に氣溫は高くなり、內地の春季に當るが、六・七・八の三ケ月は內地の同緯度の地方よりは高溫に昇る。而して九月に入れば氣溫は下降し、下旬には結霜を見る事珍らしくなく、十月から冬季に入り翌年三月迄は氣溫が低下して居る。

滿洲の土壤は素より、氣溫・地中溫度・濕度・蒸發量・降水量・降霜・風位等は、此の地方特有のものであつて、隨つて農作物の種類及農耕作業の上にも、幾多の特異的なものが見られる。

動物・植物

動物

滿洲に棲息する動物は日本・支那・朝鮮等のそれと同一圈內に屬し、其種類は殆んど各種分科に亘つて居るものと見られて居るが、未だ完全な分類は成就されて居ない。

○哺乳類

現在發見された主要なものを文献中から抄録すれば、食肉獸のアカグマ・アナグマ・カハウソ・オホカミ・キツネ・タヌキ・ヤマネコ・トラ等、嚙齒類のヒツジ・ムサヽビ・リス・ザウ・ジユンロク・ネヅミ・ウサギ等、厚皮類のヰノシヽ、反芻類のカモシカ、食蟲類のハリネズミ・ムグラ等、蝙蝠類のカハホリ・ウサギカハホリ等である。

○鳥類

次に滿洲に棲息する主なる鳥類は、猛禽類のワシ・イヌワシ・トビ・ハチクマ・タカ・フクロ・ミヽヅク等、燕雀類のツバメ・ブツポウソウ・カハセミ・ヨタカ・メジロ・ヒバリ・ツグミ・ヒタキ・セキレイ・ヤマガラ・シジウガラ・ヒガラ・モヅ・カサヽギ・ムクドリ・ホヽジロ・スヅメ等、攀木類のヤマゲラ・カツコウドリ・ケラ等、鳩鴿類のハト・ベニバト等、鶉鷄類のライテウ・ウヅラ・キジ・ヒチメンテウ等、渉禽類のノガン・クロヅル・ツル・シギ・チドリ・ミヤコドリ・トキ・コウノトリ・クヒナ・オホバン等、水禽類のアジサシ・カモメ・ウミネコ・ウ・カリガネ・ハクテウ・ヲシドリ・カモ等である。

○魚類

次に滿洲に棲息する魚類中沿海魚類は、日本・支那と大差なく、タヒ・ヒ

ラメ・サワラ・ボラ・カレイ・コチ・イカ・スヅキ等であつて、満洲には長大な河川が多く、此等の河流や湖沼に棲息する淡水魚族は、特有のものもあるが大體・支那・日本産のものと等しく、鯉・鮒・鰌・鯰・スヅキ・ハゼ・ハヤ等と、銀魚・會生魚・面條魚・瓶魚・花魚・回王魚等やスッポン・河蟹等である。

○植物

植物

北満洲
南満洲

満洲は支那・日本を聯ねる一大植物帯の中に包含され、その植物類は我國のそれと大差はない。然るに北満地方にはユキザサ・羊歯類・灌木類等が多く、矮少な樹木に富んで居る。而して南満洲の植物中には更に蒙古・朝鮮の植物をも添加して多種類に上つて居る。

○植物種類

大・小興安嶺・長白山脈・黒龍江・松花江一帯の地形上の北満洲部と、興安嶺接壤地帯から南進して、遼寧省地方から遼東半島へ展開する一帯の南満洲部とは、植物帯に殆んど異色を認められないが、特に南満洲地方は、支那移民の密度が細かく、移植々物の數も夥しく、遼東半島・關東州一帯は、日

本人による植林の成績が近來著しく目立つて居る。

○森林

鬱葱たる滿洲の鴨綠江・松花江・豆滿江・牡丹江流域地方や、大・小興安嶺地方、長白山脈一帶に亘つて、蜒蜿と續いて居る針・濶葉の大森林は、美しい草原と相錯淆して天然の美觀を表して居り、殊に豐沃なる松花江の平原一帶に於ける草原の植物の豐富な點は馬來群島に於ける壯麗な植物帶と竝べ賞せられた程である。

○花卉

滿洲に於て、分布繁茂する樹木は六百餘種を數えられ、菊科・毛茛科・薔薇科・百合科・羊齒科・禾本科・十字花科等は夫々十數種以上三十數種の分類が遂げられて居る。滿洲の植物は此の地方の特異的のものも少くないが、支那・朝鮮・日本等と類似する以外に、アルプス山地方の灌木類に等しい英國の諸島に自生する植物類と同種類のものが多い。

○樹木

此等の植物中主要なる樹木類は、公孫樹・一位・松・胡桃・楊柳・樺木・殼斗・楡・桑・木蘭・小蘗・防己・樟・虎耳草・薔薇・荳・芸香・苦木・楝木・大戟・黃楊・漆樹・衞矛・槭樹・無患子・省沽油・鼠李・葡萄・田麻・錦葵・檉猴桃・檉柳・胡頽子・八角楓・五加・山茱萸・石南・灰木・齊墩果・

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○材木

木犀・羅摩・茄・玄參・紫葳・馬鞭草・忍冬等の各科が擧げられ、其の分類は三百四十六種に及んで居る。

滿洲の大森林は、松・樅・檜・楢・梠・楓・楡樹・白楊・白樺・胡桃・白丁香・鹿梨等の良材を多量に產出して居る。而して植物中には、穀物・雜穀類の他、花卉・蔬菜類等を豐富に產する。

○野生草花

又野生の花卉類中には、松葉牡丹矢車草・鳳仙花・朝顏・花罌粟・美女櫻・千鳥草・美女撫子・風船草・紫雲草・君影草・桔梗・勿忘草・燕子花・水仙・芍藥・女郎花・野薔薇・茜草・蒲公英・菫草・白薔薇等が靑天の下に天然の色彩を見せて居る。

住　民

○住民

○人種別

ツングース族蒙古族支那族

滿洲の土着住民は、總數二千九百萬內外であつて、人種はツングース、蒙古及支那の三種類である。而してツングース人種中には、滿洲人・ダウール・オロチヨン・マネーグル・ビラル・ゴリド・朝鮮人等を含み・蒙古人種中には、ブリヤード・ケプチン・オーロート人を含んで居るが、之等三人種中支

○支那人

○行政

○遼寧省各縣政府
縣(五九縣)

瀋陽　營口　錦　東豐　臺安　黑山　綏中　錦西　寬甸　撫松　桓仁　撫順　金　海龍　莊河　雙山　遼源　梨樹　法庫　鎭東
開原　遼中　彰武　西安　海城　盤山　北鎭　安東　臨江　興京　輯安　本溪　岫巖　柳河　金川　康平　昌圖　安廣　通遼　突泉
西豐　蓋平　鐵嶺　遼陽　新民　義　興城　通化　長白　鳳城　安圖　輝南　清原　復　洮南　洮安　開通　瞻榆　懷志

那人が最大多數を占め、全體の六割以上に及ぶものと見られる。而して社會組織・風俗・文明等の大體は渾然として支那風に淳化して居る。總人口は約三千萬人と見られて居る。

行　政

滿洲は、支那中央政府の管轄に屬し、行政上、遼寧(奉天)吉林及黑龍江の三省並に東省特別區に分れて居る。國民政府の治下に移つて後、熱河特別區に省政を敷いて東北四省と稱せらるゝに至つた。現在支那行政組織によれば各省政府は中央政府に直屬して、省內の行政を執る事になつて居るが、滿洲の地方的軍閥によつて築かれた勢力と滿洲固有の事情とは、支那本部各省と異るものがあつて、中央政府は中間機關として東北政務委員會を置き、東北四省(關東州・滿鐵附屬地を除く)及東省特別區の統治に當らしめて居る。

更に軍事關係に於いては遼寧省の首府奉天に東北邊防軍司令長官を、吉林、黑龍江及熱河の各省首府には夫々副司令長官を置き、各省代表者をして兼ねしめて居る。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○吉林省各縣政府縣（四二縣）

吉林　濛江　舒蘭　雙陽　濱江　同賓　楡樹　蛟河　琿春　額穆　勃利　寶清　綏遠　饒河
長春　農安　樺甸　德惠　扶餘　賓　阿城　延吉　東寧　汪清　依蘭　密山　樺川　方正
伊通　長嶺　磐石　乾安　雙城　五常　葦河　寧安　敦化　和龍　同江　虎林　富錦　穆稜

○黑龍江省各縣政府縣及設治局（縣局）

縣政府縣—拜泉
呼蘭　海倫　璦琿　肇東　慶城　綏化　龍江　林甸　通北　呼瑪　湯原　烏雲　依安
巴彥　呼倫　訥河　肇州　蘭西　蘿北　安達　泰來　龍鎮　漠河　綏濱　明水　佛山
室韋　臚濱　青岡　木蘭　望奎　嫩江　克山　通河　奇乾　大賚　景星　雅魯
設治局—鐵驪
索倫　甘南　泰康
東興　鳳山　德都

次に遼寧省には、秘書長・民政廳・財政廳・教育廳・建設廳・農工廳・公安管理局（警察廳）總交涉署・屯墾修路濬河研究會・屯墾辦公署・交通委員會・財政整理委員會・高等法院・鹽運使署を始め、市政・商工機關・郵電事務其他に關する各局處等が設けられてある。

吉林省には、東北邊防軍副司令長官公署が置かれ、省政府は祕書處・民政廳・財政廳・教育廳・建設廳・農鑛廳・吉林全省公安管理局・吉林交涉署の他に政治・財政に關する關係各官署が置かれてある。

黑龍江省には、東北邊防駐江副司令長官公署が置かれ、省政府には祕書處・民政廳・建設廳・農鑛廳・教育廳・財政廳・黑龍江全省公安管理局等の他に商・工・農務に關する各官廳が置かれてある。

熱河特別區域は、民國十七年九月十七日付の國民政府令を以て察哈爾・綏遠・青海・西康の各特別區と共に省制に改められ、十八年十二月廿九日付省政府組織と共に各委員が任命された。熱河省の行政は前記三省政府の組織と同樣であつて、其の區域は舊熱河特別區域の其のまゝを踏襲した。即ち卓索

富裕 奇克 遜河
布西 綏稜 鷗浦
○東北四省
○東省特別區
○哈爾濱特別市
○政府組織
○縣政府
○市政府
○物產
○穀物

圖盟五旗・照烏達盟十二旗・哲理木盟六旗が其の管區である。

各省は更に縣に分れ各縣は縣政府を組織し、縣長の下に各機關を設け、縣は更に區・村・里等の自治機關を設けて分治して居る。又市政を施行する各市は、縣の管轄外にあつて省政府に直屬し市政府を組織し、市長の下に財政・土地・社會・工務・公安の各局を置き、自治に當つて居る。東省特別區は露國行政權回收後に於ける舊東支鐵道附屬地を謂ひ、行政長官は各省長と對等の地位を有し、哈爾濱に駐在して管內に於ける一般行政に當つて居る。而して複雜なる國際關係を有する哈爾濱は特別市として特殊の制度の下に自治制を布いて居る。

物產

滿洲は古來農業地方であつて、物產の大宗は農產物であるけれども、畜產・水產・林產・鑛產・各種工業製品等も亦頗る豐富に產出されて居る。

農產物中大豆其他の穀類は、最も多量に產出され、殊に「滿洲大豆」の聲價は世界的となつて、歐米諸國へも輸出されて居る。高粱・粟・玉蜀黍・大

Digitized by Google
Original from KEIO UNIVERSITY

麥・小麥・其他の穀類の出產量も多く、餘剩を各國へ輸出する量は少くない。

○畜產

次に滿蒙は有名な畜產地方であつて、滿洲からは牛・馬・驢馬・騾・豚其他の家畜類や、家禽類が相當に輸出されて居る。

○林產

更に滿洲の大森林地方からは、マツ・モミ・タウヒ・タウシラベ等の針葉樹、ナラ・カシハ・シナノキ・ニレ・クルミ・シラカンバ等の濶葉樹の良材を多量に產する。

○水產物

又廣大な各河川や湖沼や、沿海地方からは、淡水魚・海魚及貝類を產出して居るほか、滿洲三大物產の一として大豆・石炭と並稱される鹽を出して居る。

○鑛物產

次に洲內の各地からは、各種金屬類や、石炭を出して居る。殊に石炭は滿洲三大物產の一として　多量に產して居るが、最も良質のものは　南滿洲に多い。

○工業製品

前記の豐富な產業上の物資を原料とする各種加工製造業は、年一年と繁榮を招來し各種の製品を產出して居る。

交通及通信

〇交通

滿洲の交通は、古くから陸運には牛・馬を利用し、河運には戎克と云ふ支那型帆船を用ひた。然るに十九世紀に入つて、露西亞がシベリア鐵道の東支線を敷設し、次で滿洲へも支線を延長するに及び、主要な交通は此の鐵路に由つたが、その後逐年鐵道線路の普及を見るに至り、現在では交通機關の首位として鐵路が繁榮して居る。

〇鐵道

滿洲に於ける鐵道は南滿洲鐵道・東支鐵道・北寧(京奉)鐵道の他に、四洮・洮昂・吉長・吉敦・吉輝・呼海・金福等の諸鐵道其他多數である。鐵道以外の陸路の交通機關に、近來自動車が進出して來た。

次に交通機關としての海運には、南滿四港と稱ばれる大連・旅順・營口及安東等の貿易港がある。此等の諸港は支那・日本及歐米諸國へ直通又は聯絡する航路を開いて居る。此の他に日本內地から朝鮮を經由して、大連に往復する飛行機の航空路便が開始されて居る。

○通信

滿洲の通信機關は、關東州及滿鐵會社の附屬地內は關東廳に於て管轄し、其の他は支那の地方官憲に於て掌理して居る。滿洲と日本內地間の邦文電報料は特定のものであるが、郵便物料金は內地同樣に取扱はれて居る。而して支那側の局所に發着する郵便・電信料金は夫々の規定に依らねばならない。

○商工業

商・工業

○商業

支那人は疾くから、滿洲に於て商業に從事したが、牛莊の開港や、南滿洲鐵道の敷設等によつて、歐米人や日本商人の貿易業者として居住往來するようになつて以來、支那獨特の商業組織にも影響し、改組が行はれたところもあるが、現在に於ては新・舊兩樣の方式によつて商取引が行はれて居る。

○輸出入

在留內地人は主として、關東州・滿鐵會社附屬地・開放商埠地等に居住し、又は滿洲內地に往來して商業に從事して居る。商品の主要な物は、輸出品は大豆其他の穀物・豆油・豆粕・鹽・各種工業原料等であつて、輸入品の主要なものは綿絲布類である。商業機關・補助機關には各地に商工會議所・同業組

合等がある。

〇工業

滿洲には油房・燒鍋・磨房の三手工業が、古くから土着人によつて營まれたが、他に大規模の工場はなかつた。近年日本人によつて創始された各種の工業は歐洲大戰當時の好況を機會に、近代的機械工業化し、油房・釀造業・製粉業等の在來のもの丶機械化した以外に、衣・食・住用其他日用品類の製造工業が勃興した。戰後の不況に際しては相當の打擊を受けたが、豐富なる原料と、低廉な賃金とに惠まれて居る滿洲工業はその將來を期待されて居る。

〇重工業

滿洲の主要工業は、前記のもの丶他に卅餘種を數へられるが、殊に、紡績・製麻・毛織・柞蠶・製紙・製粉・煙草・製鹽・木材加工・燐寸・釀造・家畜飼料・油房・油脂及塗料・畜產加工・硫化染料・硫化曹達・硝子・鐵工業・車輛製造工業等は滿洲の重要工業として、其將來を囑目されて居る。

農耕地の開拓

〇滿洲の農家

滿洲の農業は、殆んど全數に近い迄に、支那人等によつて經營されて居る。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○水田と朝鮮人

○果樹園と日本内地人

○在滿朝鮮人
九割は農民
昭和元 七八三・一八七人
二 八二一・六二九

○關東州日本人農家
（昭和三年）
水田 四〇戸
果樹園 二四〇戸
○全滿日本農家 七〇〇戸

吉林・遼寧兩省の各地特に北滿の間島地方に於て主として水田の耕作に從ふ朝鮮人と、南滿洲鐵道沿線と關東州内に主として果樹園業を經營する内地人と、東支鐵道沿線の露西亞人農家と極めて小數の歐米人の農園經營者とを加へて見ても此等の總數は、支那農業者の一割内外に過ぎないであらう。而して此等支那人以外の農業者等は、土地所有に就て、夫々の母國又は母國の屬領に於ける場合と異つて、地上權の占有にさへも多大の困難を伴ふて居るから、土地を基礎とする眞の土着農家といふのは、前述の通り殆んど支那人の獨占に委せられてある現狀である。

滿洲に於て耕作に從事する朝鮮人等の數は一百萬人内外と云はれ間島だけでも四十萬人が密集して居る。此等の朝鮮人等は、日韓合邦後に滿洲に移住した者が多く、朝鮮内の耕地拂底に押出されて滿洲の水田に着眼して移住した者が多數である。而して、彼等の移住後の狀態は常に家計不足を繰返して居て、土地の所有權を確保した上で荒蕪地の開拓に當る支那人移民群との競爭には到底堪へられないばかりでなく、彼等は農業者としての最低經費さへも

Digitized by Google Original from KEIO UNIVERSITY

○支那農家

○入滿支那人

昭和	
二	一、〇五〇、八二八人
三	九三八、四三二人
四	八六九、〇八一人

收納する能はない極貧階級が多數である。內地人の植民地としての朝鮮が年々移住者を增加しつゝある傾向は、滿洲に移住して行く朝鮮人の數に反映して居るが、この緊密な兩輪のような關聯の一方のみを優遇し他方を顧みないに於ては、償ひ難い破綻を招徠するものと憂へられて居る。

滿洲に移住し此處に土着して農業に從事する者の數は、支那本土に於ける政治的・經濟的又は社會的な諸種の事情に支配されて其の增減は年々に依つて異つて居る、即ち支那本土特に滿洲と密接な需給關係にある山東・河北(直隸)兩省人の戰亂其他の社會不安に脅えて出稼者として滿洲に移入する數は、百數十萬人に上つた事もあつたが、其れ等の地方の平靜に歸すると共に、漸次減數して最近に於ては百萬人內外の移動を爲して居る。而して此等の渡來者等は、最初の頃には歸還者數が多く、渡來者總數の三割內外を永久移住者として留むるに過ぎなかつた。然るに其後の數ケ年の傾向は反對に、歸還者の數は三割內外となり殘留者の數が七割內外といふ現象を示した。然れども近年の統計では、渡來者の約半數は歸還し、殘留者はその半數弱を示して居

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○殘留人數

昭和	
二	七〇九、三三九人
三	五四四、三三五人
四	四三四、三九四人

○昭和四年入滿者出身地別

山東省	七四三、〇〇〇人
河北省	一七三、〇〇〇
河南省	一一七、〇〇〇
其　他	一六、〇〇〇
計	一、〇四七、〇〇〇

○入滿者分布（滿鐵沿線主要地）

昭和	
二	五三五、九九九人
三	六六八、六〇一
四	五八二、八二〇

○昭和四年各地分布

	（千人）
瀋海地方	六五
四洮・洮昂地方	一三〇
京奉地方	一二〇
長春西・西北地方	一〇
鴨綠江流域	一五
吉長・吉敦地方	一三五
南滿計	一七五
東支　南部	一、八六八人
ハルビン	九、二九七
東支東部	七三、五八七
松花江下流	一三八、四〇九
呼海	三九、〇九五

る。而して最近年の總入滿者數は前記の通り百萬人内外となつて居るが、此れは、支那本土の平靜と、一方に於ては滿洲に於ける可耕未墾地の有利な選擇が簡單でない點を知悉して居る現今に於ての狀態であるから、今後に於ても年々百萬人内外の入滿者は相當永續するものと見られて居る。

滿洲に移住して、永久の足場を礎いて行く支那人の數は、最近漸減の傾向にありとは雖も、尚ほ且つ平均一ケ年四・五十萬内外の實數を示して居る。而して最近十ケ年間の移住土着農民の數は三百萬人を超えて居るものと推定されて居る。是等の農業移住者等は、一家一族を擧げて渡來するもので、主として未墾地域の多い新設鐵道沿線の背後地又は此等の沿線等に分布されて居る。支那人小作農家の一ケ年一人當りの經費は平均六十圓未滿であつて、その自作農家の一人當りと雖、八十圓未滿に過ぎないものである。而してこれ等は數代又は數十代を經過した土着農家の例を見ても同樣であるから、前記の新移住農民の年經費の如きは數へ上げられない程度の低廉なものであつて彼等は廣茫無涯の未墾地に辿り着いて、そこに簡單な、字義通りにわづかに

東支西部	一〇〇、五七七
黑龍江其他	三七、三七
北滿合計	三八九、〇〇〇

雨露を凌ぐに足る程度の役畜小屋と同棟のアンペラ掛又は土造の露舍を構へ、井戸を穿ち道を拓いて、開墾に從事するものであつて、此の困苦の業には、故鄕戀しやの寂莫に惱む不利が相伴ふ日本人等の到底堪へ得るものとも思はれない狀態である。

○農地の開拓者

滿洲の農業可耕面積は、全面積の二二％と見積られて居るが、このうちで約六二％は既耕地と化して居るから殘餘の三八％が今後に殘されてある可耕未墾地である。

既往に於ける農地開拓の狀態を檢すれば、明治四十一年（一、九〇八年）に於ける滿洲の既耕地は約八百萬町歩に過ぎなかつたが、二十ケ年後の昭和三年（一、九二八年）に就て見るに一千三百六十餘萬町歩といふ數字を示して居る。此の比率は前者の指數を一〇〇とすれば後者のそれは實に一六九となつて居る。而して滿洲に現存する可耕未墾地は一千二百萬町歩內外である。

○農地開拓と鐵道

滿洲の農耕地開拓の動力は、逐年移住して來た支那人等に俟つこと勿論であるが、然し乍ら、之等の農耕移民等の、將來の農作物搬出路に當る鐵路は、

○遼寧省計畫三大幹線路
一蘆葫島―大黑河
一安東―綏遠
一葫芦島―熱河

現に此等移民群をして、安直に目的地に到着させるために種々の便宜を與へつゝある。山東又は河北(直隷)省から、移入する農民の多くは、海路大連・安東・營口に着し、鐵道便による者と、陸路徒歩又は鐵道便によつて山海關を超えて移入する者との別があるが、その多數は何れにしても鐵道の便によつて目的の農地へと運ばれて行くものである。而して南滿洲に於ける鐵道は、我南滿洲鐵道が、歐亞聯絡の幹線路に當つてゐるが、此の鐵道の北方・左右の各地方等には、十數路の支那側の經營になる大小の鐵道が敷設されて居て、其の總延長は東支・北寧兩線及採炭・輕便線を除いても十線二・二八八粁餘(一・四一九哩餘)に及び、今後尚ほ支那側は三大幹線路を始め、それに聯絡する地方鐵路を縱横に敷設することが計畫中であると傳はつて居るが、之等既設の諸鐵道は、貨客輸送上の利便を住民に齎す以外に、各地の未墾地開拓事業の先鋒として運用されつゝある。

○道路交通

支那人は「南船北馬」といひ、滿洲は北方の車馬に由る地域に當るので、陸路は古くから交通に利用され、現在に於ても一家一鄕を擧げての移住者等が陸路山海關を越えて入滿し、農耕目的地へ徒歩旅行を續ける者の數も相當に

多いが、滿洲の既設道路は漸次鐵道の普及に伴ひ主要街道に鐵道の敷設を見る等の變化を來し、又新移民等によつて建設される新しい農村部落や、それ等農村から鐵道への搬出荷車馬道路や、これによつて新しく勃興する都市や、各都市間を聯ねる自動車交通路等は今後新しい道路を開始し、滿洲の交通路に少からぬ變遷を招徠するものと豫想される。

○朝鮮農民

滿洲の農耕地開拓は、前述の通り、主として支那移民の力によつて行はれるが之が助勢をなした各鐵道は、數年又は數十年後に於て、此等農民によつて作り出される穀類の搬出路に當つて營業上の利潤を收めるに至るであらう。而して我朝鮮地方と接壤して居て、朝鮮人の開拓に利便の多い吉林省・遼寧省地方の、各農耕未開地方に敷設される鐵道の完成は、焦眉の急を告ぐると同時に、此等沿線に新生命を樹立しようと志す、移住朝鮮人等の保護奬勵は時と事情の如何に拘らず、徹底的に實行さる可き性質のものである。

南滿洲

滿洲は通常、南・北に分つて呼ばれるのであるが、南滿洲は奉天省全部、

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○日本人の特殊地位
○南滿日本管內人口
（昭和五年三月）
一、二六八、九七七人
內地人 二一〇、二五九人
支那人 七〇七、四〇七人
○南北滿洲說

吉林省の約南半部、即ち東支鐵道北部幹線哈爾濱、ポクラニチナヤ間鐵道を以て限られたる南部、及東蒙古の一部分を占むるものと解されるが、異說多く明瞭な境界もない。此地方は、日支條約に據り、我國人の自由に居住往來し、土地を商租して農・工・商業を營む特權を認められて居るばかりでなく、地理的に見ても、朝鮮や關東州と接壤して居て、我國と最も多く特殊關係を有して居る。我國人の經營に係る南滿洲鐵道は、奉天省を縱貫し、吉林省長春に終つてゐるので、鐵道の聯絡運輸關係では長春迄を南滿洲と呼び、以北を北滿と呼ぶけれども、元來東支鐵道南滿洲線は、大連、哈爾濱間を聯ねるもので、北滿・南滿の區別は、此の東支鐵道線を限界として稱呼されたものである。然れども、南滿洲は奉天省のみとなす說があり、支那の郵政事務上の區劃は之を表示して居る。他に、奉天、吉林兩省を南滿洲とし、黑龍江省を北滿洲と呼ぶ說があつて、支那政府は商租上の諸訓令を兩省に發布したが、この他に地勢に依る區分、貿易系統による區分等があつて定說のない事は、滿洲、蒙古と露領シベリア間の、確然たる國境の判定して居ないことに等しい

Digitized by Google Original from KEIO UNIVERSITY

○滿洲新文化の發祥地

ものである。

滿洲に於ける近代的文化都市は、哈爾濱を除いては、悉く滿洲南部の各地に繁榮して居る。營口が英國人に開放され、通商貿易の門戸となつて以來、南滿洲は物資の輸出入が數字に擧げられるやうになつたが、露西亞の後を繼いで、此の地方の幹線鐵路の經營に當つた日本人は、排他的な歐洲人に依つて施設されたと全然異つた共存共榮の實行を行つた。滿洲の地域は廣大であつて、僅少の鐵道附屬地の如きは數ふるに足りない程の面積であるけれども鐵道の四周に生產される物資は、殆んど此の機關に依つて、港口に搬出されるために、鐵道は全滿洲各地に亙つて密接の關係を保ち、是に因つて生ずる經濟的利益は、附屬地、租借地の在住民の受くる凡ゆる文化的施設と等しく逐年擴大されて行くのである。然れども滿洲は、支那官憲の行政區域であつて、租借地附屬地を一歩出づれば直ちに日本政府の施設區域を離脫することになるので、隨つて營業の權や、土地商租の權は條約上認められて居ても、是が實行に方つては、支那官憲の方針、其他地方的諸事情に左右せらるる所

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○特殊地位と條約の實際

多く、商租問題は、現に我國人の滿洲開發の一大障碍となり條約上の條文は殆んど未だ實現されて居ない。日本人が南滿洲の各地に於て、商工業者として、資本を投じて營業を開始する事を、支那人大衆は敢て妨害はしないとしても、土地の商租には官憲が嚴重な細則を設けて煩雜な手續を經なければならない事になつて居り、奉天當局に於ては、時の支那政府代表に依つて締結された商租案件を握潰しにしたい意向を有つものと見られ、而も斯ふした地方的障害を外間からは素より中央政府に於ても容易に動かし得ない點は、米國の中央政府と各州政廳との關係に似たものがある。

○南滿洲の農業

滿洲の一部は、山岳重疊して居るが、南滿洲の平原地域特に、遼河、鴨綠江、豆滿江の沿岸地方は、古くから農耕が行はれ、都邑が發達して居た。

○風習

又地理的關聯から、支那本部や朝鮮とは、最も緊密な關係にあつて、民族興亡の跡を檢討すれば、支那、蒙古、滿洲、朝鮮は、相對的に離合し、何等現時の如き國際的色別はなく、隨つて滿洲人は支那人、朝鮮人と雜居し、結緣して居るが、風習や生活狀態やは異つて居て、滿洲人が最も質實に、朴訥

○日本人は支那農民に伍し得ず

○滿洲の氣候
冬季最低氣溫零下三六度
夏季最高氣溫三九度五

○氣候の差違

の氣風を養ひ、簡易生活に馴れ得た點は、支那からの移住民さへも同化して終つた程に徹底したもので、今日に於て日本人が滿洲の各地に在つて、支那人に伍して農耕に從事し採算のとれないのは多く此の原始人に近い生活の簡易に馴れ得ない點に基因するものである。故に日本人は南滿洲に於て資本と卓越した技能を以て、常に支那人に先驅せねばならないもので、滿蒙の豫定諸鐵道の開設や各地鑛山の開發や、大森林の伐採や、工業の振興やが日滿共同の計算によつて實現されることが望ましい。氣候は、大體に於て、遼東半島地方は日本の東北地方に近似し中部地方から北方に行くに從ひ順次日本の北海道地方から樺太を思はせるものがあるが、一般に大陸的氣候の特質とされる季節の變化が活潑であつて、夏冬の二季の明確なのに較ぶれば、春秋兩季節は極めて微溫的に通過して行くのであつて、此點は日本內地と甚しく趣を異にする現象である。內地に於ける春の情趣は、滿洲では四月の候であつて、五月に入れば急激に暑氣を增し、六・七の兩月は盛夏の候となり、八月下旬から急に冷氣を覺え、九月は秋の季節として最も快味の多い月であるが、

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○冬季は書入時
○三寒四溫
○壯快な夏期の氣候
○開放地
○鐵道附屬地
○關東州
○在留日本內地人

十月中旬に至れば奧地方に於ては初雪を見ること珍しくなく、十一月から翌年三月迄は冬期に數へられる。滿洲の冬期は萬物枯死して、蟄居生活を思はせるが、此の期間に於て、穀物は氷結した大地を辷る荷馬車によつて鐵道附屬地に向つて搬出され、商業活潑に人事往來繁くして寒天の下に大活動の演出を見るもので、冬期こそは滿洲の書入時に當る。冬の氣溫の轉化は三寒四溫を以つて表はされるが、一週間中、寒暖の割合寒三暖四となるのである。而して、南滿洲の氣溫が日本人に快適であることは已に幾多の在留人によつて證明されて居る通りであるが、殊に春、秋及夏期にあつては、日本內地に味はれない壯快な天候が南滿洲一帶に續くのが例となつて居る。

滿洲に於ける「開放商埠地」には、各國領事館があつて、在留自國人の利益を代表して居るが、「滿鐵鐵道附屬地」は、租借地と等しく、我國政府の代行機關官廳に依つて治安が維持されて居る。「關東州」は南滿洲の南部遼東半島の尖端部を占め、日本の租借地として、滿洲の未開放地域とは全然異つた發達を遂げつゝある。滿洲に於ける日本行政區域內に居留する內地人は昭和五

年三月末に於て約廿一萬二千餘人を數へられて居る。

關東州租借地

關東州は、遼東半島の尖端部に位し、我國と最も緣故の深い地域で、現に租借地として日本政府の機關である關東廳の統治する所である。州內は丘陵起伏し、平地に乏しく、河川に惠まれず、舟運の便すべきものがなく、森林竹林等の見る可きものもなく、大陸中部東方に等しい荒凉たる禿山が露出して居る。然れども、氣候溫和で、海岸線が長く、良港を有するために、此地方は、滿洲各地中で、最も早く開發され、旅順・大連の兩市を始め、全州一圓、新文明の曙光に浴して居る。

此地方は、明治廿七八年戰役に際して下關條約に據り、一旦我國の領土と極つた遼東半島の一部分を成して居るが、日露役後ポーツマス條約に據り露國の租借權を讓受けたもので、租借期限は、大正四年の條約に基き民國八十六年即ち西曆一、九九七年を以て 滿了となるから、此後六十七年を殘して居

○關東州

○面積附屬島嶼共二二四方里四九二
北緯三八度四三分二〇秒―三九度三三分三七―
東經一二一度四分五七秒―一二二度三四分一五秒
○人口
(昭和五年三月)
八九一、四二〇人

○行政經過

○還附期限
民國八六(一、九九七)年

○露治時代

る。露人の租借時代に於る關東州の行政は、最初軍政部及民政部に分れ、將校、警視等を中堅として行はれたが、支那人の妨害に會つて殆んど實績は擧らなかつた。後旅順に關東州廳を置きアレキセーフを長官に任じて陸海軍司令官を兼ねしめ、民政・財務・外交・地方行政の各部長を置いて殆んど露國の領土と等しく統治したが、更に、極東太守を置くに及び、アレキセーフは州長官より太守に轉じ、關東州及シベリア各地、東清鐵道等を管轄したもので、此頃の關東州は、州長官の下に州行政會議・官房・醫務課・建築道路課・量地課・林業課・獸醫課及各部官署・四區廳・三市廳（大連市を含まず）裁判所、各村落行政機關等から成つて居た。

○日本の行政

日本の統治に移つた最初には、矢張り露人の方式を考慮し、我が軍政を行つたが後都督府を置いて民政を創始し、更に現在に於ては關東廳と改稱し、文治組織に改變された。

○人口

關東州及鐵道附屬地に於ける日本人は廿萬人に充たないが、密度は日本内地、各植民地は素より、此の區域に優る所は世界に少ない。今大正十四年十

○日本人の狀態
○各一方粁　密度
日本　一二四
內地　一六三
朝鮮　八七
臺灣　一一八
樺太　六
關東州・附屬地　二九五

中立地帶遼東半島租借條約一、八九八年三月二七日（露曆三月一五日）第五條

月に於ける國勢調査に據る比例を示せば、各一方里に就いての日本內地の密度は二・三七五であつて、臺灣は一・七一三であり、朝鮮（大正九年）は一・二〇六であり、樺太（大正九年）は・〇四五であるが、關東州は三・四一一であり、鐵道附屬地は一七・七六八といふ數字を示し、兩者の總比率は四・三八四となる。今之を關東州と鐵道附屬地の總面積約二四六方里に相伯仲する奈良縣の密度を見るに二・四一四であり、一・九七〇の差違を示して居る。世界文明國中高位の密度を有する白耳義國さへも三・七八二の數字を示して居るに過ぎないから、我租借地域の人口密度は世界人口密度の水準線を突破して居るものである。

關東州は租借地として、日本政府の政令に據り統治されて居るが、州に接壤する北方の遼東半島の地域、即ち遼東西海岸の蓋州河口より岫巖城の北方を通過して大洋河に至り、該河を含んで其左岸に沿うて河口に至る地域を中立地帶とし、行政は支那官憲の專管に屬するけれども、軍隊の出入は一切我關東長官の承認を求むることになつて居る。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○總面積十七方里餘

一、九〇五年九月日露講和條約第六條

○還附期限
一、滿洲本線 民國九十一年(二〇〇二年)
一、安奉線 民國九十六年(二〇〇七年)

南滿洲鐵道附屬地

南滿洲鐵道會社の鐵道附屬地は、租借地關東州に準じて、日本の行政下に在つて、日支人雜居して、商工業を營んで居るが、地域が極めて狹少である爲に大規模の發展は望まれない。併し乍ら逐年在留邦人增加に伴ひ、各種の商工業が起つて、市街地は歐米風に建設され、人馬の往來殷賑を極めて居るが住民の多數は支那人であつて、內地人は總數の二割餘に過ぎない。附屬地は鐵道と共に、日露戰役後、ポーツマス條約に據り、淸國の承諾を經て、露西亞から受繼いだものであるが、大正四年の日支條約に基き、還附期限は民國九十一年即ち西曆二千二年であるから今後七十二年目に、滿了となるものである。もと此土地は、露支條約に基いて、鐵道の建設、經營及保護のために必要なる沿線の土地を、官有地は無償を以て、私有地は時價により買收し、東支鐵道會社の行政權下に經營されたもので、引繼當時は殆んど市街の形式を整へて居なかつたが、日本の經營に移り、南滿洲鐵道會社の設立と共に、

○附屬地人口
（昭和五年三月）　三三九、四六五人
支那人　二三七、六〇九人
日本人　九五、七〇六人

銳意新都市の建設にかゝり支那人の居住を認め、日支共榮を標語として、最も理想的な文明都市を建設しつゝあるもので、地域は狹少なれども、滿洲各地域內の巨商の本據を附屬地に置く者が逐年增加して、我國の行政の完備と公平とを如實に證據立てるに至つた。附屬地は、蜿蜒七百哩に近い南滿洲鐵道の兩側に於ける鐵道用地及市街地を合せて十七方里餘にすぎない。然れども、此の狹少なる地域に於て、南滿洲の近代的文化都市は昇天の勢を以て繁榮に向ふもので、長春、公主嶺、四平街、開原、鐵嶺、奉天、旅順、本溪湖安東、鞍山、遼陽、營口等は其主要な都市である。是等の土地は、治安が完全に保たれ、在留人の生活は極めて安穩なもので、學校・病院・宗教團及娛樂機關等が設備され又滿洲各地物資の集散に伴ひ、商工業の發達を促進し內地に見られない創造的活氣が漲つて居る。

開放商埠地

大正四年の日支條約に據り、南滿洲の各地全域は日本の農・工・商業者に向

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○開放地
牛莊
安東
大東溝
奉天
鳳凰城
遼陽
新民
鐵嶺
通江口
法庫門
吉林
哈爾濱
長春
寬城子
寧古塔
三姓
綏芬河
龍井村
局子街
頭道溝
百草溝
齊々哈爾
海拉爾
璦琿
滿洲里
庫倫
ウリヤスタ
コブト
赤峯
洮南

つて開放されたことになつて居る。其後ワシントン會議に於て、九ケ國條約が結ばれ、支那に於て或一國が優越せる特權を得る事の要求を支持せぬ取極が發表された、勿論南滿洲に於ける日本の既得特權は、此の宣言に依つて消滅はしないが、支那と最惠國條約を締結せる各國には通商上の機會均等が及ばされて居るから、將來滿洲の各開放地では、一般外國人の通商貿易に關して自由競爭が演出さるゝであらう、現在に於ては、商埠地の開放されたものは、東三省に於て廿五ケ所である。而して蒙古では別に七ケ所の開放を行つて居る。即ち奉天省内に於ては一八五八年六月英淸間天津條約に基き、三年後の一八六一年より開放された牛莊を最初として、一九〇七年三月には米淸條約(一九〇三年)によつて安東、大東溝、奉天の三ケ所が開放され、明治卅八年(一九〇五年)十二月滿洲善後條約により鳳凰城・遼陽・新民・鐵嶺・通江口・法庫門の六ケ所が開放され、同條約により吉林省内の吉林・哈爾濱・長春・寬城子・寧古塔・三姓の六ケ所が開放され、明治四十一年(一、九〇八年)には、淸國が自ら綏芬河を開放したが、此他にも、吉林省内に於て

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

は、明治四十四年(一、九〇九年)間島に關する條約に基き龍井村・局子街・頭道溝・百草溝の四ケ所を開放した。當時黑龍江省内に在つては前記明治三十八年日清善後條約による開放地齊齊哈爾・璦琿・海拉爾・滿洲里の四ケ所があり、蒙古の買賣城・庫倫・烏里雅蘇臺・科布多・赤峯・洮南の六ケ所は、露西亞との條約に依り又は自發的に開放されたが、此の他に蒙古各王領中には露西亞に開放する條約を結んで居る地域もある。

○居住權

開放地内に於ける日本人は、居住の權と共に、營業又は居住用家屋の賃借敷地借入の權等を認められ自由に商業取引を行ふて居る。而して此の各商埠地には日本領事館が設立され、又は其管轄地と定められて居るために、我國人の保護及通商に關する利益の增進に助勢して居るが、領事裁判權により、民・刑事共、開放地内に於ける邦人の裁判は、日本領事の管掌する處で、陪審を用ひないが、抗告に關しては關東廳の高等法院に於て取扱ふことになつて居る。

○日本領事館

○諸民族
○肅愼
○穢
○貊
○貊の先住地

第二　滿洲の支那人

過去の滿洲——滿洲人の風俗——鄕下の生活——滿洲の實用語——支那人の嗜好と嫌惡——所謂『滿洲馬賊』——支那人勞働者——支那料理

過去の滿洲

古く滿洲地方に居住した民族の、史籍に記錄される所を綜合すれば、周代以前に、肅愼と呼ばれた一族が、今の熱河省の地域を中心として棲息して居た事が想像される。而して此の頃に穢の部族も亦長春以北に蟠居して居たと想はれるが、此等二民族は、現今の支那本部の各地に散在して居た貊族が、漢民族に追はれ東漸する途上に當つて、順年其の驅逐に遇ひ、追はれて現今吉林省の東北部地方又は朝鮮方面へと轉住したものと想はれる。

貊は支那本部の西方陝西、山西の分界地方及び、朝鮮の北方から東は魯・



大石橋娘々祭



支那人葬式（金州城外）

Digitized by Google
Original from KEIO UNIVERSITY



高脚踊



滿洲婦人の髪型の例

Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY

○扶餘
○高句麗
○挹婁
○勿吉
○高句麗の覇業成る

燕の中間地帶に及び、又直隷・山西の分界地方にも在住し、南は河南省の鄭州邊に及んで其の民族の血脈を擴ろげて居たと想はれるが、前記の如く漢民族の異分子排擊に押し出されて、つひに滿洲地方へ逃れ、今の農安地方を中心として定住し高粱を植ゑて食料とし、獸肉・獸乳を攝取し、身體肥滿し、多毛性の民族で、好んで森林地帶に居を構へたものと思はれる。而して後に扶餘の地を此の民族居住の中心地となし、此の地名を採つて扶餘族と稱ばれるに至つたものと思はれ、此の頃の扶餘人は、漢民族の摸倣でなく、獨特の文明を結成し、自力を以て既に蠻族の域を脫出したものと推察される。而してこの滿洲最初の文明民族として史上に特記される扶餘から出た高句麗族は後に扶餘の創始せる諸制度を改廢完成したものと想はれる。

更に肅愼の後を襲ふた挹婁は、後に勿吉と改稱されたが、順次勢力を得て現今の吉林省及遼寧省の一部を占有し、奉天北方の天柱山に城址したものと思はれるが、此頃鴨綠江上流地方を中心として勃興して來た前記高句麗と中原に覇を爭ひ敗退し去つた。此處に於て高句麗は北部滿洲の地一帶を統べ、

○鮮卑
○前燕
○靺鞨
○渤海

扶餘が創始した滿洲固有文明を受けて榮え、國を創めて民力を養つて居たが、西漢の末葉に及んで、江を南方に下つて國の基礎を固めた。別に又西秦の末頃、遼東地方に於て、鮮卑族が勢力を占めて、荐りに前燕と土地の爭奪をやつたが、戰敗して退き、前燕に臣服して、南漸を見切り、奉天省內の國內城に遷都し、專ら朝鮮の征服に意力を集注して居た頃、戰勝者の前燕は、支那本部に移住し去つたので、前記の高句麗は、後を襲ふて遼東の地を統べた。高句麗は領地廣く、民富み兵强く、朝鮮を侵し、遼東の近邊を脅かし、文帝の兵三十萬、煬帝の兵百萬を擊破して覇業の基礎を堅うし、支那人を威怖せしめたが、唐の太宗を經て高宗の代に至りて攻立られ、朝鮮に敗退し、後年成宗の代に至つて遂に亡されて終つた。然るに挹婁に次いで起つた靺鞨は高句麗敗退後の滿洲を支配したが、震國又は滿洲國と稱した。後に起つた金の祖函晋は此の部屬から出でて居り、現に滿洲中原地方の住民には靺鞨の子孫が居る。

　次に渤海は靺鞨に出でて、由來高句麗に屬して居たが、唐の則天武后の頃

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○契丹

○女眞
○室韋
○回紇
○遼
九主二百十年

李作榮戰功に因つて、渤海郡王に任ぜられ靺鞨を渤海國と改稱した、玄宗帝開元々年西紀七一三年（元明天皇和銅六年）の事である。渤海は初代から啞譔に至る十餘世二百餘年に渉り、領域は滿洲から朝鮮の一部に及んで、十五府六十二州に君臨したが明宗帝天成元年西紀九二六年（醍醐天皇延長四年）契丹から起つた阿保機に破られて亡びた。渤海國は日本と國交を結び、使節の交換をなしたり、大擧して見學に往來して居たが、聖武天皇の神龜五年（玄宗帝開元一六年、西紀七二八年）正月十七日始めて日本に朝貢し、爾後朝貢を續けて、醍醐天皇の延長三年（莊宗帝同光三年西紀九二五年）五月十一日最終の朝貢迄に前後二十三回に及び、契丹に亡ぼされて止んだ。契丹は鮮卑の別族で、始め内蒙古の東部を占め、八部に分管して居たが、昭宗帝天復元年西紀九〇一年（醍醐天皇延喜元年）阿保機が諸郡を統一して太祖として君臨し、女眞、室韋、回紇等を征服し、渤海を亡し、内蒙古及滿洲を併せ、朝鮮の一部にも進出し、太宗に及び、更に支那を侵し、國號を遼と改め西は天山の麓から、東は日本海に接し、南は支那本部の北部を割取し、北は外蒙古

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○金
十主百二十年

○元
十五主百六十三年

に至り、五京を建て、繁榮を極めたが徽宗帝宣和七年西紀一、一二五年（崇德天皇天治二年）に至り、金に敗れて亡びた。金人は靺鞨から出た女眞族で、挹婁とも稱された、始祖は函晋であつて遼を亡し、吉林・奉天を領有し・宋を破つて河南に出で、北京に都するに至つたのである。即ち・始祖から八代目の阿骨打は、遼の衰微を見越して反し、つひに亡して大金國を建て四邊に領土を擴め、北京に都して支那本部六省を全有し、近隣三省に侵出し滿洲蒙古を併せ、全支那の內江南に宋國を殘したのみで、他は悉く臣服させた。六京、十四總管府、百七十九縣、六百八十三鎭、四百八十城を有し、東は日本海に南は鴨綠江に接し北は黑龍江を跨ぎ、盛大を極めたが、大安二年元兵との交戰に當り、內訌を惹起し、宣宗の代に至り都を南京に遷し、哀帝の代に至り、元に亡され、十世凡そ一百二十年間にして終つた、理宗帝の端平元年西紀一、二三四年（四條天皇文曆元年）である。元の太祖は成吉思汗であつて、中央亞細亞に覇を唱へ、歐亞に亙つて君臨した事は誰しも知らない者はないが、五代の後太宗は金を亡し甥の忽必烈國號を大元と改め、至元々年都を北京に移

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○明二十世二百九十四年

○神宗四三年（西紀一、六一五年）後水尾元和元年、滿洲最初の八旗、鑲黃、鑲紅、鑲藍、鑲白を制定す

○清

○神宗四四年、（西紀一、六一六年水尾元和二年）正月奴兒哈赤太宗と稱し天命と改元す

○明の神宗萬曆四年（西紀一、六

し全支那を領した。滿洲を遼東行中書省と稱し、今の遼陽に總管府を置き七路二府十二州十縣百二十站に分つた。明の太祖朱元璋は洪武元年西紀一、三六八年（後龜山天皇正平二十三年）に元を亡し南滿洲の地を領有し、常備兵九萬八千餘を遼東に常駐させたが兵餉を求めるため是に農耕を奬勵し、屯田の制を併用したので滿洲の農耕業は盛大となつた。明は勢力が遼や金にも劣り常に女眞族に苦しめられ、內憂外患の絕間がなかつたが、永明王永曆十五年西紀一六六一年（後西院天皇寛文元年）滿洲族のために亡された。

滿洲は清朝に入つてから、農耕の業に異常の發達を遂げるに至つたが、此の功績は、滿洲族よりも、漢民族に負ふ所が大きい。明代に於て、農耕の業の盛大になつた事は前記したが、清は兵には强かつたが、農事には殆んど親しまず、明人と廿餘年の對陣に因り、切角開墾して來た耕地も荒蕪地に逆戾りする等の暴狀を呈して居る。明末に於て、滿洲族は十二の部落に分れ、平原に點在したが、固有の文化とて特記する程のものもなく、農耕の術に於ても、殆んど原始的であつた。大祖努爾哈赤は、渾河の上流地方に在つた十二

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

一二年)奴兒哈赤、吳喇國を征す

部落の一の酋長で、淸の愛親覺羅家の正系で、祖父、父共に明人に殺されたのを怨み、廿五歳の頃早くも倒明興淸の雄圖を抱いたが、當時は彼とても亦破屋に起居して農民同樣のむさくるしい生活をして居つた。其後六十年にして順治帝は全支那に君臨するに至り、此の支那統一の覇業に勳功の多かつた滿洲人は八旗を組織して北京に禁衞軍として留るに及び、滿洲人の農を捨て、支那に移住する者陸續として盡きず、滿洲民族の發祥地である滿洲は、却つて山海關を越え渤海を乘切つて侵入する漢民族のために占領された。かうして漢民族は滿洲各地に永住者として落付き荒蕪地を開墾し、部落を築いて增殖した。淸朝に於ては、滿洲旗人の禁封地として此地を保持するために、他族の侵入を防壓せんとして、禁止令を發して取締つたが、效なきを見て、在京の旗人等に封地を割當て歸農を促し、農耕具や經費を國庫から補助したが、旗人等は歸農を喜ばず、歸農した者も永續せずして歸京する等の事續出し、殘つた者は地主となり、漢民の小作人を傭入れて爲す事もなく過して行く內に、滿洲の肥沃な天地の永く荒蕪地として捨て置かれる筈なく、露人や英人

○遼東開墾招民令

○民國以來の農耕

が、或は黒龍江畔から、或は遼河口を溯つて侵入し、勢ひ領土の保全に危機を告ぐるに至り、清朝に於ては、滿洲の人口充實の必要を感じ、急に移住の禁を解き、開放したために、漢民族は一時に雪崩れ込み、滿洲各地に瀰漫して基礎を固めた。時に順治帝は支那の勸農開墾に努力し、滿洲にも遼東開墾招民の令を發して移住民を求め、世話人を官吏に取立て、農耕者には食物・農牛・種子等を與へたが、かうした保護政策は間もなく經費倒れに終り、中止して了つた。併し漢族の旺盛な活動は、滿洲の原野を變じて耕地と化し、移住者は年一年と增殖し、民國に入つて組織的に農耕の發達を圖り、日本が南滿洲鐵道を經營するに及び、農產物を海外に紹介して販路を擴め、農事試驗所を開設して各種農事の改良に努力し、物產の增收に助勢するに會ひ、現今に於ては、農家富み、文化の風に習ふて、往年の窮乏狀態から逐年致富への道を辿つて行きつゝある。然るに現在二千數百萬と稱せられる住民中、大多數は他民族であつて、滿洲民族は支那人の四分の一にも充ないと云はれ、滿洲住民の最大多數は漢民族(支那人)の占むる處となつて居る。

○支那人滿洲に移住

○服裝

滿洲人の風俗

滿洲は滿洲民族の鄕土であるが、明代末に支那統一に成功した滿洲人が支那本部に移住するに引換へ、多くの支那人は滿洲に移住して來て、つひに全人口の四分の三以上を占むるに至り、滿洲を支那の領土として實質的に占領し、風習も亦擧げて支那化して終つた。隨つて滿洲土着人の大多數は支那風俗の奉持者である。近年、外國文化の移入を見るに及び、刺戟されて衣・食・住・交に幾分の變化を見られるが、是等は九牛の一毛に過ぎないものである。

先づ服裝に就いて記せば、紺の筒袖の飾氣なしの長衣に全身を覆ふた支那人を一見すれば、何とはなしに陰氣臭く感じるのであるが、詳細に點檢すれば氣候に適應した點や、文明人の服裝として完備した點などは、無類のものである。支那人は最下級の苦力輩に至る迄、四季を通じて必ず白足袋を穿ち、顏面以外は、身體の如何なる部分をも風氣に晒すことを極度に忌み嫌ふのである。隨つて、西洋婦人が胸の上部や兩腕を露出して歩行し、日本婦人が、

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○服裝種別

下脚部や、素足を見せて外出するのを、支那婦人は一種の戰慄を覺ゆると言ふ。支那では婦人の踵を異性に見せる事は、非常な冒險事とされて居る。

衣服は、外衣・上衣・下裳・襯衣等の別があるが、外衣は、各種のオーバコートで季節により幾種目にも別れて居り、上衣は日本の羽織に當り、下裳は其の下着である。禮服は大禮服、常禮服に分れ、大禮服には、フロックコート、燕尾服の二種があり、支那製布を用ひ黑色である。常禮服はモーニングコートと他に舊式の禮裝がある。婦人の禮服は淸時代は極めて複雜であつたが、民國に入つて以來單化し、立襟の上衣の外に褂衣を着け、上衣の長さ膝に達し、袖の長さは手首迄で、左右と背の裾を割り、周圍は緣取して、全身に刺繡を施し、整然として優雅なものである。近代流行の婦人服の袴は、西洋のスカートを改良したもので、緞子、綢紗を以て製せられ、優美、閑雅の極を表はして居る。喪服は白衣で、父母の死に遇ひては三年の喪に服し、最初の百日は白粗布を裏縫として着用し、上衣は粗麻布製、其後に黑色、藍色、灰色と變つて行く。婦人は別に麻布製の袴を着ける。着用順序は

○着用順序

先づ小褂子といふ袖なしの襦袢の夏期には汗取の用をもなす肌着を着け、次に下股引を穿ち、紐で片脇に結び付け、餘りを垂下し置き、次にヅボンを穿き、筒口を足袋の中に入れて上を腿帶で捲付けて結び、上衣を着け、肩褂衣を着けるのであるが、婦人は此他に、袴を着用する。道教の祭禮師である道

○僧服

士や、佛門の僧には又特有の服裝があるが、總體に通常の支那服と異り、斜襟の日本服に類する寛衣を着け、帶はなくて腋下に紐で結び、鼠色又は藍色の綿服で、道士は古風の結髮に、道冠道帽をつけるが、禮服には、緞子を用ひ胸背に褂衣を着け、五色の糸で刺繡し、道士は仙鶴、僧侶は如來佛を附け、

○履物

更に袈裟と冠物を着ける。履物には、靴子・鞋子・草鞋・木履の數種がある。

○帽子

支那人は冠り物を凡て帽子と呼ぶので、笠なども帽子の類であるが、種類は禮帽と便帽に分れる。禮帽は更に官帽、朝帽の別があつて、官帽は小帽、大帽、涼帽、絨帽の四種があり、清朝の制であつたが今は廢れた。便帽には小帽、風帽の二種があつて、風帽は更に長式、短式があり、別に毛帽といふのや、農民常用の草帽があり、耳まで隱される耳帽があり、婦人は兜を

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

着ける。便帽の小帽は、冬期用で、黒の繻子か、緞子、天鵞絨、又は木棉布を以て製され、六辮に組合せたもので、芭蕉の杓を伏せたやうな形をして居る。風帽は一種の頭巾であつて、耳帽は使用人や勞働者等の用ふる至極簡單なものである。

○頭髪

頭髪は名物の辮髪は殆んど廢つたが、小兒は前頭部に、方、圓何れかの一握の毛を殘して他は刈り落し、少女の髪は、糸を以て三條に組んで居る。婦人の髪結人はなく、悉く自家で相互に結髪する。結婚した婦人は髪揚げをなし、額の毛を拔き、冂型に剃付ける。滿洲人の處女は三ツ組にして後方に垂れて飾を付けない。二十歳以上の婦人は、主に兩把兒頭に結ぶ。滿洲婦人の寫眞に見るO字型の二つの輪の髷の牛の角のように突出して居るのがそれで、是は滿洲族特有のもので、他民族と峻別されて居る。他に過風樓といふ稚兒髷の大形のものその他十數種がある。漢族婦人は又別に、滿洲人とは異つた漢裝をするが、一時は美人頭とて、額の眞上で結髪するのが流行し、最近は日本風、西洋風等が加味され、併用されて、數十種にも變化して行く事は日本婦人の

髪型の變化と等しいものである。

○食物

次に食物であるが、支那人は蘇州に生れて、廣東料理を食べ、杭州の絹布を纏ひ、柳州の棺に納るを幸福の極と言はれ、珍味は廣東地方を第一に推して居るが、北方料理も決して之に劣るものではない。滿洲は南北孰れにも通ずるが、北方味が濃いのである。農家や、都會地の勞働者は主として一飯一菜で、高粱又は玉蜀黍を常食とし、肉類を採る事は極めて稀で、生葱の如きを好んで食べる。

○宴會

滿洲人の宴會は、雅味と情味の豊かなもので、他國には到底見られないものである。客人に對する主人夫妻の接待は人類の創始した作法の極致かと思はれる程で、烟草や茶を獻じ、酒を杯に注ぎ、客に出す際は必ず跪き、子女の出で、酌をする時は、長く跪いて飲み終るのを待つ。宴闌に至れば、主家の男女起つて交々舞ふのであるが、片袖を額につけ、片袖は背に飜し、しなやかにすれ違ふ情景は洵に形容の詞なく、とても人間の技能とは思はれない。

宴席には、滿漢大席、燕窩席等の山海の珍味、佳肴を、價格を惜しまず山と

積み、客の好みに委せる點など、水滸傳にある酒を煮、牛を殺す大仕掛の料理を思はせる。中以上の家庭に於ける主食物は米飯であるが、焚方は鍋中に熟するを待ち抄ひ取つて水を切るので、脂肪質が拔けて甘味が薄い、高粱の焚方も同樣である。

飯が淡白な代りに、副食物は極めて油濃いものが多く、獸鳥肉の類と、野菜類に二大別され、肉類では豚を第一とし、牛、鳥、魚肉を用ひるが、回敎徒は豚肉を食べないので、其經營に係る料亭では一切豚料理を出さない。回敎徒以外は、殆んど支那料理と言へば豚料理の觀がある。鳥獸の類は毛、骨及汚物以外は悉く料理に供され、魚は淡水產の物が多く蝦と蟹も多く用ひ、貝類も尠くない。野菜は大根・牛蒡・筍・茸・瓜・薯・菜葉等で、煮物は麴物・汁物等で、別に漬物が附く。商人は大抵二食であるが、有閑階級では三食を攝り、間食として點心（菓子）がある。上流になる程副食物の皿數が多い。支那人は宴會好きの性質で、自家内に於ても月に一二回の宴會を催すが、商人は每月必ず福德神を祭るための會食をやり、官吏になれば殆んど每日の

○回教徒は豚を食べぬ

宴會で、一年の俸給は四五回の宴會費にも足りない場合が尠くない。

○嗜好飲食物

嗜好飲食物として、茶・烟草・阿片・酒等がある。支那人は朝起きてから夜寢る時まで殆んど間斷なしに茶を喫んで居るが、氣候の關係で乾燥を醫す爲めである。西遊紀の孫悟空一行が河流に出て水の湛へた川があるとて首傾げるが實際滿洲にも流水のない河が多く、日本のやうに淸流のせゝらぎは滅多にない。河流は渾々と濁つて居るのが普通で、淸水には不自由して居る。

○茶

滿洲の市街地を旅行する人々は、街頭で、湯を沸して賣つて居る老爺を隨時隨所に見かけるのであるが、支那人の下層階級や、自家に湯沸の設備をしてない家々では、日のうちに何回となく、藥罐を提げて熱湯を買つて來て、茶を點れて飲むのである。茶は周の代に始ると言はれるが、支那には野生の茶があつて、古くから飲料に供され、綠茶・紅茶・磚茶・粉末茶、莖茶、烏龍茶等其の種類も多いが、一般には綠茶を用ふるのが多い。浙江・安徽・江西・福建・湖南から良い茶を產出する。磚茶は粉末を蒸固めたもので、主として輸出向であり、烏龍茶は紅茶の一種であつて、今から百餘年前、福建省で製

出されたのを嚆矢とするが、現時に於ては、殆んど臺灣に本家が移つた形になつた。滿洲では、多人數の家族や使用人の多い家や、勞働者の作業場や、溜場等では銅壺や大藥罐に白湯を絶やさないが、日本のミルクホールに類する純粹の喫茶店、即ち茶館も支那各地に開かれて居て、各種の旨しい茶を

○烟草

取揃へて客の好みに應じて、廉く飮ませて居る。烟草は、外國物や、日本物が可成り入り込んで居るが、支那特有のものも十數種はある、魔醉性に富むもの程、疲勞を醫やし、活力を恢復すると言はれ、醉ふことを非常に喜ぶ習

○阿片

性がある。福建、廣東は有名な烟草の產地である。阿片は販賣を禁止されて居るが、隱密裡に吸飮して、中毒して居る患者も尠くない。烟管は日本物よりも長く、別に特有の水烟袋といつて、烟が一度水中を通過して喉に入る仕

○酒

掛のものがある。酒を好む點に於ても支那人は亦選手たるを失はないが、只だ日本人のやうに醉つて街頭を放歌し、誰彼の差別なしに喧嘩を賣るやうなことは決してない。愉樂のために求むるので、狂ふためのものでなく、その邊が大分日本人と支那人の性質に差別を生じて居る所以であらう。酒は濁酒が

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

先祖で、淸酒は周の代に始るといはれる、水酒・氣酒の二種に分ち、普通水酒であるが黃金色を湛へて居るため、黃酒と呼ばれ、最上は紹興酒であり、太號、花彫、京花等九種程ある。氣酒は藥酒で、强壯劑である。高粱酒は滿洲の特產で、牛莊產を最上とするが、日本の泡盛と等しい强烈なもので、滿洲ウヰスキーの別稱がある。支那では、資產家になると、女兒が生れる度に、多くは酒數甁を釀造して蓄へ置き、婚禮の時に取出して宴席に供するので、婚禮の酒は特に珍味を持つて居る。

〇住宅

支那は領域が廣く、山河平原等の尨大なるため自然の壓迫が強く、人力の貧弱さ加減が、殊更強く感ぜられる、隨つて支那人に取つて、住宅は此世の極樂境であつて、自家住宅の外は、悉く大自然であり天下であつて、個人の生活を保護して吳れる何物もない。支那に社會はあれど國家なしと他國人に云はれ、國家の保護の下に生活する國々の住民から見れば、支那人は孤立無援の狀態であるが、五千年來の慣習から彼等は夫れを少しも不安に思はず、國家なくして生存し、支那民族性を保續し、外國に發展して來て居る。而し

○家屋の構造

て支那人にとつては、居住所に當てられた家屋が即ち國家であり、市であり町村である。隨つて住宅內での一家團欒といふことが、日本などでは到底想像もされない程に蜜のやうなものがある。一族で一鄕を成し、一鄕が一町村、一市となるので、斯うした町村の成長は、幾千年の昔と等しく、支那內地や、滿洲の開墾地などで無數に散見せられる所である。家屋の構造は、普通木骨煉瓦建であつて、煉瓦は黑か鼠色を用ひ、赤煉瓦を用ひるのは極めて少い、屋根は板葺きを通例とするが、田舍には葭や粟稈等の草房が多く、市街地では瓦屋が多く、トタン屋根は少い。出入口や、窓口を枠木で支へて煉瓦を積む仕方は洋式建築と變りはなく、室の仕切は煉瓦壁を以て獨房とし、通路を左右か片側につけ、室數は三・五・七の如く必ず奇數とし、棟數も奇數で偶數を忌むことは凡てに共通である。冬季は寒氣が激しいために、必ず採煖裝置として、床下に炕が構付けてあつて、炊事場からの火氣や烟も必ず炕に通じるやうに仕込んである。入口は必ず中央に取り、裏に拔ける場合は突拔けとなつて居る、扉は二枚戸の閂扉で、室の壁は下塗して紙や漆喰を貼付し、

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

更に胡粉を加へ壁紙を貼るが、下級では古新聞紙などで間に合はせる。床は炕の關係上大抵土間が多く、板張りは少い。炕は煉瓦又は石疊とし、床下の壁付の邊に設け、約五六尺を普通とし、上には、蒲團か安平を敷くが、旅館・寄宿舍等では對炕と云つて、左右の室に設けるのもある。室々には窓があり、二枚の障子があつて、紙は出入口共に白紙・油紙・又は厚紙を用ふ。富家では、三層房とて、前・中・後の三房を建て、中を正房として主人夫婦が住み、前房を家族の住居や、應接室に當て、後房には使用人や、婢妾が住んで居る。此外に廂房、耳房等を增築し、子女の勉强集會所や、物置などとするが、後房を省くのもある。院子と呼ばれる中庭が必ず付いて居て、煉瓦を敷詰め、正面には大門があり、門外には昭牆及影壁を設けてある。滿洲の日本人街即ち新市街は、二階建以上が多く、採煖設備はスチーム・ペーチカ・ストーヴ等であるが、支那家屋は材料や構造の關係上階上に防寒設備の出來ないため等から、從來平家建が多く、層樓は官衙か、貴族の家か、寺廟料亭靑樓に限られたが、滿洲の支那人間に、洋式建築が流行し出した現今では層樓が殖え

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

て行くのである。普通の平屋は奥行三・四・五間程度が多く、棚や浴室もなく、便所は極めて簡單で屋外に構へてあり、入浴は大抵錢湯に出かけるが、これとても人口四五千に一軒の割合であつて、支那人は入浴を好まず、出產の折と結婚の日と死んだ時と、一生に三度の入浴で終るとさへ言はれる程であるが、それは淸水が得難いためで、水道の完備した滿洲の新都市には、日本の錢湯の遠く及ばない綺麗で大仕掛の洋風の支那錢湯がある。

(商舖の構造看板)

商店の構造は酒樓・茶館・店舖・旅館等により異つて居るが、大通りに面した商店は門がなくて店先に餘裕を殘してあり、又酒樓や茶館等では廊下を設け欄干を取付けて室數も多く取つてある。商店の種類は凡て看板で判明する。例へば湯屋は赤圓筒か赤燈で、酒屋は壺又は酒杯を出し、兩替屋は孔錢を垂れ、藥屋は黑塗の菱形三つを上下三角形に下げ、豆腐屋は藥屋の小形のものを白塗にして四つ、料理店は輪に紅色のリボンを垂れ、雜貨店は硝子張りの燈籠の如きものか提灯型のものを用ひ、書店は袖看板に店名を現し、饅頭屋では桃型の饅頭に似たものを下げて居る。官衙、寺廟等には凡て滿・漢・歐

Digitized by Google
Original from KEIO UNIVERSITY

○官衙寺廟

風等あれど、孰れも建築の粹を以て任じ、工匠の妙技を遺憾なく發揮して居る。然るにもとの總督衙門・道臺衙門現在の省・市・縣政府廳舍の多くは純然たる支那式で、告示文を張出す照牆が門前に設けてあり、左右には石刻の獅子があり、門扉に門神像があり、道路は敷瓦で舗裝して庭內に續き、門を入れば左右に受付があり、通路の中央に碑坊があり、突當りが大堂で、後方に小門があつて、二堂・三堂と順次に建並んで居る。寺院の門には、左右に金剛力士の像があり、廟には照壁の左右に下馬碑を置いてある。日本に現存する古代寺廟の多くは、支那建築に則つたものである。支那人の居住する處必ず一村一郭あり、城郭、城堡を築いて流賊や外寇を防ぐもので、滿洲を旅行する人々は、新市街から程遠からぬ地域か、遠くも四五支里位の地點に支那住民の本據地である城內を見るが、城內見學は滿洲研究の重な一項である。

結婚の話

○結婚と年齡

滿洲人は、男子が廿歲に達し、女子が十五歲に達すれば結婚を許される。

○婚約の順序

愈々結婚申入れをするとなれば、男家から母親が女家に出かけ、意向を確めた上で、お互に戸籍や家歴などを語合ひ、贈物をして玆に婚約が成立するのであるが、やがて吉日を選び、男家の親族一同は訪問着に身を整へて、女家を訪ふことになる。女家では中庭に接待場を設けて置き、客を迎へ右側に請坐する。女家の親族は左側に坐り、玆で更めて戸籍上の名乘合ひがあつて、

○正式成立

男側の長老者は席を離れて進み出で、某の息子に尊家の令孃を貰ひ受け、家系を繼がせ、家名を輝かし度い所存云々と述べる。女家側の長老は是を辭退する事兩回に及ぶが、型の如く承諾して、正式の約束が成立するのである。其

○贈物

後に於て男家は吉日を選び、女家に贈物をし、佛を祭り、酒を献じ、鼓を鳴らし、巫は刀を舞はし、牲を奬めるが此の儀禮は三日間にして終る。輿入の前日に至れば、女家から男家に嫁入道具を送るが、此日新郎騎乘して女家に

○嫁入道具

至り謝禮を述べて歸るや運び入れられた道具を凡て卓に並べる。良品や多量な程誇りになるのである。當日から響房の樂が賑しく始り、愈々嫁迎へとなれば、男家側から年長富有の婦人を女家に遣つて、新婦に化粧せしめ、女家

○迎嫁の式
○花輿
○合歡の誓
○新婦正裝

では仕度の濟んだ花嫁を花輿で送り出すのであるが、此際女家側の富有年長の婦人が、花嫁を護つて行くのである。花輿は必ず三個を揃へる事になつて居るが、新婦は未だ禮服を着けず、髮を中央に集めて髷を作り、紅巾を以て面を覆ひ、衣服は綿物で、肩や膝やは綿入にする。新婦の花輿が門内に入れば新郎は矢を三度放つ、此矢は惡氣を拂ふ爲であつて、必ず花輿の直前に落すことになつて居る。花嫁は寶瓶を抱ひて輿を出で、祖先を祭る祭場に禮拜して後、新郎と共に炕上に竝んで坐し、門を閉ぢて式を終れば外に出て年長者を拜する。年長者は中庭に出て、酒肉の口開きを終り、起ちて吉詞を陳べ、玆に禮式が終り、新郎新婦牀に上つて合歡の誓をなせば、天地、神像、宗祀を拜し、舅姑は坐して新郎の禮を受け、男家一統順次花嫁に面謁するのである、時に吉福長者は吉詞を唱へ、新婦の面を覆ふて居る紅布を撤し、肉饅頭を與へる。玆に於て新婦は一室に於て始めて正裝し、頭に冠物を頂き會者に交つて炕上に坐するのであるが、新婦は不言不語、決して行儀を紊してはならない。夕刻に至れば新郎は新婦に代り、髮飾の花を取つて、之を窓の低格

○里返り

に挿す。三日を經て里返りをなし、饗宴を受け、月充ちて後新婦再び里に返るが、數日の後に夫家へ歸り、茲に全く婚禮の儀式が終るのである。

出産及葬送

○出産　○着帶

妊婦は五ケ月目に着帶し、男子と別居するのであるが、出産には產婆を招き、取上げさせる。產婆は胎衣を斷ち、絹布又は絹絲で臍帶の切口を結び、胎衣は方位を占ひ清淨の地に埋める、產婦は床上に安臥し、三ケ月以內は肉類を忌み、糯米の粥を食べ、後飯を與へ、腹中の汚血を淨むるために、砂糖汁に藥草を煎じて飲ませられ、嬰兒の體は出産と同時に產婆の手で甘草湯に食鹽水を加へたもので洗ひ、口中を洗滌し、身體を拭ひ、脂粉を塗付し、綿か絹布で包み裸襁に托して抱くのである。

○葬送

家中に死者が出た場合は、死者の身邊を淨め、一切の裝飾物を除去し、粗服に改めしめ、男は牀東に、女は牀西に居並んで慟哭する、室內の步行に注意し、足音を立てゝはならない、室の一方卓上に、死者の姓名や、生死月日

○訃告

○入棺

○喪服

○弔客

○五葬

木葬
火葬
土葬
金葬
水葬

をや白絹の類に書いて載せ、酒食を供へ、かくて訃告を發し、親戚知友に報ずるのである。次に葬具を整へ、死の翌日に至つて、死體を洗つて衣に包み、新衣を以て盛裝させ、其翌日即ち死の第三日目に、更に細布に包み、親戚會して夜に至れば入棺せしむる。棺材は最も精撰せられた杉・柏・楠類を用ひ、臭氣を防ぐために漆塗を施し、屍は朱・砂糖・石灰・木炭等で貧富の程度に應じて夫々棺に詰められるのである。門前には忌中の印として、白紙製の紙錢を掛け、「制」又は「不領帖」の文字を白紙に書いて、貼り出し、紙製の轎を門外で燒失し、近親者は喪服に改める。かく第三日の儀式が終れば、紙製の車馬等を街道に送つて燒棄てるが、是は死者の靈の旅立の用に供せんためと言はれる。後柩を正房に安置し、中庭に安平を張り、假小屋を作り、靈位を置き、供物等して一般弔客を此中に入れ禮拜させ、數日間通夜をなすが、貧家では一日位にして葬る。支那には木・火・土・金・水の五葬法があつて木葬、金葬は木又は金屬棺に納めて埋葬するので佛教徒の方式であり、火葬は蒙古の富貴者に行はれ、回々教徒は死體を布に包み土葬にする。水葬は南

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

支那の一部に行はれ、死體を河海に投入するものである。又十歳以下の小兒の死者は、郊外に放棄して犬狼の喰らふに委せる風習もあると聞く。

郷下の生活

孰れの國々でも、都會地と郷下とでは、住民の生活狀態に可成の差異が、衣食住や交際等の凡てに於て著しいが、殊に支那人の社會ではそれが甚しいものである。

○資產家

郷下に於ても、大農や土地の名望家や資產階級にあつては、凡て都會風を摸して生活し、氣品や體面やを保たうとして、優雅な點が多いが、

○小農

中以下の小農や農業勞働者階級に至つては、都會地の勞働者よりも、寧ろ粗野で殆んど文化的恩惠に浴して居ないかの感を抱かせるものが尠くはない。

○衣服

農家の衣服は極めて質素で、季節に應じて花旗布、大尺布などの綿布、山羊・犬・羊等の粗製毛皮等を用ふるを通例とし、紺色の長衣、(大褂兒)ヅボン(褲子)上衣(馬褂兒)チョツキ(坎背兒)襦袢「メリヤス」を用ひ、綿入、袷、單衣などの種類がある。尚ほ帽子、足袋、鞋、帶等を合せても被服費は

春秋裝十圓から六七十圓、夏裝五六圓から二十圓以下、冬裝十三四圓から百圓以下で一通り揃ひ、祭禮等の場合は、通常服の上に、上飾を打掛けるに止むるもので、下級では一とそろへの費用三十圓內外で優に三四ケ年の使用に堪へ、廉價で重寶なものである。

○食物

食物は普通高粱、粟、玉蜀黍を常食として居る。麥粉や玉蜀黍や粟の麵や饅頭を食べ、白米飯を食べるのは中以上である。高粱は一日一人平均八合內外を食べ、副食物には、豆腐・漬物・生葱・味噌・辣蒜・芹菜等を常用し、豚肉や魚類や、一般鳥獸肉の類は、中以上の家庭以外では農繁期に小量を食するか正月節・五月節・八月節等に用ふる位である。酒や砂糖も下級では常用でなく、たゞ中以上では毎日高粱酒を飲む地方が多いが、下級では大抵農繁期に於て三四回位、冬期二回位が常例らしい。斯うした狀態で普通の小農階級の一年の食費は一人當り廿五六圓といふ計算になる。

○住家

住家は外賊の侵入と寒氣を防ぐを第一として組立たもので、土壁・草葺きが多く大抵南向である。家族十人位の農家では、普通「三間房子」とて三室の平

屋建を普通とし、一室は一間四方で、左右各二室を居室に當て、アンペラを敷いて坐臥し、中央は出入口と炊事場に當て炕を設ける。冬期は炕を焚いて採暖し、壁は石又は土壁とし、建築費は一室百五十圓以下で、家具は衣櫃と食卓、炊事具位で極めて簡單である。

○滿洲農家

滿洲農家は、外觀上、貨車を据付けたやうに見える棟なしの家屋で、周壁は土塗りとし、屋根は左右に木を渡し、其上に高粱稈か、葭を載せ、更に泥土を塗つて、その上を漆喰塗にし、貨車の屋根其儘の形に出來上つて居る。裏天井も漆喰とし、表面は龜裂を防ぐために鹽を多く入れ、雨季前に塗換へる。窓は少く壁垣なく、簡單なものであるが、屋根の上に土を運上げて撒布し、一族總出で踏付けて堅める土房といふものがあり、夏期に至れば堅土の中から芽生えた草が花を咲かして居て、一種の哀愁を催させるものがある。この土房は、北方に行く程多く、商店などでも、此の式に據つて居る處がある。

○勞働時間

勞働時間は三月から十月迄の農繁期に平均六時間から八時間を野外の耕地

に送り、冬季は家屋の修繕や、農具の手入れや、肥料の製造に費す。

○副業

副業としては、農作物の鐵道停車場や河川の搬出口への運搬、又は鐵道の貨物人夫、炭坑坑夫等として賃取に出で、又村に居る者は、葦蓆の製造、柞蠶、羊豚、鷄鵝の飼育に當るのである。

○年中行事
○元宵節
○春分
○清明節
○穀雨節
○五月節
○中秋節
○八月節

農家の年中行事としては、年始には祖先、天神、地祇を祭り、御馳走が出る。元宵節は十五日で燈節ともいひ、休業して酒を汲み交し、二十日前後に至れば、歸鄕して居た使用人等が、主家に歸つて仕事を始める。春分に苗植を始め、陽四月六日の清明節に小麥、大麥の播種をなし、四月廿一日穀雨節より一般播種期に入り、除草や中耕を經て、陰曆五月五日に五月節があるが、此日は三大節の一として、必ず休業して祝ふ。第二回の除草、中耕が終れば、陰七月十五日の中秋節であるが、此日は仕事は休まないが、美食をするを例とし樂しんで待たれるのである。陽九月九日の白露から早熟物の刈入れを始め、陰八月十五日の八月節は大節で必ず業を休み、お祝をする。秋分前後から高粱、粟、大豆の收穫をなし、寒露に入れば脫穀にかゝり霜降迄に終り、陽曆

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

十一月八日の立冬には全く收穫物の精製庫入が終つて、傭人を實家に返し、陽十一月廿三日小雪の頃から收穫物の取引が始り、愈々閑散期に入るのである。

○滿洲の實用語

滿洲の實用語

滿洲人は支那人、蒙古人とは全然別種に屬し、古くから獨自の民族國を建てゝ來たにも拘らず、而して扶餘・高句麗等の時代には今の北滿洲の地に支那本土と相拮抗する程の特種の文明を樹立し、支那の大官の息女が此の北滿の王廷に輿入れして居る歷史のある程であるのに、古い時代の滿洲人の自選に成つた文献はなく、牽强附會の多い淸朝の欽定本か、漢族即ち支那人の記錄に據つて古往を探るの他に方途なき狀態となつて居るが、此の支那人の記錄といふのが、自國を世界の中央に居る華と眺め、四邊に居住し又は追放されたる民族等をば東夷・南蠻・西戎・北狄と輕蔑し、自國文明は高慢、誇張の限りを盡して記述したのに反して四邊の各民族等を冷遇し、各民族自らが

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

稱呼したものとも思はれない名稱を冠して之を稱ぶ等、後世史を按ずる者をして顰蹙せしむる點の無限に現れて來る事實から推せば、滿洲民族に關する文献は、今後更に詮索洗練さる可きものと思はれる。而して、斯くも滿洲人の史實が正しく傳はらずして、歴史の歪を示して居ることの原因は實に、古き滿洲に、言語はあつても文字のなかつた結果に他ならないことが痛感せられる。

○滿洲文字

滿洲語を表現する滿文の完成したのは、淸の太宗の天聰六年（明正帝・寛永九年）榜式達海が命を受けて圈點によつて語音を分析した結果であつて、之より先、明の萬暦二十七年（後陽成帝・慶長三年・西紀一五九八年）淸の大祖努兒哈赤が、蒙古の文字に因つて滿洲文字を創始させたが、難澁で一般には普及しなかつたものである。

○滿洲語

滿洲人は現在滿洲に六・七百萬人を數へられる程度と推察されるが、此等のうち、現に純然たる滿洲語を日常使用する者の數は尠いと見られ、僅かに吉林省の一部分にのみ其の名殘りを止め、他は悉く支那語に賴つて意表され

○支那語

○混入

○滿洲に於ける支那語の二系統
(一)北京官話・直隷本部語
(二)山東・江蘇・河南地方語

て居る實狀である。滿洲語は、黑龍江省に散在する滿洲民族と同一系統の小數の雜種人等の間にも其の音體を留めて居るが、此等の地方も亦經濟的關係上から、順次支那語化して行く傾向は免れ難いところである。

滿洲の支那語は、北方系は北平・山東省とその近隣地方の移入語であり、南方系のものは、上海・廣東・南京・其他雜多の種類がある。

大體に於て、北方語は淸音ばかりで高尙優美であるが、山東省から來る移民等の持ち來つた所謂山東語は、日本の東北辯丸出しといふ形で相當に聞き苦しい。又南方系の言語も、九州の土語位に、普遍性を缺くものである。然るに國民革命成功後はこの南方語が全支那に相當の勢力を持つこと日本で藩閥の權力旺んであつた頃夫等のお國言葉が可成大ツぴらに語られたと等しい傾向であらうが、滿洲の公用語・社交語其他一般的通用語としては、依然として北平語の淸澄雅致あるものが貴ばれるであらう。支那語の北京官話(北平辯)は日本の東京を中心とする關東語に類するもので、これを修得して置けば分類數十種に及ぶ支那各地の言語に一點相通ずるもの丶存することは我

國の東京辯と酷似して居る。

滿洲に志を持つ人々は、先づ支那語の修得を必要とするが、之の學習機關は、日本內地の各語學校、上海同文書院等があり、大連其他滿洲の各地には此の簡單な研究機關が多い。

滿洲人士間に通用する言語は前記、滿洲語・支那語の他に、日本語・歐米特に露・英語等であつて、殊に近來の風潮としては、南京・日本・歐米等から移輸入される流行の學藝語を、談話中に挿入する者が多くなつた。然し一般的傾向としては、支那語以外の外國語中、日本語は著しく優勢を示し、その研究及利用者の數は逐年增加しつゝある。とはいへ滿洲の實用語が依然として支那語であることは、近き將來に於ても變化ないものと觀られる。

○支那語の修得

○各種の言語

支那人の嗜好・嫌惡

日本人が滿洲發展を試みるに先だつて、研究して置かねばならないものゝ一つである支那人の民俗風習に就ての大體は、別項に收錄したが、玆には特

○民族風習

に商品の販路を得んとするに當つて注意せねばならない支那人の嗜好、嫌惡の慣習を略述して見よう。

○嫌惡嗜好

四億の支那人大衆の嗜好・嫌惡の一々を詳細に調査し盡すことは至難であるばかりでなく單に五族夫々の好・惡を別けるだけでも煩雜を極めるが、國民性として略一致した嗜好や嫌惡やのあることは明白に認められる。

○龜と龍

支那人は龜・豚・兎・蝦・蟇・蛇蝎・犬・鰐・柳木・狐等の商標を好まない。然るに龍・雁・鳳凰・麒麟・鶴・蜂・獅子・錦鶏・孔雀・蝶・鴛鴦・馬・牛・虎・象・山羊・猫等の商標を好む。猿・犬・鳩等は古來好まないが、歐米人の商標中に現れたのは、品質とその配圖の美によつて嫌惡心を緩和し、相當に歡迎されたといふ例外もあるが、古くからの嫌惡癖を除去するのには思はぬ障壁に會ふことは今に於ても變りない。

○商標

一般に支那人に歡迎される商標類は、萬里長城・北平の城址・其他歷史的な各大都市の建物・西湖・武陵桃源・南京城等の名勝古跡の類であるが、竹林七賢人・壽老人・楊貴妃・虞美人等の仙人又は史上の美人を映したもの、

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

又最近流行の美人・映畫女優等の姿を表したものも盛んになりつゝある。

○調和

又牡丹・梅・竹・蘭・水仙・百合・海棠・桃花・菊・柘榴・桂花・薔薇等の草花の模樣を好むことは古來變りがないが、此等は殊に色彩との配合に意を用ひねば效果は擧らない。更に又天女散花・青石山・八大槌等の演劇の圖や、梅蘭芳・老十三旦・楊小樓・孫菊仙等の名優の舞臺姿の圖等も好みに投じて居る。

○色彩

回教徒は一般に黑・青等の色彩を好むが、一般支那人は、特に紅・黄・銀色を好む傾向がある。此等は支那の五行說に起因し紅色は南方の諸物旺盛を表し、黄色は凡て中央の主位を示すといふところから好むに至つたものである。而して支那では銀色を富貴の相と見る慣習があつて好まれて居る。然るに白・青・黑・藍色等は特殊の場合を除いては一般に嫌惡される。

○文字

支那人は漢文字を發明したが、慣用永年に亘るに及んで、この文字に愛・憎の念の發生したことは又國民性の一班を物語るものであらう。凡て死・哀・窮・毒・電・暗・散・別・惡・病・犯・兇・離・鬼・龜・禍・患・苦等の文

字を嫌惡し、吉・福・喜・生・祥・順・瑞・昌・盛・泰・萬・天・東・華・光・昇・裕・成・茂・老・壽・協・寶・財・遠・衆等の文字を好み、吉事又は商號等に用ひられる例は古今を通じて著しい變化を見ない。

○變遷

而して國民革命政府の樹立後は、これ等支那人の嗜好・嫌惡に變遷を招來し、凡て既成宗敎的色彩を稀薄にし、迷信を打破して科學的に事物を變革しようとする一般的傾向から、嗜好なども國際化して行くようであるが、これは極めて緩漫な傾向であつて、其の實相を覗けば、舊態依然として五千年來培はれて來た風習はなか〳〵除去され難い模樣である。

○復古

南京の國民政府に信條を見出した新時代の男女等は凡ての事物の革新を叫んで居るけれども、支那の悠久たる過去幾千年の事物の歷史を回顧すれば、新時代の新標語の凡てが地から生え出たように眞新しいものとばかりは言はれない。北京は北平と改稱されたが、これは舊稱に復歸したに過ぎない、即ち洪武元年に、北京を大都路と改め北平府と曰つたが淸の順治の初めに更に北京と改稱したもので、直隸省を河北省としたのも唐代の道稱に復古したも

○更生辭句

のに外ならない。

孫文の三民五權は三五主義とて、新支那に喧傳されるが、この三・五の對句は、舊い支那文献に多く、三綱五常・三令五申・三表五事・三皇五帝・三王五覇等は著名なものである。又青天白日旗・滿地紅を檢べて見ても、その古事を忘れぬ革命人士の用意が表示される點を看取される。青松白雪・青山白雲・青龍白虎等の慣用句や、白日の周邊の十二角が、支那古來の十二支・十二宮・十二律・十二諸侯・十二門等を聯想させ、滿地紅は、支那の五行說が南方を現す紅色を愛好する慣習から來る、紅箋・紅紙・紅契等の、吉福を表示する色彩として慣用される實際を無視し得なかつた點が肯かれる。國民黨の首腦者等が競つて、支那古來の君子人の信條とする「中庸」になぞらへ「中山」「中正」等を名乘つたことも同樣である。

○新時代と舊慣

新時代の諸相は單なる旅行や新聞報道等によつても窺知されるが、舊習の研究は支那人を理解する上に省かれない重要事であつて、時代の尖端を志す新支那の裏面にも此の舊慣の牢乎として殘存する點を特に商工業者は注意せねばなるまい。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

所謂『滿洲馬賊』

○馬賊

日本內地から滿洲視察に出かけた人々が、歸來談として語る話の中には、大てい「馬賊受難」がお定りとして出て來る。滿洲を臺灣の蠻境位ひに思ひ込んで居る人々には、此の作り話が大變な興味を唆つて聞かれる事になるのであるが、語る方では內心忸怩たるものがあらう。

○今は稀れ

滿洲馬賊の始祖は淸朝の中葉に起つて居るが、最初は生活上、手當り次第に盜賊を働らいた。併し此等の徒輩は揃つて義俠心に富んで居たので、强奪した富豪の物品を、貧民に施しなどしたので、その勢威が四方にひろがり、此の賊徒に與する者の數も逐年增加し、奉天全省到る處に馬賊の被害を蒙らない處はない迄になつた。然るに馬賊衆に於ては此處に愈々これを職業として永久の計を樹てる必要が起り、山林深邃の地域に據つて居住を構え、生活

○馬賊の元祖

維持に要する物資の强奪を、春秋溫凉の候に決行したが、一度び馬賊の强襲に遇へば、全市・全村空墟となること珍しくなく、ために乳兒と雖、一度馬

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

賊來の聲を聞けば、泣聲を止むるといはれ、賊等は凡て蒙古産の駿馬に乘り、飄然風の如く去來し、山河嶺峰を乘り越すこと、宛かも平地を行くがようであつたと傳つて居る。

○諸賊の名稱

馬賊又はこれに類する賊徒を、滿洲では、鬍匪・馬褂賊・偸林賊・結網黨・捕魚盜・毛面東家・落山王・黑衣盜・挿竹黨・吃乾俸・請財神・陷人坑・紅衣客・綠衣盜・念佛盜・跑冰會・攔路盜・偸馬賊等と呼ばれ、夫々に特色をもつて居たものである、此等賊徒となるの動機は、單に强盜としての興味からばかりでなく、任官の志を得ない者とか、他外國の侵入に對する反感等から、夫々の目標に危害を加へることに發して居る者も多かつたが、國家としての守備兵の一人もない滿洲各地では、官兵と潛稱する、時の權力者の私兵等が、此等賊徒と氣脈を通ずる等の結果となつて、歷代の中央政府に於ても如何とも手の下しようがなかつた。

○跳梁地域

馬賊は現今に於ては、我が關東租借地・鐵道附屬地に、大衆團を以て强襲することは無い。職業的な賊團は、北滿洲遼寧省の北部、吉林省の北部等の

山寨に籠つて居て、附近を脅かして居るに過ぎない。

○强小盜

併しながら鐵道附屬地・關東租借地内に於ても賊徒の被害として數え上げられるものは、年々數十件にも上つて居るが、此等は殆んど、日本内地に於て間斷なく新聞の三面を賑はす一種の强盜の類であつて、馬賊の名を冠して裁かるべき性質のものでないのが多い。馬賊團の襲撃は、その準備周到を極め、一村一郷又は豪家を襲ふて大量の獲物を求むるから、單なる行旅や宿泊者の一人を襲ふが如きは小盜かせい〴〵强盜の類である。

○海賊

滿洲の沿海地方には、馬賊の他に今なほ海賊の徒が棲息して居て、時々この被害が訴へられる。海賊は多く漁村民が、不漁等から生活不安の埋合せに近海を航行する船舶に對して强奪を行ふものであるが、これも前記馬賊の場合と等しく主として支那人間相互の競ひ事であつて、時に邦人中此の難に遇ふ者は、偶々その飛沫を浴びた程度のものである。

○影のうすい馬賊

名物「滿洲馬賊」は淸朝の秕政が生んだ一種の反抗兒團の變則的職業であつたが、民國となり、國民政府治下の今日迄も尙ほ正業に就かずして山寨に其

○支那人勞働者
歐米人はCoollyと呼び日本人は華工と稱ひ支那人自らは工人と言ふ

○華工

○賃金(華工)

種別	最高	最低
工業	二・八五	・三三
鑛業	一・七七	・三〇
交通運輸	二・四〇	・三五
農業	一・〇〇	・三〇

紡績工場

	最高	最低
男工	一・八五	・三一、

の殘黨を留めることは中華を唱ふる民國人の汚辱であらねばならない。然るに近來の山地荒蕪地の開拓は引いて此等賊徒の隱れ家を露呈し、交通の發達は彼等賊徒の生活手段にも亦變革を招致するものと觀測される。

支那人勞働者

滿洲の勞働力は殆んど、支那人によつて供給されて居るが、此等支那人勞働者(工人)を在留日本人は華工(又は苦力)と稱んで居る。

華工は農業・水產業・林業・鑛業關係の筋肉全能の仕事に從ふ者と、交通業・製造工業等の比較的智能又は技術を要する仕事に從ふ者とによつて、其取得する賃金にも亦差異を生じ、年齡・勤續年數・昇給率等にも異同を示して居る。

然れども大體に於て、滿洲の華工の賃金は、その成年工の初任給が四十錢內外であつて、五年內外の勤續者の賃金額は八十錢內外が普通である。

華工の賃金は普通日給制であるが、月給制も又相當に見られる。而して賃

		最高	最低
	女工	・五九	・二八
毛織工場	男工	二・〇〇	・三八
	女工	・七一	・三七
製麻工場	男工	三・五五	・六八
	女工	・八四	・六〇
機械器具工場		二・八五	・五五
化學工業工場		一・九〇	・四四
油房工場		一・二七	・三三
窯業工場	月給	三四・三〇	四・三〇
	食費	九・〇〇	七・五〇
燐寸工場	男	・八〇	・二六
	女	・二一	・二一
發火物工場		・七七	・二一
		一・五〇	・五〇
製紙工場	男	一・九〇	・三五
	女	・五五	・一六

金支拂に就ての建値は各種各樣で一定しないが、銀建銀拂制が最も多く、このほかには銀建金拂制、金建銀拂制、金建金拂制等に分れて居る。

關東州・滿鐵附屬地内に於ける日本人の經營事業中、華工を使用しない箇所は殆んど無いと言つてよい程であつて、賃金の低廉と、勤勉にして服從觀念の強い點などは一般に其の長所として認められるが、作業上の能率は遙かに、日本人職工又は勞働者に及ばない點が多いことも明瞭にされて居る。

滿洲は日本人の出稼場であるように、支那本部人等の出稼市場として比較的有利な場所となつて居るから、山東省其他から此の地方に這入り込む勞働者の數は年々數十萬人を數えられる。このために、滿洲の筋肉的勞働力の殆んど全數を此等の出稼苦力等が占有して終ふ結果を示して居る。日本人が農業勞働者として、現狀のまゝの支那農村に存立の出來ないと等しく、筋肉自由勞働者としての日本人は、州内及附屬地に於てさへも、到底支那人との對立は不可能であらうと思はれる。隨つて日本人勞働者は華工の指導又は監督の位置を受持つための知識・技術等の資格を具備した者だけが夫々の地位に

	最高	最低
烟草工場	．六九	．二五
製米業	．七〇	．〇八
洋酒工場	．六九	．五一
製糖工場	一．七七	．五〇
醬油工場	月 四〇．〇〇	一五．〇〇
印刷業	二．六八	．二一
製材業	一．七〇	．二五
電氣・機械工	一．三	．六八
鐵鑛業	平均	．三二
石炭鑛業	平均	．二四
炭坑勞働者	一．九七	．四〇
鐵道勞働者	二．四〇	．六六
	三．〇四	．二三
電車從事員	一．五六	．六八
汽船會社	月 八一．〇〇	九．〇〇
	月 四〇．〇〇	五．〇〇

就くことになるので、此の種の勞働者の數は、筋勞者程の多數を要しないから、限られた數に過ぎない。故に農・林・水產又は鑛業・交通業等に從事する日本人等は殆んど夫々の業務中の幹部又は指導的地位に立つ者のみである。

關東州・滿鐵附屬地內の日本人經營の工場に於ける勞働階級は、大體に於て前述の通りに其の幹部級は日本人によつて占められ、下級の悉くは華工等の全有に歸して居る狀態であるが其比率は一對九と見て大差は無い。而して支那人經營の工場に於ては、少數の技術的機軸を外國人の招聘によつて補佐させる事の他、一切の勞働力は、條件の如何に拘らず、工人に之を仰いで居る。近代工業勃興以來、各國に發生した勞働無產階級の所謂「工人」群の他に、支那には依然として、手工業時代の遺習である徒弟又は學徒と稱する、年期を限つて師匠に就き仕事を修得して居る弟子等が多く、此等はたゞ舊式工業社會ばかりでなく、近代式の大工場に於ても、藝徒・工徒等の名稱と共に殘存して居るのは世界に類例の尠いものである。

○舊式組合

○關東州・附屬地工場勞働者比率(昭和三年)%

日本人	九
朝鮮人	二
支那人	八九

○日本人勞働組合

○支那工人組合

是等支那人勞働者の舊式工業時代に於て組織して居た同職業者の組合は、幇・公所・協會等の名稱によつて結合されたが、近代工業の發達に伴ふて生れた工人階級は、夫々の職工組合又は倶樂部等の名稱の下に結合し、更に各職業別組合、聯合會等の成立して居る點は、日本其他諸外國に於ける勞働組合の例と等しいものである。

在留日本人勞働者によつて組織されて居る組合は、大連建築現業組合・關東州疊職工組合・長春店員同志會・奉天店員同盟會等がある。

而して支那人勞働者側の組合は、貔子窩勞働組合・貔子窩勞働者相互救濟會・大連工業會・奉天南滿洲工業者懇話會・哈爾濱工會・奉天及長春郵務工會等の他に、大石橋・鞍山・遼陽・鐵嶺・開原・四平街・公主嶺・長春・營口・本溪湖・安東及撫順の各地には夫々工業家懇話會（廿日會又は木曜會）が組織されて居る。而して大連沙河口工場支那從事員の組織して居た大連中華工學會は、共產黨系分子によつて率ひられてゐたが、其の黨勢擴張運動が暴露して昭和三年夏解散させられた。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○勞働爭議

大正	件數	人員
五	三	七三〇
六	七	一・五八九
七	一三	五・九九〇
八	五八	一四・六四八
九	二一	二・二九一
一〇	八	九九二
一一	二六	四・九三一
一二	二八	四・二〇一
一三	二九	五・六一六
一四	六五	八・八九九
昭和元	六〇	一二・七五九
二	四三	一三・八二九
三	二四	五・四六七
四		

○支那料理

○會席

○一品料理

之等勞働團體は、利益擁護の爭議を起すこと他國の勞働團體と變りない。而して此の爭議團の目標とする待遇向上の要求の多くは、複雜な支那貨幣の間斷ない騰落がその原因となつて居る場合が多い、他に世界的勞働思潮の浸入、支那本部の國權回收熱の傳波等に起因する思想的刺戟等が、其の原因として擧げられて居る。

支那料理

支那料理は、珍味佳肴を以つて、世界獨得と云はれるが、會席料理と一品料理の二大別あるは我國と等しい。滿洲の支那料理法は、北方系を多分に加味して居るが、城內や、支那街の料理館で純支那人向に拵へるものと、新市街地域に於て、日本人を常客とするものとは、多少濃淡の差異を生じて來て居る。普通は會席即ち成卓と、一品料理の(小賣)とを兼ねて居るが、會席だけの客に應ずるものは飯荘子と云ひ、「應時小賣」をなすものを飯館子と呼ぶのであるけれども、滿洲の支那料理屋は、殆んど兩者兼帶となつて居る。

○一卓八人
○前菜
○八大碗
○四品盤
○小碗

成卓は料理一卓を前以て約束するもので、十五圓位から數種類あつて、普通八人を定數とするが、日本人は十二人迄組んでも充分である。菜單と稱する献立表に種目を記してあるので、是によつて極めるやうになつて居るが、先づ前菜と稱して本式の料理の出る迄に、卓上に並べて嗜好に應ずるものがあつて、これは普通・四品盤・四南菓・四鮮菓・四瓜子等の、各四種の菜菓で、價格に應じて品質の等差がある。料理は、大海碗・小碗・點心・杏仁茶・大碗・飯等が、順次に卓上に運ばれるのであるが、會席では、八大碗と四品盤が中堅に當るもので、四品盤は調味した冷菜を美しく皿に盛つて並べ、主人が酒を酌し、箸を付けることを奬める際に、各自の好みに應じ酒の菜として摘るものである。酒三更に及べば、八大碗が出始めるので、前半の四大碗の合間毎に、小碗が各二つ宛合計八小碗が出る。次に點心として、干菓子と肉饅頭が出る。後に杏仁茶、蓮子茶等の甘汁が出て、愈々御飯となれば、前記八大碗の殘り四大碗が一時に卓上に並べられる。それで支那料理の會席では、次から次と上品が出て來るので、最初から滿腹を急ぐのは非禮に當り、悠々

○大海碗

と箸を運んで、最後まで仲間入して居るを本則とする、一卓八大碗に四冷菜付の會席料理となれば品種は、前菜が十六品、本式料理が前後二十品合せて三十六品となるのであるが、特別料理となれば、合計六十四種に及ぶものであり、斯うした場合は、中間の休息に二三時間を要し、再び始めるので前後七・八時間を要するが、普通その半以内を以て終るものである。

支那料理の品種は、多種多樣で、南方、北方其他各省各地に於て相違して居るが、滿洲各地の料理店で出す料理に就いて、主要なものを摘記すれば、

（一）大海碗中の純粹の燕窩料理を通天燕菜と云ひ、最上品で、極めて高價である、次に燕菜即ち燕の窩を用ひ、卵の白味を下敷にしたものを芙蓉燕菜と云ひ、燕菜料理と伯仲の間にある、更に支那料理中の特種である魚翅即ち鱶鰭料理が、大海碗の品種中に十餘種類あつて、純粹の鱶鰭料理を通天魚翅と云ひ、鷄肉を混じたものを鷄絨、雜品十種を入れたものを十錦、卵の白味を下敷としたものを芙蓉、鷄肉、豚肉及筍を入れたものを三絲、卵の黄味を交へた桂花・鷄肉・イリコと海老又は鮑を入れた三仙魚翅等である。又海參即ちい

○大碗

○燒鍋

○小碗

りこ料理が大海碗中に凡そ九種に分れて居る、混合物によつて、上記燕菜の場合と同じやうな名稱が冠せられるのである。（二）大碗は、手輕な一品料理で好みに應じ小賣をするのが本質であつて、鱶のひれ、いりこを紅燒したもの、是等に肉や貝やを混じて燒いたもの、鷄豚肉の煮付、汁物、腸詰、吸物等の種別がある。（三）燒鍋の品種も多種であるが、八寶・三仙・四喜・拾錦等の火鍋は凡そ八種類程あつて、豚の胃・海鼠・鷄肉・貝柱・鮑・支那素麵・蕎麥其他二三種を混じて煮るものである。鷄及鴨料理も亦八種類ほどに分れて居る。燒付・煮付・汁物等の品種があつて、丸燒・丸煮等の他に木茸・筍・胡麻・豆腐・糯米・蓮根・葱等を一種又は數種混じたものである。魚料理及魚の腸料理も矢張り、五六種あつて、魚肚といひ、燒付や干物として居る。此他に鍋としては、鮑魚即ち鮑料理があり、八寶飯、紅燒金家福等の雜種混合鍋等がある。（四）次に小碗は、其數多く、魚料理を生命とする日本の飯屋などの想像にも及ばない程に雜多である。種々の燒付・炒りもの・天ぷら・葛かけ・吸物・汁物・飴煮・あへ物・饅頭・餛飩等で其品種料理法別は凡そ

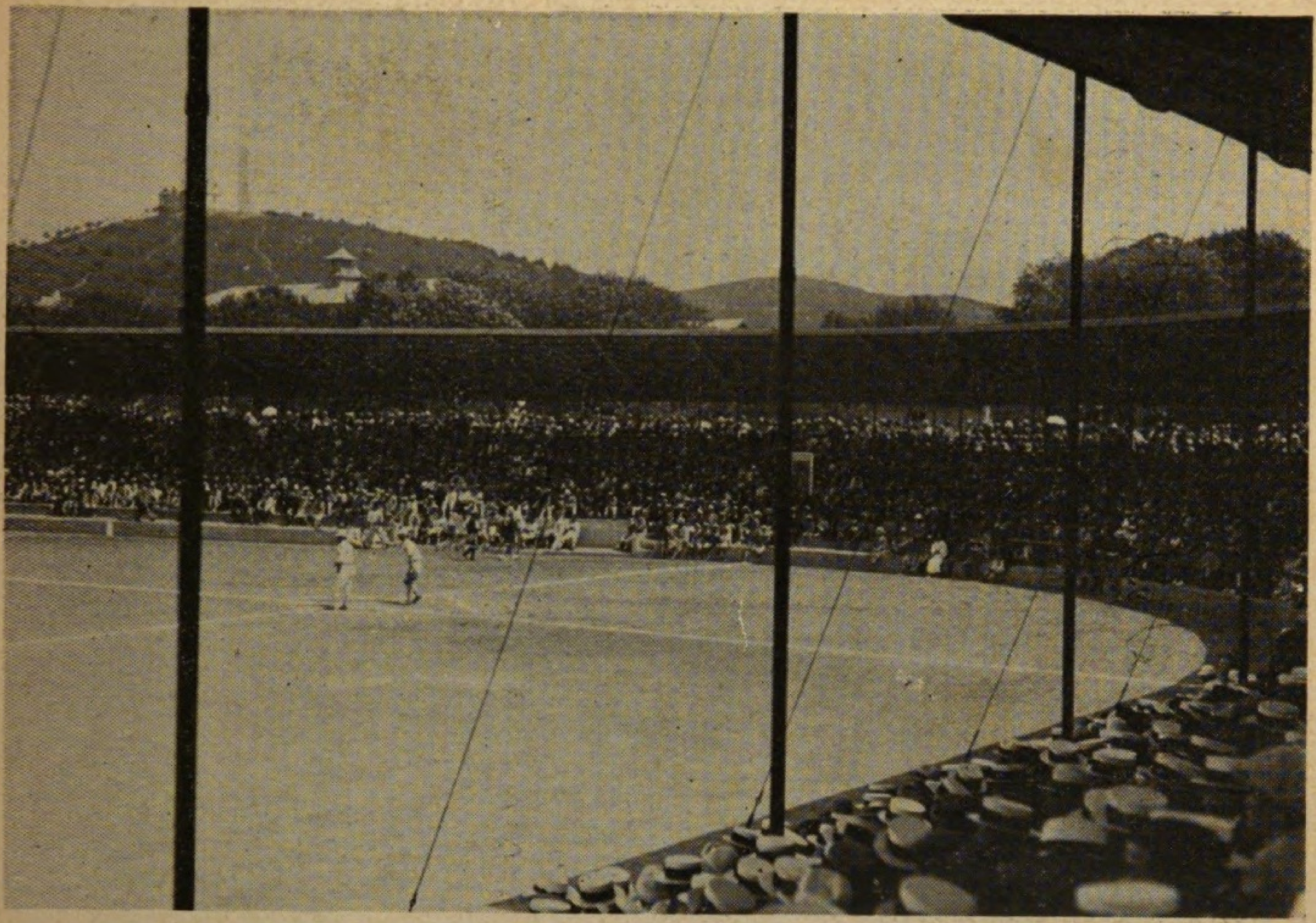
Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

百種にも近いものである。材料は前記大海碗・大碗・小碗・鍋物等に出るものと變りなく、種々に調味を變化させて行く毎に名稱が異つて行くのであるが、是等の一々を全部賞味することは到底六ケ敷いもので、幼時から食べ馴れた支那人の話を聞く他はない。材料の好みと料理の方法を言へば、多くの種類が出てくるので、比較的間違ひなく好みを撰ぶことが出來る。即ち魚肉、鳥獸肉又は河川物等と材料を擧げるか、廣東式、蘇州式等の方式を擧げればよい。小碗即ち碗盛りは、鱶の鰭・いりこ・貝柱・魚・鷄・鴨・豚・鮑・筍・木茸・かき・卵・えび・銀杏・百合・山芋・芋・落花生・靑梅・胡瓜・芭蕉の實等を用ひたもので、價格は廉く、一碗十錢乃至四五十錢を普通として居る。各飯館では、前記の菜單子といふ献立表を出すので、ゆつくり聞いて極めるがよいが、日本內地の支那料理とは名稱の異つて居るのが多い。

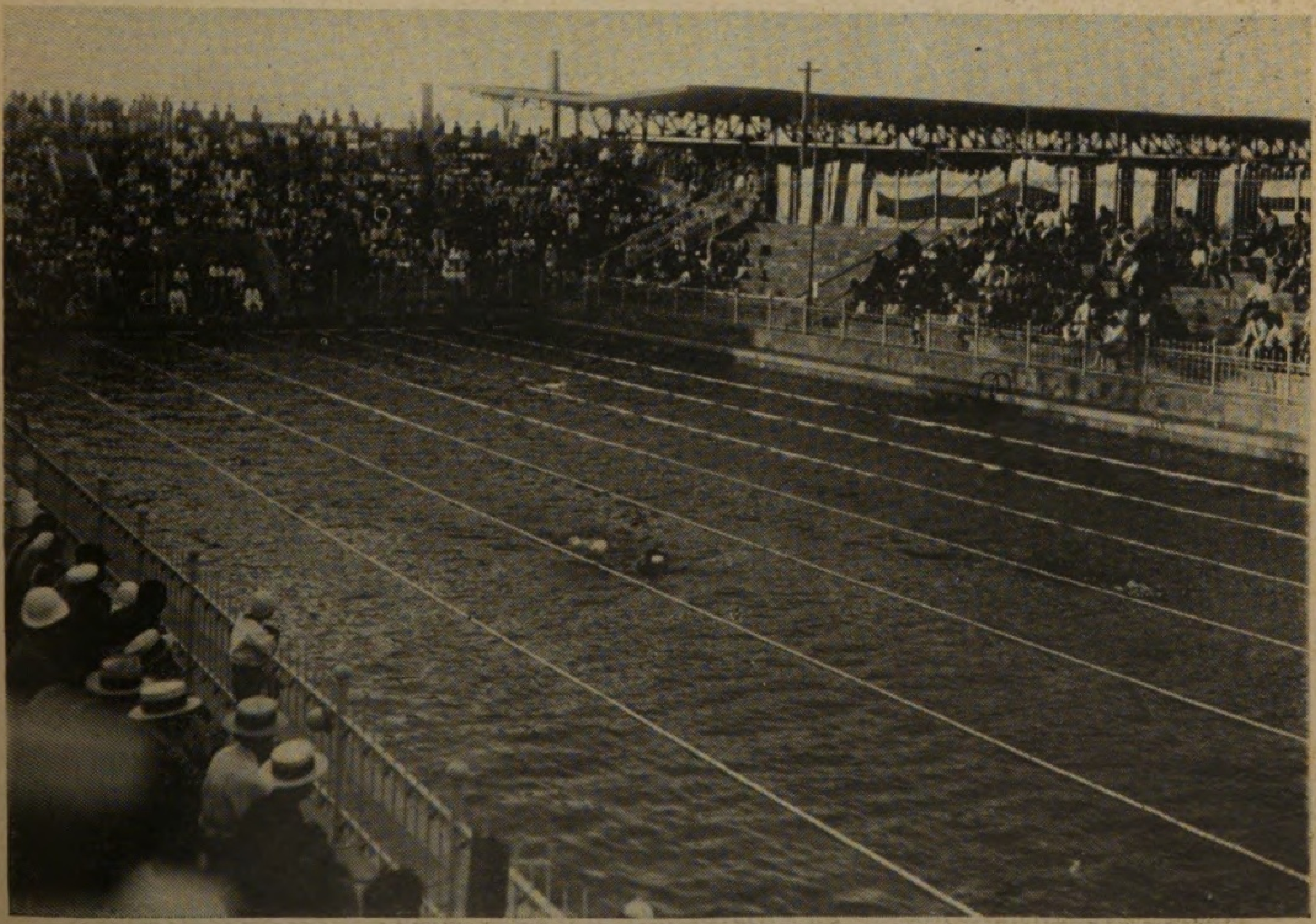
Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY



大連中央公園



大連滿鐵野球場



大連水泳場

Digitized by Google

Original from
KEIO UNIVERSITY

第三　滿洲の日本人

在外邦人の分布——滿洲在留日本人——發展途上の缺點——共存共榮——日本人農業者——日滿商業——母國式諸制令——生活樣式

○在外日本人分布

◇在外日本人總數（昭和三年十月一日現在）

七一七、五二九人

◇在外內地人從業別比較（大正九年十月一日現在）

總數　五六〇、二七三人

◇農業從事者

總數　一〇五、三六八人

アジア　一〇、一八八

歐羅巴　九

在外日本人の分布

我國は明治維新後、海外雄飛の氣風が旺んになり、國人が世界各國へ活動舞臺を求めて渡航居住し、歷史の地平線を擴大して居るが、現に領域外の他國に在つて生業を營んで居る我國民の數は、最近の調査に據れば七十二萬人內外である。

而して此等の人々は、世界各地殆んど隈なく散在するものであるが、特に支那領、北米領、南米領、英國領內の各地及南洋方面に在住する者が多數を占めて居る。然るに滿洲在留人の數は是等の中に於て其の首位に居る。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

	人
北米	二八、三六八
南米	三五、八一六
アフリカ	—
太洋洲	六〇、九八七
◇水產從業者	人
總數	一〇、二三六
アジア	一、七五三
歐羅巴	二八
北米	五、四九〇
南米	一五五
アフリカ	—!
太洋洲	二、八三六
◇鑛業從業者	人
總數	一一、四八三
アジア	九、七四八
歐羅巴	四
北米	一、〇二三
南米	三
アフリカ	一
太洋洲	七一五
◇工業從業者	人
總數	九五、〇二七
アジア	五八、四二四
歐羅巴	一八三
北米	一三、五二一
南米	三、〇九四
アフリカ	
太洋洲	一九、八一四
◇商業從業者	人
總數	一一四、九一三
アジア	七三、六〇五
歐羅巴	四七四
北米	二一、九九八
南米	六、三九一
アフリカ	三五

滿洲以外に於て、我國人の移居住者の多い地方は北米合衆國・カナダ・布哇・ブラジル・祕露・フイリッピン・海峽殖民地・蘭領印度・濠洲及新西蘭・メキシコ・英領印度・アルゼンチン・香港及露領內等である。

之等海外に於ける日本內地人の最多數は、農業・水產業等に從事して居るのであるが、特に南北アメリカ・布哇・ブラジル・祕露等の在留內地人の多數は農業從業者である。

而して在外邦人中、鑛業に從事する者は、滿洲・支那地方に最も多く、工業從業者も亦大多數は滿洲・支那に居住し、南北アメリカ・布哇等は是に亞いで居る。交通及商業從業者の數も亦、滿洲・支那地方に最も多く、南北アメリカ・布哇等が之に亞いで居る。

かく在外邦人は、各地に在留する公務者を含めて見るも同樣であるが、アジア洲の各地に於ては、鑛業・工業・交通關係の技術又は智能的業務及商業に從事する者が最多數を占め、農業水產業等の原始的產業方面の關係者が尠く、これに反して南北アメリカ・布哇等に於ては、農業・水產業關係者の數が

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

太洋洲　一三、四一〇

◇交通從業者

總數　六一、五二三
アジア　四六、五二二
歐羅巴　一、二〇三
北米　五、六六九
南米　五七三
アフリカ　一七
太洋洲　七、五二九

◇海外日本人分布（昭和三年末）　人

英領加奈陀　二一、三〇六
北米合衆國　一四一、五七〇
布哇　一三〇、九四一
メキシコ　四、五〇四
キューバ　七八四
パナマ　三二四
ボリビヤ　四二一
ペルー　一六、九九九
智利　六三五
アルゼンチン　三、四六六
ブラジル　七六、四八八
コロンビヤ其他・南米諸國　五八
フイリッピン及グアム島　一四、二四一
海峽殖民地マレイ・北ボルネオ　八、四七九
蘭領東印度　四、八七四
シヤム　二八四
英領印度　一、三四二
太洋洲　三、六二六

最も多く、商・工業關係者等は、之等に附隨して營業して居る程度のものである點を明示して居る。

然るに間斷なき人文の變動伸展を示す現代に於て、此の現狀が、永續するものとの斷言は勿論許されまいが、今若し此の過去數十年間の統計の示す傾向が、今後に於ても比較的變化尠く繼續するものとして將來を豫想すれば、大體の目標の見當はつくであらう。このために我國民の海外發展を志す者は、先づ夫々に各植民地に於ける邦人の現狀を檢べて見るのが最も急務となる。

然るに農業・水産業等の原始的産業に從事して其の志を伸べ相當の成績を擧げた者は、北・南米各地、太洋洲方面に於て多く之を見られるし、鑛業・工業・交通及商業等の技術又は事務方面に向つた人々は、滿洲・支那方面に其の成績を擧げて居る事實が、前述の如く明らかにされて居るのである。

近代工業の後進國である我國は、夫々の先驅をなした國々に對し歐米各地に於て技術上の輸贏を競ふことの極めて不利な立場に置かれてある代りに、アジアの各地方に於ては、之等工業・交通業等に就て、我國人は明白に指導者

南洋委任統治區域	三、二八一
英領香港	一、五七七
支那	五五、一六六
極東露領	一、五九二
歐洲	二、九九二
アフリカ洲	八六
滿洲	二三四、四二九
計	七〇九、八〇六

◇各拓殖地面積

	方里
朝鮮	一四、三一三
臺灣	二・三三三
樺太	二、三四〇
南洋	一四〇

として最尖端を駛驅して居る。而してアメリカ各州・布哇等に於て我國人は、農業・水產業に從事し、歐米人は勿論のこと、他の亞細亞人の孰れと競爭しても容易に優勝し得る素質を持つことが實績から證明せられて居るが、この天稟的才能を商・工・交通業等の運用上に應用して其の秘奥を會得し世界の檜舞臺に於て、堂々と孰れの國人とも競爭し得るに至る迄には、充分な準備と相當の歲月を要するものと見ねばならない。

上述の如く、我國人の海外在留民を、アジア洲地方と、之以外の各洲各國とに分けて見れば、南北アメリカ・大洋洲・其他の植民地に於ける在留日本人等の多數は、筋肉的勞働從業者が多く、アジア洲內各地の在留者は反對に、智能的業務に從事する者の數が多數を占めて居る點が明白になる。

次にこのアジア洲內及びアジア洲以外の各洲・國に於ける在留人に就てこの兩者の居留民として相異る點を觀るのに、從業々務の性質上、又は居留地地方固有の事情等から明らかに純然たる移植民と、然らずして單に一定の業務に携つて居る期間だけの即ち一時的在留者との二大別として、比較的明瞭

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

◇各拓殖地日本人（昭和三年）	
朝鮮	四六九、〇四三
臺灣	二二一、二〇三
樺太	二三三、九五五
南洋	一三、四六〇

◇北米及カナダの未墾地區劃法　最初に緯度と子午線とが直角をなす基線を設立し、郡位地區は各邊各六哩を有する平地とす。この平方地は三十六平方哩（二萬三千四十エーカー）の面積地各郡區を三十六分區に分つ一分區は一哩平方（六百四十エーカー

に區分される。

資本主義下の現制度に據れば、海外移住者に與ふ可き最大の條件は、土地を所有せしむることであるが、南北アメリカ・布哇其他の植民地に於ては、移植民の農耕地所有權が確立して居るにも拘らず、アジア洲地方に於ては、この權利が全然認められて居ない。

即ち農耕地に餘裕あるアジアの地帶中、滿・蒙地方に就て見ても、夫々の地方の政府に於ては、外國人に土地の分賣を禁止して居るばかりでなく、條約によつて定められて居る土地貸借さへも實際には行はれて居ない現狀であるが、これは我內地人が滿・蒙地方に移植し、此の地方に歸化して農業又は水產業に就き、永住の地と定むること以外には近き將來に於ても、土地の所有權は取得し能はないであらうと豫想される、然るにこの土着歸化といふ問題は、更にそれ以上の困難を伴ふことであらう。

要するに日本內地人の海外居住希望者にして、海外に永住し、此處に新生命を確立し、永く子孫の計を新植民地に開始せんとする者は、前記の農耕移

カー）一分區は分れて四分の一區（百六十エーカー）とす
四分の一區は更に八分の一區（八〇エーカー）に分る
更に十六分の一區は四十エーカーとする。

植民地方へ向ふことゝなり、商工業に從事して土着人との間に取引關係を結び、土着民を利し傍ら自らの利益を計るといふ方向に志をもつ者は、よりよき條件を備ふるアジア洲内各地方へ進む可きであらう。

かくて我國民の海外進出の方向は、今後と雖も現狀のまゝに推移すれば大體に於てアジア洲内には智能的職業者を送り、それ以外の各洲・國の移植民は筋肉勞働者の數を增加する傾向が止まないと見るべきであらう。

而して我國内に於ては、臺灣・朝鮮・樺太等の我領土内の地方をも植民地と呼び做す慣例あれども、凡ゆる事情から綜合して、領土内と領土外とに於ては、等しく移植民地とは言つても同一に論ずべき性質のものでないことは明らかである。

○滿洲在留人

滿洲在留日本人

滿洲に在留する日本內地人は、最近其數廿一萬人以上に及んで居るが、前述のように、之等在留人等の最多數は智能的業務に從事して居る。隨つて南

北アメリカの各地や、布哇・南洋方面等に在留する邦人の多數が、筋肉的勞務に從事して居るのとは全然背反した立場に在る。

○其の特色

在滿内地人の多くが、主として智腦を働かす、商工交通業關係に從事して居ることは、滿洲の植民地としての持異性を物語るものであつて、此の地方は現狀の儘に推移するとすれば、一人の歸化人をも發見されず、日本人は只だ、滿洲支那人の指導者として、是等の地方から生ずる產物の精製・輸送・販賣等の向上增進を計る業務に終始すること丶思はれる。是は丁度英・佛人の印度に臨んだと等しいものであつて、同じ英・佛人の植民事業にしても、米國に渡つた人々が、この處女地の開拓に終始し、つひに此の地に永住し土人に優れた新文明を樹立したものとは自らその性質を異にして居る。

昭和三年に於ける南滿洲在留日本人の十九萬八千六十四人に就いて見るに、農・水產業從業者は總數の〇・五%に過ぎないが、鑛業は一%六、工業は七%、交通業は七%二、商業は八%といふ比率を示して居る。

○職業別比例

○關東州附屬地領事館管內

（昭和三年）

	人
商業	一五、九五三
交通業	一四、四一五
工業	一三、八七一
鑛業	三、三四四
農業	八五九
水產業	二九七

次に前記數字による在留人の年齡別を見るに、一歲から十歲迄の幼少兒童

○年齢別比率

が最も多く全體の二六%六を占め、六十一歳以上の老男女の數は全數の一%八にすぎない。次に十一歳以上廿歳迄の修學年齢者の數は一六%九を占めて居るが、五十一歳以上六十歳迄の隱居仕度を急ぐ中老級の人々の數は四%五に過ぎない。然るに廿一歳以上卅歳迄の血氣の青年男女の數は二〇%といふ高率を示し、卅一歳以上四十歳迄の者一八%一、四十歳以上五十一歳迄の壯年者の數は一一%四を占めて居るから、此の廿一歳以上五十歳迄の青壯年級の總數は全在留民の弱半數を占めて居る。

○人口計數

在留內地人の總數は明治三十八年來の統計に於て年々其の增加の趨勢を繼續して居る。即ち明治三十八年末に於て五千二十五人の邦人は大正七年末に於て十二萬四千三百五十五人、昭和元年末には十八萬五千二百八十四人となり、同三年末には十九萬八千六十四人となつて居るが、昭和四年末に於ては廿萬四千四百二十九人を示して居る。

○昭和五年四月
二三、九七八人

○膨張率

然るに內實を見るに、日本人の滿蒙發展は、其の聲の大なる割合に遲々として進まない。在留內地人は、滿洲に於て土地を基礎とした永住的在留者でな

く、一定の地域內に於て商工業に從事し一定の期間を經過すれば夫々母國へと引揚げて行く人々の數が比較的多數であるから、或程度迄膨張すれば、それ以上は收容不可能といふ立場にある。

○大局から觀て

日本人の滿洲發展が、それは內地に於て相當重要な問題と視られ、支那人側からは、極端に疾視されつゝあるにも拘らず、此の地方に地固めしてすでに廿五六ヶ年の歲月を經過した今日に於て、尙ほ且つ廿萬內外の人口を、而も商工業關係の一時的滯留者として留め居るに過ぎず、之等廿萬人內外の內地人の約半數は二十歲以上五十歲迄の血氣の靑壯年者ではあるけれども、せい〴〵六十歲位を限度として、やがて日本內地に引揚げねばならないといふ事情の下に置かれてあるとすれば、日本人の滿洲發展といふ問題は實質的に見て、恒久性を欽くものと言はねばならない。

○屋臺骨

而して、前記の如き現象は、今後も相當永續するであらうが、これは、日本內地人が、此の地方に於て農耕地の所有權を取得し得ない事が最大の原因をなして居るものと見られる。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○對外的に改組の要

在留邦人の最大數は關東州・滿鐵會社附屬地・日本領事館管內の開放地域內に定住して居るのであつて、その多くは日露戰後の我國の特殊利權の開發を目標として居るから特殊の大會社又は內地商人の支店又は夫等の業務に附隨した幾多の商工業に從事して居る者が多い、而してこれ等の、在留邦人等は滿鐵會社其他の有力な會社・銀行等を中心として居るので、これ等中心機關の盛衰は直接に、日本の滿洲に於ける權益の開發事業竝に各種商工業等の成敗の大勢にも影響するものである。

滿洲在留人の大多數が、特殊の會社か、內地資本の延長による各種の事業に從事し又は、公務滯在者によつて占められて居ること、これ等の殆んど全數者等が、關東租借地內・滿鐵會社附屬地內・日本領事館管轄地域等に密集して居て、その總人口は一個の大會社の從業員として數へられる程の僅々廿萬人內外に過ぎないにも拘らず、是等在留人の營業資金の系統の、千差萬別であつて、宛然八千餘萬の日本全人口の營業別の縮圖かの如き觀を呈して居る事實は、一見當然とは思はれても內實を覗けば、こは實に在留邦人の發

○閉塞裡の在留人

展不振の最大原因を構成してゐることが肯かれる。

滿洲の全領域中の、條約によつて我國人が自由に居住往徠を認められて居る南滿洲の地域だけでも、その面積は、日本內地の總面積に匹敵して居る。然るに在留日本人の事實上の居住は關東州と滿鐵附屬地の、僅々奈良縣一縣の面積に等しい區域に限られて居る。この狹少なる地域內に於て日本人は常に行詰り、共食ひ、同志討ちを演じ、つひに滿足に力量を發揮し、手腕を振ふ機會にすら見舞はれないといふ實狀である。此の一個又は數個の强力な團體として發展を企圖されねばならない狀態の下にあつて千差萬別、各々利害關係を異にし小競合を演じて居る實情は、在留人をして、やがて全滿洲の全域に於て試むべき活動力の素地を根本的に破壞し盡しつゝあるといふ嘆かはしい結果を誘發させて居る。

○日本人の努力

南滿洲鐵道は露人の建設にかゝるとは雖も、之の鐵道を經濟的に運用したのは日本人の手に移つた後のことである。隨つて軍用鐵道としての東支鐵道南部線と滿洲の經濟的開發を主眼として運轉される我南滿洲鐵道とは、その

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

內容に於て全然相異するものであるが、之ればかりでなく、南滿洲鐵道を中心として滿洲に進出した日本人等は、滿洲の經濟的開發、文化の促進に就て、多くの貢獻をなした、夫等の悉くを玆に列記するには字義通りに枚擧に遑ない程の多數である。

○滿洲の近代化

滿洲の開發は、露西亞人の鐵道敷設が先驅をなして居るけれども、之が經濟的發達を遂行したものは明らかに日本人の努力に俟つ所が多かつた。このために、貧窮階級の支那農家は、彼等の祖先等が支那本部地方に於て幾十代かを經過して、漸く築き上げた生活の安定に等しい經濟的地位を、一擧にして贏ち得たような結果に惠まれ、廿ケ年前に僅々一千一百萬人を數えられた滿洲の支那人口は、現に三千餘萬人と註せられ、一百萬町歩の耕地以外は荒凉たる草地であつたものが耕地と化したもの一千三百餘萬町歩に亘り、年々十三億萬圓內外の作物を產出するに至り、滿洲の貿易額は明治四十年の一億圓未滿から昭和四年には十二億圓に達せんとする高速度の發達を示して居る。

○各項に就て見よ

これ等驚く可き事實は、本書に收錄した各項に就いて見れば瞭らかになる

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○窮乏は日本人

が、この高速度を以て發展した滿洲開發の途上に於て治安維持其他に就て盡した日本人の功績は多大なものである。

然るに過去の事績が如何に說明しようとも、現在日本人の窮乏狀態が如何に深刻化しようとも、そんなことにはお構ひなしに、滿洲の支那人等は、既に自主的・獨立的に各種の商・工業・近代的製造工場等の設立と運用と、交通機關の自力開設に着々と成功しつゝある。而して一千餘萬町歩を餘す、滿洲の有望な可耕未墾地域には、現在の總人口よりも更に多數の人口を抱擁するだけの餘裕を數字的に表示して居るが、過去と現在の實狀から推測すれば將來の此等農耕地を占領する者も依然として支那人農業者等であらうと豫想される。かくして我國人の過去廿五ケ年間に亘る滿洲開拓の歷史は、多くは商工業上の開拓であつた事と、その行詰りとを明示して居て、茲に何等かの新機軸の發生と現狀の打開法とが要望されて居る。

發展途上の缺點

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○滿洲は支那の一自治領

支那人は當初植民地として利用した滿洲を、つひに其の版圖として確實に領有するに至つて今日に及んで居るが、政治的構成の實際から觀れば、滿洲は支那の一自治領であり、是を經濟的に見れば、依然として一個の植民地の要素を多分に備えて居る。

○日本の所謂植民地

而して日本からも亦滿洲を自國の植民地として眺められるが、日本人と支那人との滿洲に於ける植民人としての地位は判然と其の特色が觀別される。

○政治の機軸

租借地・附屬地以外の滿洲の政治機關は悉く支那人によつて組織・統制・運用されて居る。而して此の政權の主腦者を始めとして、重要の位置を占むる政府の役人は悉く支那人によつて占められて居るが、此等の支那人の大多數は、滿洲に永住する土着人等であつて、支那本部又は他省人の任命される官吏の數は極めて尠く、現時南京政府の統制の下に服して居るようでも、實質的には保境安民を唱えて居た往年の獨立狀態と大差ないものである。

○滿洲第一主義

斯ふした實際からして、滿洲第一主義の政治が行はれ、支那本部と利害を

異にする場合に處する用意が講ぜられるに至るべきことは當然であつて、これが支那聯邦を構成する本部の各省と、往々にして利害の確執を生ずる所以である。

○四分八裂の日本人團

然るに滿洲に於ける日本人團の組成は勿論經濟的要素に基くもので、是が統制は夫々の母體本流によつて異つて居り、その背景に當るものは即ち日本內地の資本家等であるから、本國の政變や、財界の變動に伴ふて、風によつて左右される紙鳥の運動のように盛衰常なく、加之農村に主たる地盤を有する政黨と、商・工市民階級に足場を持つ政黨とは、對滿洲關係の諸方針に一致し難い黨是を有するために、在留邦人團の利益は、時の本國權力團體の利害如何によつて、慘酷にも蹂躙される場合が多いから、滿洲の日本人團には獨往性が無くなるのも當然であらう、更に又本國に於ける時々の權力政黨や、出資者等は夫々の腹心を交互に派遣し、自派に有利に事情を轉向せしめようと計るから、在留人は本國に於ける政界・財界の勢力移動の每に自家の築ける地位に及ぶ波動を焦慮せねばならず、勢ひ幾派にも分裂して地位の擁護を

○四頭政治

争ふに至るもので、このために、本國に於ける時の權力團體から遣られた各派の代表者等は傲倨不遜となり、專横を恣にするといふ傾向を誘致するに至る。この點は、滿洲の在住者の利益を重んじ、是を第一主義とする在滿支那人團との最も大きい異點の一つである。

世に滿洲の四頭政治と言はれ、關東廳・領事・軍部・滿鐵會社が擧げられる。而してこの四系統の綜合統一機關は本國政府内に備つては居るが在留邦人團は八派にも十六派にも分離されるものである。此の弊害は疾くに認められて居ながら、未だ對策は成らず、中には分立の原因を制度でなく人にありとなし、夫々の首腦の任命に當つて、豫め統制を達せんと計畫もされるが、滿洲日本人團の利益は、斯くの如く日本政府の任命によつて暫時來臨する俸給生活者によつて代表さるべきものではなく、こは實に永住の決心を以て滿洲に留る邦人中より　其人が現れねばならないといふ　不滅の要求をもつて居る。此のことは、たとひ年々にその移動が常なく、增殖の數が著しくないとしても、此の地を植民地とし、此處に何等の國家的背景なくとも、確實に日

本民族永遠の安息境を築こうと志す在留邦人團の切實な要望が、その求むるところの結論として、常に繰返される處であるから、一層その眞意を強めるものである。

○寸尺の土地を得ず

在滿日本人團中には、此の地に永住を志し、新生涯の出發點として足場を確立しようとして居る人々の相當に數え上げられるにも拘らず、斯ふした熱心な希望者等の利害を代表する適當な機關・人物が無くして、常に水草を追ふて轉々とした原始時代人のように、見定めのつかない浮動的生活狀態に置かれ、而も廣大なる地域を眼前に眺めながら、一筋の帶紐の如き狹少な附屬地區を一歩も外に踏み出されず、唯だ漫然と南滿洲鐵道と競走でもするかのように、その線路に沿ふて東奔西走して居るに過ぎない狀態である。

○土着困難

在留日本人團は、前述の如く、自家の利害を代表する力強き構成を缺くことの他に、又一つの不利をもつ、それは在留者が、單なる一時的商・工業の渡來者に止つて、此の地に土着する歸化人の無いことである。日本人が支那に歸化するといふことは、現代人の信條から言へば相當困難な事情が伴ふこ

○農家の將來

とであらう。然れども、此の地方に永住を志す人々としては、支那に歸化して支那人となることのほかに、農耕地の所有權は認められない。而して支那に歸化してまでも土地を領有しなくともよい、といふ考への旺んな今日にあつては、この缺陷が充たされずして現狀は不愉快と共に永續するに至るであらう。然るに支那に歸化せずして、在留日本人がせめて農耕地の地上權を取得することさへも、南滿洲に於ける土地商租條約の現存するにも拘らず前述の如く實際上障害が多い、それにも拘らず、在留廿五ケ年にして寸土の所有をも許されて居ない邦人間には此の地に愛着を感ずる結果、荐りに農地占有の權を取得することへの強き要求が絶叫されつゝある。日本の對滿・支交涉の最も大なる問題は此の土地問題であり、滿洲を介在しての日支の葛藤は、年一年と此の問題を尖銳化させて行くことが豫想される。

而して現狀のまゝに、日本內地の農業家を、關東州・滿鐵附屬地以外の滿洲平原に移し、農耕の業に永住させようとするのは、柔弱な羊群を驅つて虎狼の巢窟に放つに等しい慘酷な、冒險事に終るであらうことは容易に想像さ

○在留日本人十ヶ年間比較
明治四十年　一、一五一人
大正三年　一〇〇、二九四
同十三年　一七九、四八四
昭和三年　二〇四、四三九

○俸給者と自家經營者
○在留總日本人（昭和四年末）
二〇六、九六一人
○團體的在留者（昭和四年末）
官吏及家族三三、二八二人

れる。斯くて在滿日本人團は、一方根柢的土着人を缺き、他方統率者を得ずして、頭尾なき彷徨が相當久しきに亙つて繰返されるであらうと悲まれる。

共存共榮

植民地の生活は、總體的に觀て呑氣であり、經濟的餘裕のある點を聯想させるが、在外七十餘萬の日本人等が、世界の各植民地に於て、齊しく呑氣にそして餘裕のある生活を營みつゝあるとは斷ぜられず、南・北アメリカの各地に居る邦人間から洩れてくる嘆嗟の聲々も高く內地人の耳朶に響くようになつて來たが、滿洲在留の內地人團に於ても、母國の不況と關聯して下り行く景況に喘ぐ、求援嘆願の聲々が各地に起つて居る。

滿洲在留の內地人等は、主として公務・商・工・交通業關係の從業者が多くして此のうちでも官吏・滿鐵會社の從業員等とか、日本內地の有力な財界關係の支店・出張所員等は、不況に際しても甚しい打擊を受けては居ないが、これ等以外の在留人等は、今や危地に臨んで居る者の數も尠くはなく、更生

滿鐵社員及家族	七、四二九人
計	一〇三、七〇一

○大團體と小團體

の策が凝議されては居るけれども、徹底的に結末の付く迄には相當の時間と努力とを要せねば濟まされない事であらう。

而して常に起る問題の焦點は、關東廳・滿鐵會社・又は有力大商事會社・銀行等の團體群と、個々の小商工業從事者との間に惹起する、相容れない利害關係の葛藤である。殊に滿鐵會社々員團によつて組織された共同購買式の消費組合に對する在留內地人小賣人側の、之が改廢運動は、近年の不況と相俟つて白熱化して來て居る。之が爭議の原因は極て簡單であつて、消費組合が、その設立の主旨に則り、組合員等に低廉な日用品を提供し、組合員相互の利益を計つて居る事から起る結果が在留小商人の營業を成立せしめずして死地に陷れるといふのであるが、これ等の事情は明らかに在留日本小賣商人が、商品の販路を邦人だけに限つて營業して居ることの反映であつて、若しもこの一都市の人口に等しい廿萬餘の在留邦人全體の日用品購買機關を設立し相互の利益を計り、在留商人等は其の全力を傾けて日本商品の支那人都邑への普及に努めるといふことになれば、在留人の一致協力が達せられ、忌は

○好況不況

しい紛爭等は自然的に消滅するものではあるが、在留人は僅々廿萬餘に過ざないと雖も、小商工業者と大會社從業者等との間に蟠る一致し難い利害關係は、これ等在留者を打つて一丸とする總括的共同計算による機關の出現を困難に導いて行くもようである。

斯うして、在留内地人の生活に就て觀るに、特定の俸給生活者團と個々の小規模の自家營業者・小經營の勤勞者とに先づ大別されるが、この二つの種類に屬する人々の生活は、又好況時代と不況時代とによつて異つて來るもので、一律に孰れが安定と餘裕を有し孰れが不安定で絶望だとは斷ぜられないものがある。即ち好況時にあつても、俸給生活者は生活費の收入に著しい增加は見られないが、小商・工業經營者等と雖も、好景氣には甚しく活氣を呈して來る。反對に不況時代に於ては、大團體の俸給生活者は、その吹き荒ぶ慘風の外に擁護されて居るけれども、小商工業關係者の家計はみじめな狀態となつて終ふことが恒例となつて居る。

○國際的と國内的

而して大會社關係の事業は、夫々に國際的・對支那人的であるが、小商工

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

業者の對象は、實に僅々廿萬餘の在留邦人に限られて居る事實は、この不況時に於ける商工業の不振を更に擴大する原因となすものであつて、加ふるに俸給生活者等の團體群に生れた消費組合の成長は、決定的に小商工業關係者を死地に陷れる結果となつたものである。

○特異性

滿洲に於ける此の傾向に就ての對策は講究されつゝあるから、遠からずして共存共榮の精神に基く解決を告ぐることは容易に期待されるが、新渡航者は斯うした滿洲の日本人社會の特異性をば、深く研究し、出發の第一歩に當つて、足場の見當を付けて置くことは必要である、殊にそれ等が暗礁でなく、明瞭に露出して居るのであるから、今後は先驅者に降りかゝつた多くの障害を除去するための用意を講じてかゝらねばならない。

○變則的な點

滿洲の日本人は、前述の通りに、大商・工・交通業關係の從業者と、小商・工・交通業關係者との二大別とされるが、俸給生活者として銀行・會社・其他の機關への就職を志す者は、夫々に豫め手續を履んで渡航することが必要であつてこの目的が外れたゝめに止むなく小商・工業關係の自家營業機關か、

これに類する仕事に就くといふ場合に考慮せねばならないのは、前述の如くその華客關係が內地の場合と異つて居る點である。隨つて此の方面に於て、無限の發展は望むべくもなく、つひに嘆願と失望とに貴重な歲月を空費せねばならなかつた過去の多くの例を繰り返すようになるかも知れない。この點を見極めて置かねばならない。

○小商工業と支那人

一方から言へば、小商・工業者等も亦大資本團に倣つて、對支那人關係の事業に携るべきことが云々されるが、滿洲の實狀から見て、現狀のまゝの小資本を以て、國際的商工業戰に當ることは成敗の數は既に決して居ることであり、又この個人的小資本の商工業戰術にかけては、日本人等は支那人側に脅威されつゝある實狀であるから、赤手空拳又は僅少の資本を以て滿洲に雄飛し大成功を遂げようと志すが如きは、經濟知識の普及されたる今日にあつては大なる冒險事と云はねばならない。

○對立

日本內地に於ける階級間の軋轢に比較すれば、兒戲にも及ばない程度の極めて微弱なものではあるけれども、在留內地人團のうちに於ても、大資本團を

○難問

○解決法

背景とする者と、然らざる者との間には、その實際生活に顯現する便・不便勤勞に對する報酬率の多寡、將來に於ける生活保證の見極め等から優越感と羨望又は不平との對立關係が起りつゝあることも覆はれない事實である。

かくして最も呑氣で、そして平和に共存共榮的である筈の滿洲の日本人團内部にも微弱ながら一種の暗雲の出沒する點は見逃せなくなつた。而もこの優越感と羨望又は不平の意識とが、いつ如何なる形式に於て緩和されるか、又は如何に進展するかは、外に於て、對支那人・對母國の諸問題に惱む日本人團の孕む問題としては決して簡單なものではないであらう。

指導者の立場に在つて滿洲に於ける日本人の眞實の發展を企圖する人々は徒らに獨りよがりの傲慢に流れずして、百年の長計を確立し、永く紛爭の跡を絕つように努力することが焦眉の急である。一方には又新に滿洲に於て活動の地歩を定めんと志す者は、この特異的對立の因果關係を究明することを要するが、經濟的發展を志す上には、蝸牛角上の優劣などを問題とせず、大所高所に目標を置き、殊に在留邦人間に叫ばれる、共存共榮的日滿融和の

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

實績を擧ぐることに努力する覺悟が必要とされる。

日本人農業者

○面積比較　方里
○關東州　二四一、四九
　滿洲全土　三四、四九
　鐵道附屬地　一七、〇〇
◇奈良縣　二四一、八五
◇鳥取縣　二二六、二五

○滿洲は日本の一倍半

○土地の占有と條件

農耕事業に從事する日本人が、極めて少數であるばかりでなく、諸種の事情は、我國人の滿洲發展の前途に多くの悲觀材料を積み重ねられてゐるやうに喧傳されて居るが、此等の障害は必ずしも絶對的に動きのとれないものではない。

滿洲は日本全土よりも遙かに廣大な地域であるけれども、現に日本人が安心して農事に携つて居られる地域は狹苦しい。それは鳥取縣の全面積にも及ばない關東州の地域と、之に加算されても尙ほ且つ奈良縣の面積を稍々廣くするに過ぎない滿鐵會社の附屬地とだけである。

而して鐵道附屬地內の土地は滿鐵會社に於て貸渡しを行ふのであるが、これとても「土地の所有權を認めず」「擔保の目的に供するを認めず」たゞ農耕地の借地權を認許し　その作物に對する擔保權を認むるに　過ぎないものであ

○農地

る。又關東州內に於ては土地の分賣を行つて居るけれども、官有地以外の農耕適地は、もと〳〵支那人の私有地であるから、區分だけをして農民に無料拂下げを行ふ他の植民地と異つて、手輕に土地を取得する事は不可能であるばかりでなく、租借地の期限滿了が考慮されねばならない。

次に關東州外・鐵道附屬地外に於て、農地を取得するには、日支條約により、全滿洲の大部分の地域即ち南滿洲の各地に於て、卅ケ年の長き期間に亘り商租する事を得る樣になつて居るし、この期限滿了後は更新し得る事が規定されてはゐるが、この土地商租權は、現在では殆んど空文に終らんとして居る。何故ならば、滿洲の支那政府では、此の商租の施行に關して、極めて煩瑣な細則を設け、事實上實行不可能に終らせんとして居るばかりでなく、假りに之が貸借を成就したとしても、支那官憲はこの契約の一方の當事者たる農地の所有主を、揑造した無辜の罪名を塗り付け、犯人として、投獄して終ふのが常例であつて、支那官憲は商租條約成立後、地券面に「國土の盜賣を禁ず」と押捺し、國際正義心に基き人類共存の最高法則に據つて土地の正

○手足伸ばす

○支那人は取り放題

當なる貸借を行はんとする農民等を威嚇して居る。

我國人は滿洲を植民地と稱し、國民の此の地方への發展が呼號される一方に於て、世界的に優越した専門技能を具へて居ながら、耕地狹少のために腕を扼して生活苦に呻吟して居る農民を有するにも拘らず、而も一衣帶水の接壤地、滿洲に於て農耕地を獲得する事を許されないため止むなく不馴れの商賣に身を投じて失敗者を出す事實を見るのであるが、前述の南滿洲に於ける土地商租權の實施に關する交渉は依然として有耶無耶の裡に終始して居る。

我國の東北地方と等しく、支那の東北部を占めて居る滿洲は、人口包容力に於て、我が東北に比して更に數百倍の餘裕を示して居る。故に支那內地からは年々數十萬乃至百萬內外の移民が陸續として雪崩れ込み、此等の貧窮農民等は、吉林・黑龍江省地方、東部內蒙古地方に入り込み、區分されたる土地を無料にて給付され直ちに開墾耕作に移り幾年後には、一角の自作農となつて行くが奈良縣大の鐵道附屬地・關東州內に在留する邦人間に、荐りに南滿洲の各農耕地の土地商租權の實施に就て簡便な取極の成立を要望する聲々が

①滿洲農地要不用論

揚げられるけれども、此の問題は地主側の支那官憲が、實施の邪魔を計り隨つて交渉を回避し來つたばかりでなく、在留邦人側と、內地側との其れに關する觀點を異にする等の不利な事情が重つて歷代政府が根氣よく此の問題解決の勞を續けるといふ程の熱誠を見せて居ない。この點は滿洲の日本人を語る人々の間に常に援用されるが此の交渉に熱注し得ない理由を云々する人々は「日本人が滿洲に於て農耕地を取得しようとも、敢て自ら耕作をなさず投機的轉賣を事とし、徒らに民心を惡化せしむるに過ぎない」點を擧げるのが常である。而して主として在留人側の意向として、之を反駁する者の說く所は、「過去に於て、そうした若干の例はあつたとしても、それは問題化される程でない猫額大の地域に就てであつて、凡ゆる場合に繰返さるべき性質のものではなく、且つ又せつかく大陸地方に乘り出して從事する農耕の生業をば、內地在留の小農家と大差のない狹少な地域內に蹲踞して營み、如何に永年努力して見ても全力を傾注するに足る程の地域を取得し能はない狀態では前途の不安ばかりでなく、周圍の支那人農業者に對しても、永久に自尊

心を傷けられて一向に梲は上らない」といふのや、「吾々は少くとも兩三度も支那滿洲の領土保全のために國運を賭して戰爭までも決行した」といふ意識と『近代文明の先驅者としても、農業技術にかけても、支那人に對して優越的認識を有する進取的な日本人である』といふ點などから、『より大なる土地の取得を欲し、大勢の人・畜・機械力を要する農業の經營を志すことは必然の成行であらう』といふのや。而して『此等の日本人の發展によつて、滿洲・支那人の生活が脅威されるとならば、「民心を惡化せしめる」背德行動であらうが、滿洲開發の最初の目標として計畫されたと言はれる百萬人や二百萬人位の日本農民が滿洲の農地に移住して農業に從事するものとして考へて見るも、それは滿洲の實際から見て技術その他の點から日・滿人共同の利益にこそなれ、爲めに何程の被害の發生するとも思はれないし、又滿洲人を死地に陷れて、我國人だけが廣大な農地を取得しようと言ふのではない』といふやうな點などが擧げられて居る。

○日本人農業家の成功者

然るに一方には日本人が農業家として、滿洲人の間に介在して働いて、到

○果樹園業

底成業の見込はないと言はれた過去の標語を打破して、着々と成功の名乘りを擧げて居る邦人農業者の數が年々殖えて來た。而して間島地方、遼河々畔、松花江流域に於ける朝鮮人の水田事業と、南滿洲の鐵道附屬地や、關東州内に於ける内地人の小規模の水田耕作との成績は良好であるが、これ等以外に於て、在留内地人によつて擧げられた好成績は多く果樹園業に就て見られる。果樹栽培業は日本農家の先天的才能を有する結果として既に朝鮮に渡つて是を經營し、良成績を示して居る者の數は相當に多いが、租借地關東州内や滿鐵附屬地内に於ても内地人經營の果樹園は、その歷史の新しい割合に、進步的經營法によつて收益の增加を示して居る。

滿洲には果樹の適地が多いが此等の果樹園に於て栽培されて居るのは、林檎・梨・葡萄の三種が主なものである。此等の生產額は年々增加して行くけれども未だ滿洲に輸入される果樹の量とは多くの開きがある、のみならず、支那各地・香港・ロシア方面の需要地を控へて居る關係からこの事業の前途は有望と見られて居る。而して永らくアメリカの農地にあつて果樹の栽培を

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○移住農村

營んで居た邦人が、關東州内に移住して來て、米國式經營法に則り、好成績を擧げつゝある實例などは特に注目されて居る。

關東州内及南滿洲鐵道附屬地内に於て農業を經營せんとする、內地よりの移住者に對しては、關東廳・滿鐵會社等に於て、夫々相當の援助をなしつゝある。州内には同廳の直接補助によつて成立した純日本農村（二七六頁參照）愛川村のある他に、近く滿鐵會社の經營による大連農事會社（二八〇頁參照）計畫の移住農村が呱々の聲を揚げた。

○將來

前記の狀態にある州内及鐵道附屬地に於ける小規模の農業經營は、我國人の滿洲發展の苗圃となるものであるから、やがては滿洲の農地獲得の要不要に關する日本政府の判斷の、參考資料にも供せらる可きもので、是等農業者の成敗如何は、特に多大の注意を以つて環視されて居る。

日滿商業

○商業者の先驅

日本內地人は、商用を以て、明治の初年代から滿洲に居住往來して居り、

營口（牛莊）の日本領事館は明治九年の創設である。爾來北は哈爾濱から現在の東支沿線地方、松花江沿岸等の諸地方に內地人の商業者がぽつり〳〵と進出して居た。

○朝鮮貿易の延長と見る

此頃の滿洲は、現時のように國境とか異民族とかいふような意識が、政治的色彩を濃くして居なかつたので、言語の不同に伴ふ障害のほかには、官憲の强壓などには滅多に出會つて居ないが、併し何と言つても、近代工業の勃興しなかつた頃の商取引であるから、支那の藥種類や、日本の陶磁器類などが、殆んど物々交換的に取引されたにすぎなかつた場合が多く、言はゞ商業上の視察旅行の序に、手輕に商品を携行し、歸途に先方の珍らしい物產を持ち歸つたといふに過ぎない程度のもので、多くは朝鮮との貿易の餘波が自然の狀態で延長して行はれたものに過ぎなかつた。

○當初の商品

然るに是等の狀態は、朝鮮と日本との商取引の促進及支那本部との輸出入の數が年々增殖するに伴つて變化を生じ、日滿間の商取引にも又活氣を呈するに至つたが、明治廿年前後頃迄は、日本から乾鮑・鯣・煎海鼠・寒天・陶磁

器類・木蠟・茶・紙等を輸出し、豆類・油糟・鉛塊・紅花・支那綿布の類を滿洲から輸入して居たがその量は多くなかつた。

○營口

滿洲と日本との商取引は、營口（牛莊）に在留した邦商の營業から始つて居る。尤も前記の如く、北滿（哈爾濱・松花江沿岸）地方にも多少の日本商人が入込んで居たが、盛大になつたのは、日露役後のことである。

○滿鐵沿線

營口の在留日本人は、明治卅年末に於て、領事館員（二）を加へて合計十人の男女を數ふるに過ぎなかつたが、日露戰前の卅六年末には漸く百卅三人となり、戰時に際して著しく增加し、卅七年末には一千百五十五人を數え、卅八年末には六千二百七十人に及んで居る。然るに卅九年末には三千四百七十五人といふ減數を示して居るが、これは營口にのみ居住した邦人等が、順次遼陽（一、一四七人）奉天（二、二五〇人）鐵嶺（二、四三九人）開原（五一人）昌圖（七〇人）孟家屯（二四八人）長春（三六〇人）吉林（七四人）等の各地へ移動した結果に外ならない。

○軍旗の下から

此の人口移動は、即ち日本兵の北進に伴ふて、その軍旗の下に漸進した事

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

を物語つて居るのであつて、我國內地人の滿洲進出の組織的に行はれた第一歩は實に露西亞の東漸を防ぐために起つた、日本兵に後續して行はれたものである點は、世界の植民史上にも珍しい例である。此の占領地を後から後からと居留民が引繼ぎ兵の前進と形影相伴つて離れなかつた結果は、故意か偶然か、現に我國人の滿洲開發の途上に當つて、土地の所有權確立が云々され、常に日清又は日露の兩戰役の總勘定の功過が引合に出され、此の地方に於ける日本人の特殊權益が公然叫ばれるものであつて、此の點は、最初から單に土民の指導を以て、併して物資の安全なる利用を以て目的とされた植民地開發とその趣を異にして居る。然るに結果に於ては此の土地領有の希望が全然充たされずして、我が對滿政策の根柢に動搖常ない狀態であるが、最初此の地方に移住を志した植民日本人等の多くは、怕らく今日の如き絕對に土地の領有が不可能といふ事情に終ることは豫想しなかつたものと見られる。

○商業の發展

　上述の通りに、營口を振出しに、滿洲各地へと彌漫して行つた日本人等は當初主として軍隊の用を辨じ、傍ら對支那人の取引を考慮した程度のもので

○營口から大連へ

あつたが、日露戰後日本軍の撤退後は、滿洲の主權が明瞭に支那に歸し、日本人は特定の地域內に居住して商取引に當る點のみが約定さるゝに至つたので、農耕業者としての渡航者こそ繼續して居ないが、商業貿易に從事する者の渡航は年々其の數を增して行つた。

現時にあつては、(飛行機便共に)滿洲への大玄關口は大連であり、これに朝鮮から鴨綠江を經由して安東があり、營口は寧ろ裏門の地位に廻つて居るけれども、日露戰爭前後頃は、營口は寧ろ表玄關であつたし、又全滿洲の貿易の大部分は必ず此の地を經由したもので最初(千八百五十八年・咸興八年・安政四年)牛莊に英國領事館の開設された當時は在留日本人も亦英國領事の保護の下に置かれたもので、その後數年ならずして、地理的に關係の密接な日本との貿易の優越性が諸外人間にも認めらるゝに至り、將來を羨望されたが、日露戰爭前後には常に首位を占め、英・米其の他諸國の商人は逐年その勢力を日本商人に奪はれて業務を縮少するの止むなきに至つた。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○貿易の變遷

いま玆に明治卅三年から卅七年迄の貿易に就いて言はんに、營口輸出品の九割弱は豆類・豆粕・豆油・柞蠶絲・阿片の六種によつて占め、他に大麻・藥材(人參)・胡麻・毛皮・豚毛等が出て居る。次に營口への輸入品の六割五分强は織物及糸類を以て占めて居る。卽ち生金布・粗布・晒圓布・雲齋・天竺布・畦織木綿・其他の綿布・綿毛交織物・毛織物・雜織物・綿織糸等である。而して金屬・鐵道材料・石油・石炭・砂糖・染料・卷煙草・紙・昆布・麥粉・マツチ等は之に次いで輸入されて居る。

○日本商人の特異點

斯くして、英米商家は、資本を以て滿洲に浸入し、日本商人は軍旗の下から生ひ立つたが、戰後は一本立となつて英米商人の商權を奪ひ、對滿洲外國貿易の首位を占めるに至つた。然るに植民地に於ける商業の發達は、自國人の土着者の數と比例して、永久の生命を保全せらる可きものなるに、我國人の滿洲に於ける實際は、單に商・工・交通業等に從事する俸給生活者を以つて大數となし、農耕者として歸化土着する者の皆無なる狀態は、我國對滿商取引の前途に一種の暗雲を投じて居るものであつて、この形勢を以つて推

移するものとすれば、次に代る可き商業上の覇權は當然支那人の手中に歸するであらうと豫測される。

母國式諸制令

○四系統

關東廳・領事館・駐屯軍隊・滿鐵會社の四系統は、滿洲の日本人團を組成する骨子となり、經緯となつて居るが、斯ふした國家、又は大資本に據る代表機關を、直接又は間接に背景として夫々の業務に當つて行くことの、植民事業の將來に及ぼす功過如何は屢々論議の岐れる所である。

○居住民と各系

在留廿餘萬の內地人等は、右四系統の全部又は幾部かと多少なりとも聯關を保つて居る。關東廳は關東州內の行政事務を把握し、南滿洲鐵道沿線各附屬地都邑の警察事務をも擔當して居るから、州內及鐵道附屬地居住者とは密接な關係を保つて居る。在滿各領事館は、州及附屬地以外の開放商埠地に居住する者、又は各城內其他に在留して關東廳や、滿鐵會社からは直接の後援をうけないで滿洲開發の最尖端に立つて居る邦人等の保護獎勵の任に當る

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

もので、此の所管區域は他の諸外國に活躍する商・工業關係者と等しい地位にあるけれども、關東廳又は滿鐵會社關係の在留民保護に關する各種の機關とは間接に經濟的聯絡を保つて居る場合が多い。

○軍部

軍部は、海軍が旅順に常備艦艇を派遣し、無線電信所を所有し、軍港を整備して居る以外は一切の設備を陸軍に於て擔當して居る。常駐師團・獨立守備隊等は關東州內又は鐵道附屬地區に駐屯し、唯に在留民の保護に當るばかりでなく、一般的に南滿洲の騷亂を未發に防止する事に就ての功績は覆はれないものがある。

○州內の土地

更に關東州內の支那人所有以外の大部分の土地は關東廳が保有して居るし、滿鐵會社の鐵道附屬地各都邑の土地は同會社に所屬して居るから、此等の地域に居住して生業を營む者は、夫々に關東廳又は滿鐵會社と土地・建物築造上の交涉を經ねばならない。

○關東廳

關東廳は別項に抄錄した以外に、州內又は廳所管區域內の財政・外交事務・軍事・法務・司獄・警察等の事務をば掌理して居るから、管內居住者は夫々に

○稅金

の機關を通じて廳と聯絡して居る。
隨つて廳所管區域内居住者は、所定の納稅義務を負はされて居る。廳所定の租稅は國費と地方費との二種に分れ、國費は更に地租・鹽稅・所得稅・取引所營業稅・酒稅・烟草稅の七科目に分けられ、地方費は、營業稅・雜種稅の二科目に分けられて居る。

○領事館

在留人は、關東廳又は領事館所定の司法制度の統制下に置かれてあるが、廳の制度は三審制となつて居る。而して支那人の特種の犯行に對しては特別の法令が布かれて居る。廳の司法機關は警察署・民政署・民政支署・檢察局・地方法院・高等法院覆審部・高等法院上告部等に分れて居るが、裁判所は内地の各司法機關から全然獨立して居て、上告其他に關して何等の聯絡をも無く凡て高等法院の判決を以て結審とする。又領事館管轄區域の在住者は凡て領事裁判を受けねばならないが、抗告する場合に限り關東廳の裁判所へ聯絡するものである。州内には二ケ所の刑務所が設けられてある。

○滿鐵

州内又は滿鐵鐵道附屬地内の警察事務は、關東廳に於て管掌し、廳の下に

Digitized by Google
Original from KEIO UNIVERSITY

民政署・同支署・警察署が置かれ、州内警察署は民政署長の監督を受け、州外の各署は駐在領事の監督を受ける。州内には一民政署・二民政支署・五警察署を設置され、鐵道附屬地內には十四ケ都市に各一警察署を設けてある。この外東三省內六ケ所の商埠地には領事館警察署が置かれ、各分館には夫々に警察官が常駐して居留民の保安事務を掌つて居る。

○消防

次に消防・賊徒防備に關する設備は、州內及鐵道附屬地、商埠地等には、廳・滿鐵會社・居留民會又は各團體によつて組織される消防隊がある他に、滿洲名物の馬賊や海賊の防止・逮捕に關する機關は被害者の多い支那側に於て、政府又は自治團體によつて夫々に組織されてあるけれども、州內には保甲制度を布いて特に要所を堅め、附屬地其他に於ても自衛方法が講ぜられて居る。

○渡航

滿洲への渡航は、他の諸外國への渡航と異り、旅券の下附を受け、又は査證を要する等の手續が必要でないから、內地人は隨時隨所へ丁度內地間の旅行と等しく自由に往來することが出來る。

○制令

然しながら、州內又は鐵道附屬地內に於て、各種の營業を經營する者は、

關東廳管下の行政警察の統制に服することを要する。又風俗に關し、交通に關し、夫々に警察の取締を受けねばならない點は內地同樣である。植民地は特に、藝娼妓稼業の秩序維持を必要とする實情から、この方面の渡航者・營業者等に關する取締は嚴重である。然れども、一切を創造的に新機軸を生み出して行く此の自由の地帶に於て、舊時代の遺風である婦女子の慘酷な稼業を、內地の延長として存在させる點は遺憾と言はねばならない。

○鐵道附屬地

滿鐵會社の附屬地に於ては土地・建物・教育・衞生・消防等の事務を會社が直營して居るが、管內在住者は之が經費の一部として、課金・戶數割等を分擔して居る。又領事館區內商埠地在留者の組織する居留民會は、大てい教育・衞生・消防事務を司つて居て、此の經費として諸種の賦課金を收集して居る。

生活樣式

○物價と勞賃

滿洲の物價指數は、東京・大阪等の日本內地の大都市よりも高率を示して

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○東京・大連・大阪一般小賣物價（昭和四年）

	第一項 東京	第二項 大連	第三項 大阪
白米	一升上 •三九	三斗上 八•五〇	一瓩 •二四五
麥粉	百目 •九五	一袋 三•七〇	
砂糖	一斤三盆白 •二五	同太白 •二〇	一瓩三温 •四一
味噌	一斤 •〇八五	百目 •〇八〇	百目 •一〇〇
醬油	山サ •八八	一升上 •七〇	龜甲萬 •七〇
食鹽	一斤再製 •〇六六	百目同 •〇三五	一斤同 •〇五〇
梅干	紀州上 •二〇	上 •二五	（百目）上 •二一
椎茸	一升静岡 •七〇	百目 三•〇〇	百目十匁 •三二

居るけれども、其は凡ゆる物價の總和に就ての比例がさうなるのであつて、日常用の生活必需品のみについて見れば廉價なものが多い。

殊に米、鳥・獸・魚肉類、味噌・醬油・鷄卵等の食料品は極めて低廉である。内地の大都市は大抵公設市場を經營して一般より低廉な物價を以て日用品を供給して居るが、滿洲の公設市場は内地程には普及して居ないけれども大會社等の團體群では大てい消費・購買組合を持つて居るから、内地の公設廉價市場に劣らぬ低廉な物品の購入が出來る。

米は最初日本内地又は朝鮮から輸入されたが、現今では滿洲で採れる量が洲内の需要を充たして剩餘が生じるようになつた。米の質は陸稻は多少惡いけれども水稻は優良なものが多く、朝鮮産米や日本内地産米と比較して遜色のないものが産出されるやうになつた。

副食物の豆類・野菜類・各種の肉類は、滿洲に産する物は至つて低廉である。内地人は最初、食物材料に就いて、土産の物を嫌つた傾向があつたが、料理法によつては大差のない風味をもつ點が明らかにされた昨今では、日常食

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

品目	産地・単位	価格
鰹節（百目）	伊豆	一・八〇
	上	一・六〇
	土佐	二・二〇
鹽鮭（百目）	カムチャツカ	・一三
	北海道	・三五
玉葱	百目	・〇五
	同一貫	・五五
		・六五
馬鈴薯	百目	・〇三五
		・〇五〇
	一貫	・三六〇
豆腐一個		・〇五
		・〇六
		・〇五
煉乳（一カン）	ワシ	・四八
	同	・四八
	同	・四八
牛乳一合		・〇八
		・一〇
		・〇八
牛肉（百目）	ロース	・九〇
	同	・六四
	同	一・〇〇
豚肉（百目）	上	・八〇
	同	・四〇
	同	・七五
鶏肉	百目	一・八〇
		・八〇
		一・三五
鶏卵	百目	・二七
	十個	・四〇
	百目	・四〇
茶	百目 煎三	・三〇
	同百目 川柳	・六〇
	一斤 煎中	一・三〇

料品を、わざ〳〵内地や國外から高い運賃を支拂つてまでも輸入せねばならない程の理由もないとあつて、土産の物が歡迎される傾向となつた。

日本内地では、交通不便な地方では、新鮮な魚肉類は賞味し得ないが、滿洲の日本人は、大てい鐵道沿線地方か、河岸又は主要陸路に沿ふて居住して居る者が多くて、冷藏車によつて快速に輸送される魚肉類は、大連・旅順・安東・營口等の臨海地方から哈爾濱・吉林以北までにも迅速に供給されて居る。而して洲産の食料品が、大體に於て内地産の品々に比較して風味が劣るように言ひなされて居たが、これ等の原因は、前記の如く品その物にあるのではなく、その調理方法の巧拙によるといふのが正しいようである。現に滿洲産の品を使用してもなほ且つ美味を以て衆人を集めてゐる支那人の料理店を思へば、品質ばかりを低劣と見做すわけには行かない。

關東州内は烟酒税を徴收されるので幾分か高くなつて居るが、それでも酒類や烟草は内地よりはずつと廉く、州外(普蘭店以北)各地は殊に極めて低廉である。日本酒や麥酒類の小賣値段までが、滿洲各地では内地の卸値段よりも

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

清酒（一升）	白鷹 二・三〇	內地產 一・八〇	白鶴 一・八〇
麥酒（一本）	エビス ・四〇	アサヒ ・三〇	同 ・二八
半紙一帖	・〇四	・〇四	・〇四
綿糸	百目 ・九九	一俵 一九七・〇〇	百目 ・七一
晒木綿一反	・六五	・七〇	・五八
足袋一足	・七〇	・六〇	・七九
青梅綿上一貫	六・一五	四・〇〇	五・三五
木炭	楢丸上四貫 一・五〇	上八貫 二・七〇	土佐小丸上一貫 ・五〇

○東京・大連職人賃金比較
—昭和四年末—

廉くなつて居るし、輸入される外國の酒や烟草やは日本內地の三分の一程度である。

瓶・罐詰類其他の嗜好食品類も大體に於て至極低廉であるが、たゞこうしたものゝうちで、日本內地から輸入される物品は幾分高くなつて居る。

衣服地・其他裝飾用具の類も亦同樣で、日本內地又は支那內地から移輸入される物は夫々の內地よりは高價であるが、滿洲內の製品や歐米諸國から輸入せられるものは低廉である。關稅自由地區となつて居る關東州內に於ては殊に外國からの輸入品類が廉く供給されて居る。

前述の通りに、滿洲在留人の生活必需品は、洲產の物を食べ、支那又は洋風に裝ふとすれば、低廉といふわけである。而しながら故鄉忘じ難して、大和島根の國風そのまゝを滿洲で持續しようとすれば、費用は幾分增加する結果となる。

而して滿洲の勤勞に對する報酬は、これ又大體に於て日本內地の諸都市と比較して幾分、割高となつて居る。月俸や給料などは、在外手當が加算され

（括弧內は東京）

大工	四、一五	（二、八七）
指物	三、七五	（二、三五）
左官	五、〇〇	（三、四七）
石工	四、〇〇	（三、八〇）
疊工	三、三〇	（三、三〇）
硝子	三、二五	（三、七〇）
洋服	三、三〇	（二、四六）
靴工	二、五〇	（二、〇七）
ペンキ	三、七五	（二、八三）
鍛冶	三、五〇	（三、八三）
煉瓦	四、一〇	（三、四三）
瓦葺	三、八〇	（三、六〇）
瓦製	二、六〇	（一、八八）
活版	三、〇〇	（三、五五）

○健康狀態

○滿洲の出產率は內地より高く、死亡率は內地より低い

て居るのが多く、農園や果樹園などの收入も、耕地面積が廣くて、生產量が多いから、單價は廉くても內地よりは收入額が總體的に多くなつて居る。

滿洲の生活は、大體惠まれて居ると言つてよく「氣候風土に關係ある特殊の病患なく、概して天然的健康地と謂ふを得る」ばかりでなく、前記の通りに日用必需品類が低廉であり、輸入外國品が廉く購はれるから、內地の生活に較べて、幾分餘裕ある出納となるのは必然であらう。次に出產及死亡の比率も、日露戰爭直後の頃迄は、單身渡航者が多くして、新家庭を結ぶ者が少く、隨つて死亡率は出產率を超過して居たが近年その比率を全然顚倒するに至つて、昭和二年の例に就いて見るに、出產率三三%八九に對し死亡率は一四%九〇であつて、差引一八%九九の增加率を示して居る。同四年度の內地出產率は三三%六で死亡率一九%八であり、增加率は一三%八である。

滿洲は冬季の寒氣が內地に比較して激しいために家屋の各窓口硝子障子を冬季には多く密閉して置く、このためには一方に於て土着支那人や、露西亞人やの設備に倣ひ、各家屋の構造に當つて當然換氣窓を取付くべきものであ

ると思はれるが、之が完全に行渡つて居ないのは遺憾である。特に冬季間の衛生法が完全に行はるれば、病氣で倒れる在留人の數は年々減少して行くであらうと思はれるばかりでなく、却つて内地よりも長壽を保たれると思はれる幾多の條件が、此の地方の生活と好都合に結び付いて居る。

○患者

滿洲在留内地人の罹病者の數が多く、隨つて醫療を受くる度數が多いといふ事が問題となるけれども、その出生と死亡との比率が遙かに内地生活者に比較して好條件に惠まれて居る事實は、此の地方の在留者が、元氣盛りの青壯年者によつて多數を占められて居るといふことのほかに、罹病者はあつても治療の行きとゞくといふ點や、又その病傷者の手當に就いて、完全な機關が發達してゐる點等が確證される。

○進歩した醫術

事實滿洲の衛生療養機關は殆んど缺點なく整備されて居る。殊に日本人市街に於てそれが最もよく完備されて居るばかりでなく、病傷者の互助機關が成立して居るから、微傷、輕症に當つても、直ちに醫療所に走せつけられるといふ便宜がある。これ等も在留者にとつて好條件の一つであらう。

○無階級に近い

○旅順工科大學

○南滿醫科大學

滿洲には、東洋第一と稱せられる設備の整つた大連醫院を始め、滿鐵沿線の各地や、日本人の在留する主要地には夫々醫院が設立されて居る。而して疾病又は流行性諸病の防止に要する設備も完成し、特に比較的衛生思想の鈍感な隣接支那人街區にまでも進んで此等の設備の發動を見ることになつて居る。奉天には滿洲醫科大學が設立されてあり、その附屬醫院は南滿洲中部唯一の完備したものである。此の大學には日本學生の外に支那人子弟の醫術家も養成して居る。

滿洲の生活程度は、殆んど平均して居て、日本內地のような段階は尠い。隨つて極端な貧困者は殆んどないから、子弟の教育に就ても、內地に見るやうな有能の材が、學校の門を入る事を許されないといふような不都合な點は少なく、大多數は中學校を經て夫々に希望の專門教育又は大學教育を受ける事が出來る。加之內地の中等學校の所謂試驗地獄といふような子弟の入學難は殆んどなく、競爭なども極めて緩漫なものである。併しながら滿洲には、工科・醫科以外の大學がないので、他の學科に就て修學の目的を有つ者は、日

本其他外國に出ねばならないが、これ等中等學校出身者の、滿洲外諸大學への入學率は極めて高く、滿洲日本人の生活の餘裕から來る好學熱を物語つて居る。

なほ男女共に中等程度迄は、夫々父母の膝下から通學されるやうに、各地に中等の學校が開かれてあるが、高等程度の修學には、大連・旅順・奉天等に遊學せねばならない。滿洲の專門學校は奉天の滿洲教育專門學校、大連の南滿洲工業專門學校の二校である。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY



開原の大豆



豆粕

Digitized by Google Original from KEIO UNIVERSITY



新開嶺



貔子窩鹽田

Digitized by Google Original from KEIO UNIVERSITY

第四　産業界の現狀

滿洲の産業界

○産業

滿洲の産業界は農業を本位として居るが、生産物は農産の他に畜産・鑛産・林産・水産物等が豐富である。隨つて之等を原料とする工業が勃興し、殊に近年に至つて、各地に近代的化學工業の創始されるもの多く、其の種類の如きも雜多に亙つて居る。今農業以下各業の現狀を記述して見よう。

農業と農産物

○農業

滿洲平原は土地肥沃であつて、土壌は、壌土・植土・植質壌土等肥沃な地

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○昭和四年收穫		千石
大豆		三七、二四三
高粱		二六、五六三
粟		二八、七二六
玉蜀黍		一三、三九二
小麥		九、八五七
水稻		一、四三四
陸稻		一、七八七
雜豆		二、六二三
其他計		一四七、〇九四
○特用作物		
大麻		
蘇麻		
烟草		
胡麻		
莨麻		
荏		
西瓜		
甜菜		
忍布		
亞麻		
棉花		
○東北四省耕地		千町
總面積		一二五、八二三
可耕地		二五、七二八
既耕地		一三、二二〇
未耕地		一二、五〇八

質に富み農業に快適して居て、大豆・粟・高粱・玉蜀黍・小麥・大麥・稗・水・陸稻其他の雜穀の年産量は一億四・五千萬石に及び、三千萬住民の自家用とした餘剩量七千餘萬石を移輸出して居る。

然るに滿洲に於ける農民は殆んど滿洲人・支那人であつて、其間若干の朝鮮人が介在して主として水田作に從事して居るが、內地人の純然たる農業者の數は極めて小數である。而して、內地人が滿洲に於て農業家として成功の見込あるか否かに就いては、種々の議論が立てられて居るが、少くとも在來の形態の農法によつた過去の成績に徵すれば略々失敗と看做して差支ないであらう。其の一・二の卑近な例を言へば、滿鐵會社は去る大正三年から六年迄の間に、滿洲に駐屯した獨立守備隊の除隊者の希望者中から、農業家として將來よく困苦に耐え、發展の見込みありと認められる者を、所屬長と聯絡して考査の上卅四名を選出し附屬地內に耕地を貸與し、家屋、農用具、役畜の購入等に就ても多大の便宜を與へ、將來自作農として獨立させようとして見たが、其半數は成績を擧げ得ず、創始後三・四年內に孰れも業を放棄して農地を

○果樹
苹果
梨
葡萄
○大豆
耕地　二八、七三二、一九〇反
收穫　三七、九八一、五一〇石
（約五、四四一、四七七米屯）
○高粱（紅糧）
耕地　二九、七〇七、〇〇〇反
收穫　三六、四六八、一六〇石
（約五、一四三、六三三米屯）
○粟（穀子）
耕地　三三、七一九、一二〇反
收穫　二八、九四四、八三〇石
○玉蜀黍
耕地　九、一三五、一三〇反
收穫　一三、一〇九、九六〇石
○小麥
作付面積　一三、九五八、八四〇反
收穫　一〇、六八三、六五〇石

去つた。而して殘留者の現狀も亦決して當初の期待に副はないばかりでなく、多くはその前途を悲觀して居る。此の外に、關東廳に於ても、州內金州管內愛川村の地を卜し純然たる日本農村を創始し、移住農家廿四戸につき農地、建物、畜類、器具等の取得・購入に多大の助勢をなし、水田作を行はしめ、土着發達を期待されたにも拘らず、移住者の多くは前途を悲觀し現地を離れ去つて現在僅かに七戸を殘して居るに過ぎない。

斯くして、十三・四年前から試みられて來つた關東廳及滿鐵會社の保護助勢の日本農業者植民事業は、過去に於ては不成績を示して居る。

然るに是等の失敗は、多くは除去し得られる原因にありとして、其後に於ても、前記愛川村にては、過去の失敗の經驗に鑑み、作物の種類、耕作面積、副業等に就き、更に研究考慮を拂ひ、灌漑用水を豐富にして、依然として保護助勢を續けつゝあるが、是等の成績如何は將來に待たねばならない。又滿鐵會社に於ても新たに農事會社を起し、自作農・小作農各三百戸の關東州への移住農家を募集し、多くの保護助勢條件を附して、土着日本人農家の移植

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○總面積　千町
遼寧省　三三、五七七
吉林省　二一、一七三
黑龍江省　五五、二四〇
熱河省　一五、八三三

○耕地面積　千町
遼寧省　五、一〇七
吉林省　三、四九三
黑龍江省　二、九五五
熱河省　一、九九三

○可耕未墾地　千町
遼寧省　二、六二九
吉林省　二、七六九
黑龍江省　五、三九四
熱河省　一、七三四

を續行する計畫を樹立したが、すでに過去の失敗を討究した今後の斯ふした試みの結果は相當に期待されて居る。而して、過去に於ける失敗の原因には、農業者たる素質不充分なる者が漠然と農業を志し、加之、業務に不熱心であつた事、副業の選定を誤つた事、作物と氣候との關係に就いての知識の不充分、土地所有權獲得慾の充たされなかつた事、水の不足、其他支那人との生活程度の差違、此の地方特有の農法の無理解等が擧げられて居る。

日本人農業者は、過去に於て滿洲の農業家としての發展は、極めて不成績に終つて居るけれども、數千年來此の地方に於て農業を經營して來た支那人等は、前述の通りに、農を以て凡ての產業の基礎となし、健實に發達の道程を辿つて今日に及んで居る。以下支那人農業の各項に渉つて記述を試み、斯業に志す人々の參考に供する。

○支那人の經營法

支那人の農業經營法には、自作農・小作農・分益農・協同農・請負農等の種別がある。

○自作農

自作農は本地、本種或は自己兒地、自己兒種等と稱し、大農は七・八十町步

○總戶數
五、五七五、八八一戶
（日本の四割七分三厘）

○小作農

○分益農

○日本內地
自作三一・一　小作二七・七
自作小作四一・二
耕地六、〇八五、六〇三町七
田地三、一四七、六四二町一
畑地二、九三七、九六一町六

五段未滿　三・五割
五段―一町　三・四
一町―二町　二・二
二町―三町　・六
三町―五町　・二
五町以上　・一

○協同農

○請負農

以上、中農は四・五十町步、小農は二十町步內外、過小農は五・六町步を耕作して居る。而して北部地方では七・八十町步から百町步を耕作する者が少くないが、關東州內では二・三十町步を超ゆる者は稀である。

小作農は租地、租借等と云ひ、小作人を租戶、地主を地東と稱する。小作人は小自作農者が多い。その種類は永租（永小作）租又は佃（普通小作）の二種に分れる。小作料は一半或は三分の一で金納は少く穀納が多い。

分益農は、分晴、辦晴、分種、種分收等と云ひ、辦裡晴（辦內晴）と稱して家屋・農具・種子・肥料・日用品・衣服・食料等一切を地主から貸與され、收穫後消費々用を含めて、地主六・七分、小作人三・四分の分配率によつて決濟する方法と、他に辦外晴と稱して、地主が家屋だけを貸し、地主四・五分、小作人五・六分の割合に分配されるものとがある。

協同農は、揷具と稱し、小農・過小農等の間に行はれる方法であつて、各自に役畜、農具等を持ち寄り、順次耕作を行ふ方法である。

請負農は牛具と稱し、畜類又は勞力を以て賃金を取つて耕作、中耕等を請

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

負ふ方法である。

○耕作法

耕作法は我國の方式よりは歐米風に近い、凡て牛、馬、騾等を使用し、犂丈、輥子、耙耮等を以て整地し、肥料は土糞を用ひ、穀物は穗を刈り取り家畜を使用して脫穀し、痲袋に詰めて市場へ送る。

○農法

農法は大體、輪作・連作・掠奪・休閑の四種に分れて居る。

○輪作農法

輪作農法は滿洲一般及蒙古の熟地に行はれる、凡て玉蜀黍・粟・高粱・大豆・小麥其他の穀物の一又は二・三種位を主作物とし、三・四年、四・五年又は五・六年の輪作を行ふものである。

○連作農法

又土地狹く輪作をなす餘地のない場合、或は低窪の濕潤な地方、鹽分の多くて特種の作物以外に不適の地方等に於ては連作法が行はれる。

○掠奪農法

掠奪農法は、最も原始的なもので、主として蒙古地方に行はれ、肥沃地を求めて連作し、地力消耗を見越して他の土地へと移るのである。

○休閑農法

休閑農法は、熱河省や滿洲南部に多く行はれる、規則正しいのと不規則のとがある。普通全體の三分の一を殘すか、三分の一を耕作するものである。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○耕耘

耕耘は凡て牛、馬、騾等に犂を曳かせて行ふもので、耕地、豁地、翻地等と稱し、耕地、割地は全面を平坦にするだけで畦を立てない、集約的な方法で前年の休閑地か蔬菜地等に行ふ、翻地は畦と溝とを耕鋤しながら作整する方法である。耕鋤期は四・五月頃に普通播種前一回又は二回之を行ふものである。

○肥料

肥料は主として土糞を用ひる。即ち牛・馬・豚・狗・鷄糞又は人糞と肥土とを混じたものである。其他穀類の絞り粕・炒り粕・豚の血・池・沼・溝の底土等を用ひる。

○播種

播種法は條播を普通とし、點播之に次ぎ、撒播は特殊法である。條播法は點葫蘆を用ひ、粟・稗・高粱・粳子等の小粒種を器に容れて播く法と、手を使つて大豆を播付くる方法と、摔種といつて、前方に投下しながら後退して播く方法とがある。播種後は輥子を役畜に曳かせて必ず圃上を鎭壓する。畦幅は一尺六・七寸から一尺八・九寸内外を普通とし丈高いものと低いものとを交作する。

○農具

農具は多く自家製を以てする。用材には楡・柳・楊・槐・樺等を使ひ、鐵

ると思はれるが、之が完全に行渡つて居ないのは遺憾である。特に冬季間の衛生法が完全に行はるれば、病氣で倒れる在留人の數は年々減少して行くであらうと思はれるばかりでなく、却つて內地よりも長壽を保たれると思はれる幾多の條件が、此の地方の生活と好都合に結び付いて居る。

○患者

滿洲在留內地人の罹病者の數が多く、隨つて醫療を受くる度數が多いといふ事が問題となるけれども、その出生と死亡との比率が遙かに內地生活者に比較して好條件に惠まれて居る事實は、此の地方の在留者が、元氣盛りの青壯年者によつて多數を占められて居るといふことのほかに、罹病者はあつても治療の行きとゞくといふ點や、又その病傷者の手當に就いて、完全な機關が發達してゐる點等が確證される。

○進歩した醫術

事實滿洲の衛生療養機關は殆んど缺點なく整備されて居る。殊に日本人市街に於てそれが最もよく完備されて居るばかりでなく、病傷者の互助機關が成立して居るから、微傷、輕症に當つても、直ちに醫療所に走せつけられるといふ便宜がある。これ等も在留者にとつて好條件の一つであらう。

滿洲には、東洋第一と稱せられる設備の整つた大連醫院を始め、滿鐵沿線の各地や、日本人の在留する主要地には夫々醫院が設立されて居る。而して疾病又は流行性諸病の防止に要する設備も完成し、特に比較的衛生思想の鈍感な隣接支那人街區にまでも進んで此等の設備の發動を見ることになつて居る。奉天には滿洲醫科大學が設立されてあり、その附屬醫院は南滿洲中部唯一の完備したものである。此の大學には日本學生の外に支那人子弟の醫術家も養成して居る。

○無階級に近い

滿洲の生活程度は、殆んど平均して居て、日本内地のような段階は尠い。隨つて極端な貧困者は殆んどないから、子弟の教育に就ても、内地に見るやうな有能の材が、學校の門を入る事を許されないといふような不都合な點は少なく、大多數は中學校を經て夫々に希望の專門教育又は大學教育を受ける事が出來る。加之内地の中等學校の所謂試驗地獄といふような子弟の入學難は殆んどなく、競爭なども極めて緩漫なものである。併しながら滿洲には、工科・醫科以外の大學がないので、他の學科に就て修學の目的を有つ者は、日

○旅順工科大學

○南滿醫科大學

本其他外國に出ねばならないが、これ等中等學校出身者の、滿洲外諸大學への入學率は極めて高く、滿洲日本人の生活の餘裕から來る好學熱を物語つて居る。

なほ男女共に中等程度迄は、夫々父母の膝下から通學されるやうに、各地に中等の學校が開かれてあるが、高等程度の修學には、大連・旅順・奉天等に遊學せねばならない。滿洲の專門學校は奉天の滿洲教育專門學校、大連の南滿洲工業專門學校の二校である。



開原の大豆



豆粕

Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY



新開嶺



貔子窩鹽田

Digitized by Google

Original from
KEIO UNIVERSITY

第四　産業界の現狀

満洲の產業界――農業と農產物――畜產及其製品――鑛產物と發掘狀況――林業及其の製品――水產と水產製品――工業界

満洲の產業界

満洲の產業界は農業を本位として居るが、生產物は農產の他に畜產・鑛產・林產・水產物等が豐富である。隨つて之等を原料とする工業が勃興し、殊に近年に至つて、各地に近代的化學工業の創始されるもの多く、其の種類の如きも雜多に亘つて居る。今農業以下各業の現狀を記述して見よう。

農業と農產物

満洲平原は土地肥沃であつて、土壤は、壤土・植土・植質壤土等肥沃な地

○昭和四年收穫

	千石
大豆	三七、二四三
高粱	三六、五六三
粟	二八、七三六
玉蜀黍	三、二九二
小麥	九、八二七
水稻	一、四二四
陸稻	一、七八七
雜豆	二、六二三
其他計	一四七、〇九四

○特用作物

大麻　綮麻　烟草　胡麻　蓖麻　荏　西瓜　甜菜　忍布　亞麻　棉花

○東北四省耕地

	千町
總面積	一二五、八二三
可耕地	二六、七三八
既耕地	一三、二二〇
未耕地	一三、五一八

質に富み農業に快適して居て、大豆・粟・高粱・玉蜀黍・小麥・大麥・稗・水・陸稻其他の雜穀の年產量は一億四・五千萬石に及び、三千萬住民の自家用とした餘剩量七千餘萬石を移輸出して居る。

然るに滿洲に於ける農民は殆んど滿洲人・支那人であつて、其間若干の朝鮮人が介在して主として水田作に從事して居るが、內地人の純然たる農業者の數は極めて小數である。而して、內地人が滿洲に於て農業家として成功の見込あるか否かに就いては、種々の議論が立てられて居るが、少くとも在來の形態の農法によつた過去の成績に徵すれば略々失敗と看做して差支ないであらう。其の一・二の卑近な例を言へば、滿鐵會社は去る大正三年から六年迄の間に、滿洲に駐屯した獨立守備隊の除隊者の希望者中から、農業家として將來よく困苦に耐え、發展の見込みありと認められる者を、所屬長と聯絡して考査の上卅四名を選出し附屬地內に耕地を貸與し、家屋、農用具、役畜の購入等に就ても多大の便宜を與へ、將來自作農として獨立させようとして見たが、其半數は成績を擧げ得ず、創始後三・四年內に孰れも業を放棄して農地を

○果樹
苹果
梨
葡萄
○大豆
耕地 三八、七三三、一九〇反
收穫 三七、九八一、五一〇石
（約五、四四一、四七七米屯）
○高粱（紅糧）
耕地 二九、七〇七、〇〇〇反
收穫 三六、四六八、二八〇石
（約五、一四三、六三三米屯）
○粟（穀子）
耕地 三三、七二九、三七〇反
收穫 二八、九四四、八二〇石
○玉蜀黍
耕地 九、一三五、一二〇反
收穫 三、一〇九、九八〇石
○小麥
作付面積 三、九五八、八四〇反
收穫 一〇、六八三、六五〇石

去つた。而して殘留者の現狀も亦決して當初の期待に副はないばかりでなく、多くはその前途を悲觀して居る。此の外に、關東廳に於ても、州內金州管內愛川村の地を卜し純然たる日本農村を創始し、移住農家廿四戶につき農地、建物、畜類、器具等の取得・購入に多大の助勢をなし、水田作を行はしめ、土着發達を期待されたにも拘らず、移住者の多くは前途を悲觀し現地を離れ去つて現在僅かに七戶を殘して居るに過ぎない。

斯くして、十三・四年前から試みられて來つた關東廳及滿鐵會社の保護助勢の日本農業者植民事業は、過去に於ては不成績を示して居る。

然るに是等の失敗は、多くは除去し得られる原因にありとして、其後に於ても、前記愛川村にては、過去の失敗の經驗に鑑み、作物の種類、耕作面積、副業等に就き、更に研究考慮を拂ひ、灌漑用水を豐富にして、依然として保護助勢を續けつゝあるが、是等の成績如何は將來に待たねばならない。又滿鐵會社に於ても新たに農事會社を起し、自作農・小作農各三百戶の關東州への移住農家を募集し、多くの保護助勢條件を附して、土着日本人農家の移植

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○總面積　千町

遼寧省	三、五七七
吉林省	二、一七三
黒龍江省	五五、三四〇
熱河省	一五、八三三

○耕地面積　千町

遼寧省	五、一〇七
吉林省	三、四九三
黒龍江省	二、九五五
熱河省	一、九九三

○可耕未墾地　千町

遼寧省	二、六二九
吉林省	二、七六九
黒龍江省	五、三九四
熱河省	一、七三四

○支那人の經營法

○自作農

を續行する計畫を樹立したが、すでに過去の失敗を討究した今後の斯ふした試みの結果は相當に期待されて居る。而して、過去に於ける失敗の原因には、農業者たる素質不充分なる者が漠然と農業を志し、加之、業務に不熱心であつた事、副業の選定を誤つた事、作物と氣候との關係に就いての知識の不充分、土地所有權獲得慾の充たされなかつた事、水の不足、其他支那人との生活程度の差違、此の地方特有の農法の無理解等が擧げられて居る。

日本人農業者は、過去に於て滿洲の農業家としての發展は、極めて不成績に終つて居るけれども、數千年來此の地方に於て農業を經營して來た支那人等は、前述の通りに、農を以て凡ての産業の基礎となし、健實に發達の道程を辿つて今日に及んで居る。以下支那人農業の各項に渉つて記述を試み、斯業に志す人々の參考に供する。

支那人の農業經營法には、自作農・小作農・分益農・協同農・請負農等の種別がある。

自作農は本地、本種或は自己兒地、自己兒種等と稱し、大農は七・八十町歩

○總戶數　五、五七五、八八一戶
（日本の四割七分三厘）

○小作農

○分益農

○日本內地
自作三・一　小作二・七
自作小作四・二
耕地六、〇八五、六〇三町七
田地三、一四七、六四一町一
畑地二、九三七、九六一町六

五段未滿　三・五割
五段―一町　三・四
一町―二町　二・二
二町―三町　・六
三町―五町　・二
五町以上　・一

○協同農

○請負農

以上、中農は四・五十町歩、小農は二十町歩內外、過小農は五・六町歩を耕作して居る。而して北部地方では七・八十町歩から百町歩を耕作する者が少くないが、關東州內では二・三十町歩を超ゆる者は稀である。

小作農は租地、租借等と云ひ、小作人を租戶、地主を地東と稱する。小作人は小自作農者が多い。その種類は永租（永小作）租又は佃（普通小作）の二種に分れる。小作料は一半或は三分の一で金納は少く穀納が多い。

分益農は、分晴、辨晴、分種、種分收等と云ひ、辨裡晴（辨內晴）と稱して家屋・農具・種子・肥料・日用品・衣服・食料等一切を地主から貸與され、收穫後消費々用を含めて、地主六・七分、小作人三・四分の分配率によつて決濟する方法と、他に辨外晴と稱して、地主が家屋だけを貸し、地主四・五分、小作人五・六分の割合に分配されるものとがある。

協同農は、揷具と稱し、小農・過小農等の間に行はれる方法であつて、各自に役畜、農具等を持ち寄り、順次耕作を行ふ方法である。

請負農は牛具と稱し、畜類又は勞力を以て賃金を取つて耕作、中耕等を請

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

負ふ方法である。

○耕作法

耕作法は我國の方式よりは歐米風に近い、凡て牛、馬、騾等を使用し、犂丈、輥子、耙耮等を以て整地し、肥料は土糞を用ひ、穀物は穗を刈り取り家畜を使用して脫穀し、麻袋に詰めて市場へ送る。

○農法

農法は大體、輪作・連作・掠奪・休閑の四種に分れて居る。

○輪作農法

輪作農法は滿洲一般及蒙古の熟地に行はれる、凡て玉蜀黍・粟・高粱・大豆・小麥其他の穀物の一又は二・三種位を主作物とし、三・四年、四・五年又は五・六年の輪作を行ふものである。

○連作農法

又土地狹く輪作をなす餘地のない場合、或は低窪の濕潤な地方、鹽分の多くて特種の作物以外に不適の地方等に於ては連作法が行はれる。

○掠奪農法

掠奪農法は、最も原始的なもので、主として蒙古地方に行はれ、肥沃地を求めて連作し、地力消耗を見越して他の土地へと移るのである。

○休閑農法

休閑農法は、熱河省や滿洲南部に多く行はれる、規則正しいのと不規則のとがある。普通全體の三分の一を殘すか、三分の一を耕作するものである。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○耕耘

耕耘は凡て牛、馬、騾等に犂を曳かせて行ふもので、耕地、豁地、翻地等と稱し、耕地、割地は全面を平坦にするだけで畦を立てない、集約的な方法で前年の休閑地か蔬菜地等に行ふ、翻地は畦と溝とを耕鋤しながら作整する方法である。耕鋤期は四・五月頃に普通播種前一回又は二回之を行ふものである。

○肥料

肥料は主として土糞を用ひる。即ち牛・馬・豚・狗・鷄糞又は人糞と肥土とを混じたものである。其他穀類の絞り粕・炒り粕・豚の血・池・沼・溝の底土等を用ひる。

○播種

播種法は條播を普通とし、點播之に次ぎ、撒播は特殊法である。條播法は點葫蘆を用ひ、粟・稗・高粱・粳子等の小粒種を器に容れて播く法と、手を使つて大豆を播付くる方法と、捧種といつて、前方に投下しながら後退して播く方法とがある。播種後は輥子を役畜に曳かせて必ず圃上を鎭壓する。畦幅は一尺六・七寸から一尺八・九寸内外を普通とし丈高いものと低いものとを交作する。

○農具

農具は多く自家製を以てする。用材には楡・柳・楊・槐・樺等を使ひ、鐵

○耕作具

○遼寧省荒地等級標準

上等―平地ニシテ黒土層ノ深サ二尺以上ヲ有シ甚シキ砂石及曹達質ヲ含有シナイモノ

中等―平地或ハ丘陵地ニシテ黒土層ノ深サ一尺以上ヲ有シ生草繁茂セルモノ

下等―土地磽瘠ト雖牧畜或ハ造林ニ可能ナルモノ

（民國十八年五月十五日遼寧公報第百〇一號興安區荒地拂下章程）

○作付具

材は鋼煉・鑄鐵・眞鍮等を用ひる。

種類は（一）耕鋤器――犂丈・鎬頭・鐵銑・筒銑等であつて、犂丈は耕鋤・中耕・培土等に使用する主要農具で日本の床鋤に類する。鐵銑・筒銑は日本の金鋤に、鎬頭は唐鋤に類する用をなす。（二）耙碎用器――根株掘取り用の鎬頭や、小把鎬・鐵齒耙子・菜園用の鐵耙子・開墾用の耙子・地均し用の耙子芟飽等である。而して小耙鎬は掘採・畜糞拾集用に、鐵齒耙子は熊手に類する。（三）鎭壓用器――滿洲は土地乾燥するために播種後の鎭壓用として、木頭輥子及磙子等を用ひる。

次に作付農具には、主として鎬頭を用ふる。肥料の取扱には二齒鎬を用ひ又馬糞拾集用の糞耙、作溝用の壤耙、覆土用の拉子及び收子等がある。播種及施肥器として用ふる點葫蘆は、小粒の種子播き用に、把斗子は柳製籠の種子入れで、木掀は肥料撒布、糞筐は肥料掬出用の柳製笊である。除草具には萬能に類する鋤頭を用ひ、除草器、中耕培土には鐋犂又は鎬頭を用ひる。灌水器としては、水車子（水車）轆轤（釣瓶）噴水壺（如露）等がある。

○刈取器

刈取器の鎌刀（鎌）は草鎌・柴鎌の二種に分つ、芟刀（大鎌）掐刀は高粱の穗刈用、其他に韮菜刀や掘採器の鐵叉子（股鋤）等がある。

○脫穀器

脫穀器は、石製の磙子を用ひるが、少量の場合には連枷を用ひる。脫穀後の稈の乾燥には、木製二叉の木杈といふのを使ふ。箒は掃箒といひ、他に木製鐵耙子・賞扒・楊楸・肩車子・篩子・蘿子・簸箕・磙子・臼等の器具がある。

○除草

除草は丁寧に、殊に高粱畑には入念に行ひ、鋤頭といふ「ホー」に似たものを使用し、回數は高粱は往々四回に及ぶが、麥は一・二回、大豆は二回、一般には三回の場合も多い。中耕の回數も除草回數と等しいが、第一・二回の除草には大抵鋤頭を用ひて居る。

○收穫

高粱、玉蜀黍等は鎌を用いて、根元二・三寸乃至五・六寸の所から刈り取り二・三十本を一束として、その作物の稈で縛り、梱を拵へる。この梱の二十ばかりを、穗を上にして互に立てかけ、十數日を乾燥に費し、穗や苞やを脫穀場へ運入れるが、粟・黍・高粱・陸稻の順に取入れ次に大豆を收穫する。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○乾製

而して粟・大豆・陸稻等は刈取るか根から拔いて七・八寸から一尺位の束とし、十束內外を纏めて乾燥させる。

　高粱・大豆・粟等の作物は脫穀場に擴ろげ、その上を驢馬等に石製の碌子を曳かせて脫穀させる。麥類・粟・陸稻等は石にて叩くか連枷といふのを用ひて脫穀させる。脫穀後は風選調製を濟せて、市場に出すか、屋內か戶外に貯藏するかであるが、倉子或は土壁子と稱する倉を持つて居る。調製には小粒の物には唐箕を用ひる。

○搬出

　搬出は荷馬車又は橇(扒犂)等で行ふ。荷馬車は、大車、平車、小車、四輪車、駱駝車、露式荷馬車等約十種類もあるが、普通遠路の搬出用としては、大車を使用する。役畜は馬、騾等であつて、二・三・四・五・六・七頭車により、夫々積載量及走行哩程は異つて居るが大體、冬季三頭車の平地搬行に一千五百斤、七頭車はその倍量、山道を行くのに三頭車が一千二百斤內外である。速度は冬期三頭車一千五百斤の積載とし一日十時間を走行して五粁弱が普通である。橇は一頭曳にて約我一石七斗の割合の穀物を運搬する。又牛用荷車、手

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

大豆
○種類
○世界大豆產量

	千石
北米	三、七八〇
瓜哇	八一〇
支那	一五、〇〇〇
朝鮮	四、七四七
日本	二、九七七
滿洲	三八、〇〇〇
計	六五、三一四

推用の推車等の他に筐・籠・撓簾子「モッコ」・扁擔・天秤棒等を用ふる。

滿洲と言へば大豆を聯想される程に大豆は主として遼河・松花江の流域に產し、滿洲物產の主位を占めて居るが此の他に滿洲の農產物は、高粱・粟・玉蜀黍・小麥・大麥・陸稻・水稻その他である。

大豆の種類は二百餘種に分類されるが、大別して黄豆、青豆、黑豆と稱んで居る。普通大豆と云ふのは黄豆であつて、元豆とも云はれ、油分の含有量が多く食用、諸油用共に佳良である。滿洲に產する黄豆には、白花唑子・奉天白眉・大白眉・黑穀黄豆子・四粒黄・鐵莢豆子・小黑臍・小金黄・四粒黄等がある。又青豆の種類には、大粒青・小粒青・紅毛青・鐵莢青・大綠・青天青皮等があり、孰れも綠色を帶びて居るが含油量は黄豆には及ばない。黑豆は黑皮青天・大粒黑等の種類があつて、副食物・飼料・肥料等に用ひられる。

滿洲の大豆は年產三千七・八百萬石に及び世界全產額の六割弱を占めて居るが、內農家の消費量は五・六百萬石に過ぎず、大豆とし輸出される量は三千萬石內外で主な仕向地は日本、支那本土、歐洲諸國及瓜哇等であつて、一

○改良大豆
（一ヘクタール當り）
如意珠　一噸八五七
黃寳珠　一噸八一七
○在來種　一噸六七九

○高粱

千六百萬石內外は油となつて、工業原料として歐米へ輸出されて居る。滿洲の農家では元來大豆を食用、家畜の飼料、燈火用等に用ふる他に、用途を知らなかつたが、日本商人がこれを歐洲に紹介して以來急に聲價を高めて、現在に於ては滿洲の大豆は、世界的に著名な商品となつた。在來種大豆は普通一反に就き一石二・三斗の收穫がある。

高粱は紅粮とも稱ばれ、蜀黍の俗語である。滿洲に於ては農民の主要食料品であつて、滿洲農民は豚と高粱によつて生きて居る狀態である。種類は粳と糯とに分けられるが、粳には赤と白とがあり、坐護脖子・棒子・黑穀紅棒子・雙心紅・黑穀大蛇眼・紅穀蛇眼眼・老母猪不擡頭等がある。又糯には、喜雀白・黑穀白粘・馬尾連・膳半舛等がある。用途は食料の他、滿洲の地酒で愛用者の多い高粱酒といふ燒酒を釀造し、豆素麵の材料に綠豆と混用されるが、稈は建築材料、燃料、アンペラ原料等に使用される。年額三千六七百萬石を產し、移輸出量は七百餘萬擔である。高粱の收穫高は反當り一石四五斗の割合である。

○粟

粟を支那人は穀子(又は谷子)といひ、精白したのを小米といふ。高粱よりは少し上等の支那人の常食料である。種類は、粳に毛大粒・紅刀把齊・稞根・小大粒黃・白砂・高粱穀子・老來變・鴨子嘴・龍脚・猫脚・壓破軍・繩緊・小把齊等があり、糯に淺彩色粘・黃粘穀・高粱粘穀子・紅粘穀・黑粘穀等がある。粟は食料の他に、黃酒といふ高粱酒よりは上等の酒の原料になり、其稈は畜類の飼料に供される。粟の年產額は二千六・七百萬石であつて、六百餘萬擔は主として朝鮮其他へ移輸出されて居る。朝鮮人はこの粟を食べて高價な米を日本內地へ移出して居る。反當り一石六・七斗の收穫がある。

○玉蜀黍

玉蜀黍は包米と呼ばれ、種類は黃包米・老來皺・紅包米等で、特に南滿洲の南部に多く產し、高粱・粟に亞いで支那農民の常食に當てられる他釀造用その他にも使用される。又莖は燃料に葉は飼料に供される、年產額一千萬石內外で、約六十萬石は移輸出されて居る。反當り二石內外の收穫がある。

○小麥

小麥は多く北滿洲に產して、南滿の大豆と竝んで、特產物中の重用な位置を占めて居る。其ために哈爾濱を中心として製粉工場が多く、南滿の油房と

○小麥
改良種アリ
○大麥
○陸稻
○水稻
改良種アリ
◇日本內地
三百萬町步
五千八百萬石
○地下水

對立して居る。滿洲の小麥の年產額は約六百萬石內外であつて其の約半數は製粉に供される。
大麥は滿洲隨所に栽培されるが用途は麴の製造を主とし、食料、釀造にも用ひられる、品質は良好でないのが多い。
陸稻を支那人は粳子又は旱稻といふ。風土には適して居て早熟するが品質は良くない。年產額百六十萬石內外である。水稻の歷史は新しく、四・五十年來に屬するが、今では氣候・地形・水質等が水田に適するといふ實證が各地に擧げられて居る。現在の水田地は、長春・奉天・撫順・安東・開原・松樹・海城・營口・北滿海林附近・間島地方等に多く面積六萬五千餘町步に及び籾二百餘萬石を收穫して居る。而して遼河・松花江・牡丹江・穆稜河・嫩江・鴨綠江・太子河・渾河の各流域の多くは水田に適して居る。
序に、滿洲の水田には地下水が利用されるが、河水、冲積層、洪積層、地表の風化雷爛床・岩層及び岩層中の裂罅又は層面等から求められる。大連・旅順等の上水は河水であるが、奉天・撫順は渾河々畔、遼陽・首山は太子河

々畔の砂礫層中から、長春・公主嶺・四平街に於ては地下冲積層中の砂礫層から、又は洪積層中から、沙河口工場では地表の風化雷爛した岩層中から、金州大和尚山麓・本溪湖附近、周水子等にては岩層中の裂罅よりの湧水又は井戸を、夫々利用して居る。

○小豆

小豆は白小豆・紅花粱子・紅小豆・黍小豆等の種別があつて、反當り一石一斗内外の收穫がある。滿洲名物豆素麵(粉條子)の原料となる綠豆は小豆の一種であつて、朋綠豆・烏綠豆・黃綠豆等の數種があり、反當り八斗内外の收穫である。

○黍

黍は糜子と稱ばれ、糯は滿洲に、粳は蒙古に生產されるが、糯は大白黍・黑糜子・黃兒歌・大金黃・白粒等の種別があつて、反當り一石六・七斗の收穫がある。

○特用作物

此他に特用作物として、線麻・靑麻・大麻子・蘇子・烟草・棉花・甜菜・果實等が栽培される、又果實は日本人經營の農園から產出される量が多い。

○果樹
面積二千三百町歩
收穫　七〇萬貫

南滿洲の南部遼東半島一帶は果樹に快適であつて、氣象・土質等は日本・朝鮮よりも快適であると云はれる。現在熊岳城以南には、果樹園が多く、相

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○果樹輸入額三百萬圓

當の成績を擧げて居る。大正十三年の滿洲の果樹園面積は約二千三百餘町步であつて、收獲高は七十萬貫に近い。特に苹果はこれ等果實中の首位にあり面積も一千四百餘町步を占めて居る。試驗濟になつた有望な苹果の種類は國光・初日出・翠玉・祥玉・祝・旭等と稱ばれて居るものである。

○蠶業

農家に於ては、此の他、家蠶・柞蠶・家禽・養蜂等を試みて居る。

○金融

次に農家の金融には、普通銀行の他に、日本側會社の東洋拓殖・奉天勸業公司等を利用するが、各村落には支那古來の金融組合があり、當鋪(質屋)を利用する者も多い。農業倉庫による金融は未だ記す程でない。

○官銀號

而して奉天黑龍江省等の官銀號(省立銀行)は、近年紙幣を濫發して旺んに批賣と稱ばれる作物の青田買占や、開原・長春等の集散地に於ける現物買占を强行し、農村に惡影響を及ぼして居るばかりでなく每年特產物商仲間に波瀾を惹起させて居る。

○日本人

以上大體支那人の農業を記述したが、滿洲に於ける日本人の農業家は其數に於ては勿論、どの點から見ても未だ到底支那人と匹敵し得るものではなく、

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○支那官商の穀物買占法
一、奉天票濫發
一、直接又は商人へ特命
一、指定商は年々變更

○補助

從業者の如きも一千五・六百名內外であつて主として南方に於ては果樹園を營み、北方に於ては普通作を經營して居る、而して水田經營者は四十名內外である。農業者は獨り滿洲に於てばかりでなく、世界いづくの地方へ出かけても、所謂赤手空拳、短日月に好く一攫千金を獲得する事は不可能であるが、特に滿洲に於ては、農業に志す人々が、都會地の勤勞階級を標準とする程度の文化的生活を曉望して居るようでは、業半ばにして坐折することは明白である。滿洲に於ける支那人農家と雖裕福な部類に數えられる家々は、多年農業特有の困難に遭遇し、三代五代百年二百年と幾多の犧牲を出し歲月を費した結果である。只だ漫然と結末だけを眺めて、その過程を究めず、表皮だけを見て內實に通ぜすして乘込んで行くとすれば、徒らに過去の失敗者の轍を覆すのみに終るであらう。

滿洲に於ては關東廳、滿鐵會社を始め、其他の凡ゆる商・工・農事關係の機關に於て、此等の過去に於ける失敗・不成功の原因が討究され、その結果新しく萬全の方策が講ぜられつゝあるから、此の方面に志を有つ人々は、在

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○將來

滿洲の夫々の機關に謀つて、創業に就ての目論見や將來の計畫やを前以つて研究し、確信を得た上で着手すべきである。

併して日本人の農事に關する傳統的な研究心・努力・克己力等はよく滿洲農業の進歩・發達を促し、此の地方に於て、土地の主權者たる支那人の農業に優る有利な農法が創始され、歐米各國の進歩した農業國にも劣らない、特有の農業地帶を實現させる日滿共榮の實を示すに至るであらうと期待される。

○畜產施設
滿鐵農事試驗所畜產科
關東廳種畜場各地競馬場

畜產業及び畜產物

蒙古では、牧畜を以て本業として居るが、滿洲は農本地域であるために畜產は副業の部に屬する、加之耕地が可成り行亙つて居る故に、放牧地に殆んど大規模の場所はなく、隨つて、專業の牧場は、極めて僅少である。然れども、農耕作業には悉く畜類を使用するので、農家では牛馬六・七頭は必ず戶毎に飼養して居る。それに豚の十二・三頭、家禽六・七羽はお極りのやうに飼はれて居る。

畜產數	
牛	二、〇〇〇千頭
馬	二、五二〇千頭
騾	六二〇千頭
驢	六〇〇千頭
羊	二、五六〇千頭

馬總數	二、五二〇千頭
奉天省	七〇〇千頭
吉林省	五〇〇千頭
黑龍江省	五一〇千頭
東蒙古	八一〇千頭

馬は、殆んど蒙古系であつて、大體に於て、體軀矮小ではあるが各部の均勢は良好と言つてよい。

然して一般に性質溫順で、粗食し粗放的な管理をされて居るけれども強健で持久力は至つて強い、一代の快傑成吉思汗の率ゐて、亞細亞大陸を平伏せしめたのや、歷代支那統一の大業を志して中原に鹿を追ふ各軍の陣頭に立つのも多くの場合蒙古馬であつて、現に東三各省の軍用其他に役使されて居るのも多く蒙古系馬である。種類は北方馬・北口外馬・山後馬の三種に別けられる。更に滿洲では、牡・牝・老・幼に依り九個の異つた稱呼を用ひる。外蒙古種は大體に於て、堅實な小型で、輕快、駿敏で乘馬型である。體高四尺八寸內外を普通とし、毛色は鹿毛、栗毛が多い。內蒙古種は、體高四尺一・三寸を出るもの少く、河原毛、月毛が多いが、南滿洲の馬總體には白毛が最も多く、約七割を占めて居る、凡て一般乘用馬としては不適當ではないが、騎兵用としては優秀なものは尠い。負擔力は廿五貫匁位で、輓曳力は、結氷期に於て七十五貫匁夏期に於て三十貫內外を平均と見られる。速度は常歩一分間八十

○馬一頭百廿圓內外

○騾總數　六二〇千頭
奉天省　二〇〇千頭
吉林省　二三〇千頭
黑龍江省　一二〇千頭
東蒙古　七〇千頭
○騾一頭六十圓―三百圓內外

○驢總數　六〇〇千頭
滿洲　五〇〇千頭
東蒙　一〇〇千頭
一頭十圓―卅五圓內外

五米、速歩二百米、駈歩約二百九十米と云はれる。馬匹の頭數は、遼寧省約七十餘萬頭、吉林省五十餘萬頭、黑龍江省五十一萬頭と見積られてゐる。滿鐵沿線の取引價格は五十圓から二百五十圓、平均百廿圓內外である。

騾(騾子)及駃騠は、馬と驢の混血兒であつて、牝馬に牡驢を配せしを騾といひ、牝驢に牡馬を配せしを駃騠といふ。駃騠は滿洲には生產されない。騾の體形は大體馬に似て居るが、耳は驢に似て長く、尻尾や蹄も驢に似て居る。體尺は馬よりも大きく、四尺五寸から、五尺以上の物もある、體量は七・八十貫位である。用途は馬と等しく、農耕用・輓曳用・駄用等に重寶がられて居るが、性質從順で粗食して馬より飼料少くて足り、馬よりも力が強い。

驢は、大驢と小驢の二種に別られ、大驢は體高四尺五・六寸から五尺に及び、體重又六十貫乃至八十貫で、蹄質堅固で力が強い、滿洲には牝の大驢は居ないと言はれる。小驢は體高二尺二・三寸から、三尺五・六寸に達し、體重卅五貫乃至五十貫で、冬期寒氣の害を受けず、粗食して持久力が強い。滿洲の農家では、驢を農耕・脫穀用等に使役し、又交通、運搬の用に供し・家

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○牛
蒙古牛は食用に不適

○牛　三、〇〇〇千頭
遼寧省　五八〇千頭
吉林省　九〇千頭
黑龍省　二一〇千頭
東蒙古　一、一二〇千頭

○羊總數　一二、五六〇千頭
奉天省四〇〇〇千頭
吉林省一〇〇〇千頭
黑龍江省六〇〇千頭
東蒙古　二、〇〇〇千頭

内工業の動力に又は乘用として重用し、駄載用及輓曳用として最も多くの用を辨ずる。騾と驢は滿洲に百〇五萬頭、蒙古に十七萬頭を數へられる。

牛は、蒙古系・滿洲系・朝鮮種等があるが、蒙古牛の數が著しく多い。蒙古牛は體軀が一般に矮小で體格が惡い、體尺平均四尺二・三寸で體重は普通八十貫である。主として農役に用ひられ肉量は尠く乳用とするのも稀であるが役牛としては、牽引力が強く、馬や騾に比して約三割の強さである、速力は其の半に過ぎない、食肉としては脂肪が表面のみで、極めて不良であるために改良を要する。食肉として常用されるのは改良種が多い。蒙古に於ては役力と乳牛用に飼養し肉は副產物として利用して居る。牛は遼寧省に五十八萬頭、吉林省に九萬四千頭、黑龍江省に二十一萬頭を養はれて居る。價格は三十五圓以上百圓以內平均六十圓內外である。

羊(緬羊・山羊)は、緬羊と山羊の二種に分れる。蒙古では專業として盛んに飼養されるが、南滿洲では、農家の副業としては、多く緬羊を飼ひ、山羊を本位として居る。緬羊の體高は二尺前後で、體長三尺二・三寸、體重牝は

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

緬羊一頭八圓內外
山羊六圓內外

○豚總數六二九萬
遼寧省　三、五五〇千頭
吉林省　二五〇千頭
黑龍江省　四九〇千頭
熱河省　一、〇〇〇千頭
豚一頭三十圓內外

八貫、牡は十貫內外で、山羊は、緬羊より稍々小さい、併し南滿地方の緬羊は總體に大きく、鐵嶺附近から北方のものは、牝は七・八貫、牡は十五・六貫匁に及ぶ、蒙古人には家畜が主要な生活資源となつて居るので食用及被服材料を給する羊は無二の財源である。彼等は主として緬羊を飼育して居るが、從來專ら原料として米國へ送られた原毛のうち、幾分かは我國へも輸入されるようになつた。產毛量は春期二百匁、秋期百五十匁を普通とする。遼寧省には四十萬頭、吉林省には十萬頭、黑龍江省には六萬頭の羊を養はれて居る。駱駝は蒙古にのみ產し體高五尺五寸餘、力役騎乘用に供せられ重要な交通用途に當てられるが頭數約四千である。

豚(猪)は回々敎徒以外の、支那人の最も賞用する食用獸である。燒酒屋では一戸千頭內外を飼養するのもあり、通常七・八十頭乃至二・三百頭の豚を養ひ一般農家に在ても常に十頭內外を飼つて居る。仔豚は酒屋・燒酒屋・製粉所・穀物問屋等に賣却されるが長春、吉林等が主要な產地である。滿洲豚は、大形・中形・小形の三種類に分れる、大型は二歲か三歲にして屠殺され、體重卅

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○家禽

貫内外で終る。中形は二十貫内外で、小形は十貫内外で終るが、早熟で一ケ年以内に屠殺される。豚の肉、脂肪及内臓物は副食物として珍重され、毛や鬢では刷毛を製し、骨は細工用として用ひ、血液は防腐劑として用ひ、骨の一部及糞尿は肥料となる等廢物は僅少もない。遼寧省に、三百五十五萬頭、吉林省に二十五萬六千頭、黑龍江省に、四十九萬頭の豚が飼養されて居る。

畜類は上記の效用の他に、加工されて重用な商品となるのであるが、乳・肉・毛・皮・骨等は共に材料に供される。なほ乳製品・肉製品は、未だ家内工業の域を脫しないが、羊毛・豚毛・馬毛等及駱駝毛、鳥毛は原料品として諸外國へ輸出される、皮は歐洲及天津方面に輸出され、骨は原料として、又は骨粉工場を經て骨粉として、重用な輸出品の一となつて居る。

家禽は鷄を主とし、家鴨・鵝鳥は之に次ぐ。滿洲種の鷄は形は中位で、羽毛は殆んどないが往々毛冠を持つて居て性敏活である。體重は三百匁内外で、產卵數は一ケ年百個内外である。家鴨は肉卵共に美味であるが、卵は一個廿

○畜類の飼養法

○家畜市場は春秋二季。奉天・長春・哈爾濱・鄭家屯に取引市を開催す

匁内外で、一ケ年に二百個内外を産む。鵞鳥は體量一貫六百匁位で肉は臭味が失せず鷄よりは拙く、性質喧噪で音聲高いため農家では家の番をも仰付ける。遼寧省に鷄約六百十四萬、家鴨八十七萬五千餘、鵞鳥廿二萬餘を吉林省に鷄四百七萬八千餘、家鴨五十一萬六千、鵞鳥四萬二千を黒龍江省には鷄百八十一萬六千、家鴨九十三萬一千餘、鵞鳥九萬四千餘を飼養して居る。

蒙古地方では、畜類を、凡て放牧して居るが、滿洲の支那人は、多く舍屋を構へて飼養するのが例である。多數の馬匹を養ふて居る專業家は、馬房子と呼ぶ厩を持つて居て園内の一隅に土壁を圍らした露天の中に追込み夜明けを待つて放牧するのである。馬糧は高粱・粟稈・野草・大豆粕・麩等であつて、夏季は靑草を加へるが、普通農家では、豆殻や各種の藁稈の類を給する。驢と騾は、殆んど馬に等しく飼養されるが、寒氣の抵抗力が馬ほどにないので露天に夜を明かす事が出來ない。牛も耐寒力弱いため、牛舍に追込むが、飼料は、黒豆・粟稈・玉蜀黍等である。食用に供する牛は、市場に賣出す前に、特に肥滿法を施す、それは大抵五・六歳位の牛を以てするので、勞役に服し

○牛の肥滿法

て居ないもの程よいと言はれる。肥滿法には豚肉を食べない回回教徒の專門家が居て當つて居る。即ち彼等は牛の年齡・體質・健康狀態等を察して、肥育の見込ないものは漸次に殺し增殖の見込ある牛は肥滿法を施すのであるが、一牛に約四坪位の地を供へ、一本の杭に繋いで安靜を保たせ、毛の手入などをして、毎日牛の好む食物、粟稈や酒粕を多量に給し時々舌の汚物を洗除して鹽を塗付けて食慾を增進させる、斯うして二・三ケ月の肥育法を施せば二・三十貫の增殖を見るのである。

○羊

羊は蒙古地方では放牧して、夜間と冬季だけ柵の中に追込んで、野獸の來襲を防ぐのであるが、滿洲の農家が副業に飼養する場合にも、多くは放牧して、夜間は粗雜な羊舍に入れる。飼料は藁稈、又は野草を乾かしたもので冬季を養ひ、穀類や鹽などをも給する。採毛は、春・秋二回に行ふもので、春期は、陽曆五月末から六月初旬、小滿の節に於て行ひ、秋期は、八月末から十月中旬に亙り處暑の節に行ふのである。併し外蒙古や北滿地方では年一回とされて居る。

○豚と支那人

豚は大數を養ふ燒酒製造所や、糧棧、粉屋等では、殘滓や糠粕を與へ、多くは自家の周圍に放ち、

○家禽は放飼

汚物を漁つて喰ふに委せる。支那人は往昔から、豚を飼育して來たが放して置いて、日本の農家で、時に鷄の亂入のために隣家の口舌を免れないと同樣、豚のために爭ひの起る例もある。家禽は專業者の他は飼料を與へない。鷄舍も極めて手輕である。（農產・畜產の改良種は三三七頁參照）

○鑛業及鑛產物

鑛業及鑛產物

○石炭と鐵

滿洲は豐富な鑛物の埋藏地帶として著名であるが、特に石炭及鐵鑛等の既に發見採掘されつゝあるものだけでも相當に多い。

○南滿洲
一　金屬六
一　非金屬一三

而して南滿洲に於て有用鑛物として擧げられて居るものは、金屬鑛物中に六種、非金屬鑛物中に十三種がある。然るに金屬鑛物中の鐵鑛、非金屬鑛物中の石炭及マグネサイト、ドロマイト、耐火粘土等は鑛量が豐富で將來に囑望されて居る。

○北滿・東シベリア

次に北滿洲及東部西比利亞に於ては金・銀・鉛・鐵及水鉛等を產し、吉林省北部、黑龍江省、沿海州、黑龍州、後貝加爾州等には石炭坑がある。

○東蒙古

○各地鑛産

○南滿洲

一 鐵	噸
昭和元	一、一一七、三三五
二	九五九、〇一〇
三	七一〇、二八六
四	九八五、六七一

一 銑鐵	噸
昭和元	一九七、三三七
二	二四三、三九〇
三	二八三、六六七
四	二九四、一五八

更に東部内蒙古地方には金・銀・鉛及石炭を產し、北支那地方には金・鐵・銅鉛・重石・滿俺・燐灰石等を出して居る。

茲に滿洲及東部內蒙古に於ける鑛產物に就いて大略を記述して見よう。

南滿洲の金屬鑛物中(一)鐵は、鞍山(滿鐵本線)・廟兒溝(安奉線南坟)・弓張嶺(遼陽)・千西溝(安奉線通遠堡)・八盤嶺(遼陽)・歪頭山(安奉線姚千戶屯)・大栗子溝(帽子山)・七道溝(通化縣)・鞍子河(朝陽鎭)・鑛洞子(磐石縣)の各處に產する。而して現在稼行中のものは鞍山(日支合辦鞍山振興鐵鑛無限公司)及廟兒溝(日支合辦本溪湖煤鐵公司)の二ケ所であつて、他は探鑛中か未稼行か又は休業中である。

鞍山鐵鑛は鞍山驛の東方及南方一里乃至三里、東・西鞍山、大孤山、櫻桃園王家堡子等に連り、品質稍良種の磁鐵鑛、赤鐵鑛を相當豐富に埋藏して居る。廟兒溝鐵坑は、安奉線南坟驛の東十五支里の地點にあるが、鑛石は鞍山と同一種であつて、鑛量も相當に豐富と見られて居る。

(二)金鑛は杜家屯(普蘭店)隨家屯(普蘭店)袁家屯(普蘭店)老鐵山(旅順)梅

○銅

	噸
昭和元	四九五
二	七九二
三	
四	七五〇

○鉛・亞鉛

	噸
昭和元	二、八三三
二	四〇二
三	三六六

家屯(卅里堡)分水(滿鐵本線)五鳳樓(興京)長崗(安東・寛甸間)香爐碗子(北山城子)報馬川(通化)夾皮溝(吉林)金廠屯(貔子窩)三八旦(北山城子)帽兒山(同所)大廟溝(通化)柴河堡(鐵嶺)夾山(興城縣綏中)等の各地に發見されて居る。

右のうち、滿鐵本線分水の金鑛が稼行計畫中にある他は調査又は試掘のまま或は稼行休止等の狀態である。而して鑛石の種類は金鑛又は砂金であつて品質良く、鑛量の多いと見られるものは、夾皮溝(金鑛)夾山(金鑛)香爐碗子(砂金)報馬川(砂金)等である。

(三)銅の產地は銅鑛嶺(安東)皮州哨子(吉林)三道溝(寛甸)盤嶺(安奉線草河溝)馬鹿溝(本溪湖)大寨子(鐵嶺)天寶山(間島局子街)等であるが、採掘中のものはなく、孰れも休業中である。鑛量は何處に於ても多量にないが、種類は黄銅鑛多く品質は悉く、良好と見られて居る。

(四)鉛・亞鉛は青城子(安奉線通遠堡)店南溝(通遠堡)祁家堡(安奉線)小奠子溝(滿鐵本線中固)老人溝(懷仁)二棚甸子(懷仁)黑魚溝・楊家杖子(北寧線連

四　一、四五〇

○硫化鐵　噸
昭和元　二、七七六
二　二、九七七
三　四、二二六
四　五、〇五七

○滿俺

○石炭　噸
昭和元　七、五〇五、〇一一
二　九、三二八、四六一
三　八、八二六、一一七
四　九、二六八、四四七

山)松樹卯(遼寧省寧遠)關門山・小河溝(鐵嶺)の各地に發見されて居る。

右の內、稼行中のものは靑城子のみで他は休業又は未稼行に屬する。鑛石は方鉛鑛が多く閃亞鉛鑛は少い、品質は殆んど良好のものばかりであるが鑛量は靑城子・店南溝・松樹卯以外は多量でない。

(五)硫化鐵は楊木溝(草河口)林家臺(安奉線)乾草店(草河口)蘇家溝(安奉線連山關)高家溝(岫巖縣)古龍山(岫巖縣)等に發見されて居て、楊木溝のみは稼行中である。鑛種は悉く黃鐵鑛であつて、品質は良好で鑛量も多い。この他本溪湖・牛心臺・烟臺の石炭中に硫化鐵が採掘されて居る。

(六)滿俺は黑松林(北寧線興城)小黃旗(鳳城縣黃土坎)に發見されて居て、黑松林のみは稼行中である。鑛石は硬滿俺鑛多く、前者は品質よく鑛量少いが、後者は品質不良で量も少い。

次に非金屬中の(一)石炭鑛は、卅三ケ鑛を數えられるが、このうち品質佳良にして、稼行中のものは、撫順・本溪湖・田師付溝(本溪湖)大疙瘩、掏鹿(西豐縣)鐵廠(通化)大窰溝(北寧線錦州)の七ケ所である。

又、五湖嘴(普蘭店)烟臺(滿鐵本線)石門寨(營盤街道)牛心臺・小市・賽馬集(以上太子河流域)沙河子(昌圖)火石嶺(吉長線營城子)馬鹿溝(同上)老頭溝(天圖沿線)紅螺峴(北寧錦州)等の各鑛は、品質稍良く稼行中のものである。

而して品質良好ならねども稼行中のものには紅窰(吉林)八道濠(黑山縣)の兩所があり、其の他未稼行又は休業中のものに、薫家溝(金州)炸子窰(瓦房店)大臺山(鐵嶺)懿路(新臺子)杉松崗(朝陽鎭)半截溝(柳河縣)仙人溝(同上)四和溝・五道溝(樺甸縣)奶子山(吉林)寛城子(長春)杉松背(會寧)三家子(鐵嶺)黑頂山(洮南)等がある。

(二) 非金屬・工業原料用鑛物としてマグネサイト・ドロマイト・石灰石・方解石・硅石・粒土・石錦・螢石・滑石・長石・天然曹達・油母頁岩等を產する。

菱苦土鑛は沙崗驛の轉山子、太平山驛の牛心山、大石橋驛の白虎山、官馬山・朱家堡子・小聖水寺・海城の廠耳峪一帶等に發見されて居る。

(三) 白雲石(苦灰石)は關東州内の甘井子・大椒樹房・海貓屯等にあり品質良く量も相當に多い。而して大石橋一帶にはマグネサイトと共に分布して居

○骸炭

	噸
昭和元	二八二、五八六
二	三一七、六〇五
三	三四三、七四一
四	三八八、三〇七

○マグネサイト

	噸
昭和元	二〇、〇〇〇
二	二一、四〇〇
三	二五、四五四
四	三一、六八一

○ドロマイト

	噸
昭和元	八三、三六六
二	七七、〇〇〇
三	八九、三三四
四	一〇三、二三五

○石灰石		噸
昭和元	二七〇、三三三	
二	四三八、〇一二	
三	四七一、七二〇	
四	六三九、五〇三	
○方解石		噸
昭和元	三三〇	
二	三三一	
三	二、七七六	
四	三、〇〇〇	
○硅石(硅岩)	(一七、三七八)	噸
昭和元	二、三四六	
二	二、八〇〇	
三	一九、〇九一	
四	二〇、〇〇〇	
○粘土		噸
昭和元	三六、四六〇	
二	四三、五三三	
三	六四、〇八二	
四	六四、六三九	
○石綿		噸
昭和元	六三	
二	六二	
三	八六	
四	一三	
○螢石		

（四）石灰石は安奉線の火蓮寨・本溪湖・文家屯（營城子）張臺子（奉天）等に產出し、品質良好に鑛量頗る多く鞍山製鐵所及本溪湖製鐵所に供給されて居る。

（五）方解石は關東州内戰家屯・茶葉溝・傅家甸子等に發見されて居るが各處とも品質は良好である。

（六）硅石は關東州内將軍石山・伏見臺・梁家溝・七里庄・老鐵山・柏風子・嶺後屯・大耗島・大孤山及大石橋の幡龍山等に產出し、品質は粗惡な物は一ケ處もない。鑛量は多量なのが多い。

（七）粘土は薫家溝・五湖嘴・烟臺等の炭田中からと寒坡嶺（遼陽）土們嶺（吉林）から出て居る、品質は悉く良好である。

（八）石綿は關東州内の和尚屯及寛甸縣下大荒溝の兩所に發見されて居る。品質は良好なれど量は少い、和尚屯は稼行中である。

（九）螢石は普蘭店の上隨家屯・蓋平の蘆家屯・崔家屯・沙崗の沙崗臺・海

	昭和元	一〇〇噸
	二	二八
○滑石	昭和元	二四、九〇六噸
	二	二三、〇〇〇
	三	三五、〇〇〇
	四	四〇、〇〇〇
○長石	昭和元	二七噸
	二	
	三	三四八
	四	三五〇
○天然曹達		
○石油頁岩		

城の老母溝に發見され上隨家屯のものは試掘計畫中である。

（一〇）滑石は大石橋の聖水寺・分水の大嶺・海城の宋家堡子・賈家堡子・窨子峪・麻耳峪・馬家堡子・楊家甸子等に發見され、馬家堡子以外は品質悉く良好であつて、鑛量も多い。

（一一）長石は關東州内の尾子溝・涼水灣附近及海城の石塔山・營城子・楊家南溝・上鷹窩等に於て時折採掘されて居る、品質は楊家南溝以外は良好であつて、量は上鷹窩を除き多量にある。

（一二）天然曹達は、鄭家屯一帶の玻璃山域甸子・ネロトホーショ域甸子・エンドントウ域甸子・大布蘇域泡子等に遍在して居て品質稍良く量も多い。

（一三）油母頁岩は撫順に產し品質稍良く鑛量は多い。製油工場は滿鐵會社に於て開業して居る。

上述の如く現に鑛業として盛んに稼行されて居るものは鐵と石炭であつて、砂金の採取は支那人間に古くから行はれて居るけれども、原始的土法による農閑時の稼行にすぎない。然るに石炭は南滿洲鑛產界の首位にあつて、

○北滿・シベリア
金
鉛
鐵
水鉛
石炭
○砂金
（昭和四年）　三四、〇〇〇両

年産額九百二、三十萬屯に及び、大部分は撫順炭坑の産出である。

次に北滿、東部シベリア及東部內蒙古の鑛業に就いてその大略を記述して見よう。

北滿洲及東部シベリアの鑛産物の種類も亦南滿洲と略々類似して居る。而して金・鉛・鐵・水鉛及石炭等は其の主要鑛種である。

（一）砂金・金鑛には漠河（黑河道漠河縣）太平溝（黑河道羅北縣）庫瑪爾河（黑河道呼瑪縣）餘慶溝（同上）三姓（吉林）梧桐河（梧桐河流域）クンヅール（黑龍鐵道）チヤリンダ（同上）ウルギンスキー（ゼーヤ河上流）セルギスキー（ゼーヤ市外）ウラジミルスキー（イリカン河上流）イリヂカン（ネルチンスキーザウオード）カラ河等には品質良好の砂金を出し、アスコリード（浦鹽）リフマン（黑龍鐵道）ウオスクレヱツセンスキー（キヤフタ東方）等には良質の金鑛があつて、（二）カダインスキー（ネルチンスキーザウオード）シルキンスキー・ヱカテリニンスキー（スレーチエンスク下流）及テチユヘ（浦鹽北東）等には方鉛鑛・閃亞鉛鑛を産し、（三）ベトウロフスキーサウオード及オリガには磁鐵鑛

を、(四)グータイ(キヤフタ東方)には水鉛鑛を産する。

○石炭

(五)次に石炭は、品質の良好なものは、密山(密山縣)であつて、ジヤライノール(東支鐵道)穆稜(同上)鶴立崗(黑龍江省)等は稍良好の物を有して居て此の他モンゴリスキー・免渡河・甘河・大青山等に品質不良の石炭を出して居る。沿海州に於ける石炭産地は・モングガイ・ニコラエフスキー・綏芬・蘇城・ポセツト・ニコリスク等がある。又黑龍州にはデヱプ・キウヂンスキー・ブクチヤン・ビラ等に産し、後貝加爾州に於てはハラノール、チヨルノフスキー、タルバガタイ・マカール等に稍良質の石炭を産して居る。

○東蒙

次に東部蒙古地方に於ては、金、銀、鉛及石炭鑛を有して居るが、(一)金鑛は新大坦溝(阜新縣)大平溝(同上)照里營子(同上)團山子(建平縣)上射立虎(同上)楊家溝子(同上)金廠溝梁(朝陽北々西)五家子(同上)來帽子溝(金廠溝梁東)碾子溝(熱河北西)老阡溝(豐寧の南東)鷄冠山(赤峯の南)五龍臺(建平縣)霍家地(建平)選山子(建平)青溝梁(朝陽の北)奶林溝(建平縣)各力各(建平)等にあり、(二)水木江溝には方鉛鑛を産して居るが、品質は共に良好又は稍良

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

に屬して居る。

(三) 石炭の良好なのは北票、松樹臺等であつて、新邱、南票、氷溝、十大分、西元寶山、四隆頭等は稍良質の石炭を產出し、五家及東元寶山は炭質が好くない。

森林及森產物

滿洲の森林地帶は、(一) 鴨綠江流域右岸渾江流域、(二) 松花江流域、(三) 豆滿江流域、(四) 牡丹江流域、(五) 拉林河流域、(六) 東支鐵道東部沿線、(七) 三姓地方、(八) 東支鐵道西部沿線、(九) 大興安嶺、(十) 小興安嶺等に分けて調査されて居るが、是等地帶の總面積は三千六百餘萬町歩に亘り、立木蓄積見込量實に百五十億萬石と概算され、滿洲全面積の約三分の一は、是等の大森林地帶を以て占領されて居る。

滿洲と言へば、無味乾燥な禿山地帶を連想されるが、それは濫伐と沙漠の襲來によつて滅び去つた主として南滿・蒙古地方の山地であつて、現存の森

○森林と林產物

○森林地帶

	千石
鴨綠江	四四五
松花江	九三七
豆滿江	一一三
牡丹江	二六四
東支東	八〇二
東支西	五〇〇
三姓	一、三九五
計	四、四五六、一〇〇石

○森林の過去現在

林は北滿地方に偏して濃く密生して居る。是等は且つて鬱蒼たる密林に蔽はれて居た北支那一帶森林區域の殘存と見られ、印度支那地方から、東支那海岸を經て直隷(河北)省から山海關を超へ、滿洲に連續した大孤線狀の森林が、シベリア迄も連つて居たものと見られて居る。

○地帶

滿洲の森林は主として寒帶の圏内に屬して居て、二・三種を除いて大略北海道の樹種と等しい。樹種は、三百四十六種を數えられて居るが、このうち有用樹種として、針葉樹八種、闊葉樹廿一種が擧げられて居る。

○分布・種類

一、針葉樹

針葉樹のうちマツ屬の朝鮮松(果松・棵松・紅松)赤松(油松)タウヒ屬の朝鮮唐檜(魚鱗松)蝦夷松(魚鱗松)カラマツ屬のダフリカカラマツ及テウセンカラマツ(黄花松)モミ類の唐白檜(臭松)等は有用種として知られて居るが更に、

一、闊葉樹

闊葉樹の有用樹種には、ナラ屬の水楢(柞樹)カシハ屬の、モンゴリカシハ(柞樹)シナノキ屬の、榀 榀 (椴樹) 槭屬の鬼目藥(寧靳子) 板屋楓(色樹)トネリコ屬の梻(水曲柳)楡屬の春楡(楡樹)オヒコウニレ(楡樹)キハタ屬の黄蘗(黄玻欏・黄蘗木)胡桃屬の滿洲胡桃(楸樹) 白楊屬の朝鮮白楊(白

楊樹）楊木（青揚樹）樺屬の白樺（樺樹）タウカンバ（樺樹）斧折樺（楚楡）エゾノダケカンバ（樺樹）イヌエンジュ屬の櫰槐（槐樹）ハシドイ屬の白丁香（跑馬子・暴馬子）ナシ屬の鹿梨（梨樹）等である。

（一）鴨綠江流域の森林は、針葉、濶葉の混淆林であるが、本流や各道江に近い流域は移民によつて、逐年伐採開墾せられ又は火入開墾の際延燒して原野や散生地となり、森林として殘る部分は多く寒帶に屬するに至つた。而して奧に入るほど針葉樹の數を增加し、分水嶺近くは未だ原生林を見る事ができる。現に有望な地帶は大江流域にては帽子山より上流の各道溝の上半部及長津江、南社水等の支流域であつて、渾河流域では通化以上、哈泥河、羅圈江、紅土崖、三岔子等の上半部に存在して居る。樹種は前記の針濶兩葉の混淆であるが、アカマツは渾江の上流域には森林として見ることは稀れである。現在一町步の材積は九十六石乃至四百廿石で、針濶混淆の步合は針葉四割、濶葉六割內外であるが、原生林では反對に針葉六割、濶葉四割內外である。針葉樹中にはマツ屬四割、タウヒ、モミ類六割內外といふ步合である。原生

○鴨綠江流域
○昭和四年
各地伐採量
鴨綠江材
一、一五七千石
吉林材
一、一五〇千石
北滿出廻量
四三九千石

Digitized by Google
Original from KEIO UNIVERSITY

林地域では一町歩の材積四百八十石乃至八百四十石で針葉樹中には樹齢二百年内外、胸高直徑三尺以上、樹高十五六間以上で樹幹直通な良材が多い。

○大江流域

次に大江右岸各支流の蓄積量は二億七千六百萬石に及ぶものと見られて居る。渾江流域に就ては調査未了であるが、一億九千八百餘萬石の蓄積と推算されて居る。而して鴨綠江右岸の森林は附近を合せて、四億七千四百萬石に上り、材木を七割とし、利用率を三割五分と見てもその總材積は一億一千六百萬石と計出される。

○松花江流域

(二)松花江流域の森林地帶は、吉林省濛江・樺甸・額穆・遼寧省安圖・撫松の二省五縣百四十三萬六千町歩に跨つて居て、總材積九億〇三百餘萬石と推定されて居る。

○豆滿江

(三)豆滿江流域は吉林省延吉・汪淸・渾春・和龍の四縣並に遼寧省安圖縣等面積八十三萬二千町歩に亘り總材積四億三千三百餘萬石と推算されて居る。

○牡丹江

(四)牡丹江流域は、敦化・額穆・寧安三縣の諸川流域を合せ六十三萬五千町歩四億二千萬石を蓄積して居る。

Digitized by Google
Original from KEIO UNIVERSITY

以上松花江、豆滿江、牡丹江三流域の材積は十七億五千七百餘萬石と推定されて居る。因に安圖、撫松兩縣下濛江縣下等には未だ原生林多く、有用材に富んで居る。

○拉林河
(五)拉林河流域の森林地帶は舒蘭、五常の兩縣並に額穆縣の、六十三萬三千餘町歩に及び、三億〇一百餘萬石を蓄藏して居る。

○東支沿線
(六)又東支鐵道東部線は濱・同濱寧安・穆稜・東寧・汪淸の諸縣二百六十五萬一千餘町歩、九億二千四百餘萬石の蓄積である。東支鐵道西部線地方は他域に較べて劣るが、現に各國人の得た伐採權の地域は、二百〇六萬七千三百町歩五億餘石に及んで居る。(七)次に三牡地方の林域は、方正・依蘭・勃利・樺川・富錦・同江・寶淸・綏遠・虎林・饒河・密山の各縣に及び五百二十九萬餘町廿六億一千八百餘萬石を包藏して居る。(八)又大興安嶺は一千四百萬町歩、蓄積量五十六億餘萬石を有し、小興安嶺は一千萬町歩卅五億萬石と推定されて居る。

○種類及用途
種類及用途——針葉樹中(一)朝鮮松(果松・棵松・紅松)は、外邊白色、心材は微紅を帶びて、加工に易く、樹脂に富み、能く水濕に耐へ、保存力及强度

朝鮮松　朝鮮樅　唐松　唐白松　赤松　楢

大で通直にして棟梁の材によい、現に支那人間に、建築・家具・造船材として使用されるが、屋内諸部・戸障子・天井板・電柱・橋梁・土工材としての販路は逐年擴がりつゝある。（二）朝鮮樅（沙松・杉松・柏松・魚鱗松）等は材白色で、質輕軟に、木理通直で、一種の光澤を帶び、加工容易であつて、強度は朝鮮松に優るが、保存力は劣つて居る。用途は建築材・家具材・棺材として用ひられ、長持・戸障子等に用ひ、軸木・マッチ箱・經木・割箸・屋根板・製紙原料等に用ひられる。（三）唐松（黄花松）は、邊材淡褐色で、心材は赤褐色である。建築材殊に土臺・橋梁・電柱・土工用・杭木・枕木其他造船材によく、特に棺材として著名である。（四）唐白檜（臭松）は、白色で質軟かく、木理通直であるが保存力は弱い、製紙材料・粗箱其他粗材には適する。（五）赤松（油松）は建築材料に好適であるが、數量が少いために價値が薄い。（六）一位（赤柏松）は外邊白く心材は紅色を呈してゐて、家具・裝飾・鉛筆材によいが、良材を得ることは難い。

濶葉樹に於ては（一）楢（柞木）は、邊材は淡黄色で心材は淡褐色を帶び、髓

榀　滿洲楓　水曲柳　白樺　春楡

線太く、光澤甚だ強く、塗上げが殊に美しく、脈管大きく、材は軟であるが重く強く、負擔力、抗壓力共に大で、彈力も可成で保存力よく、水濕に耐へる、用途は、建築・枕木・裝飾材・西洋家具・陳列棚・車材・樂器等廣く用ひられる。(二)榀(椴木)は、材は淡褐色を呈し、一種の光澤がある。箱・櫃・卓・腰掛・椅子・家具・屋根・軸木等に用ひ、又棺材に用ひられる。(三)滿洲楓(白牛)鬼目藥(寧靳子)板屋楓(色樹)共に材重く堅く淡紅色である。橇及車材・西洋家具・室內裝飾材・經木・彫刻材・靴型・漆器木地・銃床用として將來多くの販路を開拓出來る。(四)梻(水曲柳・水曲流)は邊材帶褐色、心材は淡褐色であつて、脈管大きく、肌理密でないが、堅硬であつて紋理鮮明である、家具・天秤棒・建具・車輛・枕木・杭木に使用される。(五)白樺(樺樹)は淡紅色で、光澤があつて櫻材に類似する故に、櫻やマハガニーの模擬材又は代用材として北海道・北米・濠洲等に輸出される、材質堅く緻密であるが狂ひが頗る大きくて製作に困難であるけれども肌理密で美しいので家具材に重寶がられる、樹皮は樺皮油として黑龍江省から產出する。(六)春楡

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

滿洲胡桃

楊木

(楡木)オヒヨウニレ(山楡)は質が密で、重く堅く割れ易く加工困難であるが車輛・轂材・棒材に用ひられて居る。(七)滿洲胡桃(核桃木・楸木)は輕く軟かく、質は粗であるが、割れや狂ひを生じないので、銃床用・測量器械用三脚として最適である。日本のクルミ材の代用となるものである。(八)ドロノ木及ヤマナラシ(楊木・鹿梨・楊樹)は共に白色で光澤がある、質柔であつて、靭性に富み安全マッチ用軸木として勝れて居る。又車軸用として良い。

水産業と水産物

○關東州外の漁業
漁獲量年額
○鴨綠江及遼河　六〇萬貫
松花江・牡丹江　一二〇萬貫
呼倫貝爾　一二〇萬貫

滿洲は海岸線が短かいために、沿海漁業は大量の收獲はないが、關東州・黃海岸及渤海岸等の沿海地方では相當の成績を擧げて居る。關東州の漁業は別項に蒐錄されるから茲には州外の漁業に就いて記述を試みるが、滿洲の漁業中河川漁業は最も有望視され居るとは雖も現時に於ては、漁法の不備と需給關係・運送上等に缺點多く、隨つて漁獲量も千魚の一鱗に過ぎない程度である。左に先づ河川別の漁業を擧げ更に州内漁業を概觀しよう。

鴨綠江

遼河

渾河

○北滿洲

松花江

（一）南滿洲の(A)鴨綠江は漁場が廣く、魚族も多い。漁場は、河口から安東縣の上流八里の間が有名である。種類は鯉・鯰・白魚・鰻・鰕・鰡・スッポン・スヅキ・鮒・ハゼ・アニ等で、白魚は日本産のものよりは大きく、目の下四五寸位ゐを普通とする。春夏の候が最も漁獲が多い。漁獲法は冬は氷の上に穴をあけ、其上に焚火して魚類を集めて、獲り上げる。漁具は四手網・刺網・投網等で、漁夫には朝鮮人が多い。鰕も朝鮮人が主として獲るもので、季節は三月と八月である。鰻は、初春と秋季には、泥を搔いて掬ひ取り、夏は群をなして泳ぐのを延繩で釣る。鰡は他の魚類の尠い冬期に獲られるので、鮮魚として需要が多い、十月頃から、翌年五月頃迄である。(B)遼河には、鯉・鰕・銀魚・鯰・會生魚・鰌・鮒・ハヤ・スッポン等の漁獲があり、投網又は曳網を使用して居る。(C)渾河では、鱒・鯰・鮒・鯉・ハヤ・スッポン等が獲れ、四手網・たま網・投網・釣針又はダイナマイトを用ふ。尙ほ魚族は各地の沼池にも多い。

（二）北滿の諸川からは大量の川魚が獲れて、全滿洲及ロシア・支那各地に供給されて居る。(A)松花江には、鮎・草根魚・鯉・粗鱗魚・鯽魚・遍花魚・頭

牡丹江

○結氷中の魚獲法

魚・鮭・鯰・干條魚・鰲花魚・鮮頭魚・鰱子魚・黄魚・鱸・青物魚・捻魚・馬口魚等が上流・本流及各地方に亙つて漁獲される。漁獲法は種々あるが、夏季に於て魚群の溯流を通し、冬期下流へ歸るのを待ちて流れを横斷する蓆で捕へるのや、網又は焚火、氷上に穴をあけ釣上ぐるのもある。又鮫魚と云ふ、六・七尺から一丈もある大魚は、假飼を使用し、針で引掛けて獲る。(B)牡丹江には粗鱗魚・懐子魚が多い、又鯉・鯽魚・粗鱗魚の産する流域には專門の漁業者が居る。鐵嶺河には鮭・鯉を産する。(C)嫩江及呼蘭河には、鯉・鮒・鯽魚・草杆魚・花哲魚・啞魚・鯰・スツポン・白魚・黑魚・比目魚等を産する。解氷期中は地曳網を用ひ結氷中は氷上に約二丈五尺四方の大穴を穿ち、その周圍に大小數個の穴を穿ち、錘を著けた網を大穴から投下して擴げ置き、各穴を搔き廻して魚を大穴に集めた上で曳上げるのである。」

○川魚の形態

川魚の主なるもの丶形態を擧ぐれば、鮭は、北滿地方の河川では、到る處に産して、一尾の重量十斤乃至十五斤である。鯉は一尾五斤乃至十二・三斤、草杆魚は鯉に似て居て鯉より少し大きい。鱅は鯉に似て鯽瓜子とも呼ばれ、

○日支魚名

タヒ	海鯽魚
タラ	大口魚
タチウオ	鱗刀魚
グチ	黃花魚
サワラ	鮁魚
ヒラメ	扁口魚
スヾキ	鱸子魚
エイ	滑子魚
ボラ	鮻魚
サバ	臺鮊魚
フカ	沙魚
ニベ	鰳子魚
イワシ	撒丁魚
ヒラス	黃尖子魚
アナゴ	鱓魚
ウナギ	鰻魚
イシモチ	白米子魚
コノシロ	鰶魚
カナガシラ	紅娘子魚
サヨリ	大鰟子魚
メバル	黑魚
コチ	辨子魚
イカ	烏賊
ナマコ	海參
ハマグリ	蛤蚌
カキ	海蠣子
アワビ	鮑魚
エビ	海蝦
カニ	蟹
クラゲ	海蜇
ハゼ	膀頭魚

鯉より小さく鮒位である。鰱子魚は鱅に似て頭が小さい。鰂子魚は鯽に似て居る。懷子魚又は黃魚は、扁平で頭が大きく尾は小さい、普通十數斤で、大きいのは七十斤もある。干條魚は體圓く、頭尖つて細鱗である。二・三十斤から、六・七十斤の大さで、白色又は薄黃色である。細鱗魚は形體丸く、白色であつて、十斤內外を普通とする、鱖魚は形は扁平で腹は大きく、口は廣く細鱗で斑點がある。鯰は十五・六斤から百斤以上のものを產する。

なほ關東州內の沿海漁業は、黃海岸と渤海岸とに分けられる。

(一) 黃海岸は安東縣大東溝から、莊河縣尖山子に至る約六十里の海岸であつて、此の沿岸は魚族の棲息に快適でないために漁獲高が尠く、漁業者も最多數は半農が多い。漁獲物の種類は海參・鰡・白魚・鱸・石首魚・牡蠣・太刀魚・蝦・蟹及雜魚類である。

(二) 次に渤海岸即ち關東州境、復州以北、蓋平、營口以西盤山、錦州、綏中に至る約百五十里の海岸に於ては、熊岳城沖合、鮻魚圈等の好漁場を控へぐち・ひらめ・ぼら・すづき・にべ・さはら・たひ・たちうお・えび・かれ

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

い等が豐富に漁獲される。

○鹽

鹽は大豆・石炭と竝び、滿洲三大物產の一として有名であるが、主として關東州內から產出される。而して昭和四年度の州內鹽田面積は七百萬町步を超えて居て、同年度の產出量は四億一千五百萬斤を計上されて居る。（關東州二七三頁參照）

各種製造工業

○天然資源

概說――滿洲は天然資源が豐富であつて、農產・畜產・鑛產・林產及水產物等に、孰れも多量の剩餘を示して居るにも拘らず、此等を原料とする各種製造工業は夫々の起業目論見書の收益豫想を裏切つて、結果は多く缺損無配當等の不成績を示して居る。而して現に滿洲三千萬住民の需要物資として、綿織物・綿糸・麻袋・鐵及銅・各種烟草・機械類・麥粉・皮革及同製品・紙類・石油・自動車及其他車輛・棉花・藥品及藥材・各種食料品等はいづれも洲內製品を壓倒して各々五・六百萬圓以上一千二・三百萬圓の輸入を見て居る。

○販路難

○各種工業

○油房

○哈爾濱及東支沿線工場數七〇

豆粕一日　一〇七、〇五五封度

豆油一日　一八、四六三封度

○油脂工業

斯うした工業製品の輸入超過の裏面には滿洲工業界の不振と其の製產品の販路獲得難が伏在して居るが、販路を獲得し能はない原因には資金不足、技術未熟、設備不完全と相待つて、關稅や滿洲特有の日滿關係上の各種の障害等が數え上げられて居る。なほ他方內地に在る投資者側に於ても、滿洲に於ける製品の洲內普及に當つて、內地に於ては夢想だもされない程の環境特有の障壁の巖存する點を諒解せねばならないと同時に、在滿洲工業家に於ては、製品產出に就き、徒らに自己陶醉に終らせず、先づ卑近な土着人等の眞實の要求に適合する必需品を製產し、徐ろに需要者側の向上を誘導するといふ親切氣がなくてはならないものと思はれる。

現在滿洲に於ては、支那在來の油脂・製粉・釀造等の工業は勿論、纖維・各種化學・製鐵・鐵工・電氣・瓦斯・各種食料品・烟草・毛織物・皮革・製材・諸藥品・製氷・煉瓦・セメント・陶磁器・硝子・染料・塗料等の各種工業が興されて居るが、今滿鐵會社其他の調查資料に基いて、各種工業の業態の大略を記述して見よう。

油脂工業――支那人間には古くから手工業によつて大豆を搾油して食料に

魚・鮭・鯰・干條魚・鰲花魚・鮮頭魚・鏈子魚・黃魚・鱸・青物魚・捻魚・馬口魚等が上流・本流及各地方に亙つて漁獲される。漁獲法は種々あるが、夏季に於て魚群の溯流を通し、冬期下流へ歸るのを待ちて流れを橫斷する蓆で捕へるのや、網又は焚火、氷上に穴をあけ釣上ぐるのもある。又鮫魚と云ふ、六・七尺から一丈もある大魚は、假飼を使用し、針で引掛けて獲る。

牡丹江

（B）牡丹江には粗鱗魚・懷子魚が多い、又鯉・鯽魚・粗鱗魚の產する流域には專門の漁業者が居る。鐵嶺河には鮭・鯉を產する。（C）嫩江及呼蘭河には、鯉・鮒・鯽魚・草杆魚・花哲魚・啞魚・鯰・スツポン・白魚・黑魚・比目魚等を產する。

○結氷中の魚獲法

解氷期中は地曳網を用ひ結氷中は氷上に約二丈五尺四方の大穴を穿ち、その周圍に大小數個の穴を穿ち、錘を著けた網を大穴から投下して擴げ置き、各穴を搔き廻して魚を大穴に集めた上で曳上げるのである。

○川魚の形態

川魚の主なるもの丶形態を擧ぐれば、鮭は、北滿地方の河川では、到る處に產して、一尾の重量十斤乃至十五斤である。鯉は一尾五斤乃至十二・三斤、草杆魚は鯉に似て居て鯉より少し大きい。鱅は鯉に似て鯽瓜子とも呼ばれ、

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○日支魚名	
タヒ	海鯽魚
タラ	大口魚
タチウオ	鱗刀魚
グチ	黄花魚
サワラ	鮁魚
ヒラメ	扁口魚
スヾキ	鱸子魚
エイ	滑子魚
ボラ	鮻魚
サバ	臺鮊魚
フカ	沙魚
ニベ	鰳子魚
イワシ	撒丁魚
ヒラス	黄尖子魚
アナゴ	鱓魚
ウナギ	鱣魚
イシモチ	白米子魚
コノシロ	鰶魚
カナガシラ	紅娘子魚
サヨリ	大鰟子魚
メバル	黒子魚
コチ	辨魚
イカ	烏賊
ナマコ	海參
ハマグリ	蛤蚌
カキ	海蠣子
アワビ	鮑魚
エビ	海蝦
カニ	蟹
クラゲ	海蜇
ハゼ	勝頭魚

鯉より小さく鮒位である。鰱子魚は鱅に似て頭が小さい。䱜子魚は鯽に似て居る。懐子魚又は黄魚は、扁平で頭が大きく尾は小さい、普通十數斤で、大きいのは七十斤もある。干條魚は體圓く、頭尖つて細鱗である。二・三十斤から、六・七十斤の大さで、白色又は薄黄色である。細鱗魚は形體丸く、白色であつて、十斤内外を普通とする、鱖魚は形は扁平で腹は大きく、口は廣く細鱗で斑點がある。鯰は十五・六斤から百斤以上のものを産する。

なほ關東州内の沿海漁業は、黄海岸と渤海岸とに分けられる。

(一) 黄海岸は安東縣大東溝から、莊河縣尖山子に至る約六十里の海岸であつて、此の沿岸は魚族の棲息に快適でないために漁獲高が尠く、漁業者も最多數は半農が多い。漁獲物の種類は海參・鰡・白魚・鱸・石首魚・牡蠣・太刀魚・蝦・蟹及雜魚類である。

(二) 次に渤海岸即ち關東州境、復州以北、蓋平、營口以西盤山、錦州、綏中に至る約百五十里の海岸に於ては、熊岳城沖合、鮻魚圈等の好漁場を控へ

ぐち・ひらめ・ぼら・すづき・にべ・さはら・たひ・たちうお・えび・かれ

い等が豐富に漁獲される。

○鹽

鹽は大豆・石炭と竝び、滿洲三大物產の一として有名であるが、主として關東州內から產出される。而して昭和四年度の州內鹽田面積は七百萬町步を超えて居て、同年度の產出量は四億一千五百萬斤を計上されて居る。（關東州二七三頁參照）

各種製造工業

○天然資源

概說――滿洲は天然資源が豐富であつて、農產・畜產・鑛產・林產及水產物等に、孰れも多量の剩餘を示して居るにも拘らず、此等を原料とする各種製造工業は夫々の起業目論見書の收益豫想を裏切つて、結果は多く缺損無配當等の不成績を示して居る。而して現に滿洲三千萬住民の需要物資として、綿織物・綿糸・痲袋・鐵及銅・各種烟草・機械類・麥粉・皮革及同製品・紙類・石油・自動車及其他車輛・棉花・藥品及藥材・各種食料品等はいづれも洲內製品を壓倒して各々五・六百萬圓以上一千二・三百萬圓の輸入を見て居る。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○販路難

斯うした工業製品の輸入超過の裏面には滿洲工業界の不振と其の製産品の販路獲得難が伏在して居るが、販路を獲得し能はない原因には資金不足、技術未熟、設備不完全と相待つて、關税や滿洲特有の日滿關係上の各種の障害等が數え上げられて居る。なほ他方内地に在る投資者側に於ても、滿洲に於ける製品の洲内普及に當つて、内地に於ては夢想だもされない程の環境特有の障壁の嚴存する點を諒解せねばならないと同時に、在滿洲工業家に於ては、製品産出に就き、徒らに自己陶醉に終らせず、先づ卑近な土着人等の眞實の要求に適合する必需品を製産し、徐ろに需要者側の向上を誘導するといふ親切氣がなくてはならないものと思はれる。

○各種工業

○油房

○哈爾濱及東支沿線工場數七〇

豆粕一日　一〇七、〇五五封度

豆油一日　一八、四六三封度

現在滿洲に於ては、支那在來の油脂・製粉・釀造等の工業は勿論、纖維・各種化學・製鐵・鐵工・電氣・瓦斯・各種食料品・烟草・毛織物・皮革・製材・諸藥品・製氷・煉瓦・セメント・陶磁器・硝子・染料・塗料等の各種工業が興されて居るが、今滿鐵會社其他の調査資料に基いて、各種工業の業態の大略を記述して見よう。

○油脂工業

油脂工業――支那人間には古くから手工業によつて大豆を搾油して食料に

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○大連
（四年度）
工場　五九
豆粕　一七、七七三、五五〇枚
撤粕　六六、四九七、〇〇〇斤
豆油　一〇三、五三一、五〇〇斤
○安　東
○開　原
○公主嶺
○長　春

○舊式工場

用ひ、その上、塗料や燈火用にも供して居たが、現代の油房業は、多く機械工業化した。搾油工場を油房と稱し、古い歴史を有するのであるが、豆油は支那人等の地方的消費の外に、歐米其他の外國への輸出が年額二百萬擔內外に達して居る。現時日本及歐米各國に輸出される豆粕は此の大豆搾油の副産物として現れたもので、最初は農家に於て單に家畜の飼料と、肥料とに使用されたに過ぎなかつたものである。

搾油法は搾出式、抽出式の二樣があり、孰れも大豆に壓力を加へて油分を誘出するのであるが楔式・螺線式・水壓式等に區別され、作業に機械力を用ひるものを機器油房と稱する。（一）舊式の一工場の例を示せば、碎豆器として碾子を用ひ、七人の職工と十四頭の馬匹を以て一組の作業が行はれ、一日晝夜の二班に分れ生産高は丸豆粕二百四十枚と豆油千二百斤である。製造方法は、先づ精選された原料大豆を碾子房に送つて、花崗石製の碾子と云ふ碎豆臼に容れ馬・騾・驢等の力によつて廻轉させ壓搾破碎する、次に是を鍋房に運び、蒸鍋に移して火力にて蒸熱して直ちに油草に包み、二個の鐵鎖に嵌め

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○油房
○工場數　四七二
大連　五九
營口　二二
安東　二六
ハルピン　四〇
北滿　二八
南滿　二九七
○方式(粕)
水壓式(丸・板)
螺旋式(丸)
楔式(丸)
○別に抽出式あり(大連豊年製油會社)
○豆油(南滿)
昭和
三　三五、一三〇、六三一
四　一八、四一八、五八七
○豆粕(南滿)
昭和
三　四二、七六、五三三

て、假締をなし、搾子房に送り、一度に五枚位宛を木製壓搾機に掛け、石槌を以て、楔子を打込み、壓搾し、約五時間後に油分の浸出を見て油車を取外す。出油量は含油量の半分、約五割を以て最大とする。(二)機器油房は、明治廿九年、營口に於て、英商太古洋行の經營になる太古元機器油房を以て始められ、其後日支人經營の油房に採用されるに至つた。製出原理は舊式のものと等しく、唯だエレベター・ローラー・水壓設備又は蒸汽力を應用して、大仕掛に產出するので、今其の一工場に就いて見るに、馬車にて運ばれた大豆は屋根から貯藏所に入り、破碎器に繰込まれる。破碎器は大中小の八器あり、碎豆を油草に包み、百苞を一時に壓搾するので此の電力百二十馬力を要する。一基一日の製產量丸粕五・六百枚に及ぶ。又歐洲向角豆粕の產出を主として搾油するのに板粕といふのがある。以上搾出式と圓又は板粕の製造法は、油分を充分に搾出し能はず、肥料として效能薄く、家畜飼料としても滋養少く、水分多きため腐敗醱酵し、變質し易く、貯藏に不利で、取扱ひに破損し易い等の缺點から、抽出式が發明されて、此等の缺點を補ふ撒粕の製造

四	四〇、八三五、〇八七	
○撒粕（南滿）		
昭和 三	二、〇八七、一一〇	
四	二、六五〇、六四〇	
○各式比較（大豆一〇〇斤）	（豆粕）	（豆油）
丸粕	九四・八斤	一〇・二斤
板粕	八三・	一三・
抽出	八〇・	一四・

○豆油

○豆粕

法が一部に行はれて居る。抽出式は破碎器迄は搾出式と變りないが、ベンジン蒸溜法を行ふもので即ち、破碎後碎豆を浸出油器に移し、大豆油が充分にベンジンに溶解して浸出するのを待ち、ベンジン蒸溜器により、豆油とベンジンとを分離して、ベンジンは再び浸出油器に入り、浸出油器からは豆粕を出して、豆は二ケ所の乾燥器を經てベルト回送器に入るのである。即ち豆粕は、壓搾を受けずバラ〳〵になつて出るために水分及油分が少く、使用の際破碎の手數が省けるが、生産高が少い等の不利あれども、出油量多く且つ種々の特長があつて、將來の油房は此の方式に改組されるものと見られて居る。更に食用豆粕の製法としてこのベンジン抽出法に改良を加へ溶劑にアルコールを用ひ、油分を去り變質を防ぎ不純物・臭氣を拔く方法が發明されて居る。これはアルコールの冷熱時の溶解・吸收及分離の特性を應用したものである。

豆油は、塗料ソーライトを製し、土木建築用防水劑タンタルス等の化學製品の原料にもなる。豆粕は豆餅と呼ばれ肥料・家畜飼料・食料・醬油の材料

○油房地

○雜種油

○製粉
一、九〇二年露人ハルピンに三工場

に使用される外、不燃性セルロイド・水性ペイント・グロブリン保健劑等の原料となる。

油房は南滿洲に在つては、大連・安東・開原・長春・公主嶺及營口等に大規模の工場があつて、其數は大連が最も多い。而して滿洲各地の主なる油房工場の數は四百七十二である。是等の油房の一晝夜の生產總能力は豆粕五十七萬枚、豆油八十二萬斤である。

このほか雜穀搾油・其他の油脂工業・小蔴子油・大蔴子油・落花生油・蘇子油・テンペルチン・タール・蓖麻子・棉實・麻實・荏胡麻・ステアリン・グリセリン・オレイン・石鹼脂等の生產機關があつて、年々產量の增加を示して居る。又獸油として、牛・馬・羊・驢・騾・豚油を產する。

此の他に、滿洲に豐富な牛脂及豆油を原料とする、石鹼及蠟燭の製造業は大連及鐵道沿線各地に設立されて居る。

製　粉　業——製粉業は小麥粉を大宗とし、澱粉及蛋白粉の製造に從事するものであるが、支那在來の方式に依る磨房と機械力に依る新式工場とに別

創始
現在工場一八、（内南滿五）
年産量
　一二、〇〇〇萬袋
○麥粉（南滿）
昭和
三　三、八四四、七七三
四　九、五〇五、五三九
○高粱酒年額約五億支斤約百萬圓
日本酒　三、三三六石
　三三七、八五〇圓
○支那酒（南滿）
昭和
三　一、九七六、四五八
四　二、〇五四、一三六
○纖維工業

れる。現在の製粉量は、全滿洲の需要を充してなほ餘裕を示して居るが、機械力に依る工場は露國の滿洲進出に伴ふて發生したものである。而して大工場は北滿地方に於て殆んど獨占的に經營されて居る。南滿洲に於ける在留邦人經營の機械製粉工場も、逐年優勢に赴いては來たが現在に於ては、未だ北滿地方に於ける外國人經營の製粉業に遠く及ばない。

釀造業――滿洲ウヰスキーと呼ばれる、高粱酒は、滿洲古來の土産酒であつて、日本の泡盛に類する强烈な酒で產出高多く、この釀造所の燒鍋は油房、磨房と並んで、古來滿洲の三手工業と稱せられた。燒鍋は隨所に在つて製造して居るが、黃酒、淸酒と共に產出量は、年々增加の傾向が止まない。滿洲に於ては遼陽が銘產地とされ、支那朝鮮に輸出される。日本酒の釀造は、內地品に押されて未だ盛況を見ない。醬油は大豆・小麥・鹽等、豐富な土產材料に惠まれて居るが、殊に近年來支那人間に在來の鹽を捨て、醬油を調味料とする傾向が增加し、醬油工場は前途多望と見られて居る。

纖維工業――纖維工業は、柞蠶製絲・綿絲布・製麻及製紙業等に分れて

○安東蠶糸工場
（昭和三年）
工場數　二三
機械數　五、五六六
製產高糸　四、一二五梱

○南滿州
○柞蠶糸
額
昭和三　八八五、一二四
四　一、三六二、九四一

○綿　糸
昭和三　六、九七〇、三三〇
四　九、一七六、九四六

○綿　布
昭和三　三、四七三、九五一
四　五、〇九四、三八八

○麻　袋
昭和三　一、八三一、七九三
四　二、〇一五、八二九

○製紙工場
安東—大連—營口
製麻年　五千萬斤

○紙
昭和三　一、八一九、三三一
四　一、七〇六、六四四

○化學工業
○石鹼工場
大連三、大石橋一、
營口一
○マッチ一六社

居る。（一）絹紬は柞蠶絲を原料とするが、歐洲大戰當時に刺戟を受け、急速に發達を見たもので、繭を各原產地に求め、機械工場に於て精撰し、織工場で製織する、安東は主な機業地である。（二）綿絲布業は、最近に於て發達したもので、原料を上海及印度に仰いで居るが、將來滿洲產の棉花を以て補ふ計畫の下に、金州・遼陽地方を始め各地に米國陸地棉の原綿栽培が奬勵されつゝある。（三）製紙業は、豐富な木材パルプ及高粱稈を原料とするために、前途有望であるが、現在に在つては、原料パルプを內地製紙界に供給するのと、塵紙の製造に止めて居るので、此の事業の發達は未知數と見られる。（四）製麻業は南滿洲に於ては大連、奉天に工場の設立を見るが、未だ全滿洲の需要に應ずるに至らず、多量の輸入を見て居る、麻は鴨綠江・松花江・渾河・遼河・太子河流域に產し、麻製品は麻袋・帆布・綱・絲等である。

各種化學工業——化學工業は、滿洲文化の發達に伴ひ、歐米式最新型の各種工場が雨後の筍のやうに興つて來て、石鹼・燐寸・油母頁岩・製粉・製氷・肥料・染料・藥品・食料品工業等が數えられる。（一）石鹼は滿洲產牛油脂及

九工場生産力一ヶ年二〇〇打入
六五〇千箱
○マッチ（南滿）
昭和三　一八四、三三七
　四　五五九、二四〇
○オイルシエル
撫順工場
一日一三六萬屯處理
○石鹼（南滿）
昭和三　一五七、六〇四
　四　一七一、八二三
○食料品工業
○製糖
阿付河製糖廠
ザラメ三三六千封度
呼蘭製糖廠
○製米
工場　三二
水稻　二〇〇萬石

豆油を原料とし、主として土着人向きのものを製出して居る。（二）燐寸は安全燐寸及黃燐燐寸を製するが、原料の木材が豐富のため、急速に發達して一時供給過多を示すに至つた、日・支・瑞三國系の競爭が行はれて居る。今後は人口の增加によつて緩和されるであらうが、支那人は主として低廉な黃燐マッチを愛用する。（三）油母頁岩は撫順に發見された原料を以て石油同樣の油を製出する計畫で、工場は撫順炭坑の經營であつて、原料は含油量の豐富を以て有望視され、副產物としてアンモニアを得られる。其他の化學工業は、孰れも現在伸張の道程にあるものである。（二一九九頁參照）

食料品工業——製糖・製米の二工業は、共に有望であるが、（一）製糖業は、甜菜を原料とするもので、氣候其他の關係により年々の豐凶に平準なく、製糖能力の判定は困難である。北滿洲に於ては、露人、波蘭人、支那人等の經營のものは凡て獨逸其他歐洲式機械を用ひ、規模も大きい。南滿洲に於ては邦人經營の一會社があつて、臺灣の粗糖を精製するものと土產甜菜より製出するものとに分つて居たが近時休業して居る。（二）製米業は近年滿洲米の增收

○製鐵業
鐵工業
鞍山
本溪湖
沙河口
大連
○銑鐵(南滿)
昭和三 九、七八八、七九四
四 九、七四二、五三九
○電氣業
瓦斯業
○瓦斯
大連
奉天
撫順
安東
長春

と、輸入品の減少に伴ひ、逐年發達し、滿洲の全需要を充たすだけの製米機關が完備して居る。

製鐵・鐵工業――製鐵業には、滿鐵會社經營の鞍山製鐵所と、日支合辦本溪湖煤鐵公司とがある。鐵工業には滿鐵の沙河口工場、遼陽工場があり、船舶修理造船業の滿洲船渠會社がある。此の他に諸機械・鑄物・自動車修理・鋼類・鐵管等の鐵工業が逐年興つて來たが、未だ大規模のものを見ない。

電氣・瓦斯業――電氣工業の一般各界に電力及電燈の供給を行つたのは滿鐵會社の施設に始まるものであるが、南滿洲の新都市及附近の城内は逐年電燈事業が興り、今では晝夜の別がない程の明るい世界と化して終つた。電車は大連・奉天・撫順等に敷設されて居るが、電氣業が電力に因る滿洲の機械工業の發達を促進した功績は大なるものである。

瓦斯事業は撫順炭利用の一策として明治四十三年三月大連に瓦斯會社の創始を見たのを濫觴とし、逐年增設され鞍山・奉天・安東・長春等に及んでゐるが、撫順にはモンド瓦斯工場があつて、瓦斯の製產の傍ら硫安及タールを

○烟草
○工場
大連
鞍山
遼陽
奉天
撫順
安東
營口
年產原料五千萬斤
昭和三　五、七二三、七四三
　　四　五、六四六、七五五

○毛織業
○滿蒙毛織會社
（昭和三年）
羅紗　三二、七〇七碼
毛布　一九一、〇六一碼
毛糸　九七、四五四封度
○皮革
年產品　四四五、六〇〇枚

副製して居る。

烟草製造業――烟草は古くから滿洲各地にも普遍的に栽培されるが、支那人は幼少時から烟草を愛喫して居る、主な產地は遼寧省東部及吉林省一圓である。最近兩省の年產額は五千萬斤以上と概算され、その「東山烟」は遼寧省、「南山烟」は吉林省產の謂である。主なる烟草製造業者は、東亞烟草會社、英美烟公司、中俄烟公司、ロバート商會、チユーリン商會、南洋烟草公司等である。

毛織業――滿蒙には約百五十萬頭の緬羊が牧畜されて居て約六百萬斤の羊毛を出して居る、從來此等の羊毛は原毛のまゝ他へ移輸出したものであつたが、大正七年奉天に滿蒙毛織會社が成立し、撰毛して製織に從事する事となつた。一方公主嶺の農事試驗所に於ては在來種から採れる羊毛の缺點を補ふ試驗に成功し、着々としてその改良種の普及に進みつゝある。

皮革業――滿洲には畜類多く、牛・馬・騾・驢・緬羊・山羊の皮だけでも年々百七・八十萬枚を產出して居るが、これが精製工業は微々たるもので、

○製材（南滿）

昭和三	五、〇三〇、四五五
四	三、四一三、二八三

○諸藥

○甘草エキス

多くは生皮のまゝ移輸出され、鞣は年々外國から輸入されて居る。

製　材　業――滿洲は豐富な林業地域であるが、現在伐採され市場に出廻るものゝ多くは、鴨綠江、第二松花江沿岸のもので、隨つてそれ等の江岸又は江口の安東、吉林、長春、哈爾濱等には製材業が盛んに起つて居る。又吉敦沿線、大連・四平街等に於ても製材を出して居る。

諸藥製造業――豐富なる土產の原料を利用して、バリウム加里、曹達、甘草エキス、硫酸クレオソート、ナフタリン及火藥等の製造工場が興り、滿洲に於て自給自足を目堵されて居るにも拘らず、多くは業績不振である。

このうち曹達工業は、關東州に於ては州產の鹽を利用し電氣分解法によつて製產して居る傍ら、東蒙古に於て多量に採取される、天然曹達からも精製して居る。バリウムは州內の原料によつて製出され、クレオソート及ナフタリンは撫順炭坑モンド瓦斯工場の副產物である。

甘草エキスは蒙古產の甘草を精製するもので、大連、鄭家屯及赤峯に工場がある。又原草のまゝ輸出されても居るが、多くは日本を得意先として居る。

火藥は安東に製藥會社が設立されて營業を續けて居る。

製氷・淸涼飲料水業――滿洲の大河川からは天然氷の純良な物を多量に產するが、關東州地方には製氷會社が、又各地には淸涼飲料水製造工場が設立され、酷暑の飲用に應じて居る。

瓦・煉瓦製造業――支那人は土法によつて黑煉瓦・黑瓦を製造使用して居るが、滿洲の洋式建築の發達に伴れ各種の瓦、煉瓦は要求され、この原料の石灰石や粘土も又豐富なために、滿洲に瓦・煉瓦製造工場が起つた、然るに建築工事の盛衰に伴ひ、斯業の興亡常なく今日に於ても成績は良好ではない然るに近年支那人家屋にも日本人工場出產の瓦・煉瓦を使用する者が殖へて來たので需要は夥しく增加して行く傾向にある。

○セメント及石灰製造業――滿洲の新設都市は凡て洋式に土木工事が起されたが、當初セメント石灰等の製造所はなく悉く輸入に仰いだ、然るに關東州内には、豐富なセメント材料石の產する事が確められ工業として創始された。次に苦灰土も又關東州に豐富に產するために、白色ポラーンドセメントと同

○製氷

○瓦

○煉瓦(南滿)

昭和三	一、五九〇、〇九七
四	二、四〇九、九二八

○セメント(南滿)

昭和三	四、一六七、三四〇
四	四、八八七、五六〇

○陶器(南滿)
○硝子・硝子器
昭和三　二、五四六、六〇一
四　二、六〇三、四一七
○染料
○肥料

様に使用される珪白セメントの製産を見て居るが、石灰の原料石も豊富であつて、奉天・大連・金州・本溪湖等に於て製産されて居る。

陶磁器及硝子製造業――陶磁器は日本及天津地方より輸入される量は少くないが、滿洲に於ては大連窯業會社に於て支那向硬質陶器を製出して居る。

硝子製造は前記窯業會社に於て、曹達硝子、クリスタル硝子、硬質硝子及電器具及燈器用の特殊硝子の製造に當つて居る。尚ほ其他日支人經營の硝子製造工場がある。

染料及塗料工業――(一)塗料はマグネシア粉末・スタツコマンチユリア・硅石粉及トラスト・ペイント等が製産されて居る。又獸皮を原料とする膠の製造にも相當見るべきものがある。

(二)染料は支那人間には藍、槐樹又は楓樹を原料として製造して居たが、獨逸製品の浸入に及び、その廉價な上に使用法の簡單なことから急激にひろまつたが大戰後に於て、邦人の染料工場が起り、獨逸品を喰止めつゝある。

肥料工業――豆粕は肥料としての輸出品中の大宗に當るが、このほか硫

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○昭和四年南滿工業總生產高
一三、九三五、三一一
生產價格
三二、二九五、五六五
工場滿　一、〇四三

安及獸骨粉製肥料等が移輸出され居る。硫酸アムモニアは鞍山製鐵所工場の副製品である。獸骨及骨粉は日本內地にも桑園、田地等に使用され好評である。獸骨は肥料用の他に、脚骨は刷子及小刀・扇の柄に又は櫛・簪・ゼラチン用材等に使はれて居る。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY



大連埠頭



鴨綠江鐵橋

Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY



奉天驛前



滿鐵展望車

Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY

第五　交通・商業及貿易

滿洲の交通――滿洲の諸鐵道――河川運送――主要道路――通信事業――商業――貿易――會社・合辦事業――金融界――商業機關――商業補助機關

滿洲の交通

（一）滿洲の交通は、古くから縱橫に開かれた道路と、大・小の河川に由り即ち車馬と船舟によつて支配されたが、十九世紀末に至つて鐵道の敷設を見るに及び交通界に一大革命を來した、其後逐年新線の敷設が續行され、交通運輸の機能は殆んど鐵道に於て代表されるかの觀があるけれども、鐵道の未開通地方では依然車馬や、船舟、筏等を以て貨客輸送の用に供して居る。本項には、南滿洲鐵道以外の各鐵道及河川に關する運送に就ひて記述を試みる。

（二）通信機關は、關東州內及鐵道附屬地々域に於ける郵便、電信、電話は

○交通
道路
河川
鐵道

○通信

通信管理局
○支那側通信機關
郵政
電政
○鐵道
既成一八線
工事中
洮索線
○五呎廣軌東支鐵道

共に我關東廳通信管理局の施設であつて、之以外の郵便、電信は支那側に屬してゐる、なほ近年郵權回收の聲が揚げられて居るが、前記の我郵便局撤廢に關する問題の解決迄には、相當の年月を要するであらう。

滿洲の諸鐵道

滿洲に於ける、我南滿洲鐵道以外の既成諸鐵道は、其數十七線に及んで居るが、此のうち東支・北寧・四洮・吉長・吉敦・洮昂及金福の七線・天圖・溪城の二輕便線及穆稜線以外は悉く支那側の獨力經營であつて、吉海(輝吉)線・開豐輕便線及瀋海鐵道の西安支線の三線は夫々所謂滿蒙四鐵道の一線に當るものを、支那側に於て獨力起工し竣工せしめたものである。

茲に東支・北寧・吉長・四洮・洮昂・瀋海・吉敦・輝吉・打通・齊昂・齊克・同支線・洮昂・呼海等の各鐵道及開豐・天圖等の輕便線に就いて略述を試みよう。

東支鐵道——東支鐵道は、露支兩國の協營鐵道であつて、最初露國は軍事上の目的のみに經營した爲に永年收支相償はなかつたが最近に於ては豐富

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

一、八九七年起工
一、九〇三年竣工
總哩一、〇七二哩八三
一、八九六年（明治二九年）露帝戴冠式
○共同管理
一九一九年三月一七日發表
○共同管理終了
一九二二年一〇月二五日
○露支協定
一九二四年三月一四日
○奉露協定
一九二四年九月二二日
○東支收入　留
昭和元　五三、七九七、〇〇〇
二　六〇、三七八、〇〇〇
三　六四、七八八、〇〇〇
四　七〇、六五七、九三

な北滿物資の搬出路として、相當の利益を擧げつゝある。本線の北西は滿洲里に於て後貝加爾線と接し一路露都モスクワを經て歐洲諸國と連絡し、東方は烏蘇里線に連り、途中哈爾濱より南下し寬城子に終つて居るが長春、大連間の我南滿洲鐵道は、もと此鐵道の南部線を成して居たものである。鐵道は一、八九六年李鴻章が露帝戴冠式參列のためモスクワに赴きたる時、所謂カシニー密約として約定したものと傳へられたが、正式の取極めは淸國政府と露淸銀行との間に締結された東淸鐵道建設及經營に關する條約である、この鐵道敷設のため、大淸東省稽查鐵路進款公司が設立されたが、支那政府側は鐵道の上に何等の擔保權の設定をも認められず、露國政府が六億七千三百萬留の國庫出資をなし竣工せしめたるに對し、支那政府は僅に五百萬兩を出資して、一株主の地位に立つた。然るに露國は次ひで獨逸の膠州灣租借に際し、關東州を租借し、哈爾濱、大連間の南部線敷設の權利をも合せて得るに至り、破竹の勢を以て工を竣え、悉く露國法に則り經營したが、日露戰後南部線の大部分を日本に讓渡した。東支鐵道は歐洲戰後一時國際管理となり、其後支那

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○露支協定
○奉露協定
（一九二四年）
東支鐵道ヲ純然タル商事機關トシ露支兩國ノ共同經營トスル旨取極メタ
○東支寛城子支線（寛—長）八粁五は一九二九年十一月三十日完成
○廣軌北寧鐵道
光緒三年唐景壁の建設
○一、八九一年英人キンダー總辨となる
○北寧鐵收入（現大洋）圓
昭和元
二　三四、七〇八、二五〇
三　三、七六二、八九三
四
○吉長收入　圓
昭和元　二、九一九、七六四
二　五、四六九、一三一

側は此の鐵道を回收しようとして、ロシアと紛爭を繰返し、露支、奉露等の協定によつて小康を保つて來たが、最近又々紛爭となり兩國交涉の結果昭和四年十二月下旬、漸く暫定的協約を結び前記露支・奉露協定の原狀に復した、然るに本協約は追つて取極める事となつて居る。現在に於ては露・支共同經營であるが鐵道の主權は確實に支那側に移つて居る（三五六頁參照）。此の鐵道は我南滿洲鐵道と長春に於て接續し貨客の直通聯絡に當つて居るが、特に北滿地方の物資輸送に關して、兩鐵道間に協定を結んで居る。

北寧鐵道——北寧鐵道は、英國政府の出資に依る借款鐵道であつて、唐山炭の運搬を目的として、唐山炭坑・北塘間の線路を開通したのに始り、明治四十四年北平・奉天間幹線の完成迄に前後三十ケ年を要して居る。奉天に於て我南滿洲鐵道と會し、北平に於て平漢鐵道及平綏鐵道と會し、天津に於て津浦鐵道と會し、營口及通州の兩支線を合せ延長一、二九七粁九（七一三哩）に及び支那國有鐵道中最古のものである。

吉長鐵道——吉長鐵道は、吉林・長春間一二七粁七八（七十九哩四）の支那

三　三、六二九、〇〇〇
四　三、七四七、四一五

○廣軌吉長鐵道　宣統二年起工、民國元年（大正元年）竣工

民國四年五月吉長鐵路改訂約款成る

○四洮鐵道　廣軌　四鄭間線正金銀行借款・大正七年一月營業開始

鄭通間線滿鐵借款・大正十一年一月營業開始

鄭洮間線同上、大正十二年七月營業開始

○四洮收入

元

昭和元　七、六五五、二八四
二　六、〇八六、二八一
三　五、九七三、三六三
四　六、六二八、九六四

國有鐵道であるが、建設資金を我南滿洲鐵道會社より借款したるを以て、現在、滿鐵會社の經理に依り營業して居る。此の鐵道の主要貨物は吉林材である。最近吉敦線の全通により南滿鐵道への經由貨物が增加して居る。

四洮鐵道――四洮鐵路は、四平街驛を起點とし、鄭家屯を經て洮南に至る線及鄭家屯から分岐して通遼に至る支線を合せ總延長四二五粁一〇（二六四哩五）に及び蒙古地方開拓の先驅をなしたことによつて著名である。此の線の、四平街・鄭家屯間の地勢は槪して平坦ではあるが、遼河の本支流を橫斷するために架橋工事に多大の困難を伴ふたけれども、開通後は沿道左右の廣大な未耕地が逐年耕地と變化し、農產物の增殖を來し、都邑の繁盛を見るに至つた。鄭家屯洮南間も亦所謂蒙古大平原を通過するために、開通後は農民の移住者が續出し、農產物の將來は囑望されるが、實績は未だ擧げられて居ない。通遼に至る區間は、沙漠地帶で沿道の發展は遲々として進まないが、通遼の背後には豐富な物產地の多いために此の地方の發達は相當に期待されて居る。此の鐵道は支那國有鐵道であるが、日支條約に依る滿蒙五鐵道の一

○廣軌瀋海鐵道
鐵道收入
昭和三　五、二九〇、五一八
四　五、二〇八、三九〇
輝吉線と共に滿蒙五鐵道の一線

○私設廣軌金福鐵道
大正十五年五月起工
開通昭和二年
○鐵道收入（現大洋）圓
昭和二　一七、四〇四
三　三七二、〇七五
四　三三二、〇二七

○廣軌吉敦鐵道
起工大正十五年六月一日

であつて、日本正金銀行及滿鐵會社の出資に依り建設されたもので、現に業務上の經理は滿鐵會社に於て執行して居る。

瀋海鐵道――奉天朝陽鎭間及西安支線三二五粁七（二〇二哩二七）の廣軌鐵道で、遼寧省當局の組織計畫に成る、官民合辦の奉海鐵路公司の經營であつて、大正十四年に起工し、昭和三年五月全線開通した。此の線は南滿の穀倉と云はるゝ東山の農地帶を貫いてゐて、營業成績は年々良好である。

金福鐵道――金福鐵道は、金州から貔子窩を經て城子疃に至る、延長一〇二粁一（六三哩四）の關東州內唯一の私設鐵道であつて、沿線は州の海岸地方を通過し、山丘起伏し工事は困難を極めたが、沿道各地は、水田の開發、果樹蔬菜類の增殖、養蠶、棉花業の發達等に加へて、水產物殊に製鹽の搬出路として期待されたけれども、戎克運送に防げられて豫期の好果を擧げられない實情にある。

吉敦鐵道――吉敦鐵道は、吉林、敦化間二一〇粁四（一三〇哩六）の鐵道であつて、吉林から圖們江を經て會寧に至る鐵道即ち日支間多年の懸案とな

竣工昭和三年十月十日
(○松花江鐵橋一、四五六呎)
○老爺嶺隧道五、五七七呎
○鐵道收入
自昭和三年十月十日
至昭和四年五月末 九六八、〇三五元
四年末 一、六九一、〇〇五元
○輝吉鐵道
鐵道收入
昭和四 六七四、四四四元
○打通線

つて居た、間島問題の交換條件として、我銀行團に於て投資權を得た所謂吉會鐵道の一部を成すもので、暫定約款により滿鐵會社に於て出資し着工した。沿道は有名な峻峯高地を貫通するために、松花江の大鐵橋を始め、老爺嶺隧道の開鑿等、難工事の記錄が多い。然れども吉林省東部の豐富な林產地と水田可適地を有し、將來鮮境開發の有力な利器と目されて居る。此鐵道は處女林の中を貫通し、沿線の風景は壯快無比である。

吉海(輝吉)鐵道——吉海鐵道は、朝陽鎭、吉林間一八三粁四(一一四哩)の吉林省官民商辦になる廣軌鐵道であつて、滿蒙五鐵道の一線、開・吉鐵道の一部分に當るものであるが、支那側は日本に無斷にて昭和二年起工し、同四年五月竣工營業を開始したものである。

打通線(北寧支線)——洮昂・四洮兩線の搬出物資を中繼し、之を葫蘆島へ出して、南滿鐵道及大連港と對立せんしめとする計畫の下に敷設されたと言はれる打通鐵道は、北寧鐵道線打虎山驛から、四洮の分岐驛通遼に至る、二五二粁(一五六哩)の北寧鐵道支線である。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

◇葫蘆島築港　昭和五年七月二日起工式

○齊克線　齊々哈爾—二克山　泰安鎭—拜泉

○昂齊支線

○廣軌洮昂鐵道　大正十五年七月十五日營業開始

然るに葫蘆島築港が未だ成らないばかりでなく、四洮、洮昂沿線の出貨が最初の豫想を裏切つて少量であるために、目下の營業成績は良好ではない。此の鐵道は、日清滿洲善後條約に於て敷設せざるよう取極められた滿鐵の並行線の一に當るものであるが、其將來は有望視されて居る。

齊克鐵道――齊克鐵道は、齊々哈爾より克山鎭に至る延長二一〇粁六の黑龍江省官民合辦鐵道であつて、齊々哈爾・泰安鎭間は既に開通したが、黑龍江省は泰安鎭から二克山迄の第二期工事費を廣信公司と地方法團の二・三とにより、法人組織として支出させ不足額は克山鐵路局に於て負擔せしむることゝし、更に泰安鎭・拜泉（七〇粁）線をも近く着工する運びに至つた。

齊克鐵道・昂齊支線――本輕便線は、昂々溪・齊々哈爾省城間三一粁五（一六哩六）の延長を有し、昭和三年六月に起工し、同年十二月竣工營業を開始した。此鐵道は東支鐵道を橫斷する橋梁により起終兩點に至るものである。

洮昂鐵道――洮昂鐵道は、洮南・昂々溪間二二四粁二（一三九哩一）の遼寧省直轄鐵道であつて、滿鐵會社に於て其の工事を請負ひ竣工せしめた四呎

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○鐵道收入（現大洋）

昭和元	四二四、八〇一元
二	一、一四五、一七四
三	一、一三八、三一三
四	

○呼海鐵道

資本金 一、〇〇〇萬元

○鐵道收入

自昭和三年七月
至同 四年六月 四、五七四、七二元一六二

○溪城鐵道

八吋半の廣軌鐵道である。

沿線の物產は、最初相當豐富に見積られたが、事實は一天地三・四石の穀物收獲に過ぎず、農地として最上の成績を擧げ得ないために、農民の漸次地味豐富な呼海沿線に移住する者多く、營業成績は目下のところ順調でない。

呼海鐵道――四洮、洮昂兩鐵道沿線の農地が、穀物收獲量一天地三・四石內外といふのに、呼海沿線は六・七石內外といふ肥沃地方であるために、近年南滿又は內蒙古の農民が呼海沿線へと移住して盛んに耕地を擴張しつゝあるから、此の鐵道の前途は特に有望視されて居る。

此の鐵道は東支鐵道の馬家船口から海倫に至る二二一粁一三一（一三七哩三）の廣軌線で、黑龍江省直轄呼海鐵路工程局の經營である。大正十四年九月の起工にかゝり、昭和三年十二月全線の開通を見た。而して滿鐵會社より三ケ年々賦の約を以て借り入れた鐵道材料の代金は、鐵道收入好調のために昭和四年に至り一時に全部を返却した。

輕便諸線――(一)溪城輕便線は、滿鐵會社と本溪湖煤鐵公司との合併經

Digitized by Google Original from KEIO UNIVERSITY

○開豐鐵道鐵道收入

昭和元	三二五、〇四三元
二	五八三、九七三
三	五八八、八四九
四	五四六、五八二

○天圖鐵道鐵道收入

昭和元	
二	
三	七〇七、二五〇圓
四	六〇六、五五四

○未成線

○滿蒙四鐵道
○京熱鐵道
○吉會鐵道
○賓黑鐵道
○蒙古縱斷鐵道

營で本溪湖、城廠間及支線一四哩一六の距離である。主として本溪湖煤鐵公司の使用に供されて居る。(二)次に開豐鐵道は開原、西豐間六三粁七（三九哩六）軌間一米突の輕鐵で遼寧省官・商合辦開豐長途鐵軌汽車公司の經營である。大正十五年五月の竣工に係り、營業成績は良好でない。此他に(三)天圖鐵道(四)穆稜線(五呎)(五)鶴立線其他採炭線等がある。

未設豫定鐵道——滿洲及蒙古地方に、將來起工開通さる可き豫定鐵道は、無數と言つてよいが、確定的のものを擧ぐれば、即ち滿蒙四鐵道と呼ばれる、長春・洮南間、洮南熱河間及同線より海岸へ出る一線等を始めとし、北平熱河間百四十哩の北熱鐵道、敦化・會寧間(吉會線)賓黑鐵道(哈爾濱・黑河間)嫩江・齊々哈爾間の蒙古縱斷鐵道・洮索線(工事中)等がある。

而して滿蒙四鐵道のうち吉林・海龍城間、齊々哈爾・洮南間の二線は支那側に於て既に起工竣成せしめ營業して居る。

河川運送

○河川

○遼河
○輸送穀物一三〇
萬石、雜貨三萬件
○舟行、太子河四〇
○支里、渾河四一
○支里
○航程一日下り凡
そ九〇支里、上り
は其三分の二
○積量六噸―三〇
噸
○著船場、田庄臺、
二叉河、砂嶺、塔
連保子、老達房、
馬廠、涼兵塔、三

滿洲の河川は、流域廣大で、多くは舟運の便があり、鐵道開通前迄は、陸路の馬車輸送と相俟つて、滿洲運送系統の雙翼を形成して居たが、現時に於ては、汽船の航行に堪ふる流域以外は、帆船や筏に依り特殊の輸送を助勢して居る。河川に由る運送は、鐵道の影響を蒙つて、年々衰微して行く傾向にあるとは雖物貨の增殖に伴ひ、相當の成績を示して居るが、やがて鐵道線路が蜘蛛の巣のやうに四通八達しても、河川運送は依然として繼續されるものと思はれる。滿洲の河運に便ある河川は、遼河・鴨綠江・松花江・黑龍江・嫩江及呼蘭河等である。

遼　河――遼河は西安縣に源を發し、營口に出る迄に凡そ三、八〇〇支里（六五〇里）の長流であるが舟行の便は河口から一、五二八支里の鄭家屯迄も及び、三千餘隻の民船が、冬期約四ケ月の詰氷期以外は常に上下して運送に當つて居る。又支流の太子河・渾河に於ても舟行の便がある。而して沿岸の着船場は五十餘ケ所であつて航行船は牛船・槽船・撥船・艀板・丸木舟等である。此等の乘組員は、營口に船會と稱する共濟組合を組織し、災難等の場

而船、古城子、馬蜂溝、通江口、弧榆樹、三江口、鄭家屯等

○水深下流一〇尺内外

○鴨綠江

○水路—最上流、上流區域（廿四道江—帽子山）中流域（帽子山—渾江口）下流域（渾江口—安東）

○著船場、支那側、長白縣、十三道溝、古米洞、八道溝、樺皮甸子、帽兒山、大水地臺、通溝、榆樹林子口、外察口、渾江口、大荒溝、白菜地、浦石河口、永甸河口、長甸河口、馬芝臺、安東

○著船場、朝鮮側、惠山鎮、竹田里、中江鎮、滿浦鎮、高山鎮、碧潼、昌城、義州、多獅島外十七

合の善後を講じることにして居る。遼河は下流に伴ふ沙洲の增殖のため、前清時代から屢々改修を必要とせられ工事を續行されたが、民國に入つて以來稍々進歩し、其後官營事業に移つて閉塞法による深水增大や、浚泄工事を繼續し、又別に掘割工事を計畫し、大船出入上の發展を計畫して居るけれども、現時の水深は上流、中流は素より下流に於ても大船の航行は不可能である。

鴨綠江——朝鮮と滿洲の境界を流れる鴨綠江は、二百里餘の長流であつて、鴨綠江材唯一の搬出路として滿洲で重用な河運系統を成して居る。水路は、上・中・下の三流域と、最上流及江口域の五區に分けて呼ばれるが、最上流七里程は筏の他は通ぜず、江口から凡そ四十里ほどは小形民船や戎克の溯行が出來るけれども、吃水十呎以上の汽船は安東迄さえも航行されず、凡て大形船は江口區域に繫留して戎克か艀船で荷役の中繼をせねばならない。運行船の種類は、筏・戎克・民船・汽船・獨木舟・高瀨船・發動機船・飛行船等である。冬期の四ケ月は結氷し、夏期二ケ月は洪水多く安全な航運は一年の半に過ぎない。河川工事は官營として行はれ、下流域、江口域に於

○松花江

○明治卅八年露汽船始めて吉林に溯航

○一、九一〇年露國航行權を獲得

○大正十三年二月外國船航行禁止

○船着場、吉林、五家站、白旗屯、新城、三姓、大湖、木蘭、泰運、依州、蘇々屯、南天門、克活瑪、哈爾濱、烏河、達馬里、富克錦其他

○哈爾濱―吉林間約四〇〇哩

ては、制水堤の築造を見る一方安東には、滿鐵會社の護岸施設が整へられて居る。

松　花　江――松花江は、黑龍江の一支流に過ぎないが、長流六百里に及び、北滿洲の河運界に王者の地位を占め、冬季結氷期約五ケ月餘を除き、運行殷盛を極めて居る、可航流域は吉林から始つて、黑龍江との合流點間約八三〇哩であつて、筏の通行には、本支流共差支なく、哈爾濱から下流は水深七尺以上で汽船の航行は盛んであるが、哈爾濱、吉林間は、水深五尺以内で、大船の航行が不能であり、加之此の區域は、勢ひ鐵道との競争が免れないため、河運の成績は下流と大差がある。松花江の汽船の航行は、露人によつて始められ支那政府から航行權を獲得して居たが、革命後の露國内の混亂に乘じ、支那は航行權の囘復に努めた結果つひに東三省官憲に於て完全にその支配權を確立し、外國船の航行を禁止し、支那汽船の獨占となつて終つた。然るに此の利權恢復に就いて露人は今尙ほ抗議を續けて居る。航路は、吉林上流、吉林―陶賴昭、陶賴昭―新城、新城―哈爾濱、哈爾濱―河口の五區に分け

○黒龍江

○嫩江

○齊々哈爾、黒爾根、伯都訥、三岔河、大賚、五家、大崗、二站、二號、漢爾加土

○呼蘭河

られるが、吉林迄は、吃水二呎の小汽船が來航し、陶賴昭迄は、主として民船が通行して居る。又新城迄は順次九呎近い水深となつて、汽船の航行自由で、哈爾濱、河口間は航行最も容易である。

黒龍江・嫩江・呼蘭河——(一)黒龍江は滿洲北部の巨川で、水は渾々として黒色を呈して居る、源流は二派から成り、本流の可航區域は二千六百六十餘露里に亙つて居る。冬・春期約七ケ月間は結氷のため航行不能であるが、夏期は各支流共汽船を通はせ全航路は六千六百八十露里に及ぶ、流域の左右兩岸に主なる埠頭六十五を有し、露・支兩國汽船の寄泊に充てられ、右岸に支那、左岸に露國の稅關があり、ハバロフスクの埠頭が最大である。本流のブラゴエチエンスク、哈府、尼港間及ゼイヤ河、プレヤ河、ウスリ河、アムウル河の主要埠頭間に定期航路が開けて居る。(二)嫩江は松花江と等しい運行路であるが水底淺く、汽船の航行は松花江の合流點から、チ、ハル附近迄で、他は戎克、帆船を主とし、木材は、流筏法に依つて居る。冬期約五ケ月半は結氷して交通杜絕する。(三)呼蘭河は、小興安嶺に發源し、松花江と合

沙河口―呼蘭間三七支里

して居るが、航行には、汽船、帆船、戎克等を使用する、汽船は、哈爾濱を起點として、伯都訥、富錦、三姓、呼蘭間を聯ねて居る。

○主要道路

道路と沿道の都邑

○概説

廣袤七萬五千方里の滿蒙地方は、鐵道の敷設が普及して居ないので、陸路を辿る交通運輸は、地方的には今尙ほ昔日のまゝに優勢である。ヂンギスカンの征途通行路も、漢族移入の常用路も、淸朝を盛り立てた滿洲軍の關內進軍の行進路も悉く、大平原の中を縱橫に走つた道路に由つたものである。

○道路性質

大都と大都とを聯ねる大道を、淸代には官馬大路と呼び、主として軍用に使用さるゝ際の用意として、官路は官衙の手によつて修理改善等が施行された例もあつたが、多くは爲すがまゝに放棄されて荒廢に委せられたものである。近時東北各省では、荷馬車其他の交通稅を徵して道路の修築費に當て小改修を施して居る地方もあるが、夏期の河川の濫氾と、冬期結氷時等の交通路は年々變化して行つて、一定不變の道路といふのは珍らしいものである。

○驛站
○旅行案內者

○遼寧省
一奉天山海關間
宣宗帝前迄は奉天
・興京の巡狩が催
された。

往時滿洲の各主要街道には、驛站の設置され公文書及官物の傳送に資されたが、郵便局の所管外地域に於ては現在に於ても其の制がある。なほ馬車を借りて旅行する場合には案內役として拉道的又は帶道的を傭入れて行くことが最も安全である。

而して滿洲の道路の悉くを正確に記述する事は至難であるが、玆には露人の踏査報告や支那人の調査を參考として、主として滿鐵會社の諸資料から主要道路と沿線の都邑と、各都邑間里程の概數だけを擧げて見よう。

（一）瀋陽（奉天）は東北諸省中、最も早く道路の中心地となつた首都で、これから十字型に、東は朝鮮國境に、西は北平に、南は復州に、北は吉林に通ずる大道が建設されてある。最も長い大幹線路は山海關から奉天・吉林・伯都訥・齊々哈爾・嫩江を經てブラゴエチエンスクに通ずるものである。省內の西方は全省の五分の一を占むる平原であるが、降雨の被害を受けて夏期は交通困難を極めるので、輸送は冬期に行はれる。東部一帶は山岳多くこれ又車馬の交通に不便である。民國五年遼寧省に於て、各縣を聯ねる道路の改修令を

發布して道幅四間兩側に側溝を設け溝外に白楊を植えしめることにしたが、民間に於て發令通りの改修をなさず、忽ちにして破壞され舊態依然たるまゝに存して居る處が多い。

遼寧省に於ける主要幹線路と各地間の距離の支那里概數（又は日本里町）を擧ぐれば、

（A）奉天・山海關（一一五邦里一五）（B）錦州・義州（九〇）（C）錦州・朝陽（一八二）（D）朝陽・赤峰（三五一）（E）新民屯・法庫門（一八邦里二七）（F）小庫倫・新民屯（二七〇）（G）金州・安東（六五一）（H）岫巖より大孤山（一四五）大石橋（一九〇）海城（六〇）鳳凰城（一八〇）各地への道路。（I）復州より得利寺（七五）五湖嘴（九〇）間。（J）遼陽より遼中を經て厲家窩堡（一九九）間。（K）營口より田庄臺（五〇）牛莊城（九〇）牛莊城・遼中（一二〇）遼中・新民（一三五）（L）草河口・賽馬集（九二）（M）賽馬集・城廠（九〇）（N）安東・通化（六二五）（O）鄭家屯より四平街（一九〇）康平（一九〇）營口・新民屯（四〇〇）長春（二六〇）伯都訥（五七〇）洮南（五三〇）白音太拉（二四〇）（P）開原・

〇錦州より	支里
西海口	六五
清河	一四〇
赤峯	五三三
奉天	四五〇
山海關	二五〇

○奉天より吉林三五六露里 營口一八三露里

○輝北は海龍城の別稱

○吉林省

通江口(六五)(Q)康平より法庫門・新民屯(二四五)哈爾沁屯(九五)通江口・開原(一九〇)(R)四平街・大洼疸(一六五)(S)梨樹より四平街(三五)懷德(西一六〇・東一七五)間。(T)奉天・興京(三三五)奉天・通化(五五六)(U)寛甸・長甸河口(國境)(九〇)(V)北山城子から開原(二八〇)鐵嶺(三二二)間。(W)輝北(海龍城)開原—楊木林子・掏鹿經由(三七〇)西安・掏鹿經由(三八〇)北山城子經由(三八〇)の他輝北を中心として、東豐(六〇)朝陽(三五)磨磐山(九〇)柳河(一一〇)樣子哨(九〇)輝南(七五)伊通(二五〇)の各街道が放射して居る。(X)朝陽鎮から開原(三〇五)磨盤山(七〇)黑石鎮(一一〇)輝南(四五)杉松崗・樣子哨(七〇)間。(Y)樣子哨から輝北(九〇)通化(二二〇)間。(Z)輝南から磨盤山(九〇)濛江(一三〇)樣子哨(五〇)間等であるが、省内各地鐵道敷設熱の勃興に伴ひ、是等の道路と雖、將來鐵路を中心として幾多の變遷を來すであらう。

(二)吉林は清朝時代から、奉天との官馬大路を始め吉林省の中心地として主なる幹線を此地に接續させて居たが、夫等のうち吉長鐵路、吉敦鐵路等の

○鐵道の開設と共に蝕れ行く道路

鐵道用路と化したものは道路としての價値を失つたものが多い。然れども省內は東北部の山岳地方を除いては、地勢平坦に耕地ひらけ、都市と村落とを連ねる道路は遼寧省に劣らず四通八達して居る。而して大道と稱されるものは各鐵道又は河口及大都に連つて居るが、村落間の小道は畑地を避けて迂曲して居る。

○秫稭橋

橋梁は一時的の所謂秫稭橋が多く、七・八百斤から二・三千斤の重量貨物を運搬する荷馬車の車輪によつて、破壞される點は他の地方と變りない。

省內に於ける主要な道路を擧ぐれば、

○長春

（A）長春から農安（一四〇）布海（一二〇）洮南（五〇三）肇州（五三七）哈爾賓（九二邦里三二）齊々哈爾（一二八邦里二八）間。

○吉林

（B）吉林から龍井村（七六邦里三四）五龍屯・敦化（五九邦里八）朝陽鎭・奉天（五二〇）伊通・開原（四〇〇）秀水甸・伯都訥（六〇〇）拉林・阿什河・哈爾濱（八三邦里五）楡樹（二〇八）寧古塔（九二邦里）萬里河・帽兒山・原昌（一四〇邦里七）爽皮溝・大沙河（一二六邦里五）土榴子・五常堡（四五邦里）額穆・寧古塔・穆稜（四九〇）等であつて、（C）吉會線

○扶餘は伯都訥の別稱

に連絡する各路は、（a）蛟河から吉林（四六哩四六）拉法站（一三哩五〇）額勒赫（一七哩一三）樺甸（四〇哩）間。（b）敦化から吉林（二〇二哩八二）蛟河（五三哩九）延吉（九一哩六〇）古洞河口（四一哩七五）安圖（三一〇）額穆（一一〇）漂河口（六九哩四九）（D）額穆から吉林（九四哩九〇）寧古塔（八九哩二〇）敦化（一一〇）長爺豐（一七五）大甸（一五哩九二）琿春（五二五）等である。（E）間島地方には（a）龍井村から會寧（一三邦里二四）局子街（四邦里一八）頭道溝（五邦里）鐘城（一一邦里）（b）頭道溝から茂山（一六邦里）局子街（一〇邦里）（c）局子街から琿春（二四邦里）寧古塔（四六邦里）吉林（八一）三岔口（七三邦里一八）（d）百草溝・穩城（一八邦里）の十一街道を主要路として有する。（F）東支南部線に連る道路は、陶賴昭・扶餘（二一五）石頭城子・長春峯（一四〇）長春峯・蔡家溝（三〇）伯都訥・肇州（九〇）伯都訥・長春峯（一一五）伯都訥・肇州・哈爾濱（三五〇）双城堡・長春峯（一三〇）双城堡・太平庄（五八）双城堡・拉林（八二）五常・法特哈站（一九六）五常・楡樹（一三〇）楡樹・陶賴昭（一一五）窰門・德惠（四〇）窰門・農安（九〇）伯都訥・洮南（一八二一露里）等であって、（G）哈爾

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○黒龍江省

○東部内蒙古
熱河省
縣城
承徳　灤平
豐寧　隆化
平泉　凌源
朝陽　阜新
綏東　赤峯
建平　開魯
林西　圍場
綱棚　多倫

濱から巴彦・三姓(五九〇)方正・三姓(五七七)三姓・トウリーロング(二六五露里)(H)寧古塔・吉林官道(五四五)等がある。

(三)黒龍江省内には、(A)齊々哈爾・伯都訥(B)齊々哈爾・愛暉(C)北平草道(D)齊々哈爾・東荒(E)呼蘭・通肯(F)齊々哈爾・海拉爾(G)茂興・三姓(H)洮南等八大主要幹線路を有し、更に縦横に大小の道路が開けて居る。而して各道路は、東支鐵道各驛を始め齊々哈爾、海倫、綏化、黒河、松花江口各地、海拉爾等を中心として縦横に開設されて居る。

(四)東部内蒙古に於いては、開拓・遊牧・半遊牧の三地帯に分別され、道路は四方に發達して居るが、往昔蒙古人が懸軍長驅志を四方に伸べ、歐亞諸邦の統一を決行せんとした頃は、行軍に先達つて道路を整備して、大軍團の行程を指示したもので、東蒙古には其頃上都應昌、全寧、泰寧等の諸大路を通き是につなぐに大小幾多の道路を以つてし、實に四通八達の利便を見られたものと思はれるが、明代に於て成祖の大寧棄地、宣宗の開平棄地等あり、つひに北胡の跳梁に委せるに至つて道路は荒廢に歸した。現時に於ては滿洲

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○鄭家屯

○荷馬車
○客馬車

接壤地域、熱河省地方等は、東三省の道路と等しく、夏期に被害多く、運送は冬期結氷中を利用するの他はない。

主要な道路は、（A）鄭家屯から小克倫（四五五）林西（二、二四〇）（B）白音太來から林西（九五〇）西札魯特王府（四八五）西札魯特王府・開魯（四二八）（C）開魯から朝陽（四六〇）阜新（四八〇）洮南（九三〇）間。（D）赤峰から小庫倫（五〇五）開魯（六〇〇）烏丹城（一八〇）林西（三八〇）大阪上（四四二）經棚（四八〇）西烏珠穆沁（八〇〇）陵源（三六〇）朝陽（三六〇）錦州（五二〇）平泉（四〇〇）承德（四三八）古北口（六六〇）圍城（一八〇）多倫（六〇〇）間。（E）經棚・多倫（四〇〇）經棚・林西（一二五）獨石口・多倫（二九〇）張家口・多倫（五四〇）豐寧・多倫（三四〇）烏丹城・經棚（三四〇）（F）林西より烏丹城・赤峰（四八〇）經棚（一二二）大板上（一六〇）間。（G）喜峯口・赤峰（一二一）上瓦房・熱河（一三八）等である。

「南船北馬」の謂に洩れず、滿洲地方の鐵道以外の陸路交通は、馬力に賴つて行はれる。荷馬車、轎車等は貨客輸送上無二の機關である。而して荷馬車

一、荷馬車數
東三省三五萬輛
一、東蒙古
五七萬臺
○自動車
一、自動車
約三千臺
○國民政府道路計畫

には大車・小車・四輪車・花軲轆車・牛車・白色車・大軲轆車・四輪大軲轆車・駱駄車・露式荷馬車等の各種がある。

又近時滿洲各地方の貨客輸送に客用貨物用の大小自動車を用ふる傾向が年々旺んになりつゝある。之等は白音太來(通遼)、鄭家屯、太平川、洮南、泰來、昂々溪、窰門、陶來昭、吉林及南滿洲の各主要都市を中心として八方に活躍して居る。

終りに國民政府の國道改革計畫を述ぶれば、全國の道路を國道、省道及縣道の三種に分ち、國道は(一)其省首府より他省首府に達するもの(二)商港に達し全國を貫通する幹線(三)道路幅十米以上のもの、三別とし、省道は(一)省首府より各縣治に達するもの(二)其縣より他の縣治に達するもの(三)其管區内商工主要地と連絡するもの及國道に衝接するもの(四)道路幅八米以上のもの、四別となし、縣道は(一)縣城より重要村鎮に達するもの、(二)各郷鎮に衝接するもの、(三)縣城より鐵道、國道、省道及其他近隣の工場又は鑛區に達するもの、(四)道路幅五米以上の道路といふことになつて居る。而して

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○支那東部との聯絡路線

その經線は四線、緯線は三線となつて居るが、支那本部と滿洲とを聯ねるものは其の第一及第四經線と第三緯線とである。

通信

○日本側郵便

滿洲の通信事務は、日本側は關東廳に於て管理し、支那側は各省に郵務・電話・電報等の各管理局が設置してある。

○管内郵便取扱所一四九

（一）日本側關東廳管下の遞信事務は、遞信局の管理下に、郵便局・電信局・電話局・郵便所等を各地に設けてある。

關東廳の遞信局は大連にあつて、郵便・電信・電話其他の遞信業務に當り航空に關する業務をも司つて居る。

○郵便

而して日本と滿洲に於ける關東廳遞信局管内（州内及鐵道附屬地）相互間通常郵便物は日本內地相互間と等しい税率を以て、朝鮮鐵道（每日二回）經由により又小包郵便物は特定の税率により專ら大阪商船大連・神戸線（每三日一回）經由にて取扱はれて居る。次に支那各地との相互間に發著する郵

便物は主要地に交換局を設け、日支兩局員間に授受されて居る。更に朝鮮滿洲間は一日三往復の郵便輸送が行はれ、又日本內地と歐米各國間に發著する閉囊郵便物は、指定あるものはシベリアを經由して居るが、その關東廳管內間發著郵便物は東支鐵道を經由し、哈爾濱の支那郵便局の業務を經て授受されて居る。

州外及鐵道附屬地外の我郵便局は、在支外國郵便局撤廢條約の結果大正十一年末限り、廢止されたが、暫定約定によつて、以前局所の設けてあつた商埠地方集配事務は今尙ほ續行されて居る。

○電信

電信は、有線、無線の兩機關がある、有線電信は管內相互間の他に、支那及諸外國との通信には相互連絡して取扱はれ、日滿間の通信には佐世保・大連線、京城・奉天線、東京・大連線、大阪・奉天線、大連・長崎線、下關・奉天線等に由つて電報を通ぜしめて居る。

○無線電信

無線電信局は大連に設置してあつて、秦皇島、京城、金澤、東京及哈爾濱等の陸上局には高速度二重通信を、船舶局には必要に應じて二重通信を施行

○電話

○ラヂオ

○航空郵便

○支那側

し得る設備があるが、現に送波に關して柳樹屯の分室を、受波に關して沙河口分室をして分掌せしめて居る。

電話は管區內相互間、滿鮮及支那內地との連絡電話等が設備してあり、大連には放送無線電話局が設立されてある。

航空輸送は京城を經由して大連から福岡に到り、更に大阪東京へ飛揚する飛行機便が開通して居る。故に日滿間の飛行郵便の制度が開始されて居るが歐洲からの郵便物は、希望により大連に於て接續輸送される事となつて居る。

(二) 支那側の通信事務には、瀋陽(奉天)の東北交通委員會に郵便處が設けてあり、各省には郵便、電信、電話の監督局がある。郵便局は一、二、三等の三階級となつて居て、別に代辨所又は支局等が、主要な各地及小都邑にまで設けられてあることは、日本側の州內外各地に於けると同樣である。

電信は各省に電政監督局があつて、省內及他省內との通信を受付ける電報局は主要所に設置されて居る。無線電信局は各省の主要商埠地にあつて、電話の架設も逐年增加しつゝある。

○商業界

○開放商埠地

遼寧省 牛莊　安東　大東溝　奉天　遼陽　鳳凰城　新民屯　鐵嶺　通江口　法庫門

吉林省 吉林　長春　哈爾濱　寧古塔　三姓　綏芬河　局子街　龍井村　頭道溝　百草溝

黑龍江省 齊々哈爾　海拉爾　璦琿　滿洲里

商業界の過去及現狀

滿洲は農產物が豐富で、境外への移輸出は穀物だけでも年々八千萬石近くに及んで居るが、事大物博を誇つて他國との交換通商をなさずとも、自給自足を以て泰然たる支那の氣風は滿洲の各地在住人にも培はれて居て、商業の殆んど見るべきものがなかつた、然るに約百年前に於て山東人、廣東人等の移住往來の繁きを見るに及び、物資の移動を伴ふに至つて賣買の發達を促し其後直隸、山西人等によつて愈々商業が組織的に行はれるに至つた頃に露西亞は、滿洲發展の先驅をなして、速かに消え去つたけれども、東支鐵道南滿洲線の建設に當つては、盛んに黃金を撒布したゝめに、機敏な支那商人は相當の利潤を得たが、日露戰爭前後及び、戰時中に於て彼等の商業的奇才は試みられ、滿洲に根據を据ゑる基礎が出來上つた。現在に於て、滿洲の商業界は、日支兩國人の競爭を演出して居るが、鐵道附屬地や、關東州内に於ける日本及支那内地製品の卸賣商業を始め凡百の小賣商業に至るまで、支那商人

○開放條約
呢布楚一六八九年
恰克圖一七二七年
瑷琿一八五一年
天津一八五八年

○日支共榮

○商取引勢力範圍
大連―遼陽以南
奉天―鐵嶺四平街間洮南本溪湖撫順
長春―四平街以北吉長雙城堡伊通黑林子洮南
ハルピン―北滿一帶
營口―全滿

は遙かに日本商人を凌駕して居る。此等支那商人は、組合を組織し、專賣特權制を定めて、互に利益を保護して行く上に、營業經費の輕少な點に於て、到底日本人の及ぶ處でなく特に雜貨類に於ては日本側の小賣商はその華客を支那商店に奪はれつゝある。此他開放商埠地方に於ても、日本人は自由に居住往來して、商業を營んで居るが恐慌の來襲や土地不馴れ等のため、所期の成績を擧げ得る者は尠い。併しながら、在來の滿洲に於ける日本人の商業は寧ろ準備時代であつて、今後は協力して在滿支那人方面に發展せねばならないものと思はれる。

　日滿商業取引と共存共榮――滿洲は支那の領土であるが、大正四年五月の日支條約に據り、日本人は南滿洲の各地に於て自由に居住往來し、各種の商業其他の業務に從事する事は、支那人と同樣に認められて居る。尤も此の條約締結に先立ち日清戰役の以前から、日本人は滿洲の各地に居住往來し、營口・奉天・安東・大連等を根據として、日支貿易に從事し、商店を開いて居たが、日露戰後は更に發展し、會社を創立し、銀行を設立し、日支合辦事業を起し、商業機關を設立して、日支人の共存共榮を實行して來たので、南滿洲の

○滿洲の商店

商行號

行（ハン）—問屋仲買

棧（サン）—倉庫・旅館

公司（コンス）—會社

莊（チヨワン）—錢・吳服

坊（フアン）—油・機械工場

局（チユイ）—書・茶店

廠（シヤン）—製造工場

床（チヨワン）—魚青物

在留商人間には新しい條約の成否は大した問題にもならなかつた程であつた。南滿洲の商業中心地は大連であるが、對外市場としては大連の他に營口・安東がある、又對內市場としては奉天・開原・四平街・長春等がある。而して各種商業の、關東州・鐵道附屬地內に於ける、組織・形式等は日本側と支那側とは劃然と異つて居るが、各々その母國風の移動して來たものが多い。併し、開放商埠地や未開放地に置ける取引は、邦人商人側も多く支那式に則つて居る、商習慣や通貨等の關係上、日本の行政區域外に於ては、當然支那の方式に據るのが好都合なためである。隨つて滿洲各地に於て廣く商業を經營するには、先づ支那の商業組織を究める必要がある。

滿洲の支那商店—支那側商店の組織は、新式・舊式の二大別があり更に、單獨經營と共同經營の二種に分れる。單獨及新式經營の成立は、他國と變りないが、一般に支那人社會の慣習として、官公吏・會社員・勞働者の別なく、餘財があれば有利な事業に投資し、又は合資組織の商業を開始して財產の增殖を計る、而して舊式經營は多くは共同組織である。共同經營に於ては資本

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

主を財東又は東家と稱し營業の擔當者である代表者を掌櫃的と呼ぶ。店の營業一切は經營者である掌櫃的の宰配に委せられる事は明白であるが、大商店の掌櫃的には代表者である總辨と次席の副總辨とがある。店の總務は此の第一第二の大掌櫃的二人の掌中にあるが、以下第三第四第五と、小掌櫃的が居て、日本の番頭の役目を受持つ、番頭の下位には、日本の手代・小僧に當る夥計が居る。簿記計算係を內櫃的と云ひ、庶務や外廻りの手代を外櫃的と呼び、販賣係を欄櫃上的と云ひ、見習の小僧を學買賣的といふが是は買賣即ち商業上の知識を學習するといふ意味である。外に大師傅的といふ厨房主事が居り、夜番の打更的が居る。使用人は大商店に於ては百數十名も居るが、多くは商業の見習ひをやつて居る少年である。番頭以下小僧の俸給は極めて少く、大商店の大番頭と雖月に五十圓の月給を取る者は尠いが、たゞ年末の賞與は、店主と店員とが利益金を六と四の割合に分配するもので、此の收入は店員等を滿足させるものである。支那の舊式組織による商店の特長は、出資者と經營者が異る事の他に番頭・手代・其他の使用人が多く親戚又は同鄉

○東家（資本家）
經理人（總支配人）
副經理人（副支配人）
掌　櫃（番頭）
夥　計（手代）
管賬的（會計）
大寫（大商店書記）
徒　弟（小僧）

○合資組織
二　人出資合記
三　人〃　豐記
四人以上〃　協記
十人以上〃　公記

○資本
拂　込資本　成本
未拂込〃　護本

○帳簿

○決算
端午
仲秋
年末
又は三年・五年目

○取引

○商標法
南京政府
手數料一件
銀五十八弗

關係者であつて一種のギルド組織となつて居る點である、然るに此の組織法は新式商業と雖多くはその型を等しうして居る。

商業帳簿は、各地とも頗る整頓して居る。即ち(一)遂日行市といふのは日本の日記帳に當り、毎日の商事を附込むものであり、(二)往復は、元帳であつて、取引先を口座別に整理したもの(三)暫記は、覺帳で、委託物・輸送荷物等自家の計算に入らないものを記入し(四)總記は、唯一の主要簿で、總て取引に關する事項を詳細に記し、營業進行上の損益勘定をも明記し、貸借・賣買・手數料・利子・收支一切を記錄する。(五)總淸は總記を正寫し淨書した保管簿である。尙ほ補助簿として、賄費・營業費を記入する公用といふのがあり、金錢出納帳の銀錢帳があり商品の仕入・賣上を明記した進貨帳がある。

商取引の慣習は、商品に依つて異つて居る。家畜の取引は、馬市又は牛市に於て或は原産市場に於て行はれ、牛は肉の小賣相場を按じ、皮や骨を計算せずして肉の總量により價格を算出し、馬は年齢によつて評價されるが、袖裡に於て相手方と指を握り合つて取引することは日本の伯樂と等しい。山貨

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○大連・營口・安東・浦鹽四港特產物累年輸出表

○大豆		米噸
昭和元	一、五三六、四三三	
二	二、〇四三、三三三	
三	二、六二八、四七四	
四	三、〇八七、三二〇	
○豆油		米噸
昭和元	一九九、二八五	
二	一九九、九七一	
三	一四三、七七七	
四	一三三、八五四	
○豆粕		米噸
昭和元	二、一三九、三三五	
二	二、三五五、二九四	
三	一、八二一、〇三九	
四	一、五六八、五三二	

○昭和四年三品輸出表

○大豆		米噸
大連	二、四一七、五三五	
營口	一六六、二三五	
安東	一七、〇〇一	
浦鹽	五七六、五七九	
○豆油		米噸
大連	一三八、〇七〇	
營口	二、二三五	
安東	一、五五四	
浦鹽	二、〇〇五	
○豆粕		米噸
大連	八八一、四六七	
營口	二〇五、九四一	
安東	一五八、〇五四	
浦鹽	三三二、〇九〇	

即ち山繭・烟草等の取引は、多く委託販賣で手數料を徴する場合と、旅店に寄寓して居て、貨主自ら取引をなす場合とがある。織物及雜貨は、大抵現金取引で延勘定はあつても十日とは過ぎない。又現金の運搬に不利な地點間の取引は舊曆五月節、八月節又は十二月節に於て相殺勘定が行はれる。穀物の取引は、現物即ち賣買契約成立と同時に現品の受渡しをなす場合と、先物即ち一ケ月又は二・三ケ月先の賣買を豫約して置く場合の二つに別れる。

支那內地の商業取引上に、重用なのは、現金である、即ち日支通商條約文中に、各種の税金、賦課税、手數料、釐金等と、課税の種類を擧げてあるが、商品の通過に當り、各地の捐税局や釐金局に於て一々課税を徴收されるもので、釐金即ち百分一税は從價一割を課する國税であるが、附加税として貨物加税・公益捐・兵差費・地方捐等種々の名目により各省行政費に當てる税金が課せられて居る。又蒙古地方では隊商(撥子)等の物々交換も行はれて居る。

貿易

○安東陸地輸入三分一減税

○日本側輸入組合

○大連港貿易總額昭和四年四億九千七百〇五百八十八海關兩

滿洲の貿易は、哈爾濱・滿洲里・綏芬河を中心とする北滿貿易と、瑷琿・琿春・龍井村を中心とする東滿貿易と、奉天を中心として、大連・營口・安東の三港を經由する南滿貿易の三種に分ける事が出來る。このうち南滿洲の取引は、日・支兩國商人の手に依つて行はれ、他外國人の大規模な貿易業者は稀である。日本商店は主として內地の有力商店の支店又は出張所が多く、又別に輸入組合を組織し在庫品を豐富にし主に現金主義である。支那商人は大阪(川口)に居る華商から取引し、所謂川口貿易によるが、定期船に積込む商品の運賃だけでも日本側の取扱にくらべて頓當り一圓安となつて居る。滿洲輸入品の大宗である綿糸布の取扱の大數は、此等支那商人の手に占められて居る。

大連港――南滿洲の輸出品は、大豆・豆粕・豆油・石炭等の滿洲特產物が主要な物で輸入品は、各種織物・麥粉・金屬製品・機械類等を重要科目として居る。大連港は、全滿貿易額の六割以上を吞吐して支那五大貿易港の一であるが、南滿四貿易港の首位に居る。大正十四年度に於ける大連港の輸出入額は三億餘萬圓であつたが、昭和四年度の貿易總額は七億二千餘萬圓に及

○牛莊貿易額
昭和四年　七八、一二、七七九海關兩

○大連・營口・安東三港最近輸入綿糸布日支別統計
（單位俵）

細布
昭和二 日 三五、九一四 支 七、六〇一
三 日 二七、〇六九 支 九、九六九
四 日 二〇、三三七 支 一九、八〇六

綿糸
昭和二 日 一三、一〇三 支 六七、三三三
三 日 一七、〇四〇 支 六三、三四二
四 日 一三、一八〇 支 五六、五五〇

粗布
昭和二 日 二、六五九 支 五〇、〇四一

んで居る。（詳細は二九五頁參照）

牛莊（營口）港――牛莊港は、最も早く商港として開港されたもので、近年大連港の發展に伴れて、その勢力を奪はれたる狀態であるが、對支那沿岸各地との貿易に於ては、依然潜勢力を持續して居る。昭和四年度の貿易總額は八千六百五十餘萬海關兩である。（二〇三頁參照）

安東港――安東港は鴨綠江畔に沿つて、上流から流伐される無盡藏の木材の大集散地として知られ又柞蠶等の山貨を輸出する。輸入品は綿絲布類が多く、旅順・奉天・鐵嶺・長春の各地へ供給される、補助港として、鴨綠江々口に大東溝がある。安東は陸境關稅の特惠により、日本からの輸入品の奥地へ向つて經由する數が多いが、昭和五年三月の日支協定により一ケ年後に廢止される事となつた爲に、其後の日滿貿易につき、善後策が講ぜられつゝある。而して昭和四年度の貿易總額は一千九百二十五萬海關兩である。（これに陸路貿易總額七千三百〇六萬六千餘海關兩を加算すれば、安東の貿易總額は九千二百三十餘萬海關兩となる）（二〇四頁參照）

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

三	日	四、七〇八
	支	四七、五二九
四	日	四、一四五
	支	四三、七五五

昭和三年度　千圓

	出	入
横濱	七四二、二九六	六一四、三四三
神戸	六三一、四一〇	八七八、七五五
大阪	四〇九、八九四	二九七、四一八

○貿易總額　千兩

○大連港

昭和元	三六三、三一五
二	三七八、四三〇
三	四三一、四一一
四	五〇八、五三八

○營口（牛莊）港

昭和元	九一、一五〇
二	八三、三一八
三	八四、三三五
四	八六、五六四

○安東港

昭和元	九四、一七五
二	一〇七、〇〇九
三	九八、六七二
四	九三、三六一

○會社

貿易品種目・對岸地――南滿洲の貿易品を、出・入の二科目別に見れば、(一)主なる輸移出品としては、豆其他の穀物・雜穀・麩・鹽・肥料・豆油・繭・各種絲類・獸毛・薪炭・礦產品等であつて(二)主なる輸移入品としては、各種織物・絲類・種子・酒・飲料水・烟草・藥・機械蠟燭・石鹼・燐寸・化粧品・建築材料・電氣材料・紙・硝子器等である。此等は日本・支那及歐米各港との貿易であつて、孰れも逐年增加の傾向にある。

滿洲に在る英國貿易業者は、倫敦又はマンチエスターに本店を有する綿絲布商が多く、製造工場と特約して自家のマークを付け、尺度を長くし、一箱毎に賞品を付してゐる。米國商人は製造元の商標により賣込んで居る。

次に昭和三年度の北滿貿易總額は九千九百四十九萬五千餘海關兩であつて、同じく東滿貿易總額は一千一百七十九萬六千餘海關兩である。

會社

南滿洲各地に於ては、最近十數年來各種の商事會社が雨後の筍の如く設立

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

社數・資本金

	社數	資本金（千圓）
○株式會社	三八五社	五一六、七五一
州内	一九三社	四三三、四六六
州外	一六七社	六六、九八二
領事管内	二五社	一六、三〇三
○合資會社	五四八社	三七、一四八
州内	三九九社	一四、三三六
州外	一三七社	二二、六八五
領事管内	一二社	九三四
○合名會社		
州内	六五社	六、五八四

○在滿一二一社中昭和二年度配當ヲ行ヘルモノ三八社、一割以上一二社、缺損五二社、無配三一社、利廻一割二七社

○日支合辦の始祖は明治卅八年十二月創立の本溪湖煤鐵有限公司

されたが、其後の景況に伴なひ幾多の浮沈に際會した、現在に於ては、基礎の强固なものだけが殘存する傾向となつて、健實味を加へて來た事は明らかであるが數に於ては減少して居る。主なるものとして運輸業・銀行業・倉庫業・貿易業・各種工業・土地建物業・食料品加工業・信託金融業等を數られるが此他に、日本內地に本據を有する各種會社、工場等にして有力なる者は殆んど滿洲各地に支店又は出張所を有して居る。昭和三年末に於て日本管內會社數は七〇六社であつて此の總資本額は八億一千三百餘萬圓である。

合辦事業

日支合辦事業は、遠く日露戰役中より始められ、現今に於いては、多數の合辦組織が滿洲各地及蒙古地方に於て夫々成立して居る。鑛業・林業・農業・工業・運輸業・保險業・金融業等の事業の性質上、一國人を以て經營することの不可能なるもの、又は兩者の合併によつて利益の增大する場合に於いて組織され、隨つて土地又は開發の目的物若くは販路擴張上の便宜等の點に於て

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○合辦事業（資本金五十萬圓以上）	
○鑛業	四
○木材	一二
○銀行	九
○取引信託	九
○其他各業	四二
計	七六
資本總計	二二二、一一五千圓

實權や利益を保有して居る支那人と組んで、技術と資本を注入して利益を擧げねばならないもので、計畫や、事業經營等に關しては、日本人側に於て不眠不休の努力を要する、往時の如く太く短く對手に迷惑を懸けて後白浪といふ惡手段では永久の聯鎖は保たれない。支那人は猜疑心が深いと云ふが、さうさしたのは日本人の責任でもある。故に此の事業には最も細心の注意を要する。一方支那側に於いては、殆んど常習的に行はれる官憲の壓迫や無理難題やが、此の進歩的な事業を枯死させる原因となつて居るが地大物博を誇る大國民としては些々たる感情に囚はれて、切角の結合を破ることは東方の大局から見て非常な不利である。滿洲に於ける合辦事業の振はないのは、兩國民の民族性の差異にも據るが最大近因は、當事者の計畫や經營やを紊す貪官汚吏が絶えないからである。小規模の私人的契約による合辦事業は、不逞の徒から脅かされ、大規模の國際的な約定に據る事業には多く官憲の魔の手が及んでくるので、是等の障害の甚しい程合辦事業が振はなくなる。之れを當事者間に就いて見るに合辦事業は「二等客」と云はれ、互ひに相手方を警戒す

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

るから、親密になり難い。體面を重んじる支那人は、空位を擁しても幹部に加らうとする、隨つて重役を二重に置かねばならないのみでなく、一般係員に於ても然りである、其のために經費倒れに終る、滿鐵會社の今日の盛大を以てしても、之を日支合辦とせば恐らく利益は擧げられまいとさへ言はれて居る。かくして合辦事業の到達すべき山の絶頂は未だ恐ろしく遠い。此種事業に携る者は、最初から充分に眞相を究め、飽く迄も共存共榮を標榜してかゝらねばならない。現在存續する合辦事業は、煤鐵・鐵鑛・材木關係及各種銀行取引信託會社・建物會社・倉庫會社・保險會社・鹽業・水産業・電氣業・織物業・製糖業・運輸業・製造工業關係等であつて其數は主要なるものだけでも八十社ほどである。

通貨・金融界・銀行業

通貨

○支那幣制

支那の現行貨幣制度は、民國三（一九一四）年二月の國幣條令に基いて施行

一國幣條令第五條國幣量目品位左ノ如シ
（一）一圓銀貨幣七錢二分銀八九銅一一
（二）五角同三錢六分銀七銅三
（三）二角同一錢四分四厘銀七銅三
（四）一角同七分二厘銀七銅三
（五）五分ニツケル貨幣
七分ニツケル二五、銅七五
（六）二分青銅貨幣二錢八分銅九五、錫百分ノ四、鉛百分ノ一
（七）一分同一錢八分銅九五
（八）五厘同九分銅九五
（九）二厘同四分五厘銅九五
（一〇）一厘同二分五厘銅九五

されたものであるが、幣制の統一を計つた此の制度も空文に終つたかの觀がある。これより先、光緒二八(一九〇二)年九月英清條約には本位貨幣制定幣制劃一の約あり、光緒三四(一九〇八)年十月には庫平銀一兩(品位・九八)を本位貨幣とし、別に五角、二角、一角銀を鑄造する事と定めたが實行に至らず、宣統二(一九一〇)年四月幣制則例を分布し、庫平銀七錢二分(品位・九〇)を以て圓本位貨幣とし、銀元の鑄造を開始した際、革命に遇ひ民國と代り、此幣制は廢棄された。現在の制度は從屬本位制度ともいふ可きものであるが國幣條令の規定する自由鑄造はなく、公差及輕量目の規定等も空文に終つた爲に貨幣は素材價値と表面價値とを異にし、且各貨幣間の素材價値にも甚しく差異を生じ複雜を極めて居る。而して現に流通しつゝある銀元は孫、黎、袁氏等の記念幣、四川軍政府の四川幣等二十種以上に亘り省を限り又は地方を限り、品位量目、鑄造所等を異にし又補助貨幣に通用上の制限は守られず、且つ供給過多、輕質、惡質貨幣等續出し甚しく混亂して居る。

支那現行の紙幣は、中國銀行券、交通銀行券を始めとし、農商・邊業・勸

○紙幣

○支那幣制沿革

布幣
白鹿皮幣
合券
便錢務
交子
錢引
會子
鹽鈔引
茶引
關子
關會
交鈔
中統寶鈔
至元鈔
至大銀鈔
大明寶鈔
鈔鎖
錢票

業・殖邊各銀行券等の特殊銀行券、更に私設銀行及各省銀行等の流通紙幣、支那と外國との合辦銀行券、在支那諸外國銀行券等枚擧に遑なき迄である。

而して紙幣は遠く周代に「布幣」とて綿布に印書した物品貨幣が行使され、漢の武帝（開化・崇神）時代には「白鹿皮幣」が物々交換式に行使され、唐の憲宗（平城・嵯峨）の頃には決濟用に「合券」が使用され、宋の太祖（村上帝）の頃には「便錢務」が開始され合券を爲替手形の用に供したと憶はれるが、宋の眞宗（後一條帝）の代に始めて「交子」といふ兌換券が發せられ、交子一枚を一千文（實際は七百六十文）と交換された。徽宗（堀河帝）の代に交子を「錢引」と改め始めて紙幣となつた。然るに此の制は濫發のため維持不能に終り、「會子」「鹽鈔」「茶引」等の紙幣となり、南宋の高宗（崇德帝）の頃は「關子」「關會」等の紙幣が發行され七年目毎に回收新紙幣が發行される制となつた。此の時代金人は「交鈔」を造り大鈔と少鈔とに分けて用ひた。元の世祖中統元（一二六〇）年生糸を以て基礎とし、絲鈔を發し、後「中統寶鈔」が發行されたが至元二一（一二八四）年「至元鈔」に改替され、更に後に「至大銀鈔」と稱された。明の治世に移

つて洪武八（一三七五）年長さ一尺巾六寸大の「大明寶鈔」が發行されたが、清代に入つて順治年間「鈔貫」紙幣の發行を見た、更に咸豐年間「錢票」（錢鈔）の發行となつた。而してこの錢票は官造の域を完全に離れて民間（官銀號）に於て製造する事となつた。後光緒の中葉頃から外國銀行の銀行券を發行するに倣ひ、二三（一八九七）年中國通商銀行、三〇（一九〇四）年戸邊銀行（後に中國銀行）等設立夫々銀行券を發行するに至つたものである。

支那貨幣の銀兩は種類多く、一見分別に苦しむ程のものであるが其の根源を辿れば、寶錠（紋銀）なる假想標準銀の純分と各地流通銀兩の內包純分とを比較して、各種各樣の名辭や流通價値を派生したるに過ぎないものである。かくの如く通貨が使用價値上別に本尊を有するといふのは全然古來の銀地金（銀兩）の遺習であつて、鑄造貨幣は流通性は地金から受繼いだが、其の價値の標準の方は依然として 地金に占有されて居るといふ 奇現象を演じて居るものである。

而して貨幣の秤量には政府納稅用の庫平（一兩の重量五七五・八二グレイン）

○銀兩

銀兩	（グレーン）
海關兩	五八三・三
庫平兩	五七五・八
曹平兩	五六五・六
北平兩	五五五・七
天津兩	五五七・四
廣東兩	五七九・八四
牛莊兩	五五一・一
上海兩	五六六・六五

◇ケメラー委員會幣制改革法案
貨幣ノ單位純金六〇一・八六六八公毫ヲ含有スベク之レヲ一孫ト稱シ記號ヲSトス
一孫ヲ分チテ一百分（一分ハ一錢）トシ一分ヲ十厘ニ分ツ
貨幣ヲ（一）銀孫（二）五角・二角（補助貨）（三）一角・五分（白銅貨）（四）一分半・二厘（銅貨）ノ四種トス

○公估局

稅關用の關平（五八一・四グレーン）民間用の漕平（上海五六五・六九七グレーン）及別に民間に通用される各種各樣の市平の四大別がある。現在に於ては通用銀の元寶（馬蹄銀）と標準銀とを併有するのは上海のみであつて、他は元寶のみであるが、單に銀兩といへば、普通通用貨幣の謂である。

上海に於ける銀兩は抽象、具象兩樣を併存して居るが、計算標準銀は之を「九八規元」といひ、通用銀兩を「二七寶」と云ひ、元寶の種類は「夷場新」と稱ぶ。この通用元寶は量目が漕平の五十兩前後であるから毎個二兩七分五厘の打步を加へる。これ「二七寶」の名ある所以である。之を要するに標準銀即ち寶錠（紋銀）の純分九三五・三七四に比較して、上海通用の元寶は純分九八六・八一九にて、一・〇五五の純分過剩となつて居るためと、量目に於ても五十兩元寶は百分の二・七五を超ゆるにつき公估局は漕平五十兩を五十二兩五錢五分と定めたものである。然るに世に謂ふ上海兩は前記抽象銀兩の「九八規元」であるから、其の純分は九一六・六六六であつて、寶錠（紋銀）よりも低率であるが、慣例上標準銀九百八十兩は上海兩の一千兩に換算されて居た。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○滿洲の通貨

銅	
制錢	文
官帖	吊
銅元	文
銅元票	枚
銀	
銀錠	兩
過爐銀	兩
大洋銀（銀元）	元
大洋票（銀元票）	圓
小洋銀（銀角）	角
小洋票（銀角票）	角
私帖	角
銀	
墨銀	弗
横濱正金銀行券	圓
金	
日本銀行券	圓
朝鮮銀行券	圓
日本補助貨	錢
露國金貨	留

○過去の諸制

○各貨發行高四年

鮮銀券	一八、七〇一千圓
正金券	五、九七一
奉天票	一、三五三万元
新大洋票	二千万元
ハルピン大洋票	三、八〇〇万圓
吉林大洋票	七百萬圓
廣信大洋票	二千万元

滿洲の固有通貨は・制錢系・洋錢系・銀錠系に大別され（二六五頁參照）別に外國銀行の金券・銀券等がある。民國九（一九二〇）年奉天省に於て省立銀行を設立し、哈爾濱に本店を置いて大洋銀を準備とする國幣券を發行し傍ら幣制の統一を計つたが失敗に終り、他方在來の小洋本位制を大洋本位とし、所謂十二大洋を出現せしめた。此外現行の諸通貨として吉林に於ては官帖を、安東にては鎭平銀を、營口にては過爐銀を、關東州内にては金票、鈔票の發行流通を見る傍ら、此間大小銀元の介在する等混沌を極めて居る。

滿洲の通貨は古く、宋・遼の頃に鑄造せられた制錢があつて、既に金代にも使用されたが、貞元年間には交鈔庫の設立となり、大鈔・小鈔の二種の紙幣が發行された。かくて元代、明代を經て淸代となり帳簿上の取引決濟の信用制度として「抹兌錢」と謂ふのが發案され實行されたが、順次「寶銀」の鑄造を行ひ、「銀票」を發行して流通の便を計つた。然し此の頃から巨商の發行する「私帖」が民間に流通力をもつて居たので之れに制せられて銀票の勢力は未だ振はなかつた、後に營口の貿易が興るに及んで、元寶銀の流通が

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

吉林官帖九〇億吊
黒龍江官帖　一百億吊
熱河興銀券　一五百萬元

○現流通貨

○奉天票
○新大洋票
昭和四年五月十七日初發

漸く增加したが光緒一三年には吉林省に於て制錢を鑄造し、二四年には奉天省に於て一角、二角（十錢、二十錢）の小銀貨を鑄造し、吉林にては更に官帖の發行を見たけれども此の官帖は成績擧らず、爲めに吉林、奉天兩省共通の銅元を鑄造したが私帖の發行は依然として止まないので、光緒三一（一九〇五）年奉天省にては官銀號を設立し、各種の銀元票、小銀元票等を發行して私帖の發行を禁止した。此の頃から、各銀行も又許可を受けて銀行券を發行したゝめ、紙價低落し混亂に陷つたので、之が拾集策として、民國九年つひに前記東三省銀號の設立を見るに至つたものである。

滿洲に於て現に使用されつゝある通貨は、奉天票、哈爾賓大洋票、吉林官帖、黒龍江官帖、廣信大洋票、吉林永衡大洋票、同小洋票、黒龍江四分利公債券、鎭平銀、過爐銀、大洋錢、小洋錢等の支那側通貨と朝鮮銀行券の金票、正金銀行券の銀票及日本內地の硬貨及紙幣等である。

而して現に流通しつゝある奉天票といふのは、其數十數種である。即ち東三省官銀號滙兌券の一圓券・五圓券・十圓券。中國銀行券の一圓券・五圓券・十圓

○昭和五年二月三日
一、奉天票、吉林官帖熱河興業紙幣等の發行を中止し新紙幣を發行する事に決したと傳へられる。
一、更に金融整理監察委員會を組織し金融の整理を助け幣制統一を促進する事となつたと

○吉林官帖

○黑龍江官帖

○哈爾濱大洋票

券。公濟平市錢號銅元票の十枚票・二十枚票・五十枚票・一百枚票及新大洋票等である。奉天票の濫觴は光緒三一（一九〇五）年奉天將軍趙爾巽の時代に設立された、奉天官銀號に於て發行した銀行券である。その後幾多の波瀾曲折を經て現在に於ては前記四銀行發行の十數種類が通用して居る。

吉林官帖は光緒二四（一八九八）年時の將軍延茂が、省內に瀰漫した私帖憑帖等の弊害を防ぐために永衡官帖局を設立して銀元を鑄造し、其の不足を補ふために木版刷の銀元官帖を發行し私帖を禁じたのに始り、爾後幾多の變遷を經て、現に吉林省に於ては相當の勢力を以つて流通して居るが其の種類は一吊・二吊・三吊・五吊の小帖と、十吊・五十吊・百吊の整帖とを合せて七種類である。

黑龍江省內に流通して居る黑龍江官帖は、光緒三〇（一九〇四）年黑龍江將軍達氏、都統程德全等により吉林官帖に倣ひ發行されたが、別名卜魁官帖又は江帖とも言ひ、種類は一吊・二吊・三吊・五吊・十吊・百吊等である。

哈爾濱を中心として、北滿洲一圓に代表的勢力を占めて居る哈爾濱大洋票

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

は、ロシアの革命以來の混沌狀態に乘じて、民國八年九月中國・交通兩銀行に於て發行し始めて、露貨の權能を奪つたものである。現に是が發行權は中國・交通・東三省・邊業の四銀行及廣信公司の管掌するところであつて、種類は十圓・五圓・一圓・五角・二角・一角・五分の七種である。此の他に廣信公司の四釐債券十圓券・五圓券・一圓券の三種も亦哈爾濱大洋票と同樣に流通して居る。

○吉林大洋票

次に吉林の大洋票及小洋票は、永衡官銀錢號に於て發行されるもので、永衡洋票と別稱される。その種類は永衡大洋票一名大執帖の十圓・五圓・一圓の三種と、永衡小洋票一名執帖の百元・十元・一元・五角・二角、一角・五分の八種類である。

○過爐銀

銀爐

營口に於て通貨と等しい役目を行つて居る決濟制度に過爐銀といふのがある。一種の帳簿上の振替勘定制度であつて、當初光緒九年官憲銀爐及油房業者等の協議により、この制度が案出されたもので、各商人は其の所有する元寶銀を銀爐に預託するが、銀爐には帳簿を備付けて置いて、預託者の各口座

別に決済事務を行ふといふ方法で、元寶銀に對する一種の定期債權であつて、決算期に於て、銀爐から元寶銀を受取るべき權利に過ぎないものであつたが其後種々の變遷に遇ひ、硬貨の爐銀即ち元寶銀は姿を消して宙象的銀兩と化し、過爐銀は玆に銀爐を通じて授受さるゝ信用交換の媒介組織と化したものである。

○鎭平銀

鎭平銀は安東の元寶銀の別名であつて、營口の過爐銀と共に地方的通貨として竝び稱せられて居る。實物は馬蹄銀であつて、沙河鎭の下、鴨綠江口にあたつた安東即ち鎭口の平（秤）即ち鎭平を以て計算される元寶銀の謂である。一兩は五六一・八五グレーン（九・七〇八匁）で、一塊の通用量目は五三兩五錢品位九九二と定められてあるも、實際は五二兩から五四、五兩迄のものが流通して居る。安東固有のものは錦寶と稱し、全然新鑄しないために品位も劣つて居る。鎭平銀は上海の夷場新、芝罘の烟臺漕平銀等の移入改鑄されたものが最も多く通用して居て、之等は白寶と稱ばれて居る。

○金融

○正金銀行

金融及銀行業

滿洲の金融機關は、支那側と日本側との二大別として見られるが、支那側には農・工・商業に亙つて夫々に舊來の組織によるものと、新式の制度とがある。而して日本側の金融機關は主として銀行業である。

日本側金融機關――明治三三（光緒二六）年一月、橫濱正金銀行は牛莊（營口）に支店を開設したが、三五年一月には、「請求次第持參人に支拂ふ可き手形」の發行權を得て之を實行した。然るに三七年、日露戰役に際して日本政府は六種（十錢・二十錢・五十錢・一圓・五圓・十圓）の軍用手票を發行し、わが全戰線に亙つて流通して居たが、此の役に於て占領地帶へ次から次へと入込む日本人の數は多く、戰後はぼつ〱と商取引が開始されて、軍用手票だけでは不便となり、邦人の金融機關の整備を必要とする事の急務を告げたので、政府は正金銀行に一覽拂手形の發行權を與へ、之によつて軍用手票の回收に當らしめた。次で三九年八月には、强制通用力を有する銀券を發行せしめたが、四〇年の銀價暴落に際し、關東廳、滿鐵會社等は、從來の銀勘

○變遷

定を金勘定に改めたので、正金銀行は同時に、金勘定の預金及爲替事務をも取扱つたが、大正二年に至り、更に金券（一圓・五圓・十圓）の發行權を附與され是等は、滿洲及支那にも流通することを認められたので、同銀行は不動產に關する業務をも營むことになつた。

然るに鴨綠江鐵橋の開通、安奉線改築後は朝鮮と滿洲とが宛然一區域の觀を呈するに至り、朝鮮銀行及東洋拓殖會社等は相次いで滿洲に進出し來り、その鮮銀金券の流通及東拓會社の放資を見るに及び、滿洲に於ては、正金、鮮銀及東拓等が夫々金融界に三ツ巴となり活躍する事となつたので、政府はこの三特殊機關の統一を計る事とし、大正六年末より七年初頭に亘つて朝鮮銀行を一般商業機關の中樞とし、金票の發行と國庫事務に當らせ、不動產に關する事務は東拓をして之を行はせ、爲替及貿易金融事務には正金銀行を當てるといふ截然とした區別を立てた。こうして表面上の統一は完了し、此等を親銀行として是に系統を引く幾十の子銀行が滿洲に成立して居るが、現狀に於ては、各銀行業者が滿洲固有の諸事情に妨げられ、又刻々と變轉して行く

支那本土の情勢と密接な聯關を保つ、滿洲財界の不斷の動搖によつて浮沈常ないもようである。加之內地の財界に於ては滿洲から搾取こそすれ業務發展上の助勢が徹底しない爲に、金融業者は積極的に其の力量を振ふこと能はず等の理由に基き、前記の如く萎縮退嬰の狀態を續けて居るものと見られる。

○滿洲の銀行

滿洲に於ける主なる銀行には、滿洲銀行、正隆銀行、大連商業、長春實業、協成、滿洲殖產、安東商業銀行等がある。

○東洋拓殖會社

銀行以外の金融機關としては、東洋拓殖會社、各信用・金融組合、講會、信託會社等がある。

○中央銀行票

滿洲に於ける邦人側金融業者等は、今こそ我國が既成商工業への金融から一步を進めて、廣く全滿洲の進取的開發々展事業へ投資融通を試む可き機運に際會して居るとなし、荐りに大中央銀行の設立を要望して居る。

○十四銀行

而して滿洲に本店を有する十四銀行中、昭和四年上半期に於て配當を行ふたものは大連商業、安東實業、協成、長春實業の四行だけであつた。なほこれに正隆及滿洲兩銀行を加へた六銀行以外は、地場銀行としての機能を完全に發揮し得なかつたもようである。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○支那側
○票莊—多く山西人により爲替及貸付を業とした後銀行に改組
○錢莊—兩替、外國貨幣賣買、爲替、貸付
○銀爐—もと銀錠の鑄造をなし、預金と貸付業務をなし、油房綿糸布、雜貨等名目通貨の過爐銀により融通決濟した。
○當舖—質屋、都市到るところに金融又各省官省銀號は質屋を營み農村に貸付く。
○支那側銀行
光緒卅一年濬平銀三〇萬兩にて奉天官銀行設立
○農業金融
○外國銀行

支那側銀行業——滿洲人は古くから、票號（票莊）錢莊（錢票）銀號（銀舖）銀爐等を組織して商取引上の金融機關として居たが、巨商の私帖による決濟や、省政府の官帖などを以つて通貨として居るうちに、外國商人の浸入と共に銀行制度が輸入され、支那人も又光緒三一年、東三省官銀號を設立したが、其後黑龍江省廣信公司、吉林省官銀號、中國銀行、交通銀行等の設立を見、之等は擧つて夫々銀行券を發行し、在來の私帖の流通を防壓した。現に主要な支那側銀行としては、前記各行の他に、吉林の永衡官銀錢號、奉天の公濟市平錢號、邊業銀行、同大銀行等がある。

滿洲に於ける農家の金融機關としては、日本人會社の東亞勸業公司・東洋拓殖會社がある他、各村落の金融組合があるが、更に農業倉庫の變種でもある糧棧は各都邑にある、然るに日本内地に於ける正規の農業倉庫に類するものゝ設立は、種々計畫されて居る模樣である。

滿洲には前記日支銀行の外に、奉天、營口、大連等の南滿諸都市及哈爾濱を中心とする北滿地方に、外國銀行が活躍して居る。即ち滙豐（英國系）花旗

(米國系)及露西亞・極東(以上露西亞)兩銀行、佛亞(佛・露系)等である。なほ北滿地方には露西亞の小銀行が多い。

○鮮人機關

滿洲に於ける在留朝鮮人農家の金融機關には、鮮人民會附設金融部・金融組合・東拓會社・東亞勸業公司・協濟公司等がある。

商工機關

○正隆銀行
○滿洲銀行

商工會議所――商工會議所は、日本行政區域に施行さる可き特別の關係法規がないために、多く民法による社團法人組織として成立させた、而してその内容機能は内地の制度に類するものであるが、組織會員は有志の加入に俟つこととし强制しない、然れども商工業者の機關として重要視され、殆んど洩れなく加入して居る。現在商工會議所の所在地は、大連・奉天、鐵嶺・長春・營口・安東及哈爾濱の七ケ所であつて、奉天及哈爾濱以外は關東廳の監督に屬して居る。

華商公議會――華商公議會は日本側の商工會議所と等しい支那側の商工機關であつて、外國貿易の盛況に伴ひ、前清末期頃から、公共機關として設立

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○香港上海銀行○花旗銀行○露亞銀行○中國銀行○東三省銀行

○大連取引所
同上信託會社
同上錢荘信託會社

されたもので、由來土木・教育・賑恤・警備等の行政の一部をも代行し、又は官憲の税捐徴收を代辨する等の事務をも請負つたが、最近に於て大連公議會が、全然我商工會議所制を採用したるを始めとし、各公議會も亦順次之に倣ひ會員組織となつて行く傾向がある。華商公議會は現在大連・旅順・小崗子・金州・普蘭店・貔子窩の六ケ所に設立されて居る。

商務會――商務會は鐵道附屬地に於ける支那商工業者の公共機關であつて、滿鐵會社制定の通則により統一されて居る。大要商工會議所法又は支那商會法に據つたものであるが、法人格を有せず、會員組織にする程の強制力はない。總理・協理・議事員・座辨等の役員がある。長春・公主嶺・開原・四平街・双廟子・草河口・昌圖・瓦房店の八ケ所に現存する。猶ほ、支那商業者の協調機關である華商實業會は、吉林・長春・開原・奉天・遼陽・撫順・本溪湖等七ケ所の各城内に在る。

取引所――滿洲と云へば大豆を聯想される程、大豆と滿洲とは深い緣故を保つものであるが、之が製品である豆油・豆粕と共に、大豆は滿洲輸出

貿易の大宗であつて、凡ゆる商機が之によつて左右される程である、此の他高粱・小麥等所謂滿洲特産穀物の區々たる賣買制度に、一の統制を布いて成立したのが取引所である。滿洲の取引所は、此の穀類取引の他に、錢莊取引の事務があつて取引所の兼務とし、別に證券及主要輸入品に對し、商品取引所を株式組織を以て設立し、兩者相携へて經濟界に寄與して居る。各取引所は關東長官の管理する處であつて所長・主事・書記等の職員を置き、別に商議員會を設け、取引上の重要事項を審議、評決するもので多くは官營である。故に別に取引の擔保・精算等の事務を負擔する信託會社を設立して、先物取引の履行に就ての困難な擔保事務を圓滿に遂行させて居る。取引所及此に附屬する信託會社は、大連・開原・長春・四平街・公主嶺・奉天の六ケ所にあつて、別に株式組織の安東取引所がある。各社の資本金は五十萬圓以上一千五百萬圓である。取引人、取引方法等は一定の規定に據ること、なつて居る。

○開原、長春、四平街、公主嶺、奉天取引所
○大連株式商品取引所
○安東取引所

○取引所信託會社

○廢止取引所
鐵嶺、營口、遼陽
（大正十三年十月）
○取引人
免許料　一〇〇圓
（現物のみ二〇圓）
代理人　六圓

商工補助機關

○補助機關

○滿鐵會社以外倉庫
國際運輸、福昌、起業、大連、南滿、滿洲水產、大連製氷、奉天南海、奉天、撫順、吉林、遼陽、營口、貔子窩

○市場　二七
出店　六三九
賣場一千二百萬圓
（昭和三年）

○滿洲輸入組合

○滿蒙資源館

○損害保險會社

商業取引上の補助機關は、日本內地同樣完備して居る。今左に倉庫業、市場、輸入組合、商品紹介所及保險業の現況を略記して置く。

倉庫業は、滿鐵會社沿線の主要驛貨物取扱所內に附設されてあり、大連・營口・奉天・撫順等には、運輸と金融兼業の倉庫會社がある。孰れも預り貨物に對し保管證を發行して居るが、滿鐵會社の倉荷證券は、金融機關に於て現品同樣の賣買價値を認められる。尙ほ大豆・豆油の如き品質を同じくする物は混合保管法に依つて居る。

市場は、地方的即ち特殊大口貨物の取扱をなすものと、日用品の市場、特殊商品（肉市・菜市・牛馬市）市場、祭市、雜市等で主なるもの二七である。

在滿邦商等共同の利益のために、滿洲輸入組合が設立されて居る。即ち優良品を廉價に仕入れ、販路の開拓を計るのが主なる目的である。現在組合數は十五で、加盟人員一千四百餘名、出資積立金百七十餘萬圓である。この外大連市には滿蒙資源館があつて、滿蒙物資取引上の參考品を陳列し一般の觀覽に供して居る。

保險事業には、日本及諸外國會社の支店又は出張店が、州內及滿鐵附屬地に

日本　二九社
支那　七九社

當局の許可を經て營業して居るもの又は、滿洲に於て設立された會社等がある。支那人は、生命保險の契約者は極めて少數であるが、商品の損害保險の契約には熱心であるから、此種の保險會社は頗る好成績を擧げて居る。その種類は、洪水・馬賊の被害の補償等である、然れども近時、生命、火災に關する保險事業も相當に利用される傾向にある。

保險業は日露戰爭以前に、牛莊に於て英・米商人等が貿易業の傍ら、主として海上保險の代理店を開始したが、後に陸揚後の貨物にも及ぼし、業務を獨立するに至つた。日本側としては明治四二年二月日宗・共同兩火災保險會社が旅順に代理店を置き後に大連に移した。この前後に於て、前記營口の諸外國會社も亦大連に移轉して、業務の隆盛を計つたが、歐洲戰爭中に、日本の各保險會社は確實にそれ等歐米會社の業務をも繼承した。然るに大正七年大連埠頭野積場に、原因不明の火災の續發するに遇ひ、在滿の內地保險會社等は之に恐怖し保險契約の續行を斷つたので、大正一一年七月、滿鐵會社は大連火災海上保險會社を設立してその業務を開始させた。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY



關東廳



旅順工科大學

Digitized by Google

Original from KEIO UNIVERSITY



旅順



金州城壁

Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY

第六　關東州

關東廳―地方制度―大連海關―日本人子弟教育機關―支那人教育施設―神社及宗教團―度量衡―滿洲固有通貨―農業―林業―工業―鑛業―水産業―商業―愛川村―貔子窩（大連農事會社）農場

關東廳

關東州の行政は、關東長官に依つて統べられ、其の機關として旅順市に關東廳が置かれてある。關東長官は獨任制の親任官であつて、州の行政區域内に於て一般の行政事務を管轄する外、南滿洲鐵道線路及其附屬地一帶の警務上の取締をも掌るが、同時に南滿洲鐵道株式會社の業務を監督する。而して關東長官は、一般の政務に關しては、拓務大臣の監督を承けるが、支那の地方官憲との交渉事務を掌理するから、此の渉外事項に關しては外務大臣の監督を承けることになる。

○關東廳

關東長官

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○行政

關東州の行政は軍政に始り、後に都督が置かれ、更に長官に改められたものである。都督は陸軍大・中將を以て任じ政權と共に兵權をも委任されて居たが、現行の關東廳は純然たる文治行政機關である、ただ陸軍武官が長官に任ぜられた場合には、關東軍司令官をも兼ねること、臺灣總督の場合と等しい。

○廳令

關東廳の最高行政官廳は、關東長官であつて、長官の命令を廳令と云ふ。

(一)一ケ年以下の徵役、禁錮若くは拘留又は二百圓以内の罰金若くは科料の罰則を、又安寧秩序を保持する爲、臨時緊急を要する場合にはそれ以上の、罰則を附する事が出來るが、例外の場合には事後の手續を經ねばならない。

(二)管轄區域の安寧秩序の保持又は鐵道線路の警護の爲、必要ある場合は、軍司令官に對し、兵力の使用を請求する事を得る。長官は直接に部局を統轄し、部局補助として局長・財務部長・事務官・秘書官・理事官・技師・警視・飜譯官・屬・視學等がある。別に交通事務に關し顧問を置くが、南滿洲鐵道株式會社の總裁を以て之に充て丶居る。

○民政署

州の第二次行政組織として民政署がある。其の行政官署は民政署長であつ

○滿鐵行政
土木—敎育—衞生
○警察制度變遷
一、民警統合制
二、領事警察統合制
三、警憲統合制
四、警憲分離制
五、民警分離制
六、民警統合制

一、高等法院上告部
二、覆審部
三、地方法院
四、檢察局
五、民政署
六、支署
七、警察署
民政支署、警察署
州內 八
附屬地 一四

て、各區別の行政管內に於て一般行政事務を處理する。署長には事務官を以て之に充てるが其の性質・地位・所管事務・職權等は大體臺灣の州知事と同樣である。其の命令を民政署令と云ふ。更に第三次の行政組織に、民政支署がある支署長は理事官又は屬を以て之に充てる。

南滿洲鐵道株式會社附屬地內の保育行政に關する權限は、同會社に轉付せられてあるが、警察權は關東長官に屬し、警察署を置て之を掌らしめて居る。關東州並に州外鐵道附屬地の警察事務の統制には、廳に警務局長を置き、長官の命を承け管內に於ける警察及衞生の事務の執行を司らしめ、民政署長・民政支署長・警視・警部・警部補及巡査等を指揮監督せしめる。州內に於ける警察官廳は民政署長・支署長・警察署長であつて州內の警察署長は民政署長に於て、又州外の警察署長は領事をして廳事務官を兼ねさせて、夫々監督の任に充てゝある。警察署長は管內の警察及衞生の事務を掌理する。

州の司法制度は二院三審制である。即ち地方・高等の二法院と、高等法院の上告部と覆審部とである。各法院は管轄內に於ける民・刑事の裁判及非訟

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

領事管内計　二八六

直轄及派出所
州内　一四五
附屬地　一九九
領事々内　四八
計　三九二

○司法制度
高等法院　旅順市
地方法院　大連市

○市制公布　大正十三年五月
同實施　八月一日

○州内、附屬地、領事館々内日本内地人人口移動（各年末）

年	人
明治三八年	五、〇三五
三九	一六、六二五
四〇	三七、八八二
四一	四六、九四二
四二	六五、九〇一
四三	七四、二七一
四四	七九、〇〇一
大正元	八五、三三八
二	九〇、二九七
三	九四、七〇七
四	九七、〇六二
五	一〇三、〇三五
六	一二一、五七八
七	一三四、三五五
八	一三九、七三四
九	一五二、七八七
一〇	一五八、一三三
一一	一六三、五八七

事件に關する事務を取扱ふ、兩院には各檢察廳を附設してある。

地方制度

關東州内に於ける地方制度は、市制・會制の二種に別れ、大連及旅順に市制を布き、州内各村落に會制を施行して居る。市の執行機關に市長があり、市長は市會の選擧し推選したる候補者三名中に就き關東長官之を選任する。市長の補助機關として助役・收入役・主事・書記等がある。市の決議機關である市會は、官選・民選の市會議員を以て組織される、議員の定員は現在旅順市一六人、大連市は四〇人であつて内旅順市二人、大連市七人は官選とし中國人を以て充て他は悉く日本人で民選に依る。市の事業は公衆衛生に關する施設・小學校・公學堂等の廳立學校の施設と庶務に當り、大連市に於ては高等女學校・商工學校を經營し、職業紹介所・市營住宅・市營質舖・公園・市場・火葬場・墓地・街燈等を、旅順市に於ては、屠畜場・火葬場・墓地等を經營して居る。

一二	一六九、二二六
一三	一七三、八六六
一四	一八〇、一四九
昭和元	一八五、二八四
二	一九〇、八〇四
三	一九八、〇六四
四	二〇七、九六一
○昭和五年五月末	二二四、二六〇

○大連自由港建設ニ關スル露國皇帝ノ勅令一、八九九年八月一一日

會制は日本內地の町村制に類するもので、現在關東州內の會數は六九であつて、會の下に街・屯があり其數三五街、五六三屯である。會の執行機關としては、關東長官の任命に系る會長があり、補助機關として會計員・書記・書記補及技補等がある。會の諮問機關には協議會を設け、土木・衛生・地方改良・救護・屠獸場・市場等公共事業を經營して居る。

大連海關

關東租借地一圓は、明治四五年三月の日支協定に據り、關稅自由地區となつて居て、大連港は自由港であるけれども、租借地を通過して支那主權地帶に出入する貨物に對する關稅を徵收する爲に、支那政府は大連に海關を設置して居るが、條約に據つて海關長には必ず日本人を任命し、海關員も亦原則としては日本人を採用する事に極めてある。なほ大連海關は、支那の通商港に於ける海關に屬する一切の職務權利又は資格を有するが故に、支那各地不開港と往復する內外國汽船に對し內水航行免狀を發令することが出來る。

Digitized by Google Original from KEIO UNIVERSITY

○金建制
昭和五年二月一日より實施
三月一日ヨリ大連ニテハ正金銀行當日ノ銀相場最初ノ建値ニヨル
率八〇、二二四八

○免稅種目
明治三九年九月勅令第二六二號大正一四年六月一七日法律第五十一號
昭和二年第四三號
昭和四年第六四號

關稅は輸入稅・輸出稅の二科に分ち、課稅の科目は、(一)海路大連に輸入し、陸路關東州境界を越え、支那內地に移送する外國貨物。(二)關東州內の生產物又は、之を以て製造したる貨物を、陸路支那內地に移送する場合(三)陸路支那內地より移入したる原料を以て製造したる貨物を輸出する時は、輸出者の撰擇により、原料又は製品に對し、(四)支那の通商港より、海路大連に輸入したる支那貨物を、支那內地に移送する場合(五)陸路支那內地より移入したる貨物を、支那通商港に輸出する場合及到着港に於て、等の輸出・輸入又は沿岸貿易稅であつて、免稅科目は、(一)海路大連に輸入し、關東州內に於て消費する貨物、(二)陸路支那內地より移入し、關東州內に於て消費する貨物、(三)關東州の生產物又は、之を以て若くは、外國より輸入したる原料を以て製造したる貨物を輸出する場合等である。尙ほ關東州內生產品を日本內地に輸入の場合は特定の貨物に限り、內地諸港に於て輸入稅を免除されて居る。而して昭和四年二月一日より實施された新輸入關稅は稅率二割七五より七分五厘に亙り一二品種七一八品目に分類されて居る。

日本人子弟教育機關

關東州の在留日本人團は、日露戰役當時（軍政時代）に於て、早くも小學校を設立したのであるが、其後教育機關が逐年發達し、今では小學校の他に中學校實業學校・高等女學校・專門學校・大學等が設立されて、在留邦人子弟の是等各學校への就學率は、內地の地方都市に比較して、遙かに優越して居る。

在留邦人子弟の教育方針は、各學校とも內地の諸法令に準じて定めたものであるが、特に滿洲の環境と生徒の將來を考慮し、滿洲を理解せしむる點に努め、此等に關する特別の科目が課せられる事になつて居る。教科書は文部省著作又は檢定濟の物を用ひ、小學生徒は轉學、入學等に際して、內地に於ける市町村立學校と等しい資格を有し、中等學校生徒の轉學入學に關し、府縣立各學校と等しく待遇され、徵兵令・文官任用令、其他專門學校、大學等の特典も內地同樣である。尙ほ教職員の任用に當つては一定の制規によるが、此等の教職員は在外指定學校令により、內地各學校在勤者同樣恩給法の適用

○各種學校

○概說

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

を受ける事になつて居る。

○小學校

關東州内小學校は、明治三九年五月、旅順・大連に始めて、開設されたが、逐年增加し現在に於ては、尋常校九、尋高校一一、合計二〇校であつて、生徒の總數は一萬三千五百餘人に及んで居る。

○中學校

中學校は、旅順第一(第二は支那人子弟)大連第一・第二の三校(廳立)があつて生徒の總數は二千二百名である。實業學校は、東洋協會立大連商業學校・大連市立商工學校の二校があり、女學校は旅順高女・大連神明高女・彌生高女の三校(廳立)の他に商業女學校(大連)がある。

○專門學校

滿州内に於ける邦人子弟の專門教育機關に、南滿洲工業專門學校がある。滿鐵會社の設立經營に系り、大正一一年五月中等の工業學校から昇格したもので、修業年限三ケ年、建設工學科(五分科)機械工學科(四分科)の二科に分れて居る。

○大學

旅順工科大學は、大學令による工學科の單科大學で、大正一一年四月、專門學校であつた工科學堂の昇格したものである。特色とする點は、他の大學

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

の如く學科制を採らず、所定科目の範圍内に於て、學生をして自由に撰擇聽講せしむる點にあつて、學生の修學上、又學校の經營上、利益と經濟を兼ねたる優越した制度と言はれる。現に工學部大學豫科及豫備科がある。

○幼稚園

最後に、南滿洲の幼兒保育機關は、最も滿足さる可き程度のものであるが、州内に一七ヶ所の幼稚園があり、就學前の一・二年を有益に保育しつゝある。

支那人教育の施設

滿洲の日本施設地域に在住する支那人子弟のために、關東廳・滿鐵會社又は居留民團等に於て教育機關を設立して來たが、關東州に於ては、初等教育機關として公學堂一〇校あり、初等科・高等科・補習科を合せて生徒總數八千七百人である。一方日本の寺小屋に酷似した純支那式の、書房と稱する土着民の小學教育機關を、關東廳に於て規則を設け改善發展を助勢した普通學堂といふのがあり、教師の如きも公學堂の殆んど日本人であるのに反し、全然支那人を以て當らしめて居るが、現在其數一一〇にて男女兒童數二萬三千

○公學堂

○書房

○普通學堂

○私設講堂

○旅順第二中學校
支那人子弟一六二人

○神社數一〇

○神道二四社

○佛教一二二寺

○キリスト教
二三教會

人である。他に私立書房が二〇七房あつて、その兒童數は三千四百人である。此の他に、大連に於ては青年會其他に、普通教育を授くる私設講堂がある他に大連商業學堂・金州農業學堂・旅順師範學堂及前記旅順第二中學校がある。

神社・宗教團

關東州内は、日本内地と變りなく、各宗各派の寺院・教會等殆んど備つて居り、各道の神社亦缺くる者ない狀態である。州内に於ける神社の數は一〇社で、祭神は天照皇太神・大國主神・事代主神・應神天皇・明治天皇を祭る。祭祀は内地の例を基とし、滿洲の事情を考慮して各社隨時是を行ひ、祭典は大祭・中祭・小祭に區別されて居る。

宗教は現在各派殆んど洩れない程度に揃ふて居る。即ち(一)神道――天理教・金光教・大社教・黑住教・實行教・神理教・御嶽教・產靈教。(二)佛教――眞宗各派・眞言宗各派・淨土宗各派・日蓮宗各派・曹洞宗・臨濟宗。(三)基督教――日本基督教會・組合基督教會・福音ルーテル・天主教・聖公會・メソヂスト教會・

Digitized by Google
Original from KEIO UNIVERSITY

回々教二會
道教九三會
儒教七會
其他二
計二七四

○支那人の宗教

○度量衡
○權度法
○權度工業特許法
○施行細則
（民國四年發令）

カトリツク教會・救世軍・ミカリー教會・ホーリネス等である。是等は孰れも本山又は本部よりの補助を受けて居るが、總經費は信徒の喜捨・寄附・財產收入・維持講金・勞働收入・現品收入等の諸目に因つて維持されて居る。

支那人の宗教には、佛教・道教・儒教・回々教・喇嘛教がある。（一）佛教は更に、賈菩薩派・雲棲派・法眼派・曹洞派・臨濟派・毘盧派・雲氣派等に別れ、（二）道教は、龍門派・金光派・華山派・金會派等に別れて居る。道士・僧侶は寺廟に起臥するが、私產或は子孫院といふ父子相傳の制と、公產廟或は十方院と呼ぶ公共維持のものとがあり、多くは所屬財產として、土地・家屋・料地を所有し、自ら耕して衣食して居る。

度量衡

關東州は日本の租借地であつて、日本の法律は勅令に據り適用されるので、凡て日本の諸制度が準用されて居るけれども、支那古來の商業慣習の如きものは、依然支那の制度と併用されて居る。玆に關東州及南滿洲鐵道附屬地各

○メートル法
一九二七年二月六日國民政府發布

○度

裁尺

營造尺

大尺

拐尺

五尺捍子

○尺度

分
寸(十分)
尺(十寸)
丈(十尺)
引(十丈)
里(十八引)

地に於て行はれて居る支那固有の、度量衡の大略を抄出して見やう。この外には尺貫法・メートル法・ヤード・ポンド法及ロシア式度量衡等が行はれて居る。

度——度器の種類は多いが、その長さは幾種にも別れる。主なものを擧ぐれば、(一)裁尺(裁衣尺・衣尺・小尺)は洋布及、朱子・緞子等の大幅物を度る、大略我鯨尺九寸である。(二)營造尺(工部營造尺・官尺・魯班尺・蘇尺)は小幅織布や、建築用・工藝用に供せられ、營造尺の九寸は裁尺の一尺に當り、凡て我鯨尺の約八寸で直一尺に當る。(三)大尺(布尺)は大布尺といふ支那製大幅木棉を度る、鯨尺の約一尺三寸五分、直尺の約一尺七寸に當る。(四)拐尺は、木材を度るに用ひる木匠用であるが、我曲尺に似て長枝と短枝に別れ、長一尺七寸又は一尺、短一尺又は五六寸位である。(五)五尺捍子・丈尺繩子は材木を度り又は土地の測量用に供し、凡て營造尺と等しいものを基準とされるが長短は一定して居ない。以上の他に尙ほ數種あれど、孰れも地方々々に依り、長短多少の差異は免れない。

○奉天省

弓、畝、丁

○地測は一複步を五尺とす(支那尺一尺は日本の一尺三三)

○吉林省

○黑龍江省

○量

斛・管・格子

地積の測定には數種類あるが、(一)遼寧省に於て廣く行はれるものは、弓畝・丁(天・日・晌)とし、一弓は五尺平方で、日本の七合四一に當り、二四〇弓を以て一畝とし、一〇畝を以て一丁とする。故に支那の一畝は日本の五畝二七步八四に當り、一丁は五反九畝八步四に當る。然るに支那統一の清帝を援けた滿洲八旗の所有地即ち旗地の測定には、三六〇弓を以て一畝とし、六畝を以て一丁とするので、旗地の一畝は我國の八畝二六步七六に當り、一丁は五反三畝一〇步五六に當る。(二)尙ほ吉林省にては、旗地と等しく測定すれど、一〇畝即ち我國の八反八畝二〇步六を以て一晌となし、(三)黑龍江省にては、二八八弓を一畝とし、一〇畝を一晌とし、四五晌を一方とし三六方を一井と做す。以上は標準であるが、地積實測上に於ては、雜多の慣習が各地に存在して、殆んど一致點が尠い位である。

量——量も亦多種多樣であるが、勺・合・升・斗と呼び十進法に據る點は我國と等しい。然るに五斗を一斛と云ひ二斛を一石といふ、又勺以下にも、抄・撮・圭等の名稱がある。量の標準器として、斛・管子・格子等あり、(一)奉天

Digitized by Google Original from KEIO UNIVERSITY

の省政府衙門にある斛は、長方臺形で、我國の六合三勺九七三三四である。(二)金州旗衙門の管子は、我が二合九才六四一二九(三)貔子窩海關の管子は、我二合九勺三六四一二九であつた、(四)格子は管子の十分の一、管子は斛の殆んど二分の一に當る、斛・管子・格子は各地の一斗量の標準を示すものである。

○穀類　官斗　倉斗　市斗　囤斗　佣斗

穀類の計量器は、官斗・倉斗・市斗(私斗)囤斗・佣斗等がある。(一)官斗は、方邊八寸五六分より九寸一分深さ五寸一・二分より五寸六・七分、木の厚さ一分である。容積は我國に換算すれば、金州官斗(一斗)は一斗四升又は一斗三升二三に當り、奉天官斗(五升)は六升四八に、開原官斗(五升)は七升五四に當る等一定して居ない。(二)倉斗は現在消滅し、(三)市斗(私斗)は商取引に廣く用ひられるが、一斗・五升・一升・五合等の種類があり、金州斗は我國の一斗六升三七に當り、旅順斗は一斗五升四一に當り、大連斗は一斗七升五三に當り金州一升は我一升六一に當り、旅順一升は一升五二に當り、大連一升は、一升八合に當る。而して奉天の五合は我が〇升八六に當る。(四)囤斗・

俑斗は貔子窩稅關で、穀類輸出入に使用する、檢査標準量器であつて、囤斗は我國の一斗七升に當り、俑斗は一斗六升五九に當る。此の外(五)柳條斗は農家にて凡て收入の目安に用ふるものである。

○穀類の斤量目

(一)穀類の斤量は各地每年の豐凶により異つて居るが、大體に於て支那斤一百斤は日本斤の九二斤に當る。

○液量器

(二)液類量器は油胡盧・油酒提等がある。

油胡盧

油胡盧は、油類の買賣に使用し、一提・半提・四兩・二兩・一兩・半兩入の六種がある、然るに此器は純粹の量器でないため一提何斤と計算して使用する、容積區々で一定しないが、金州地方使用の分は、油胡盧一提は日本の五斤四六〇又は五斤五六〇に當り、半提は三斤三二、又は三斤二六三或は二斤〇七に當る。而して四兩は我國の一斤五〇四に當る。(三)又遼陽に於て油類を量るに用ふるは、一斤桝を一六兩とし我一六〇目に當り、半斤桝を八兩とし我八〇目に當る。

油提

(四)油提・酒提は、名稱の示す如く、油類又は酒類の賣買に使用するもので、金州酒提の一提は我國の三合九二五又は、四合七四九に當り、四兩は一合三六三で外に二・三種ある、油提の四兩は我國の〇合八七五に當

○量器の製作

○檢査
鐵嶺官秤局
〃公斗局
遼陽公斗局

○衡
擔・斤・兩・錢・分・厘・毫

り、一兩は〇合二五九又は〇合一八四に當る。(五)遼陽に於ける燒酒を量る量目は、一提桝を二八兩とし即ち我國の六合に當り、一斤桝を七兩とし、我國の七〇匁に當る。

量器の製作は官用以外の物は、民間の自由製作とする。檢査は支那政府財政廳で之を行ふことになつてゐるが、財政廳のない地方では、その所屬官署で行ふ。稅捐局か、その地方の商務會又は取引所に於て檢査したものには一定の烙印を押捺して居る。支那官憲は量に對し斗帖稅を課し、一斗桝一個につき大洋一九元八角を納めしめ、猶ほ春秋二期斗帖書換の際同額を課して居る。

衡――衡の種類も一定しないが、其稱呼は、擔・斤・兩・錢・分・厘・毫等である。(一)一擔は百斤であつて日本の一五貫二〇〇匁に當り、一斤は一六兩で・一五二匁に、一兩は一〇錢で九匁五分に、一錢は一〇分で九分五厘に、一分一は厘で九厘五毛に、一厘は一〇毫で九毛五絲五に一毫は九絲五に當る。(二)秤は、官秤・市秤の別あり、市秤は更に天秤(漕平・市平)戥子(漕平戥子・市平戥

○秤

官秤

市秤

○昭和二年八月ヨリ關東廳權度所開始度量衡ヲ統一ス

○支那はメートル法に依るものを萬國權度通制として發布した、農商部編「中外權度比較表」參照

子）秤（蘇秤・絲秤）に分けられる。而して、金銀類の秤量には漕平・漕平戥子を用ひ、藥類には市平・市平戥子を、石炭・薪柴類には蘇平を、絲類には絲秤を使用する。蘇秤は商人の擬作に官印を押捺して一般商取引に用ひるが、其斤量は、漕平・漕平戥子及絲平の一斤（一六兩）に對し一八兩に當り、市平・市平戥子の一斤（一六兩）は一六兩六に當る。而して支那人の一斤は大略日本の一五〇匁、百斤は九二斤と見て大差ないもの丶ようである。

滿洲固有通貨

○支那通貨

○制錢系

○洋錢系

滿洲の固有通貨は、一貫した制度と認む可きものはないが、現に流通するものは、大別して、制錢系・洋錢系・銀錠系の三種に分けられる。（一）制錢系は是を硬貨と紙幣とに別ち、（A）硬貨は更に、制錢と銅元に別れる。制錢は現時專ら邊陬の地域のみに通用する孔明き錢で日本の寬永通寶に類する。單位は文である。銅元は銅子兒と稱し、廣く通用するが我國の靑銅貨に等しい。（B）紙幣は官帖と、銅元票の別がある。官帖は、制錢本位の紙幣で七種類あ

Digitized by Google Original from KEIO UNIVERSITY

○銀錠系

り、吉林・黑龍江二省に通用する。銅元票は奉天小洋票と同樣に取引せらる銅元本位の紙幣である。(二)洋錢系には硬貨と紙幣の兩制あり、(A)硬貨は洋錢又は銀元と呼び、我銀貨幣に類似するもので、元を單位とし、十分の一を角又は毛と呼ぶ、一元・五角・二角・五分の五種あり、一元を大洋錢と云ひ五角以下を小洋錢と云つて、各獨立の通貨として、廣く一般に通用する。(B)紙幣は、洋錢票・現大洋票・奉天大洋票・奉天小洋票・私帖の五種に別れる、孰れも洋錢本位の紙幣である。(三)(A)銀錠系は、硬貨を元寶銀と呼ばれ邦人は馬蹄銀と呼ぶ、州内には流通しない。(B)此の他に過爐銀といふ、專ら營口に行はれる貸借上の振替勘定制度があるが、紙幣の態をなして居ない一種の信用手形の如き用をなすものである。(二三〇頁參照)

農業

○州内の農業

關東州の農業は、滿洲全地方と等しく主として支那人の經營であつて、若干の日本農家を見るだけである、主要農產物は、玉蜀黍・高粱・粟・黍・稗・大

○農戶及人員
專業
日本人　三〇九戶　三九四人
支那人　四六、七四〇戶　一八四、八二七人
兼業
日本人　五九戶　八一人
支那人　一〇、六三六戶　三五九、九〇三人

麥・小麥・大豆其他の豆類・水稻・陸稻等で、昭和三年末の收穫高は二、四七三千石に及び、蔬菜は都市附近に於て營業的に栽培されるものとしては、蘿蔔・葱・茄子・白菜・甘藷・胡瓜其他であつて、六九、七九四千斤に及んで居る。

州内の土地には業主權・典權・租權が認められ、夫々我内地の所有權・不動產質權・賃貸借債權と同樣に扱はれて居る。耕地は昭和三年末に於て、田・畑二百萬餘反に及び年々增殖して行つて、近年滿洲各地に商工業の勃興につれ、農家子弟の賃取に出稼ぐ者も年一年と增加しても、土着農は減少しない。

○農法

州内土着民は、永代、農を本業として經過して來て居るが、氣候・地勢・土質・作物の關係上、農法は極めて粗雜である。農民は總體に粗食に馴れ、勤勉であつて、牛馬の使用に妙を得て居る。農作は普通二年又は三年輪作で、初年は玉蜀黍に大豆の間作をなし、二目年には粟を作り第三年目に高粱を作るといふ風であるが、土地の狀況に依つては連作法をも行つて居る。

○耕鋤法

畑地の耕鋤法は、(一)前年の畦を犁にて鋤割り耕地を平坦にするものと、

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○耕地面積(昭和三年)		町
田	五七七	
畑	二〇三、三九四	
○農戸	五九、二四八	戸
○農產物		千石
穀菽類	二、四七三	千斤
蔬菜類	六九、七九四	
果實	五、〇四七	
特用作物	八〇六	
○特用作物棉花		
果樹		

(二)畦溝の別なく耕鋤する法と、(三)更に飜地と言つて、畦と溝とを耕鋤しながら作る方法とがある。下種に先ち、豫め钁頭又は鐵把を以て根株を打起し、菜園の整理は耕鋤後にローラーを以て土塊を碎き、地均の後畦立を行ふを普通として居る。習慣上、肥料を施さず、地力の減耗を顧みなかつたが、近年關東廳の奬勵により、施肥して作物を增收する事に努めるようになつた。農家は主食物として玉蜀黍を用ひ、高粱・粟は此に次ぐ。稈は牛馬の飼料又は燃料とし、建築材料や容器の作製にも使用される。

州內に於ける陸地棉の栽培は關東廳の奬勵と民間の努力と相俟つて逐年增加し、昭和三年度の州內收獲高は六五五千斤に及んで居る。此他に特用作物として麻類がある。果樹は、州內の風土が、落葉果樹に快適であつて、果實の品質優良のため、盛んに滿洲各地、支那內地に輸出される。種類は林檎・梨・桃・葡萄・櫻桃・杏・李・山椒・棗・海棠及其他の雜果であつて、州內に於ける果樹園の經營者は、八〇〇餘戸(內日本人一二五戸あり)にて、栽培反別三千九百餘反に及び、昭和三年の產額、五、〇七四千餘斤に及んで居る。

○水田

○滿洲の米總產額
昭和三年度一百五十萬石

(蠶業

○家蠶(昭和三年)
七五九、三九九石

○野蠶(昭和三年)
一、九四一、〇〇〇餘粒

水田は支那古來の風習上、永年殆んど顧みられず、只だ水溜地を利用して、小規模に作られたが、日本人が移住して以來、水利に着目して水田を創始し、著々進步を見るに至り、土着人も亦是に倣ひ、適種の選擇、作付の改善等公設機關の指導と相伴ひ、逐年好成績を示して來た。最近の年收高は八千石を超過するに至つた。

蠶業は、家蠶・野蠶の二種である、(一)家蠶は日本の領有前に於て、殆んど營業又は副業として飼育する者はなかつたが、土地と氣候の關係上、日本蠶や桑樹の發育可能なるを知り、明治四一年頃から官邊や民間で、養蠶が試みられ、逐年好成績を示し、日本蠶、支那在來種及兩者の交雜種等、此地方の適種を得て、漸次盛んになつて來た、近年七六〇石近くの繭を產出するに至つた。(二)野蠶は、柞蠶・樗蠶・天蠶の三種類であつて、柞蠶は、從來州外の支那人が、州內の柞樹林を、收繭高の二割を林主に與ふる契約で借受けて飼育して來たが、柞樹林は雜木林中にあるもので、純然たる柞蠶の飼育場には適しないので、近年柞蠶飼育林が造營せらるるに至つた。樗蠶は山野に

自然に生ずるものであるが、繭の利用は未だ行はれて居ない。天蠶は日本からの移入種で、適種なる事が證據立てられたが一般に支那間に於ても、家蠶の飼育が年一年と盛んになりつゝある。

○農事試驗場

廳立農事試驗場は、金州城東門外にあつて農產・畜產・模範農事・種苗・蠶種・種卵・種畜の配付・土壤・肥料・農產分析・種苗・肥料の鑑定・農事巡回講話・講習・農具・農產物の標本陳列に關する試驗や各施設を掌る。尙ほ穀菽・蔬菜・果樹の試驗・花卉及樹木の種苗並に山林及道路並木の苗木を供給する、果樹園・普通作物場・特用作物場・蔬菜場等の設備がある。

○蠶業試驗場

蠶業試驗場は、旅順明治町にあつて、蠶種・養蠶・講習・野蠶・桑樹・製絲に關する事項を掌り、別に桑園及果樹園・蘽柳園を有し・蠶室・製絲工場等がある。

○畜產（昭和三年）

牛	二九、一七一頭
馬	八、〇〇〇頭
驢	二八、四三三頭
騾	二一、五〇一頭
山羊	六、八三〇頭
緬羊	一、八八七頭
豚	九三、八〇三頭

畜產は、在來の支那種に、改良を施し、地域の狹小な州內に於て、經濟的效果を擧ぐるに適する品種を得るに努めた結果、逐年優良種を殘すことが出來るやうになつて來て居る。種類は牛・馬・騾・驢・羊・豚等で、農業經營に、運搬用に交通用に使はれ、又は食用として重要なことは內地と變らない。州內

○家禽　八一、三八九
鶏　二五、八八六
鵞鳥　二、一九〇
七面鳥　六五九
○林野　九四、九〇七町
○造林面積　六八、八四三町
○將來にあり

には約一八萬頭の家畜と、三一萬餘の家禽とが飼育されて居る。

林業

支那の古語に「山高きが故に貴からず、木あるを以て貴しとす」といふが、關東州の山々は高くもないが、樹木の無いのが多い。併し古くからの禿山ではなく、數百年來濫伐し、植林せず、野火、放牧及採草等のために、つひに今日の荒涼たる狀態に至つた。然るに山紫水明の境に育つた日本人が移住してから、逐年、植樹造林に力を致し、苗圃の施設を始め、造林や濫伐や山荒しの監視に努め、州內は樹木の翠色を見られるやうになつた。數年、十數年後には、此地方一帶に、杉、柏、萩、胡藤等の森や林が出現するであらう。州內の林野は全面積の三分の一を占め、九四、九〇〇餘町步であるが既成林野の面積は二、五〇〇餘町步である。現に山地に自生する樹木は、赤松・柳類・白楊類・榀・柞類・楡類・槐・楓類・赤楊類・公孫樹等である。

○州工業
（昭和三年）
工場數 六九〇
資本金 六四、一四三千円
職工延人員
日本人 六〇三、三三〇人
主要工産物 八九、〇五一千円
（昭和四年）
工場數 六〇三
生産高 八四、一三四千円

○礦業
昭和三年度
苦灰石 八〇、七〇四噸
石綿 一四四、三〇〇噸

工業

州内の工業は、大戰中雨後の筍のやうに、近代的各種機械工業の發生を見て、在來と異る產業界の活況を呈したけれども戰後の恐慌により、倒產相亞いで頻發し、前途悲觀されたが、其後漸次恢復し安定して、逐次堅實な發展の途を辿りつゝある。油房製品・綿絲・セメント・各種器械類・精米・味噌・醬油・織物・生糸・麻袋・覆布類・肥料・骨粉・鐵製品類・マグネシヤ・煉瓦・硝子器・染料・石鹼・製氷・飲料水・菓子其他の年產總額は八九、六三四千餘圓に及んで居る。（一七八頁參照）

鑛業

州内の鑛產物は、苦灰石・石綿・鐵鑛・砂金・石炭・重晶石・硅石等であるが、一般に州外各地の鑛業產出品に比し品位劣等で、苦灰石及び石綿の小量以外に未だ有望なものは見當らない。

○漁業
州の海岸線 七〇〇哩餘

○日本式漁法の種類

○支那人の漁業状態

○漁業者
土着支那人 三、六九四人
定住日本人 二四九

○漁船數
支那人大型漁船 九七〇隻
同 小型 七三
日本型漁船 二〇一
發動機付〃 一三五

水産業

漁業は、地形上黄海・渤海漁業の二に區別される。黄海は水深二〇尋から四〇尋内外、鯛・鰆・平目・鰡・鰈・鱈・鯨・海鼠・貝類等を産する。渤海は面積約二七、〇〇〇方哩であつて、水深二〇尋内外から四〇尋以下で、魚族は略々黄海と等しく、特に貝類も豐富である。州内の海岸線は七〇〇哩餘に及んで居るが州内日本人漁業の主なものは、發動船應用の手繰網の外に、鯛延網・鰆流網・打瀬網・柳網・捕鯨等で、年額一、四一八千餘圓に及んで居る。一方支那人の漁業は、支那在來の風網・延網・曳網・柳網等により、是に日本人の漁法を加味し、逐年漁獲高を增して來た。風網は、黄海・渤海・朝鮮近海に及び、大型戎克に一七・八人の漁夫が乘組み、四月上旬より六月上旬に亙り、漁獲一〇萬斤内外に及ぶ。延網漁業の漁場は山東角沖合より、朝鮮海沖合に至り、漁獲物は船内に貯藏し、二三ケ月を繼續し、鹽鱈二萬斤内外を持ち歸る。延網は、州沿岸一帶に行はれ多額の漁獲がある。其他海鼠・牡蠣・赤貝等の曳網類

○水産試驗場
漁業部
養殖部
製造部
○關東州水産會
○漁獲高（昭和三年）

	千圓
日本人	一、四一八
支那人	二、八六六

○製鹽業
鹽田面積（昭和四年）

	千町
日本人	五、三六六
支那人	一、六〇九

の漁獲があり、たら・ぐち・えい・かれひ・たひ・ぼら・なまこ其他に於て年額二、八七八千餘圓に上り日本人漁獲高の倍額に當つて居る。

廳立水産試驗場は、大連外灣老虎灘にあつて、漁撈試驗として、(一)流網漁業――鰆・鯖・旗魚・鯛流網の試驗。(二)底刺網漁業――鰈・比目魚・烏賊の底刺試驗。(三)延網漁業――鯛・鱶・鱈・鱵刀魚・鮸等の延網試驗。(四)各種網漁業――蝦漕網・打瀬網・蛸子網・繩網・ビームトロール・鯖・ぐち巾着網・鮟鱇網・鱶網試驗及發動機手繰網試驗等。(五)雜漁試驗として、蟶介突・平鰤手釣試驗等についての研究、改善に當り、結果を一般に公示し當業者の參考に供して居る。次に各種罐詰類の製造試驗・加工又は淹藏試驗・乾製又は調味品製造試驗等輸出向試驗に成功し、順次多量魚類の鹽藏試驗等を試みた。尙ほ、漁場・養殖漁介適地・海洋觀測等の調査部がある。

鹽業は、日本內地及朝鮮の鹽出産量の、各々需要に不足する一般的傾向から、州內に鹽田の開設が旺んになつたが、總體に佳良なる地域は、概して支那人製鹽業者の先有し營業して居たため、日本人の鹽田は、一部分を除き、

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

計	七、〇〇五

○製鹽高

	千斤
昭和元	四九八五六一
二	三九二〇八八
三	四一四四八三
四	四一四九〇〇

○州內商業

各種營業者數

	人
州內	三、三三三
州外	四、四七五
計	七、八〇八

支那人に比肩出來ない狀態であつたが、近年開設のものは、築造及經營上に、積年の經驗を考量したため、產額增加し、品質も向上し又面積も遙かに支那人の上に出て來た。州鹽は天日製鹽法に依るために、氣象關係に左右せられ年によつて產額に差異を生じ、昭和元年に於て四億九千萬斤の產出を見たが同四年度には四億一千五百萬斤を出した。而して今後の增產計畫が樹てられて居て日本內地產出額の半數に當る量を、州內に於て製出する丈の設備が整へられるに至つた。（州外水產業は一七四頁參照）

商業・貿易

日本人は、日支條約に依つて南滿洲の各地に亙つて、居住往來の自由を、得て居るが、事實上の商業本據地は、多く關東州・鐵道附屬地又は開放商埠地等である、隨つて滿洲に於ける日本人の商業は、その主なる基礎が關東州內に置かれる場合が多いので、州內一般の商業は相當活氣を見せて居る。取引商品は、輸出に於ては穀類其他の農產物又は工業製品で、一方綿絲布等の輸入

○輸出入總額（四年）　三六七、八八七千兩
輸出　一九九、三六三千兩
輸入　一六八、五二四千兩
○取引所　八
○市場　二七
○保險　四三三

○愛川村
金州民政署管內大魏屯會西海岸魏家屯川下流域
○地勢
東西一里南北二十町の平地南に平山々々脈北に老虎山々脈東は大魏家屯村西は海に出づ
○明治四十四年警官橋本某支那人に水田を試作せしめ好成績を擧げた。

品が主なものである。即ち、輸出品としては、大豆・豆粕・豆油・高粱・粟・小麥・玉蜀黍・柞蠶繭及絲・鐵及鋼鐵・石炭・羊毛・皮革等があり、綿絲布毛織物・麥粉・烟草・機械・建築材料・染料・塗料等は輸入品の主なものである。滿洲の輸出入の貨物の過半數は大連港を經由して居るが、滿洲の商業は、支那の銀相場殊に滿洲の奉天票の騰落に因つて、市場や商賈の出納に影響が甚だしいため、商取引が常に之に牽制せられ決濟上複雜を極めて居る。

愛川村

愛川村は金州城の北方四里餘、二十里臺驛の西方二里餘の地點にある、日本內地人最初の移住農村である。

村の創業は、關東廳に於て遂行されたもので、もと魏家屯と稱ばれた此の一帶の貸付土地を回收した全面積は、二七五町歩であるが、當初水田六五町歩を開墾させ貸與する計畫であつた。而して移民の招募に先達つて、農耕豫定地の開墾に着手し、農業道路・畦畔・堤塘・水源地・排水溝の築造工事を

○大正元年農商務省恩田技師實地踏査水田可耕地と發表
○最初二七五町歩を六區に分ち日本人五名支那人一名に貸付
○大正二年福島都督此の地に日本農村設立を發議決定土地四區を回收
○工事大正四年四月完成
○大正三年一二月一〇日新潟縣人小野塚定平・山口縣人濱田粂二郎二名に移住許可以下順次一七戸に及ぶ

○各池井水量

名稱	揚水量（一時間噸）
乙號池	二〇〇
三角池	一五〇
丙號池	二五〇
第一號池	一〇〇
沈井二號	五〇
掘抜井	五〇
沈井一號	四〇
南新池	一〇〇
水田中池	三〇
西新池	一五

行ひ、更に地を相して移民の家屋を築造し、竣工と共に大正四年の春、一九戸（山口縣一八戸四六人・新潟縣一戸二人）の應募農戸を迎へ、家屋を與え不足の農具を貸與して直ちに水田作業に從事させた。愛川村と命名されたのは、前記山口縣下一八戸の移民等が、愛宕・川下の兩村出身者であつたことに因んだのである。

村では最初只だ菜園・雜穀栽培地の小部分を除き、水田・畑作共に共同耕作として作業が開始されたが、初年即ち大正四年秋の收穫の結果は所期に反して不成績を示したので、制度を換えて、水田・畑地其他共に各戸に分割し、隨意に自作せしむる事に改められた。

村の農戸には、逐年移動を來して、現在では七戸を殘して他は悉く離村し去つたが、最も甚しかつたのは初年の收穫不良を見て早くも逃腰になつた農戸の多かつたことで、このために村で第二年目の春を迎へた農戸は一九戸のうち僅々三戸に過ぎずして、他の一六戸は夫々内地へと引揚げたのであつた。然るに住民の補充は其後にも行はれて、大正五年中には、新たに長野縣から一

南洗澤池　三〇
計　一、〇一五噸

○水田耕地・收穫

大正	(町)	(石)
四	一二・八〇	二三・
五	一六・五〇	一〇八・
六	九・八〇	一四九・八
七	二二・二〇	二九一・
八	九・五五	三八一・
九	一四・二五	三三六・
一〇	二〇・五〇	三五四・五
一一	二一・〇〇	四〇七・
一二	二五・二〇	五三七・
一三	一九・二〇	二一三・
一四	一九・二〇	四四四・
昭和元	二七・〇〇	五五・六
二	三五・五〇	六七・五
三	三三・七〇	九三・五
四	三六・八〇	一、二四・四

〇戸、新潟縣から二戸及福岡縣出身の在留人から一戸の着村を見て、合せて一六戸を數へられた。併し其の後に於ても年々離村者が絶へずして、現在にあつては前記の通りの少數を殘すのみとなつたものである。

村の耕地は、昭和四年末に於て水田面積は三六町八、畑地一九町〇九となつて居るが、初年即ち大正四年の水田面積は一二町八、畑地は八町歩に過ぎなかつたものである。

水田の所有歩合は、一戸當り四町五反歩以上六町六反歩迄となつて居て、此の他に畑作・蔬菜園・桑園等を耕作し、副業として養蠶・養豚・養鷄等を行つて居るけれども、現在では村民等の收支は未だ相償はないために、當局では金融上にも種々の便宜を與えて居るが、畑作物及副業收入の増加と、灌漑水の増加に伴ふて將來一戸平均八町歩迄の水田割當の擴張計畫が確立して居るので村民の家計には、幾分の餘裕を生ずるに至るであらうといふ曙光が認められるやうになつて居る。

愛川村は、前記の通り、水田を以て本業とする計畫の下に創始されたもの

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○畑作
昭和四年
作付 一九町〇九
收獲 九七石

○養蠶
昭和四年
掃立 一五二枚
マユ 四七五貫二四〇
價格 一、五七九圓八四
○馬 一二頭
○豚 四四頭
○鷄 八五羽
○兒童
金州小學校收容 五人
愛川分校 八人
技藝學校 二人
○村の小學校

であるが、過去十五ヶ年に亘つて見舞はれた類例の少い村の受難の最大原因は灌漑用水の不足であつた。村の在來の貯水池は平年一五町歩、降雨の多い年に當つても二〇町歩を灌漑し得るに過ぎない程度のもので、用水の不足のために年々水田作の上に惡結果を反映させたばかりでなく、新しい水田耕地を擴張することを阻止されたのであつた。然るに大正一三年に於て、豐富な地下水の利用策が發案され、採水工事に着手されたが昭和二年迄の續行工程によつて、掘鑿された湧水井からは、優に數十町歩の水田を充分に灌漑されるほどの水量を得られ、今後減量の憂ひのない點をも確かめられるに至つたので、前記の通り、將來水田耕地の擴大が計畫されて居る。

村の衞生狀態は、家計不充分の中にも極めて良好であつたが、現存七戸の住家中、主婦を病沒せしめたものが三戸に及んで居る。村には大正一三年以來公醫が配置され施療救濟の道が講ぜられて居る。

村の子弟は最初瓦房店小學校に入學せしめて居たが、大正一四年金州小學校に寄宿舍を附設して收容し授業を續ける事となつた。其後學童の增加と共

○愛川神社

○よりよき住宅を

○大連農事會社農場

○農區
旅順管內
金州同
普蘭店同
貔子窩同

に小學校開設の必要が唱えられ、昭和五年の新學期から、村に小學校（金州小學校分校）を設け三學年以下の兒童を收容し授業を開始した。

なほ村には愛川神社を建立して、愛鄕心の涵養に資して居るが、此の上にもつと住心持のよい住宅を得させる事は、村民等に永住心を堅めさせるための最大の要件と見られて居る。

貔子窩（大連農事會社）農場

邦人農家の滿蒙移殖を實際化せんとする試みは、前項「愛川村」や滿鐵會社附屬地々域等に於て實行され、大體の見當は付けられて居るが、大連農事會社が此の主旨に基いて新しく創始した移植民事業は、其の規模の大きく、實行力の旺盛な點等が在來の型を破つて明らかに頭角を表して居る。

會社は昭和四年四月の創業であつて、關東州旅順・金州・普蘭店及貔子窩管內の民・官有地凡そ五千町歩を買收又は拂下げを受けて、農耕地を開墾し、此處に自作農三百戸小作農三百戸合せて六百戸の內地人農家を移住土着せし

○農地
五、〇〇〇町歩
○收容農戸
自作　三〇〇戸
小作　三〇〇戸
○既收農地
約三、〇〇〇町
整區　五〇區
三七五町
○既着移民
自作　三〇戸
小作　一〇戸
○補助

むる計畫の下に、資本金一千萬圓（拂込金五百萬圓、滿鐵會社全額出資）を以て成立したが、事業は著々と進捗し、現に旅順管内に於て八四二町五三貔子窩管内に於て一、三八〇町九〇、普蘭店管内に於て七六五町四〇合せて二、九九五町一七の民有地を買收し、別に三六六町六の官有地を讓受けたが殘餘の豫定地域の取得も順調に進捗しつゝある。

上記の會社所有地は、順次開墾を進め、區劃を施して居るが、昭和四年度に於て五〇區・三七五町歩の整理を完了したので、一戸平均八町歩の割合を以て、既に到着した自作農家三〇戸・小作農家一〇戸に對して耕地の割付を終了した。而して會社所定の割讓地面積は、自作農一戸につき畑地八町歩、小作農一戸につき水田二町歩・畑地六町歩となつて居るが、自作農に對しては、移住と同時に土地代の八分の一を拂込ましめ、殘額は五ケ年据置後、二十ケ年々賦を以て完納せしめるもので、償還利息年五分と定めて居る。なほ移住農民に對しては定着に要する諸費用中にとして自作農に對し一戸當一千二百圓を、小作農に對して一戸當一千圓を補給するものであるが、自作農希

○準備金

望者は、土地代前納金、家屋・井戸・農具・渡航費・經營費・生活費等を合せて、最初に四千七百圓を要するが、此のうち關東廳に於て一千二百圓を補助し、更に滿鐵會社に於て五百圓を貸付くるに就き、殘額三千圓の準備金を以て足ることになる。然るに今後の希望者に對しては、此の準備金額を二千圓以内に減額せんとして居る。

○各農區

農場は貔子窩の賛子河流域・李花屯・花山屯等の分は、すでに、耕作が開始された。李家屯驛前には、會社の農區事務所が設立されて居る。農作物の、畑作は主として雜穀及果樹類であるが、創業後十ケ年を經過して、各農戸共

○十年後

に純益金を殘すに至るといふ計畫である。

○現況

右の内、賛子河農區では第一區の水田四〇町歩に對し直播を施し、第二區一〇町歩の水田には苗代を設け苗を育て、移植したが、本年の秋には二、〇〇〇石の收獲を豫想されて居る。此の外に畑作を試み、麥・馬鈴薯・粟・甘藷等を植付けた。なほ此の區の移住農民等は會社が買收した五軒の支那式家屋に分宿して居る。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY



滿鐵本社全景



大連埠頭船車連絡待合所

Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY



撫順炭礦露天掘



鞍山製鐵所の景

Digitized by Google

Original from
KEIO UNIVERSITY

第七　南滿洲鐵道株式會社

沿革――鐵道事業――海運及港灣――鑛業經營――製鐵事業及附設工業
地方經營及產業施設――調查事業

沿革

○業務開始　明治四〇（光緒三三）（西紀一、九〇七）年四月一日

○日露媾和條約第六條

○關係條令　一、明治卅九年六月七日勅令第一四二號會社設立規定發布
一、同上七月一三日委員長、委員任命
一、同上八月一日遞信、大藏、外務、三大臣より事務管

「滿鐵」（S・M・R）の略稱によつて知られて居る、南滿洲鐵道株式會社は、明治四十年四月一日に其の業務を開始されたが、是れに先だつて、明治三十八年九月五日、ポーツマスに於て締結された日露講和條約第六條に據り、日本は、東清鐵道の南部線中長春・旅順間の鐵道及其の一切の支線並に之に屬する一切の權利・特權・財產及炭坑等をロシア國から讓渡された爲に、政府は直ちに此の鐵道及一切の附帶事業の經營準備に着手し、翌卅九年六月には會社設立に關する勅令が發せられ、設立委員の任命を見て設立事務の管理に關する

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

理命令書
一、同上同月同日會社設立に關する政府命令書
一、同上一一八日定款認可(遞信)
一、同上一二月一日會社設立認可(遞信)
一、同上二六日創立總會
一、同二七日東京本社開始設立委員長より引繼
一、同一二月七日設立登記終了

○會社の事業
一、明治卅九年八月一日大臣命令書
第一條　鐵道
第四條　鑛業、水運業、電氣業、倉庫業、土地家屋、其他許可を受けたるもの
第五條　土木、教育、衛生

命令書が交付され、定款の認可を終つて會社の幹部が任命され、會社設立の認可を受けたが、同年十一月廿六日會社の創立總會を開き、同月廿七日、一旦本社を東京に置いて、設立委員長から一切の事務と財産目錄とを引繼ぎ、翌十二月七日設立の登記を完了し、同時に鐵道現地に於ては重役以下の赴任と共に著々開業の準備が進捗し、其の翌四十年四月一日には、野戰鐵道提理部其の他の官憲から、鐵道其の他一切の引繼を受け、本社を大連に移し、支社を東京に置いて、前記の通り愈々業務が開始されるに至つたのである。

會社は日本政府の明治三九年八月一日付命令書に基き、鐵道運輸事業を經營すると共に、其の便益のために、附帶事業として、倉庫業、車輛工場、炭坑及之に附隨する各種化學工業、海運業、港灣、製鐵業、土地・建物の經營、土木、教育、衛生及産業に關する各種の施設をなし、廣く東亞の各地に渉つて調査事業を遂行する傍ら、瓦斯、電氣、窯業、旅館、船渠、石炭業、輸入組合炭山、採木業、運送業、土木業、倉庫業等を育成、又は助成して之が發展に資する等、單なる鐵道事業に止らず、恰かも特殊の一國家かのように諸般の

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○會社の資本金
一、總額　四億四千萬圓
　內譯
政府二億二千萬圓
一般二億二千萬圓
一、總株數八百八十萬株
　內譯
政府四百四十萬株
一般四百四十萬株
一、株式募集回數五回
一、拂込未濟株金五千二百八十四萬四千圓
　內譯
政府二百八十四萬四千圓
一般五千萬圓
○會社の組織

機關を具備して居る。

會社の資本金は四億四千萬圓であつて、內その半額即ち二億二千萬圓は政府の出資に係り、他の半額を民間に於て所有して居る。

會社設立當初に於ける資本金は二億圓であつた、而して其半額即ち一億圓は政府出資財產を以て充て、殘りの一億圓を、株式とし日・清兩國人民間に之が募集を行はんとしたが、清國政府はこの手續を執らなかつた爲、止むなく我國民間に募集株の全部を引受けさせる事とし、明治卅九年より大正六年迄前後三回に亘つて募集を行つた、次に大正九年四月、現資本額に增資した際に於ても政府の引受けたる、增資額の半額に等しい一億二千萬圓の株は、前記同樣に、我國民間に就て二回に亘り募集し之を充たしたものである。

會社の幹部は總裁・副總裁・理事・監事を以て組織するが、之等重役の中總裁・副總裁は勅裁を經て政府に於て任命し、理事は百株以上の株主中から、政府に於て之が任命を行ひ、監事は株主總會に於て株主中より選任する。

會社の代表は總裁であつて、會社の業務を總理するものであるが、各重役

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○會社の機關

○重役

總裁
副總裁
理事
監事

○本社

一總務部	七課
二計畫部	二課
三交涉部	二課
四經理部	二課
五鐵道部	八課
六炭礦部	六課
七製鐵部	四課
八販賣部	三課
九殖產部	三課
一〇地方部	四課
一一工事部	四課
一二用度部	四課

○東京支社

○哈爾濱事務所

の任期は夫々、總裁、副總裁は各五ケ年、理事は四ケ年、監事は三ケ年といふ事になつて居る。之等重役の報酬・手當等は政府に於て定むる所に依るものである。

會社は本社を大連市に、支社を東京市に置いて居るが、哈爾濱・上海・ニユーヨーク等には各事務所を、奉天・吉林・齊々哈爾・鄭家屯・洮南・北平等には各公所を設置してある。

本社には、總務部・計畫部・交涉部・經理部・鐵道部・炭礦部(撫順)・製鐵部(鞍山)・販賣部・殖產部・地方部・工事部及用度部の十二部が置かれ、各部には部長を、別に必要ある場合には次長を置く事とし、各部々長は副總裁・理事又は社員中より任命されたる者を以て充てる事としてある。

各部は更に數課を置いて、各管掌事務を遂行し、各課には課長を置いて之を統轄せしめて居るが、(一)總務部は庶務・文書・人事・勞務・調查・檢查及考查に關する事項を掌理し、東京支社・哈爾濱事務所は此の部に屬して居る。(二)計畫部は、事業計畫の立案及審查並に業務改善に關する事項を掌理

○理學試驗所
○上海事務所
○紐育事務所
○各公所
○中央試驗所
○地質調查所
○農事試驗所
○獸疫研究所
○滿蒙資源館
○滿洲醫科大學

○歷代代表
1 後藤新平
2 中村是公
3 野村龍太郎
4 中村雄次郎
5 國澤新兵衞
6 野村龍太郎
7 早川千吉郎
8 川村竹治
9 安廣伴一郎
10 山本条太郎
11 仙石貢

し、理學試驗所は此の部に屬して居る。(三)交涉部は外事に關する事項を掌理し、上海事務所・ニューヨーク事務所・各公所は此部に屬して居る。(四)經理部は豫算決算其他一般經理に關する事項を、(五)鐵道部は鐵道及港灣並に其の附帶事業に關する事項を、(六)炭礦部は、石炭の採掘及其附帶事業に關する事項を、(七)製鐵部は、製鐵及び其の附帶事業に關する事項を、(八)販賣部は、石炭・銑鐵其他生產物の販賣に關する事項を、(九)殖產部は產業の開發及助長に關する事項を各々掌理するが、中央試驗所・地質調查所・農事試驗所・獸疫研究所・滿蒙資源館等は殖產部に屬して居る。(一〇)また地方部は土地及家屋の經營・敎育・衞生・社會事業其他地方施設に關する事項を掌理し、滿洲醫科大學を管理して居る。(一一)工事部は(鐵道線路の建設・改良・保存を除く)會社所屬の土木・建築の施工に關する事項を掌理し、(一二)用度部は物品の購買・保存・配給に關する事項を掌理して居る。

而して總裁は會社の業務を總理し、副總裁は總裁を補助してその業務を分掌し、且つ總裁事故ある時は、其の職務を代理し、總裁缺員の時は、其の職

○職制變遷
最初　部局制
明治四一・一二・一五　合議制
大正三・五・一五　部局制
大正一一・一・七　合議制
昭和五・六・一四　部局制

務を行ふ。理事は總裁を補助し、會社の業務を分掌し、且つ總裁・副總裁事故ある時は政府の命によつて總裁の職務を代理する。

右は昭和五年六月改正實施された新職制であるが、それ迄の本社は、總裁室及庶務・鐵道・地方・興業・經理の五部に分れて居た。

○社員

會社の社員は技術と事務の二種別により前者は技師・技術員、後者は參事・事務員の各二級に分れ兩者共雇・傭員の補助を受けて業務を執つて居る。社員は社宅の配給を受け、特別休暇を得、消費組合、共濟組合、社員會を組織して保養・向上及生活の安定を計つて居る。

○會社の監督機關

會社は關東長官・監理官・拓務大臣の監督・監視を受けるものである。而して鐵道・外務・大藏・陸軍關係の業務に就ては夫々の主務省との合議を行ふことがある。

○鐵道還附期限

猶ほこの鐵道は、前記の如く、日露講和條約に據り我國の經營に移つたものであるが、其後の條約に依る之が中國への還附期限は、大連・長春線及其の支線は昭和七十七年(西暦二千二年)安奉線は昭和八十二年(西暦二千七年)

○勅令第一四二號
第一條　政府は南滿洲鐵道株式會社を設立せしめ滿洲地方に於て鐵道運輸業を營ましむ

○線路名稱

幹線
- 大連長春間　連長線
- 安東蘇家屯間　安奉線

支線
- 周水子旅順間　旅順線
- 大房身柳樹屯間　柳樹屯線
- 大石橋營口間　營口線
- 烟台同炭坑間　烟台炭坑線
- 蘇家屯撫順間　撫順線
- 渾河楡樹台間　渾楡線

○營業哩程
- 總計一、一一一粁四（六九〇哩八）
- 連長線七〇五粁五（四三八哩五）
- 安奉線二六〇粁二（一六一哩七）

といふことになる。

鐵道運輸業

鐵道

南滿洲鐵道は、大連埠頭を起點として北進し、奉天に於て北寧（京奉）鐵路及瀋海（奉海）鐵路と會し。四平街に於て四洮鐵路と、長春に於て吉長鐵路及東支鐵道と接續する連・長線と、鴨綠江の鐵橋に由つて朝鮮鐵道と連絡する安奉線（安東・奉天間）の二線を幹線とし、更に旅順・柳樹屯・營口・烟臺炭坑・撫順等の各支線と、渾河・楡樹臺間の連絡線とを合せて、總延長一、一一一粁四（六九〇哩八）である。

鐵道の軌間は、當初連・長線は日本内地鐵道と等しく三呎六吋の狹軌に改めてあり、安・奉間は輕便線であつたが、會社設立後に於て、改築工事は進められ、現在に於ては、全線一律に世界標準軌間（四呎八吋半）となつて居る。線路は連・長線及撫順線は複線であつて他は單線路である。軌條は百封

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

旅順線五〇粁八（三一哩六）
營口線二二粁四（一三哩九）
烟台線一五粁六（九哩七）
撫順線五二粁九（三二哩九）
渾楡線四粁（二哩五）
未完線五粁八（三哩六）
○軌間
○軌條
○橋梁
○廣軌及複線工事
連長線、撫順線　明治四一・六・一開
安奉線　明治四四・一一・一開
連・蘇間複線　明治四三・一〇・一七開
以上工費三八〇〇萬圓
蘇・奉間複線工事　大正七・一一・三〇開
蘇・撫間複線　大正一四・一一・一開
奉・鐵・開間複線　大正一四・一一・一開
開・長間　昭和六年度中
以上工費一、六〇〇萬圓

度軌條に敷替へ中にて大部分完成して居るが、之に伴ひ露人の架設した橋梁、鐵桁をも漸次強度のものに改良されつゝある。

此の鐵道は前記の通りに連・長線は狹軌式で、又安奉線は、輕便鐵道であつたが、政府は是等の全線路を、開業の日より滿三ケ年以內に、廣軌式に改築する事を命令したので、會社はその工事に著手し、連長線及撫順線の改築工事は其の間半日の運轉休止をもなさずして、明治四十一年六月に完成開通し、更に廣軌工事完了と共に複線工事を起し、明治四十二年十月には大連・蘇家屯間を完成した。

安奉線は明治卅七・八年戰役の頃軍用輕便線として、日本軍の手に依つて建設されたものであつたが前記諸線と同時に、日本政府より會社に引渡され同時に前記の通り改築命令を受けたので、廣軌複線工事は起され福金嶺・鷄冠山等に於ける大小幾多の隧道の開鑿を始めとし、太子河其の他の鐵橋の架設等の困難を豫想されたが、會社は先づ線路兩側の土地を買收し、輕便線の左右に廣軌條を敷設しつゝ工事を進め、終ひに明治四十四年十一月一日、滿二

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

ケ年三ケ月の日子を費して全線の開通を竣つた。

而して連・長線の複線工事は、前記蘇家屯迄開通の後も續行されて、既に奉天を經て開原以北迄開通し、工事は大屯まで進んだが昭和六年度中には、全線の竣工を見る豫定である。

○鐵道の信條

南滿洲鐵道は世界交通路の幹線に數へられ、往年米國鐵道業者は、之が中立と國際管理を主張した事もあつたが、日露兩國の强い反對に會つて止んだ。會社は鐵道輸送の信條として、迅速、安全、正確を期し、氣候に應じての諸設備輸送上の用意等に於て、貨客の便益を尊重し、常に支那各地に於ける諸鐵道の模範とされるばかりでなく、世界いづくの鐵道と比較して見ても遜色なきものである。

○貨客輸送

鐵道は廣軌式に則り、强度の軌條と堅牢の線路と、優秀な機關車及積載率の高い貨車と、廣くて乘心持の良い客車とを潤澤に準備して居て、穀藏と言はれる滿洲各地からの生産穀物類や、豐富なる石炭、無盡藏の木材其他此の地方の特産物を快速に貿易港口へと運搬し、更に又三千萬住民の需要品の運

○駐屯軍

○守備隊

○聯絡運輸

○乗車人員（合計）

昭和元　八、二九〇、〇八五人
二　八、二六三、〇八九
三　九、七〇三、一二九
四　一〇、四一〇、五七九

○貨物噸數（合計）

昭和元　一六、五三五、一九四噸
二　一八、四二七、七七五
三　一九、三三三、五四九
四　二〇、四六一、八一六

○乗客收入（合計）

昭和元　一五、三二六、三五三圓
二　一六、一〇三、九五三
三　一七、六一九、二九二
四　一七、一九八、八九六

○貨車收入（合計）

昭和元　八九、五一三、〇五九圓
二　九四、〇四〇、八一八
三　九七、七三八、一四六
四　一〇一、一一七、五八五

送と、旅客の安全な輸送とに注意を怠らないが、滿洲地方特有の匪賊等の障害を除去する爲めには、沿線主要地に日本軍隊が駐屯して、鐵道及居住民の保護に當つて居る。

會社の鐵道は次の各鐵道と貨物又は貨客の連絡輸送を行つて居る。それは鐵道省線、朝鮮鐵道局線、(社線經由吉長・吉敦・四洮線連絡共)金福・吉長・吉敦・四洮・東支の各鐵道線と北寧線又は大連汽船・大阪商船等經由の中國々有各線(支那本部)との連絡、日滿及中國周・巡遊、日鮮滿巡遊、歐亞聯絡(西比利亞經由)等及其他であるが、更に各航路とは、大阪商船・日本郵船・大連汽船・近海郵船・日清汽船・朝鮮郵船・澤山汽船・東和汽船・岡崎汽船等の日本內地、支那各港及歐米各港への聯絡運輸業務の取扱等である。

鐵道の貨客輸送量は逐年遞增の傾向にあるが、是等の原因は、滿洲各地に移住し、農耕に從事する支那人が年々生產物を增殖せしめつゝある事、而して是等の住民の需要品の增加等によるものである。然るに近年一時急激の增量を示したのは露・支兩國の政情から北滿貨物の東行が減少し、此の鐵道への

○工場
一、大連工場
昭和三年度製修額
一、四二二萬餘圓
昭和四年
一、三九二萬餘圓
○鐵道倉庫

出貨を誘ふ結果となつたことが主な理由であつた。かくて北滿貨物の得失は、此の鐵道に及ぼす影響が大きいために、會社は之が誘導に留意し、現に烏蘇里鐵道及東支鐵道との間に北滿生產物の搬出に就き數量の協定を遂げ、三者應分に分擔する事を取極めて居る。

而して此の鐵道の運輸收入の大部分は移輸出入貨物、殊に特產物資の輸送料金であるが、此の地方の開化と共に各鐵道の中堅に當る本鐵道の輸送量は、自然的に逐年增殖してゆくであらう事は期待されて居る。

工場

會社は自用の機關車・客貨車の新造、改造、修繕を施行する必要上、大連市の北沙河口に大連工場を有つて居る。工場は明治四十四年八月九日、大連驛構內にあつたバラック家屋から移轉したもので、敷地約卅四萬一千坪、事務所他、洋式建物六十九棟、建坪二萬坪に及び、機關車廿七輛、客車卅六輛貨車百卅輛を同時に收容し得る。

なほ遼陽にあつた修繕工場は、昭和五年一月沙河口(大連工場)へ合併した。

Digitized by Google
Original from KEIO UNIVERSITY

一、簡易倉庫明治四一年一〇開始
〇倉庫三〇驛受入屯數
昭和三　五、九九八千屯
　　四　七、〇九九千屯
〇混合保管
豆油一口　一一屯
豆粕同　一〇〇枚
大豆同　三五〇袋
〇取扱所
〇倉荷證券
〇火災保險契約高
昭和元　二六、八四〇、〇〇〇圓
　　二　二八、二〇四、二〇〇
　　三　四八、一二四、九六八

倉庫

會社は鐵道貨物取扱上、相互の便益のために、明治四十四年から、鐵道沿線の特定の驛所に於て、倉庫業を營んで居る。其の營業種目は、普通の保管業務と是に附帶する運送及火災保險等の代辨の他に種類・品質を同じうする特殊の貨物の混合保管等である。

混合保管は、小麥・大豆・豆油及豆粕の四品種に限られて居るが、是等特定の貨物は、混合保管の申出ある場合に限り鐵道に於ては、專門の係員に規定の檢査を行はしめ、異る荷主の各別口の貨物を混合保管し、運送の上引渡しの場合には、夫々依託當時の等級により、同種同品同量の貨物を以てするもので、この制度實施後は、原產地に反映して品質の向上を促進したが、同時に商取引上出貨者側に便益の多いものである、加之鐵道側から見ても保管場所の節約と、輸送計畫上多大の利便を得る結果となつて居る。

猶ほ會社は、倉庫保管の各種貨物に對し、荷主の希望に依り夫々倉荷證券を發行交付して、金融上の利便に供して居る。而して、大連埠頭及小崗子に

○海運及港灣

○港灣

一政府命令書第三條第二項

○大連築港

着手明治四一、三、九

○大連港

一、着埠船舶隻噸

昭和	隻	噸
元	三、八二五	一〇、一三三
二	四、三三四	一〇、九六〇
三	四、五〇三	一二、九九八
四	四、九一三	一三、八〇三

一、貨物噸數

保管する貨物に對しては、一律に火災保險を附して居る。

海運及港灣

水運業

會社は政府の命令に依り、鐵道の便益のために、水運業を經營して居る。

（產業界――交通・商業・貿易各項參照）

港灣

會社は水陸運輸の連絡に必要なる設備として、港灣に於ける施設を整へ之を經營して居る。即ち大連の築港及其の埠頭の諸設備及之が經營を主體とし、更に旅順口・安東・甘井子等の各港口に及ぼし、なほ日本內地の諸港へも埠頭築造の計畫が樹てられて居る。

年額十餘億萬圓に上る滿洲の貿易總額の六割內外を呑吐して居る大連港は其の規模の宏大にして施設の完備して居る點に於て東洋第一と稱せられて居る。港の外壁に當る防波堤は延長四粁餘（一里一町餘）に及び、內水は東・西・

昭和		噸
元	出	六、三四四、八六六
	入	一、一〇八、四六二
二	出	七、二九九、九一三
	入	一、〇七六、一四一
三	出	七、七九二、六五九
	入	一、三八〇、五三四
四	出	七、七〇五、六八二
	入	一、六三八、二六二

一、滯貨月別噸數

	噸
昭和三　一〇	一六二、二八五
一一	二三三、九五一
一二	三五六、九二三
昭和四　一	四六一、一五九
二	四九八、六一五
三	四九六、四九三
四	五〇五、九一九
五	三六四、三〇七
六	二九五、〇四三
七	三〇五、五九八
八	三九五、六〇一
九	二三六、五七二

○甘井子埠頭

南・北の四區に分ちて呼ばれ總面積約二・九七五平方粁餘(約九十萬坪)であつて、水深は九米餘(三〇尺)乃至一一米餘(三七尺)である。既成埠頭(第一・第二・第三・甲・乙・丙)の延長は四、三四二米であるが、第四埠頭(一、三九四米)は新しく竣工した。內水は東防波堤の北端と、北防波堤との間を主港の出入口とし幅員三九三米(一千三百尺)を有し四ケ所の各港口には夫々燈臺が設けてある。

大連埠頭は船舶の著發する岩壁卅六ケ所を備え凡そ五千噸級の汽船卅七雙を同時に繫船することが可能である。更に埠頭には、卅五萬噸の貨物を保管し得る二一八平方粁(六萬六千餘坪)卅六棟の倉庫と四十八萬餘噸の保管能力を有する三〇四平方粁(約九萬二千餘坪)卅八棟の上屋とを設備してあるが更に年々增築されつゝある。この他に豆油保管裝置、廣大なる穀類等の野積場、石炭置場を有する。而して港內使用小蒸汽十六隻(三、一三七噸)を以つて作業に充て、埠頭陸面構內には、約七十哩の鐵道線路が敷設されてあつて、南滿洲鐵道は此處を基點として大連驛に聯り北行して居る。

なほ會社は大連港の對岸甘井子へ、年額三百八十萬噸の石炭を積込み得る

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○鶴見埠頭

○鑛業

○炭坑

○撫順炭坑

撫順炭分析

比重	一、三八
灰分	五、五四
水分	五、七七
硫黃分	〇、六六
揮發分	三九、〇〇
發熱量	七、〇〇〇カロリー
骸炭	四九、八〇
窒素	一、七五

○採炭所

古城子

楊柏堡

東ケ岡

大山

東鄕

設備を開くために工事に着手した。更に石炭、銑鐵、硫安其他滿洲輸出物資取卸の便宜のために、前記の通り日本內地鶴見・大阪の兩港及其他數ケ所へ埠頭を築造する計畫が樹てられて居る。

鑛業

炭坑

會社は附帶事業の一科目として、撫順及烟臺の兩炭坑を經營して居る。

撫順炭坑は、撫順驛に連り遼寧省瀋陽（奉天）の東約二〇哩の地點に渾河を隔て、撫順城と相對して居る。炭坑の鑛區は六〇、一六五平方粁（千八百二十萬坪）に及び、炭層は渾河の南方東西延長殆ど一〇哩に亘つて居るが、平均三〇度の傾斜（斜距離一、八一八米・一、〇〇〇間）であり、炭層の厚さは、平均三九米餘（一三〇尺）であつて、二三米餘（七八尺）から一二七米餘（四二〇尺）に及び、夾雜物は六米餘（二〇尺）以內である。而して炭質は、日本炭と等しく第三紀層に屬し、漆黑色であつて、光澤強く、揮發分に富み、燃燒熾烈に、

老虎臺
龍　鳳

○淸國政府課税
一屯ニ付金五錢
○輸出海關税
一屯ニ付銀一錢
○各坑(合計)　噸
昭和三　七、三五三、二四七
　　四　七、四三五、一六一
○烟台炭坑
○採炭量(撫順)噸
昭和元　六、六三四、二六〇
　　二　六、〇六一、八〇〇
　　三　六、九四五、四〇〇
　　四　七、一九二、六六一
○出炭豫想
昭和五　八、一〇〇、〇〇〇
　　六　八、六三〇、〇〇〇
　　七　九、〇六〇、〇〇〇
　　八　九、五三〇、〇〇〇
　　九　一〇、〇〇〇、〇〇〇
　一〇　一〇、二〇〇、〇〇〇

七千カロリー內外の火力を有する有烟炭であるが、窒素の含有量多く、灰分は少量である。

埋藏炭量は九億五千餘萬噸と推定せられ、既往採炭量は六千七百餘萬噸であつて、未採掘炭量は、八億八千餘萬噸と推算されて居る。而して最近數年間の一ケ年採炭量は七百萬噸內外である。

採炭法は、大山・東鄕・老虎臺・龍鳳各採炭所に於ては坑內堀りを行ひ、本坑に於て發明した傾斜長壁充塡採堀法に依つて居る。然るに、炭層の厚さ肥大なる古城子・楊柏堡・東ケ岡等に於ては表土を剝離して所謂「露天掘」を施行して居る。

次に烟臺炭坑は、烟臺驛を距る約九哩、遼陽城の東北約十六哩の地點に在つて、鑛區面積七、〇一一平方粁(二、一二一千坪)炭層は兩側より傾斜して、船底型を呈して居り、南北の二區に分れて居る。炭質は亞無烟炭で埋藏總量は二千萬噸、既に百八十餘萬噸を採掘され、未採掘量は、一千八百餘萬噸と推算されて居る。會社は他に、塔連炭坑を買收經營しつゝある。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

撫順・烟臺・塔連三炭坑の昭和四年度出炭量は七百六十五萬噸であるが、會社は年々採炭量を増殖して行く計畫を樹てゝ居る。

炭坑の附帶事業

炭坑は附帶施設として、硫酸工場・骸炭工場・發電所及電氣鐵道を經營し、オイルシエール工業を經營して居る。

發電所はモンド瓦斯及大官屯の二ケ所にあつて、モンド瓦斯工場は一萬二千キロワツト、大官屯工場は三萬キロワツトの發電能力を有する。電力は炭坑關係諸機關に使用の他は、奉天及遼陽へも送電して居る。而して副産物として、硫酸アムモニア、タール、瓦斯等を製産して居る。

硫酸アムモニヤは昭和四年に七、七五四瓲を出し、南支那・臺灣・日本内地等へも輸出して居る。

硫酸工場は鉛質硫酸一日一〇〇瓲の製造能力を有し、最近一ケ年五〇度のボーメ一二、五八五瓲、六六度のボーメ三三九瓲を製産して居る。

骸炭工場は、骸炭爐三〇基を有し、一日製造能力約一〇〇瓲である。他に

一、噸當り販賣價格

大連	切込	一三、五〇
	塊	一四、五〇
	粉	一一、五〇
奉天	切込	九、五〇
	塊	一二、五〇
	粉	八、五〇
長春	切込	一三、五〇
	塊	一四、五〇
	粉	一一、五〇
撫順	切込	九、五〇
	塊	一二、五〇
	粉	八、五〇

○附帶事業
○發電所
四年生産高
一、硫安　七、七五四瓲
一、クレヲソート　三、八六四竏
一、タール　二六四竏
一、瓦斯
一硫酸工場(四年)
(五十度)　三、五八五瓲
○骸炭工場(四年)　六、五五一瓲

○煉炭（四年）　一四、一五六瓲
○電氣鐵道
○油母頁岩（年產計畫）
重油　五、四〇〇瓲
精蠟　一五、〇〇〇
骸炭　五、〇〇〇
硫安　一八、〇〇〇
○四年度　五〇〇瓲
○製鐵事業
○鞍山製鐵所
一、鐵鑛見明治四十二年
一、最初一ケ年百萬噸計畫
○計畫
一、第一期鎔鑛爐二基製鋼工場一
一、第二期第三、第四鎔鑛爐建造

一日約一〇〇瓲の製造能力を有する煉炭製造機がある。

尙ほ炭坑は、專用電氣鐵道を有し、その線路延長は一七三、四〇〇米突に及んで居る。

炭坑に產出する油母頁岩を利用して、油を製出するために、會社は新に頁岩破碎工場・乾餾工場・粗油蒸餾工場・粗蠟工場等の建設をなし、年額五千四百噸內外の重油を採取し、なほ精蠟・骸炭・硫安の製出作業を開始して居る。

上記石炭及附帶製品等は、特殊の機關を設けて販賣させて居る。

製鐵事業

沿革及現況

會社は鞍山に製鐵所を設立して、製鐵事業を經營して居る。

所用の鐵鑛は一一區に亘り、總面積一三、二二三平方粁餘（四百萬坪）埋藏量四億萬瓲と推算されて居る。

現在鎔鑛爐二基（五百瓲爐、三百五十瓲爐）を使用し、一ケ年銑鐵二八萬瓲

一、改第一期選鑛工場

○現勢

一、鎔鑛爐三
一、銑鐵工場
一、選鑛工場
一、骸炭工場
一、硫安工場
一、ベンソール工場
一、タール蒸餾工場
一、ナフタリン工場
一、硫酸工場
一、耐火煉瓦工場
一、動力設備
一、給水施設
一、構内運輸施設

○鑛鐵

○銑鐵製産高

	噸
昭和元	一六五、〇五四
二	二〇三、四四五
三	二二四、四六一
四	二一〇、四四三

の製産を目標として居るが、更に一基(三百瓲爐)を擴大(五十瓲)し豫備爐として殘す事にして居る。

鐵鑛は日支合辦鞍山鐵鑛振興無限公司に於て、採堀の許可を受け其の作業を行つて居るが、之が發見は、明治四十二年に於て、滿鐵地質研究所員によつて發表されたもので、當時奉天總督は、發堀の許可を與へず、前記鐵鑛公司の成立(大正五年)に至つて認可されたものである。

會社は右鑛物を原料として製鐵所を建設し、年額百萬噸の銑鐵を產出する計畫の下に、最初各基一日三百瓲を製出する鎔鑛爐二基を建てたが、更に製鋼工場及第三・第四鎔鑛爐の併設を計畫した、然るに大正八年に至り、歐洲大戰後の斯界の實狀に鑑み、鎔鑛爐の增設を中止し、更に既往事業成績に基き、貧鑛の利用をなす可く、選鑛工場及是が附帶の諸機關を建設した。

鐵鑛は含鐵分三五乃至四〇%の貧鑛が多く、爲めに平均五二%內外のものを選鑛して使用したが、貧鑛處理の解決を急ぐに會ひ、大正十年、磁力選鑛法によつて約七〇%の鑛分回收の可能なるを確め、亟いで是が工業技術上、

○現狀

○附設各業

○骸炭製産高

昭和元	二一八、一一一
二	二四三、五九九
三	二六五、三三七
四	二八〇、七七五

○燒結鑛製産高

昭和元	一一四、〇三二
二	二三一、五九四
三	二五七、五七八
四	二五〇、三二九

○現使用爐

三五〇噸爐　一
五〇〇噸爐　一

○昭和製鋼所

○地方經營

經濟上の成算あるを確證し此の方法に依る製出を計つた。

現在製鐵所用地は百五十萬坪を占め 鎔鑛爐三基（内一基は豫備）を有し、選鑛工場還元爐九基、選鑛機五十四基、燒結機五基を有して居る。

次に附設の骸炭工場に於ては、骸炭爐一六五窯、洗炭工場一棟を有し、硫安工場に於ては、硫安飽和器三基、アンモニアスチル二基、ベンゾール工場にては、スクラッパー、スチル等一式の設備がある。又タール蒸餾工場には、蒸餾釜二基を、ナフタリン工場には、ナフタリンスチルを二基、硫酸工場には塔式角型六塔、焚鑛爐二基を、耐火煉瓦工場には窯各種一式等を施設してある。尚ほ汽罐十四基發電氣四基、給水設備、構内運輸機關等が整つて居る。

製鐵所に於ては、主として日本内地に於ける鐵類の不足量を補給する主旨から、增産計畫が樹てられ、前記の通りに鎔鑛爐の擴張が完成したが、尚ほ此の他に、會社に於ては昭和製鋼所の開設を計畫中である。

地方經營

一、政府命令書
第五條

○市街經營

○各市街面積（平方米）

瓦房店	二、四四九、五六四・二
松樹	四一五、八二四・八
熊岳城	四、四六八、五三七・七
蓋平	三、三三三、九一四・八
大石橋	三、四三五、八六三・六
海城	二、四二九、一一七・五
遼陽	六、一一三、〇八四・七
奉天	一〇、九〇一、〇九四・六
鐵嶺	六、二一三、三九六・三
開原	六、六三九、七九七・一
昌圖	三、六一九、二〇〇・四
双廟子	三、四三九、六一九・一
四平街	五、三四二、二九五・二
郭家店	六三八、五〇四・七
公主嶺	六、六五九、三三三・九
范家屯	六六九、九一八・一
長春	五、〇五一、六三一・六
營口	七一六、五七三・五
撫順	一九、一四九、九二三・三
本溪湖	九五四、四六四・六
橋頭	四一七、三四三・一
連山關	四六〇、〇九六・九
鷄冠山	六二四、九四三・五
安東	四、一八八、二〇二・一
鞍山	一九、八七五、八三九・四

會社は鐵道附屬地々方に於て、土地・建物・市街の經營をなし、衞生・教育・警備機關を設け、農・商・工・鑛業に關する諸施設を整へて居る。

會社は（共有地共）三六二、八八六、〇六七平方米の土地と、一四、三五六棟（敷地三、〇三〇、五八七平方米）の建物を所有して居る。このうち宅地又は耕地其他として、五七、八二一、七七四平方米の土地を、又七九二棟の建物を貸付けて居る。

會社は鐵道附屬地に於て、遼陽、奉天、長春、營口、安東等の廿五ケ市街を經營して居る。是等の各市街にあつては、當初荒凉たる支那部落か、原野に等しい地域が多かつたが、會社は市區計畫を樹て、道路・護岸・橋梁・溝渠等を完成し、上下水道・公園・市場・墓地・火葬場・屠畜場等を設備し、家屋を修築し、街衢を整え、年々費用を投じて完成を期して居る。

會社は大連醫院を始め沿線主要市街一七ケ所に病院を開設した。而して大連寺兒溝他一四ケ所及内蒙古の林西・開魯には公醫及診療所を配置して居る。

猶ほ又氣候の關係上、傳染病流行の多い實況に鑑み、衞生試驗所を設立し

○衞生施設

一、大連醫院昭和四年四月一日分立

一、奉天醫大附屬醫院

一、哈爾濱醫院昭和二年一〇月末より依託經營

○醫院所在地

瓦房店、大石橋、營口、鞍山、遼陽、奉天、鐵嶺、開原、四平街、公主嶺、長春、本溪湖、安東、撫順、吉林、（以上孰れも日本內地に於ける病院に當る）

○患者收容總數

昭和元　二、〇三二、八六四

二　二、四〇一、七七七

三　二、三八〇、八六八

四

○敎育施設

○各學校學生生徒數

昭和四年四月末

二九、七九四人

○圖書館

一、藏書數

參考圖書館二　一七五、三三三

簡易圖書館二一　一七五、三三六

○警備設備

て、保健施設を整へて居る。

此の他會社の各地方事務所には、衞生事務に關する係を設け、警察や醫院と協力して、防疫・加養の手當を行はせて居る。

會社は敎育機關を經營して居るが、現に幼稚園二七、小學校三五、中學校五、高等女學校四、專門學校二、大學一、公學堂一〇、日語學堂一、實業補習學校三四、家政女學校一三、商業學校三、鑛山學校一、農業學校二、農・工・商實習所及職業敎育部六、其他合計一五九に及んで居る。此の他附屬地內に於ける朝鮮人及支那人敎育の學校へも、年々經費の補助を續けて居る。

會社は、大連、奉天の二市に參考圖書館各一ケ所を設立し、その他各地に二一ケ所の簡易圖書館を設立して居る。

匪賊・火災其他の危害を防ぐために、守備隊、憲兵隊、警察と連絡して、消防隊・消防組を設け其數二〇に及んで居るが、小市街に於ては駈付消防組を組織して居る。

農業施設として、會社は農事試驗所を設け、猶ほ水稻採種田・大豆原種圃・

種羊場・種豚場・獸疫研究所等を設けて居る。

○農業施設

農事試驗所

公主嶺農事試驗所、同熊岳城分場等は、穀類・畜類・果樹・養蠶・樹木等の試驗・調査・改良及優良種普及を行つて居る。更に奉天獸疫研究所、鄭家屯試作農場・鳳凰城烟草試作所、湯崗子アルカリ試驗所・奉天・大楡樹・撫順の採種田、開原・大屯の大豆原種圃、黑山屯・公主嶺の種羊場、鐵嶺・瓦房店・鞍山・撫順・鄭家屯の種豚飼育所、沙河口・伏見臺・熊岳城・大石橋・營口・鞍山・遼陽・奉天・鐵嶺・開原・四平街・公主嶺・大屯・撫順・本溪湖・安東の樹苗圃等の設備があり、齊々哈爾・敦化にも作物試驗設備があつて、これ等諸施設地域の總面積は五七、三三〇、六五八平方米に及んで居る。

○改良種普及・奬勵

大豆
水稻
棉花
烟草
苹果
造林

又奬勵施設として、改良大豆の種子を配付し、この作物の市場出廻りに助勢し、水稻の改良を試み、棉花・烟草の試作及栽培を奬勵し、苹果の栽培指導及取引の改善を促し、農事會社を設立し(二八〇頁參照)、造林、羊毛及牛の輸出等に費用を投ずる等の奬勵・助成をして居るばかりでなく蠶業・農具改良・地下水調査・馬匹改良・鷄及豚の改良・獸疫豫防等にも助勢し續けて居る。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○商工施設
中央試驗所
○鑛業施設
地質調査所
○調査事業
總務部調査課

會社は理學試驗所、中央試驗所、滿蒙資源館等を設置して居る。中央試驗所は、現在大豆油の新抽出法、豆粕、高粱の新利用法、菱苦土鑛の加工法、撫順、鞍山の副製產物の利用法等を研究して居る。滿蒙資源館は滿蒙に於ける各種資源の見本を陳列して參考に供して居る。

會社は各地の商工會議所・商務會・輸入組合・貿易館等に夫々補助をなし、その發達に助勢して居る他、在滿洲特殊商工業會社にへも亦助勢して居る。

鑛業に關する施設としては、大連に地質調査所がある。鑛產地質の調査及經濟的價値を研究し、應用地質・窯業・冶金・機械・土木・建築に關する諸原料の調査及採鑛に從事し、最近に於ては鐵道沿線の、鑛物發見に努力し、精査を行ひ、特に石油に關して多大の努力を傾注して居る。

調査事業

會社は大連本社内に調査課及各事務所・公所に調査係を置いて、滿蒙の舊態、現狀等の調査を遂行して居る。又東京に東亞經濟調査局を置き東亞と世界經濟の聯關に就ての調査機關として居たが、昭和四年七月獨立せしめた。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY



大連浪速町



長春

Digitized by Google

Original from
KEIO UNIVERSITY



奉天城內



吉林埠頭

Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY

第八　南滿洲の主要都市

旅順——大連——金州——瓦房店——熊岳城——大石橋——營口——海城——鞍山——遼陽——奉天——鐵嶺——開原——四平街——公主嶺——長春——吉林——安東——鷄冠山——連山關——本溪湖——撫順

旅順市

關東州の首府旅順は遼東半島の最南端に位し、風光明媚、山紫水明の形勝地を占め、南に山東半島の威海衛・芝罘等を望み渤海灣口の北岸を護つて居る。市街は新・舊二區から成り、四方は山を繞し、東・北・西に亙つて、黃金山・大孤山・東鷄冠山・高崎山・海鼠山・二〇三高地等があり、西方に、西鷄冠山を負ふた老虎尾半島は新市街に額突いて海面をC字型に圍ひ、黃金山との間に、港口を一握の地峽に扼して、天然の良港を成して居る。

○距離　（粁）
自大連　五九・七
（東京—横須賀）　六二・四
自周水子　五〇・八
（東京—鎌倉）　五一・〇
○旅順口
北緯三十八度四十七分、東經百廿一度十六分。

○舊市街

舊市街は東部を占め、白玉山・龍河を隔て、新市街に接し、黃金山下の東港に面して、市役所・船渠・防備隊・小學校・公學堂・高等法院・民政署・旅順要塞司令部・戰役記念館等があり、敎場溝に沿ふた一帶は商家櫛比し、各銀行支店・窯業・機業・鹽業・殖產會社・內外商事會社・發電所・市場・劇場及勸商場等の商店街・產業街を成して居る。

○新市街

新市街は西港に面し、西方一帶を占めて居る官衙・學校街である。關東廳は此處にあり、白堊の層樓が綠樹の間に聳えて居る。軍司令部其他の諸官衙及旅順工科大學・中學校・女學校・師範學堂等がまだ建物を以て埋らない赭土の生地を露出した閑靜な市街を點綴して居る。此一圓は、西紀一、八九九年露國東漸の先驅として來任した關東太守アレキセーフの創始に係り、絕對に支那人の混住を防ぎ純然たる歐風の近代都市を建てるために、市區計畫を樹て、大街・廣場・町の三種に分ち、道路は凡て放射式に則り、大街を八十四呎の特別大街、六十三呎の大街の二種に別ち、町は四十二呎とし、中央に石を敷き蒸汽ローラーを以て堅めた車道を設け、左右兩側に步道を造り、並

動物園
植物園

○港
○名所
黄金臺海水浴場
白玉山
戰跡
水師營
玉の浦

木を植ゑ、中央に大廣場公園を設け、壯大なる大都を出現する計畫の半にして、我國に讓渡されたもので、我官憲は占領と同時に全市の小改修を施したが、明治四十一年より露人の計畫に基き道路の延長・改修工事に取り掛り、龍河に東洋橋を架した他日本橋・開運橋等を始め、上下水道を完成し、溝を改修し、現今の壯麗な市街が出來上つたものである。

廣瀨中佐の閉塞隊で有名な旅順港は、東・西の二港に別れ、西港は東西二哩南北一哩の悠寛たる海港なれども港內水淺くして大船の出入に不便である、現に支那戎克船の出入する商港として開港場の生命を保つて居るに過ぎない。西港は狹小なれども水深くして軍港として防備されて居る。旅順港は山東の萊洲・烟臺と相對し、古くより、支那海軍作戰上の要衝として認められ、淸の康熙三十五年(西紀一、六九六年)此地を海軍の根據地とした。日露役の折、乃木・ステツセル兩將軍の會見地として名高い水師營は當時の遺跡である。一、八五七年英佛聯合軍は、大連・旅順に據つて太沽を攻擊したが、此の戰役後、時の直隷總督李鴻章は、此地に軍港を設置する必要の急なるを力說し

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○開港場としては南滿四港の一

○日本に似た四邊

つひに一、八八〇年獨人工兵少佐ハンネツケンの設計に基き、巨資を投じて修築を行ひ、山に凭り砲壘を築き、又東港を浚渫して大艦の碇繫するに便し、北洋艦隊の根據を置き、水陸二萬の兵を屯せしめた。一、八九八年、露國は此地に進出し、陸海軍を集中し、諸政廳を設け、關東太守を駐せしめ、蜿蜒起伏せる四邊の山寨に堅牢なる防備を施し、港内を浚渫して巨船の出入を助け、老虎尾半島の西部を斷つて新商港を開き、東部を純然たる軍港としたので、當時の旅順は、その殷賑、遙かに大連の上にあつた。日露戰後、日本は旅順港を軍港として設備し、内外商船の出入を禁じたが、順次西港より開港し、現在に於ては東港の南半部を殘し、悉く開放して一般商船の出入に委せ、波止場・石炭棧橋・泛棧橋等の設備が整ひ、護岸工事も完成して、開港場としての東港は完璧に近く、現に南滿四港の一として昭和三年度の如き石炭・支那酒・雜穀類・鹽・綿織物・礦石其他總計百七十八萬四千餘兩の輸出を見た。

日清・日露の兩戰役に因つて、滿洲は日本人と密接な關係を結付けられたのであるが旅順市は總體の感じが日本内地に酷似して居て、山あり丘あり樹

○戰跡
○日露戰跡
戰跡　驛迄往復
二〇三高地　三里一丁
白玉山ノ陳列館　二里二丁
東鷄冠山　四里一丁
白玉山｜陳列館｜東鷄冠山｜松樹山｜二〇三高地　七里廿三丁
○好適の修學地

木あり、清流あり、紺碧の衾褥を延べたやうな海が前面に展開して居るばかりでなく思出を語る日露戰跡として、二〇三高地（爾靈山）・東鷄冠山北砲臺・二龍山・松樹山・盤龍山・望臺等があり、白玉山上の表忠塔などの見物場所が多い、此等は悉く坦道が開かれ、二・三・四人乘の馬車や自働車が往復して參觀の便に供して居る。

此の一帶は丘から鶉を海から鰡を產する。黃金山海岸の海水浴場は水淨く設備が整つて居る。市は更に一萬七千坪の大運動場を有つて居る。

旅順は大正四年大連と共に自治制を布き市と稱されて居るが、氣候溫和に、交通の便利よく、物價低廉で文化生活を營むのに比類の少ない土地である。現に市中では住宅の拂底を告げて居る。最初日本の當局は此地を學校街として清淨の土地とし、青年子弟の訓育に當てんとしたが、學問の中心が殆んど東京に集中されたため、現在工科大學の設立あるのみである。然れども此地は將來滿洲の學校街として、又大連市の膨脹に伴れ、閑靜な住宅地として發展性を多分に有する。管內人口十三萬餘人、日本內地人約二萬人である。

大連との間に龍頭（戰跡多し）・營城子（鹽を產す）・夏家河子（海水浴場あり）等の各驛がある。又大連市との直通道路があつて自動車の便が開けて居る。

○人口數
昭和五年四月
日本人　一、二〇六二
支那人　二、八八九三
外國人　一八
計　一三、〇九七三

大連市

○大連市

東洋一の大連港は近代滿洲の正玄關に當る。豐富な滿蒙物產の大數は此の港に集積され、三千萬住民の需要品の最多數は一旦此の地に陸揚げされ更に各地へと轉送される。日本內地、朝鮮、支那本土、歐米各港への航路は此の自由港を中心として、蜘蛛の巢のやうに八方に擴げられて居る。市の南方は黃海に臨み、西は旅順を望み、東北は直ちに亞細亞大陸に展開する。南滿洲鐵道は此地を起點として延び奉天・安東・四平街・長春等に於て、朝鮮・支那本部・蒙古・シベリア・歐洲各國等に夫々聯絡して居る。

○有數の要津

○市街

市街は大連灣に沿ふて、東西七粁八餘（二里）、南北二粁九餘（二十七町）長方形に延び、伏見臺一圓の高地を肩盤として兩翼を延べ、東部本市街は東廣場を、西部新開地域は沙河口公園（豫定地）一帶を中心とし、判然二分されて居る。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

住宅地區、混合地域・商業地域・工業地域の別があつて、支那人は、商工業地域に於て、全然日本人と雜居して居る。住宅地區は市の南方丘陵の高地に沿ひ、南山麓・中央公園一帶、伏見臺・譚家屯・聖德街・南沙河口等約一四〇萬坪を割當てられてある、なほ老虎灘街道・旅大道路沿線一帶は近年住宅の建築が過速度に增して來た、他に、露西亞人の建設した小市街ロシア町があるが、主として滿鐵會社の社宅地に當てられて居る。商業地域は、浪花町を主とし、伊勢町・大山通・山縣通等があり、奧町一帶は大規模の支那商賈が軒を並べて居り、全地域は五十二萬餘坪である、此外に伏見臺下の常盤橋一帶が割當てられて居る。猶ほ混合地域として百九十二萬坪、工業地域として八十八萬坪を割當てられて居るが、此他に、郊外の市に編入されたものや、滿鐵用地・區外地・山地・公園地等合計二平方里餘である。

市街は、最初露西亞人に依つて都市計畫を創始されたものとは雖、明治三十九年、露西亞から讓渡された當時は、ロシア町を除く現在の市街は、殆んど草原荒地であつたが、滿鐵本社が東京より移轉するに及び、市況俄かに活

○地區の分類

○ロシア町
星ヶ浦
傅家庄
老虎灘
天の川
黑石礁
旅大道路
石礄屯
三山島
露天市場

○新市街は悉く日本人の企畫に成る

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○大連市

最初の支那名青泥窪

ロシア町海岸を支那人は黒咀子と呼ぶ

○街路

○大廣場（一〇、八四四坪）

氣を呈し此地方の將來を豫想し、日本官憲は露人の企畫を參考とし新規計畫の下に著々工事を進め、上下水道を整備し、市街を建造し、道路を整へ、橋梁を架設し、遊步地・公園・運動場を設けて大都市としての芽生えを見るに至つた。大正四年に至り自治都市として、大連市役所の創制に及び、衞生施設の完成に努力し、教育の振興に力を盡したが、歐洲大戰中の好況時に際し、建築規則の發表があつて、美觀を兼ねた衞生的・防火的家屋は漸次無制約の假建築に代り、材料は悉く、石材・煉瓦・鐵筋混凝土とし、黃・白種々の裝飾煉瓦を以て外裝された西洋風建築の家屋が全市の裏町と雖も例外なく行亘り、一の木造又は板・萱葺等の家屋を認めない。

街路は放射線狀であつて、市の東・中部に大廣場があり、十條の大道路が此處から放出し、この四方には東・西・南・千代田・朝日・吾妻・寶等の中廣場があり、八條乃至三條の道路を放出し、廣場と廣場を幹線路を以て連絡し更に外郭を大小道路にて圓形に連絡し、其狀宛かも蜘蛛の巢に酷似して居る。道路は幅員により、七等級に分れ、幅員廿五間を特等といひ、一等以下六等

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○道路延長
五十七里十二町
經費三百五十萬圓

○公園
中央公園（元の西公園）
北　公　園
電氣遊園
星ケ浦公園

迄を、夫々十八間・十四間・十間・八間・六間・三間等に定め、車道の兩側に歩道を設け、車道は碎石、コールターを用ひてマカダム式舖裝を施し、歩道には碧石を敷詰め、車・歩道間に並木を植え、車道兩脇に花崗岩を疊んで側溝を設け、土留を蓋し汚水を下水道に落下せしめてゐるが、舖裝は順次アスファルト及ソリデット等の高級式に代へられつゝある。

　市には公園・遊歩地等の設備が整つて居るが、動物園・植物園は無い。公園は中央公園が最も廣く、小松林の丘を負ひ、園内一圓に樹木鬱蒼と茂り、音樂堂・大運動場・保健浴場等の設備がある。ロシア町には北公園があり、地域は狹いが、各種の運動機具を整へ小動物を飼つて居て、年少子女の小遊園となつて居る。

　電氣遊園は伏見臺の高地にあり全市街を下瞰し、大連灣を隔てゝ大和尚の連峯を望み、形勝の地を占めて居る。樹木の代りに凡て電氣裝飾を以て市民に慰樂を與へたもので、溫室・小動物園・メリーゴーランド・射擊場・スケーチングコート・ボーリング場・圖書館の設備があり、當初は演劇館があつ

て入園料を徴し興業して居た。星ケ浦公園は郊外星ケ浦にあつて、海濱に沿ふた松林の中に貸別莊があり、ゴルフリンク・海水浴場等完備し、避暑又は避寒地として此地一帶は相州鎌倉・逗子の如き面影がある。

○市況

市内は商機活潑で、南滿洲唯一の大商業市場として、殷賑を極め、浪速町・伊勢町・奥町等は商店街として最も繁榮し、伏見臺下常盤橋一帶は近年新興勢力を表して居る。大廣場・大山通・山縣通・監部通を取まひて滿鐵會社を始め、市役所・民政署・遞信局・商工會議所・華商公議會・正金・中國・朝鮮銀行支店・東拓支店・滿洲銀行・正隆銀行・三井・三菱・大倉組等の支店があり、滿洲船渠會社・大連汽船會社・南滿電氣會社・瓦斯會社・大連病院・三越支店・東西本願寺別院等や、滿洲日報・大連新聞・泰東日報等の新聞社がある。教育機關としては、幼稚園一二、小學校一四校、中學校・高等女學校各二校、男女商業學校・商工學校・語學校・工業專門學校等がある。

○交通

市内の交通機關には電車・馬車・人力車・自働車等がある。電車は沙河口・西崗子・星ケ浦・老虎灘等の郊外地に及び、市内は四通八達して居る。馬車

は露治時代の遺物で、乘心持よく、料金は低廉である。人力車は市內隨所に辻待して居て、馬車と競爭して乘客を求め、賃金は馬車の半額である。自働車は近年盛んに利用されるが、道路が宏大で美しいために、西洋の都市を巡る心持がする、旅順へ直通する旅大道路は殊に自動車を驅るに宜い。管內人口約三十六萬五千人のうち日本內地人は約九萬五千餘人である。

金州との間に周水子（セメントを產す）・南關嶺（戰跡多し）・大房身（柳樹屯への入口）等の各驛がある。又灣の對岸には貔子窩の內地移民農村がある。

金州

遼東の首都として古くから繁榮した金州は、果樹園、戰跡、古寺院等によつて附近都邑人や遊覽客を引いて居る。

城內は滿洲各都城の形式を整へて居るが、周圍が狹いので、短時間に見物するのに好都合である。此の地は遼、金等の時代には大都として賑つた歷史を有し又清代には滿・漢・蒙等の十二旗を駐め遼東の要衝として重きをなし

○人口比較

大連	三六四・六六五
京都下京區	三五六・四三七
京城	三一五・〇〇〇
南京	三九二・〇〇〇

○人口
昭和五年四月

日本人	九六、四三七
支那人	二六七、六一七
外國人	六一一

○金州 （粁）
自大連 三二・五
（東京―戸塚） 四〇・九

○名所
金州城
玉皇廟
三崎山
天齊廟
南山
大和尚山

○瓦房店 （粁）
自大連 一〇五・〇
（東京—御殿場） 一一三・二

た。日露役の折乃木軍の奮戰地として名高い。

玉皇廟、三崎山、日清戰碑、天齊廟（地獄・極樂寺）永慶寺（露軍の墓地）等があり、南山には日露戰役に於ける我軍の記念碑が立てられてあつて、年中參詣者の後を斷たない。

州内一の高峰大和尚山は此の驛から登るのであつて、山中に朝陽寺、石鼓寺、唐王殿、響水寺、觀音閣等がある。

内地からの移住農村「愛川村」は此の管内にある。

瓦房店との間に二十里臺（平山の奇洞・愛川村に近い）・三十里堡（五湖嘴への入口）・石河（臺子山、小黒山の形勝に近い）・普蘭店（州界、鹽田あり二百年前埋没せし蓮ノ實が掘出される）・田家（天日鹽を産す）等の各都邑がある。

瓦房店

瓦房店は滿鐵本線に沿ひ、大連から一〇五粁「六五哩二」の地點に在つて、東西に山を負ひ瓦房店河を眺めて居る。東支鐵道時代には「瓦紅店」といひ公主嶺、遼陽と共に三大主要驛であつた。滿鐵會社は明治四十二年以來此の市

街の建設に著手し、上・下水道・水源地・排水路・道路等の改修・新築を著々として完成・整備した。
醫院、小學校、圖書館、公園等が設備されてあり、鐵道守備隊が置かれてあり、滿鐵地方事務所がある、管内の人口は昭和五年四月初頭に於て一萬二千二百餘人であつて、このうち內地人は、三千五百餘人である。
此の地から熊岳城迄の間に、王家（甘泉寺、龍王廟、老孤山等の古跡あり。）・得利寺（林檎、烟草を産す、戰跡龍潭山得利寺等あり。）・松樹（水稻、山繭を産す。安波溫泉に近い。）・萬家嶺（花崗岩及山繭を産す。）・許家屯（官馬山、龍門溫泉等あり。）・九寨（ドルメン（石棚）歸州城址等あり。）等の諸都邑がある。

○熊岳城 （粁）
自大連 一七八・二
（東京—袖師） 一七八・四

熊岳城

「溫泉」と「紅梨」とによつて知られて居る熊岳城は、大連から一七八粁「二一〇哩七」の地點にあつて、東方は山岳重疊して居るが、西方は平原となつて居て海岸に二里を距てゝ居る。
熊岳河の右岸には「渤海」の頃繁榮した居址が、今は哀話を留める望兒山と

共に、昔を語る記念物として殘つて居る。城内は驛の西南十三町の地點にあつて、この附近に知られた賑しい支那人の都邑である。

此の市街の經營は明治四十年に始り、現在では水道、道路、公園等が完備し、小學校、農學校、農事試驗所等がある。次に熊岳城溫泉はリユーマチス、神經衰弱、腺病、痔疾等に特效があつて溫泉ホテルには內湯を設備して居るが、熊岳河の河床を掘れば、隨所に溫湯が湧出するので、砂湯と稱し、各自好むに委せて浸るによく、又は溫湯をたゝへてプールを拵へ遊浴するに宜い。

此地には面積十二萬坪を有する農事試驗所があり果樹、蔬菜、水稻、蠶業等の品種試驗や改良等に就き年々多大の效驗を示しつゝある。

陸に林檎、紅梨を產し、近海はグチ、鰆、鯛等の漁場として知られて居る。

此處には滿鐵地方事務所の支所が設立されて居るが、大石橋迄の間に蘆家屯（古の盧州、溫泉湧く。）・沙崗（砂利とグチを產す。）・蓋平（柞蠶と鹽と花崗岩等の名產地、蓋平城、佛塔、青石關、烽火臺、石城山等あり。）・太平山（鹽マグネサイトを產す。クロパトキン負傷戰跡等あり。）等の諸都邑がある。

大石橋

○大石橋　　（粁）
自大連　二三九・五
（下關—瀨野）
　　二三九・二
自奉天　一五七・一
○附屬地
三、五五〇、六三八平方米
「一、〇七四、〇六八」坪

「迷鎭山娘々廟」の名と共に知られて居る大石橋は、遼東半島の根幹に位し、西南滿洲鐵道の營口支線は此地から分岐して居る、北と東は山岳に圍まれ、西方には遼河々畔の大平原が開けて居る。

市街は露人の計畫を踏襲して、明治四十一年より建設に著手され上下水道を始め道路を整へた。

此の附近の地方からマグネサイト、滑石、リグノイト等を產する。名所には蟠龍山公園、岳州城等があり、日露の戰跡及露軍の墓地等がある。迷鎭山娘々廟は雲霄・避霄・瓊霄の三神を祭り福壽・治眼・子育等の女神であるが、每年陰曆五月十六日から十九日迄の間に催される會式には、滿洲の青年男女集ふもの十萬と註せられ、滿洲唯一の大祭典として中外に聞えて居る。

大石橋には幼稚園、小學校、家政女學校、病院、圖書館等の設備がある。

又滿鐵地方事務所の所在地であつて管內の總人口は八千三百餘人であるがこ

○營口の新市街
新市街面積
一、四六九、五〇四粁
四四四、五三五坪
（粁）
自大連　二六一・九
（新潟―小諸）
二六五・六
自奉天　一七九・五
（金澤―直江津）
一七九・九

○昔の營口

○天津條約
一、八五八年
（成豐八年、安政五年）

のうち、日本內地人の數は三千四百人である。

海城との中間に分水（滑石、金鑛を産す。ドルメンあり。）・他山（毘盧寺がある。）の二小都邑がある。

營口

遼河々口の要津に臨んで古くから商業市場として繁昌した營口は、滿洲最初の開港場で、文化滿洲の母屋である。外國人間には牛莊と稱ばれ、遼河口を遡る十三浬の地點にある。新市街は、滿鐵線停車場の周圍に當り營口市街の東方を占めて居る、此處は日露戰役後、日本軍政官に依つて建設せられたが後に至つて居留民團が之を繼承し、市街の正式整備と建物の築造、水道、電氣等の工事を竣り、學校を建て公園を開き文化都市の面目を整へた、大正十二年十月一日以降滿鐵會社の附屬地として經營されて居る。

營口は今より九十二三年前から滿洲唯一の貿易港として、支那人の商賈蝟集し、繁榮を極めたが、七十二年前天津條約に基き英國の爲に牛莊城を開放した際に、當時の英國領事は、牛莊の水淺くして商船の出入不可能なるを實

測し、足を營口に駐めて此處を牛莊と託稱し條約に依つて得たる開港場とした。其後對外商埠地として支那官憲の認むるに及び、外國商館の對滿洲貿易根據地となり、稅關・海防署等の設立を見、開港場としての面目を整へ、遼河の水運に由り、奧地方各地と結び、商業殷盛を極め、現今の大連の如き狀態であつたが、明治卅三年北清事變に際し、露人の占領する所となり、武備に急にして商業沈衰し、後南滿洲鐵道の開通に當り、大連の隆盛に伴ひ商賈の移轉者相次ぎ更に勢力を殺がれた爲に、取引は全滿洲各地に及んで居るが市況は常に沈滯の狀態を脫し得ない、然れども支那人の商業市場としては今尙ほ潛勢力を失はず、現に沿岸貿易に於ては南滿三港の首位にあつて、その七、八割を占めて居る。市街は老爺閣を中心として東西兩街に別れ、東營口に外人居留地がある。綏定橋より老爺閣に至る大街一圓は、商業最も殷賑を極め、巨商軒を並べ往時滿洲の代表市場としての面目を追想させる。

○今の營口

港は西に渤海灣を隔てゝ、葫蘆島と相對し遼河々口から、十三浬を溯る深處を卜し、埠頭を設備したもので、汽船及發動船を寄するものと、民船及戎

○河港

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○河北驛

克棧橋とに分ち、泛棧橋に依り荷役を行ふが毎年十一月より三月までは、結氷して船舶の出入不可能となる。北寧鐵道支線の河北驛は、西營口の對岸にある、聯絡には營口中央東海關埠頭から小蒸汽船の往復がある。

○遼河五百四十里

遼河は源を蒙古の興安嶺に發し、西遼河・東遼河を合せて本流とし、清河・柴河・太子河・渾河等の支流を合せ、昌圖・海龍・奉天・新民の四縣各地を潤ほし、遼東・遼西の二域を分ちて、營口を經て鎭海營に至り遼東灣に注ぐ、全長三千八百支里に及び、舟楫の便は、四洮鐵道鄭家屯より營口間一千四百四十支里の間と各支流を合せて二千餘支里に及ぶ。潮水は上流二百五十支里の地點に迄影響し、鄭家屯・營口間上り二十二日、下り十四日を要し、鐵嶺からは上り十五日下り九日を要する。

○營口の繁榮

營口は滿洲に於ける商業地として、支那商人間に重要視されること芝罘青島等と等しいが此の地を根據地として有力な商家の置籍する者が多い。雜貨商・綿糸布商・糧棧・質兩替店の老舗が多く、大豆・高粱・豆粕・支那酒・藥材・柞蠶・甘草・人蔘を輸出し、綿織物・石油・砂糖・茶・紙を輸入する。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

支那人　一〇四、〇五〇
外國人　一四一

○海城
（粁）
自大連　二七一・六
（東京—濱松）　二六八・八
自奉天　一二五・〇
（名古屋—奈良）　一三三・九

油房・織物會社・煉瓦會社・燐寸會社・烟草會社・鐵工場等がある。支那の官署は、縣政府・稅關・地方審判廳・海防練軍營・鹽運使公署等があり、英國領事館・各國商業會議所がある。日本側は領事館・警察署・滿鐵地方事務所・商業會議所・小學校・商業實習所等があり、日本管內人口（牛莊共）五千三百餘人の內日本內地人の總數は三千餘人である。

海城

日清の役に於て一旦我國の領土となつた遼東半島は、安東・九連城から鳳凰城を經て海城を加へ營口に及ぶ折線以南の地帶であつたから、當時の海城は日・支兩國の國境に當つて居た。古く此の地は海岸に臨み海州と稱ばれ、牛莊城、柝木城、岫巖城等への要衝であつたが、遼河の沖積作用によつて海岸と離れ去つたものである。城內は人口二萬を有し頗る繁榮して居る。

海城附近には日露の戰跡、枷可山、英城子、柝木城、牛莊城等の名所古跡が多い。物産は有名な「海城栗」と滑石である。此の市街は明治四十年以來計

○湯崗子溫泉　（粁）
自大連　二九二・八
（靑森—一ノ關）　二九五・
自奉天　一〇三・八
（東京—宇都宮）　一〇九・五

畫し建設されたもので上下水道が整ひ、小學校、幼稚園、野砲兵隊等がある。新市街の人口は一千二百人で、うち日本內地人は四百人內外である。
海城から鞍山迄の間に、南臺（甘泉舖、烽火臺等がある。）・湯崗子（有名な溫泉場である。）・千山（鐵礦を產す。）等の小都邑がある。

○鞍山　（粁）
自大連　三〇七・三
（函館—江別）　三〇七・三
自奉天　八九・三
（東京—松田）　八七・九

鞍山

鞍山の製鐵所は撫順の炭坑と竝んで、滿鐵の二大附帶事業の一つであるが、鞍山市街は六百九萬五千坪を有し、頭初製鐵所の百萬噸產出計畫と相俟ちて大規模に設計されたが、製鐵所事業の縮少に際會し、市況が沈靜した。然るに市街は整然として完成し上下水道を整備し、宏寬な多くの建物を竝べて、將來延びるための餘裕を多分に包藏して居る。
幼稚園、小學校、圖書館、公園、病院、中學校等の設備があり、滿鐵製鐵部（製鐵所）・地方事務所があつて、附近に八卦溝と稱する支那町がある。
滿洲の名山「千山」に登るには此處から山麓迄電車に便乘し、山中に一泊し

て湯崗子溫泉へ出るのが最も便利とされて居る。

遼陽迄の間に立山（櫻桃園の石園が近い。）・首山（日露戰跡、橋山關谷山に近い。）の二小都邑がある。

遼陽

○遼陽　（粁）
自大連　三三二・三
（東京—岡崎）　三三七・六
自奉天　六四・三
（東京—平塚）　六三・八

○遼陽城內、驛から十町

往時滿洲の首都として榮えた遼陽は、現代に於ても主要都市として知られて居る。新市街は、日露戰爭當時、日本軍の遼陽城占領に續いて、一千餘名の日本人男女が早くも居住したので、北方の鐵嶺と竝んで、落付のある都市となつた。市街は、遼陽城の西郭から、西に延び面積百八十四萬餘坪を占め都市の形式を整へて居るが、此地は滿洲の特產物資の集散に惠まれないために、活氣に乏しく、商人の奉天・大連等に移住するもの多く、戰爭後最初に開けた多くの都市の例に洩れず、逐年衰亡に趨いたが、現在に於ては、紡績事業等の新事業の開設と相俟つて相當の活氣を見せて居る。

遼陽城內は太子河の左岸にあり、滿洲一の古都として名高く、周代以來襄平と稱ばれ、秦時代の遼東郡であつて、西漢の頃遼陽縣と稱ばれ、魏の頃高

句麗の領土となり、唐に入つて遼州と稱ばれ、遼朝には東京と稱され太子河畔に遼陽縣が置かれたが、元には東京總督府が置かれ、明の頃は遼東都指揮使が設けられた、更に清朝の順治十年に遼陽府が置かれ、民國に至つて縣と改稱されたが、清朝の奉天遷都以前の舊都であつて古跡に富んで居る。東西六支里、南北四支里の城壁を繞し六門があり、商業は殷盛である。太子河は本溪湖を經て遼陽に沿ふて流れ、渾河、三叉河と會して遼河に合する。城內に縣政府、地方審判廳、商務會、各學校があり、新市街に、日本駐屯師團司令部、工兵隊、歩兵隊、各學校、滿鐵地方事務所等があり、白塔公園には高さ二百三十餘尺の十二層の白塔があり、菱形で東漢時代の建立と云はれるから、一千年以上經過したもので滿洲名物の一つとされて居る。昭和五年四月現在日本人は開放地、新市街を合せて、約四千八百人である。

附近に日露戰跡、東京新城址、東京陵等の古跡が多い。

奉天との間に張臺子（石炭を産す。岡崎山戰蹟に近い。）・烟臺（石炭を産す。巖州城に近い。）・十里河（三塊石山に近い。）・沙河（日露の役沙河の會戰地。）・蘇家屯（安奉線との分岐點頗る繁華な町）・渾河（撫順への分岐點。）等の都邑がある。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○奉天

○奉天は一名瀋陽と呼ばれる

（粁）
自大連　三九六・六
（東京―尾張一ノ宮）
自釜山　九六四・九
三九四・八
（下關―富士）
九七二・六
自長春　三〇四・八
（東京―豐橋）

○南滿中央の大市場　三〇五・三

○新市街

奉天

南滿洲中部の大市場として、殷賑を極めて居る奉天は千里の原頭に突兀として建設された近代都市であつて、南方に渾河の流れを望む他は、四方廣袤の大平原である。新市街は面積二百八十餘萬坪を有し、街路廣くして、悉く舖裝された壯麗な坦道で、建物は善美を極め逐年停止する事なく發展しつゝある。南滿洲鐵道は此の地に於て、安奉線と合し、更に北寧・瀋海兩鐵道と相會し歐露、支那内地、朝鮮各地への中繼地として重用の地位にある。生果、石炭、豆粕、麥粉、綿布の出貨多く、燐寸會社、油房、精米場、窯業會社、製糖會社、織物會社、烟草會社、勸業會社等の大會社が林立し物資の製產・集散に繁忙を極めて居る。滿鐵地方事務所、運輸事務所、滿鐵病院等があり、又滿洲醫科大學、中學校、女學校、小學校、幼稚園等があり、商工會議所、取引所の設がある。新市街の日支人商店は商機活潑に、住民年々增殖し、殊に支那側の相次ぐ秕政を厭ふて城内より轉住して來る者も尠から

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

ず、膨脹率が年々增大して行きつゝある。

○城内

○古跡名所
宮殿
天壇
白塔

奉天(瀋陽)城は、内城、外城の二域に別れ、内城は清の太宗天聰五年の築造にかゝり、周圍約十五支里、東西南北に各大小二門を開く、外城は順治十四年の築造で、周圍約三十支里に及んで居る。此地は清朝の發祥地として、一名瀋陽と呼ばれ、名所古跡に富み、現に滿洲の首府であつて、東四省の政務を統べる東北政務委員會の總本部は此の城内に置かれて居る。市内は商業繁盛を極め、總司令衙門を始め省政府、市政府、交渉署、高等審判廳、檢察廳、大學、師範學校、中學校、師團、銀行、諸會社及滿鐵公所等がある。開放地は、城内と附屬地との間にあり、十間房、大小西關一帶を占め、日支商館、旅亭、旗亭等が多い、又各國領事館、支那交渉局等がある。

○開放地

○舊宮殿

宮殿は城内の中央にあり、清の太祖皇帝及太宗文皇帝の宮居として二百八十餘年前の建造である、文溯閣には有名な四庫全書(鈌本あり)を藏する。北陵は奉天驛を去る一里半の地點にあり、順治元年太宗文皇帝を葬つたもので、陵の周圍は約十五町の土塀に圍まれ、石像、古牌等がある。東陵は奉天の東方

○北陵

○東陵

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○鐵嶺
自大連　四六八・〇（粁）
（東京—彦根）　四六三・六
自長春　二三三・四
（門司—八代）　二三三・八
○城內

三里にして、淸の太祖を祀る、南滿の絕勝地として名高い。京奉鐵道瀋陽驛は小西邊門外にあり、支那本部への旅客は此驛を經由せねばならない。開埠地、附屬地を通じて人口七萬一千餘、內地人は約二萬五千餘人を數へられる。

鐵嶺との間に文官屯（戰跡あり）・虎石臺（蒲河城に近い）・新城子（石佛寺三面船に近い）・新臺子（大豆を出す油房が多い）・亂石山（雉の獵場に近い。）・得勝臺（汎河、新興堡等の城址に近い。）等の各都邑がある。

鐵嶺

鐵嶺は、日露戰後間もなく通商市場として開放され、最も早く日本商人の定着を見た爲に、商工業に根柢が深いが開原の發展に伴ひ、幾分退嬰の氣配がある。鐵嶺城內は渤海時代から發達して、已に一千二百年に渉つて、都城としての面目を保つて來た土地だけに、何となく落付のある市街である。遼河の左岸に位し、鐵道開通以前は、掏鹿、海龍地方の穀物の河運に依る集散市場として河港馬蜂溝を支配し、年々一百萬石を吞吐し、奉天以北第一の商業市場であつた。城內は明の洪武年間、周圍六支里の城壁を築き、四門を

○新市街

○開原
自大連　五〇一・五（粁）
（東京―草津）　五〇三・一
自長春　一九九・九
（青森―盛岡）　二〇四・七

開いて居たが、漸次取毀され、煉瓦は道路修繕に用ひられて居る。新市街の面積は百八十八萬坪で、開放地に連續して居る。旅團司令部、領事館、歩兵聯隊、赤十字社支部、滿鐵地方事務所、幼稚園、小學校等は新市街に在る。大豆、米、高粱、柞蠶、葉莨、麥粉、豆粕等を集散する。城內には縣政府、交涉局、審判廳、商務會、小學校、中學校、銀行、中日俱樂部等があり、開放地に居留民會がある。日本人は總計約三千七百人に及んで居る。

開原との間に平頂堡（高力站、英守屯に近い）・中固（老母廟に近い）の二小都邑がある。

開原

南滿洲の特產穀物市場として第一流に位する開原は、鐵嶺の北方廿哩の地點に在り、鐵道開通前迄は、孫家臺と云ふ草深い一小農村部落に過ぎなかつたが、背後地に當る南滿洲屈指の豐穰な農作物の穀藏と云はれる海龍、東平、西安、西豐、柳河の各地方からは、品質の最も優秀な大豆を產し加之粟、高粱其他の穀物も亦豐富であり、滿洲の山貨と云はれる柞蠶、烟草、麻、木

○開原馬市
（明）成祖永樂三年
（西紀一四〇五年）
（後小松帝應永十二年）
定價　絹　布
上上馬八疋十二疋
上馬　四疋　六疋
中馬　三疋　五疋
下馬　二疋　四疋
駒　　一疋　三疋
同上十四年互市賣價
米　布絹各
上上馬五石　五疋
中馬　三石　三疋
下馬　二石　三疋
駒　　一石　二疋

茸、藍、蜂蜜等も此一帶に多量に產するので、此の地は此等物貨搬出の要衝を占め、每年十一月頃から翌年三四月迄の結氷期に於ては此等原產地から、新市街に搬出する馬車の數每日幾百となく連綿として續き、市內は商業活潑にして最も殷賑を極め、肩摩轂擊の盛況を呈する。附屬地の總坪數は二百萬六千坪で、特產物取引所、糧棧、飯店、吳服店、洋雜貨店、銀行、滿鐵地方事務所、電燈會社等は宏壯な建物を聯ねて竝び守備隊、警察署、幼稚園、小學校、公學堂等がある。所謂滿蒙四鐵道の一である開原・海龍城間の線は、此地を基點として開始される事になつて居たが、開原・西豐（掏鹿）間は輕便鐵道とし殘りの區間は廣軌線として支那側の建設にて既に開通して居る。

○城內

城內（開原城）は新市街と三里の距離を保ち、高句麗、渤海時代より要衝として聞え明代には最も榮えた。周圍十二支里餘の城壁を繞らし、南方に淸河があり、黃龍ケ丘はその北を繞り、要害の地に當る。近年新市街の發展に伴れ、商賈相率ゐて移住し、幾分の衰勢を來しつゝあれども、吉林、長春、英額城、海龍府下への通路に當り、南滿洲の要地として榮えて居る。縣政府、

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

稅務局・商務會・農務會・女學校・師範學校・中學校・銀行・各宗寺廟等がある、管内在留内地人は新市街・城内を合せて二千六百餘人である。

四平街との間に金溝子（墩臺に近い）・馬仲河（邊牆の遺跡あり）・昌圖（日本人三百あり、奉・吉・蒙の境界點、粟を出す。城内は繁華な都である）・滿井（日露役日本軍の最前線帶）・泉頭（日露休戰約定地）・雙廟子（八面城への入口）・桓勾子（鸞鷲樹市への入口）・虻牛哨（名勝牛拉山門に近い）等の諸都邑がある。

○四平街　（粁）
自大連　五八五・九
（東京—西ノ宮）　五八三・五
自長春　一一五・五
（京都—梁瀨）　一一七・二

四平街

内蒙古と滿洲とを繋ぐ玄關口に當る四平街は南滿・四洮兩鐵道の接續地である。新市街は面積百六十餘萬坪あり、南滿洲各地の新都市の例に洩れず、道路廣く、建物壯麗で歐米風の文化街である。支那街は大正十年の建設で、凡て官憲に於て民地を買收し、地區の整理をなし、家屋を建造して商工都市としての施設を整へたが、滿洲に於ける各地方の支那側新開都市發展上の故智に倣ひ此新支那街も亦官憲の手心によつて博打・遊里を默許し烟館を建てさせ、出入貨物商品の免稅等を以て、繁榮策を講じたゝめ、舊四平街・買賣街・八面

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○舊四平街

城・鄭家屯等の商賈競つて移住し、特產物の集散地として北方に認められるに至つた。

四平街とはもと、現滿鐵四平街驛の西方の地點にあつた小邑であつたが、現今に於ては殆んど、附屬地に接した支那街にその中心が移動して來て居る。四洮鐵道は此地を基點として洮南に達するが、更に北進して昂々溪に至る洮昂鐵道に聯る。四洮鐵道は支那鐵道中でも有數の完備した鐵道であつてその本局は支那街の北方にある。幼稚園・小學校・公學堂・電燈會社・取引所・各銀行支店・滿鐵地方事務所、支那側の商務會・交通銀行支店等があり、人口一萬七千人の內、內地人は四千一百餘人である。

公主嶺との間に楊木林（買賣街への入口）・十家堡（梨樹縣の小邑）・郭家店（高粱・大豆を出すパプチヤプ戰敗地）・蔡家（東遼河流に近い）・大楡樹（水稻採種田がある）等の諸都邑がある。

○公主嶺
（粁）
自大連　六三九・四
（東京―加古川）　六四〇・三

公主嶺

南滿洲鐵道沿線中、最高地帶に位する公主嶺は、蒙古の前庭に當る閑靜な町

自長春	六二・〇
（青森―陳場）	六八・〇

である。現今の新市街の一部は露西亞の經營時代に、既に市街の體裁を整へて居つて、哈爾濱に亞いで主要驛として設備されてあつた。市街は中央を流れる小河口に依り二區に分割され河北を新市街といひ、支那街は河南を占めて居る。新市街は更に、鐵道の跨線橋を隔てゝ二分され、鐵道以北は、官公衙滿鐵會社諸機關の造營區域に當てられ、一小文化市街を形成して居る。以南は河南の支那街と相接續し、商工業地域であつて、銀行・會社・商舖・糧棧等多く、穀物の出廻季節に至れば千車萬馬に賑はふ。附屬地の面積二百一萬四千坪である。

公主嶺は、もと公主陵と呼ばれ、二百餘年前、前淸太宗の息女が蒙古王に嫁して、都より通過の途中此地に於て病歿したため、陵を築いて禮祭を續けた處である。露人は此地を軍事上の要地としたが、此邊一帶は日本の信州に比べられる高丘地帶で、蒙古達爾罕王旗下の領地である。此地は農產物の集散地として名高く、伊通州・懷德縣地方からの搬出驛に當つて居る。獨立守備隊・滿鐵地方事務所・取引所・圖書館・農學校・滿鐵農事試驗場及支那側の稅捐局・商務會・保甲團・等がある。人口一萬三千餘人の内、内地人は二千

二百餘人である。

農事試驗所は、滿鐵會社諸施設中でも、最も有效に滿蒙農事の發達に稗益するもので、僅々二百餘町歩の試驗場ではあるが、各種農作物の試作改良試驗を始め、牧畜・果實・養蠶・林產等に就き、滿蒙七萬五千方里の產業界の縮圖のやうな狀態である。大正二年に開始されて以來、種苗試驗を續けて居たが滿洲特產物中の統領である大豆の純系分離に成功し、尙ほ水稻・高粱等の作物に及ぼし、一方緬羊・豚・牛・馬等の改良に及び、甜菜・棉花・ホップの移植に成功し、小麥・棉の改良種產出に成功したが、更に昭和二年度から、農業勞力の研究にかゝり、耕作・刈入・運搬及製造等に關し、電力・水力・風力に就き夫々研究が完成されて居る。滿蒙の曠野は廣く未耕地は無限にある、公主嶺の農事試驗所は、斯くして眞面目な研究を續けて、全滿蒙に黃金世界の招來を目標として居る。

長春との間に劉房子（海拔七百尺南北滿洲分水嶺）・陶家屯（防風林多い）・范家屯（糧產、油房多し懷德縣への入口）・大屯（石材を出す）・孟家屯（一時長春の補助驛として賑つた）等の小都邑がある。

○農事試驗所
○大豆
在來種四粒黃を改良し收穫五、六割增加、含油量も多し。
○小麥
優良種は三、四分の增收
○水稻
改良種一割乃至三割增收
○果實
優良品奬勵

○長春
（粁）
自大連　七〇一・四
（下關—大垣）　七〇八・八
自安東　五八〇・六
（東京—西ノ宮）　五八三・五

○特産物
隨年大路（普通品種の大豆）の取扱品再開のため四年度より更に活氣を呈した

長春

南滿洲鐵道北端の最終點に位する長春は、哈爾濱に近接して居て、總體に歐露氣分の濃厚な市街である。隨つて在留人の最短所とする腰掛的氣分が比較的稀薄な所で、而もこの傾向は逐年顯著になりつゝあるが是は、落付く先を墳墓と定める露西亞人氣質の地理的相關性を物語るものと見られる。此地は北滿物資の集散地として商機活潑に逐年長足の膨張を示して行く新興都市である。東支鐵道・吉長鐵道は此地に於て我南滿洲鐵道と相會し聯絡するので、國際的折衝地としても重要な地位にある。市街は伊通河の左岸に位し、我が北海道旭川と同緯度で、新市街・開埠地・長春城内の三區に別れて居る。新市街は、舊稱頭道溝に在り明治四十年九月、百五十三萬坪を買收し、鐵道附屬地として開拓したのに始り、滿鐵會社に於て、區劃整理を行ひ、九十萬坪の地域に、文化的新都市の建設を計畫し凡て歐米に於ける近代的諸都市に倣ひ街衢を整備し、茫洋大海の如き平原中に洋風の壯麗なる都市が出現した。滿

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

鐵長春停車場前の廣場を基點として日本橋通・中央通・敷島通の三幹線路は開埠地又は城内に向つて直進し、中小の道路が縱横に交叉して居る。此の邊は巨商蝟集し、建物宏壯にして大陸的都市としての面目を備へて居る。

○開放地

開埠地は、新市街を包圍し、凡て歐風都市として建設され、壯麗なる道路宏壯なる建物を以て新市街と相對し、各官公署・開埠局等の巨館があり、支那人の建てた最初の文化市街として一般に注目されて居る。

○城内

城内は長春縣政府の所在地として此一帶に於ける沃野の樞軸を握り、吉林・懷德・農安・伯都訥・伊通州等の大都城を控へ、農産物の集散地として殷盛を極めて居る。

○寛城子

寛城子は長春驛の北方一哩の地點に在り、東支鐵道南部線の終端驛として知られて居る。長春縣管内は、東蒙古の王領に屬し、支那人は永代借地權を設定し、地租を納めて居る。領事館・商業會議所・取引所・銀行・製油會社・運送會社・製粉會社・製紙會社・烟草會社・油房等あり、滿鐵地方及運輸事務所・幼稚園・小學校・公學堂・商業學校・女學校・師範學堂・中學堂等がある。又新市街には在留邦人の誇りとする幽邃閑雅な西公園がある。管内人口は城内を除い

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

て四萬一千七百人で、うち內地人は約一萬〇六百餘人である。

吉林

○吉林

吉林省の首府吉林は、南滿洲北方の形勝地として知られ滿洲の京都と呼ばれる山紫水明鄕である。松花江畔に位し、東西北の三面は高山を以て繞され、天然の都邑として古くから開け、愛親覺羅氏合祥の地として尊崇されて來た。寧古塔から移つた督軍衙門は現に吉林省を支配する將軍の居城で、城內は巨商老舖軒を並べ殷賑を極めて居る、松花江上流の木材は、一旦此地に着し、水路哈爾濱に、陸路長春に搬出される、安東と並んで木材の都である。現在製材會社、製粉會社、製紙會社、燐寸會社があり、日本領事館、滿鐵公所、副司令公署、省政府、審判廳、檢察廳、交涉署、縣政府、軍機局等がある。

吉長鐵道吉林長春間七九哩

○吉林省の主府

○松花江

吉長・吉海及吉敦鐵道は此地を起點として長春・朝陽鎭及敦化へと走つて居る。

○名所

名所は四方に求められるが、北山公園、小白山、龍潭山、江山公園等は著名である。

○吉會鐵道

滿蒙四鐵道の一線吉海(輝吉)鐵道は此地を基點として遼寧省

○木材の都安東　（粁）

自釜山	九四九・八	（下關—江尻）九四九・八
自奉天	二七五・八	（名古屋—甲府）二七八・八
自長春	五八〇・六	（東京—西ノ宮）五八三・五

の朝陽鎭迄開通し、更に奉天に聯つて居る。他方吉會線は遠く朝鮮會寧に達するものであるが、既に敦化迄は開通して居る。吉林省の寶庫と言はれる森林・鑛山等は鐵道の開通と相俟ちて順次開發されて行くことが期待される。

人口十六萬人内外であつて、内地人は一千二百人内外である。

長春との間に頭道溝・長春（吉長鐵路總局所在地）興隆山・卡倫・龍家堡・飮馬河・下九臺・營城子・土們嶺・河灣子・樺皮廠・孤店子・九站・哈達灣等の十四驛がある。

又吉敦沿線には蛟河（農産物の集散地杭木、石炭を出す人口七千）・敦化（縣政府あり、木材類を出す渤海城址あり人口一萬五千）等がある。

安東

筏舟と東洋一の大鐵橋とによつて有名な安東は、大連・營口と竝んで南滿三港の一であるが市街は鴨綠江口を遡る十六浬の地點にあつて、朝鮮の新義州と相對し「木都」と呼ばれるほどに鴨綠江材の搬出市場として繁華な市街である。新市街は、日露戰役中に開拓されたもので、明治卅七年に日本人の入市

自大連　六四一・二
（大邱—鎭南浦）　六四一・六

○舊市街は沙河鎭

○鴨綠江材

を見たが、卅九年に開放され、支那側の道臺も亦鳳凰城から沙河鎭（安東縣）に移轉して來て、此地の商埠地としての地步を堅め、日本人は鋭意市街を建設し、排水・築堤の工事を竣り、市區計畫を樹て、碁盤目型の、整然たる市街が竣工するに至つた。面積二百七十餘萬坪で、市場通・大和橋通りは最も繁榮を極めて居る。物產は鴨綠江材を大宗とし、柞蠶・豆粕・豆油・米・支那酒等を出し、製材業、機業が旺んである。

支那人街は沙河鎭と呼ばれ、即ち安東縣である。沙河と鴨綠江の合流點に位し、朝鮮地方との船舶貿易が盛んに行はれる。此地は古く、邊外と稱せられ、草地に委せられてあつたが、淸の同治十三年に、農耕を獎勵し、商賈を招き、縣令をして極力移住者を好遇せしめた結果市街の發達を見るに至つたが、鴨綠江鐵橋の開通し、朝鮮と滿洲を握手せしむるに及び、急激の發展を示した。現に支那公署の、縣政府・市政府・水上署・海關・漁業保護局・商務會・平民工藝廠・中學校・商業學校・女學校・小學校等がある。

南滿洲鐵道の、安奉線は此地を起點とし、蘇家屯に至り更に奉天に達する、

有名な鴨綠江材は、筏に組まれ江の上流域より安東に到着し、水路又は陸路を經て、各國に搬出される。現在に於ては、鴨綠江沿岸の伐採を終り、長白山の密林に浸入して居る。樹木の種類は松・樅・楢・胡桃・楡等で、林域二百方里に及び、鴨綠江の各支流及渾江の派流が森林中を縱橫に流れ、流筏に至便である。鴨綠江は、源を白頭山に發し、滿洲と朝鮮の境界を成して居る、虛川江・長津江・渾河・靉河其他幾多の小流を合せて流れ、途中沙洲のために三流となり、上江・中江・通天河等と呼ばれ、沙河鎭に於て合流し、更に三角洲を築いて分流し黃海に入つて居る。全長百四十里に及び、戎克は上流四十里の地點迄遡江し得るが、汽船の航行區域は極めて短かく、安東棧橋に於ても、吃水四尺以上の汽船は出入難澁である。每年十一月から翌年二月迄は結氷する、この天然氷は採取され各地に積出されて居る。

○東洋一の鐵橋

東洋一の鴨綠江鐵橋に差しかゝつた時、滿洲へ入る旅客は時計を一時間後らせ二十四時間制のダイヤグラムに倣はねばならない。この鐵橋は、全長三千九十八呎に及び、鐵道線路は橋の中央に敷設し滿鮮直通列車を往復させて

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

居るが、兩側は歩道となつて居る、毎日四回を限り橋の中央部は十字形に開かれ、上下する船舶の航行に供して居る。

安奉線の沿線一帶は樹木豐富で日本內地と等しい山水の景勝地が多いが、安東の東北には元寶山があり、新市街の背後には鎭江山があり眺望絶佳にして天然の公園を成して居る。附近に五龍背の溫泉があり、河口に安東の分市街ともいふべき大東溝がある。各銀行・採木會社・機業會社・製材會社・製紙會社・汽船會社・取引所・滿鐵地方事務所等があり、幼稚園・小學校・中學校・女學校・圖書館・神社・寺院がある。此地の日本人は總體に於て植民地質氣が薄く、永住的氣分が濃厚である。一度滿洲の奥地方に於て、事業を廢し、日本內地に引揚ぐるために朝鮮へと向ふ人々も、此地に到着すれば暫らく足を駐めて再起を計る等の特殊の雰圍氣もあつて、安東は朝鮮から滿洲への第一玄關口として又滿洲開發者の休息所として、一般に親しみ深い市街である。現に管內に六萬六千餘の人口を有し一萬二千餘の內地人が在住して居る。

鷄冠山との間に沙河鎭（安東市北端の一驛）・蛤蟆塘（九連城の戰跡は近い）・五龍背（南滿三溫泉の一、米を産す）・湯山

自安東　（粁）八〇・一

城（世に知られない良質の溫泉あり）・高麗門（高麗城址、青峰山一面山に近い）・鳳凰城（千山と並稱される鳳凰山の寺觀メンヒル等に近い）・四臺子（遼陽街道に當る）等の都邑がある。

鷄冠山

滿洲の荒凉を嘆く者は、鶯うたひ、ほとゝぎす啼き、千草の花咲き競ふ山澤の絕勝地鷄冠山の存在を知らないが故である。鷄冠川の淸流に沿ふて開かれたこの町は、閑寂すぎる程に淸楚な姿を流れに映して、枯乾に脅える滿洲人等の來遊を待つて居る。而して大陸特有の產物を集めた動植物園等の機關を設けて、此の一帶を遊覽地として開拓することは、滿洲百年の計として大いに講ぜらるべきものと望まれて居る。

連山關との間に秋木莊（木炭を出す。驛は山腹にあり、木の丸太を組立てた唯一の木造家屋である。）・劉家河（木炭、坑木を出す。）・林家臺（黃鐵礦を出す。）・通遠堡（薪炭及山繭水稻礦產物を出す。）・草河口（大豆、木炭、坑木を出す閑院ノ瀧は近い。）・祁家堡（木粉山繭を產する。）等の小都邑がある。

連山關

安奉の沿線各地は、日本內地と等しい山河の風光に富んで居るが、連山關のあたりは一層風雅の趣があつて、特に靜養地として宜く滿洲の輕井澤と呼ばれて居る。橋頭と等しく淸流「細河」の流域に沿ふて、銷夏の遊園地として水鄕の情趣が溢れ切つて居る。本溪湖との間に下馬塘（木炭木粉を出す。摩天嶺の戰跡近し。）・南攻（廟兒溝鐵山に輕便線が通じて居る。）・橋頭（人口六百餘、絕勝釣魚臺に近い）・宮原（元福金、戰跡宮ノ原に近い）の四都邑がある。

本溪湖

鐵と石炭とを出す本溪湖は、奉天の東南四十八哩の地點にあつて安奉線の要衝に當り、古くから土器・冶鐵の製產を以て顯はれて居た。現在の市街は本溪湖（火蓮寨）河畔にあつて四方山を以て圍まれ、窯業・採炭業・製鐵會社等の從業員を以て賑ひ、商業も亦頗る繁榮して居る。煤鐵公司は、明治三九年大倉組の炭坑開掘に發端し、四三年廟兒溝の鐵礦を開いてその製鐵事業は

自安東　（粁）一四八・六

○本溪湖
自安東　一九八・二
（函館―倶知安）一九三・三
自奉天　二一・八

○煤鐵公司
熔鑛爐　四基
送風機　五基

○煤鐵公司鐵年額　瓩

昭和	
元	一六五、〇五四
二	二〇五、四四五
三	二三四、四六一
四	七六、三〇〇噸

○本溪湖炭

	屯
昭和元	四一五、〇〇〇
二	四〇三、七一七
三	四九、〇〇〇〇
四	五三一、〇〇〇

○新市街面積

九五四、四六五粁
二八八、七三五坪

日支合辦として、四四年に開始を見た。

廟兒溝の鐵礦は含有量七〇％の富鑛であつて、埋藏量は八千萬噸と見積られて居る。鑛石は南方一九哩の南坟驛附近から送り出される。

本溪湖炭は無烟炭で、火力強く製鐵用及コークスの製造に有效である、炭層は一米突乃至三米突であつて、埋藏量は二億五千萬噸と見積られて居る。年採堀量は六十萬噸であるが、出炭は鞍山製鐵所に於て購入使用されて居る。牛心臺炭坑は、無烟炭を產し、下牛心臺炭坑と等しく合辦組織である。此の炭坑の坑木・石炭の搬出に資する輕便鐵路溪城線は、炭坑勞働者をも輸送して居る。

新市街は谿谷を開いて土木を起したもので、街衢を造り、排水溝、下水道を設け、太子河より取水塔により上水道を引き、濾過機により一般に給水し、公園・學校・醫院・圖書館・滿鐵地方事務所等がある。面積二十九萬坪であつて、人口四千八百餘人の内內地人は二千七百人を數へられる。

附近に龍洞、戰跡、太子河鐵橋等がある。

蘇家屯迄の間に火蓮寨（生石灰を產する奇岩の山々多し）・石橋子（水田あり）・歪頭山（第一軍記念碑に近い）・姚千戶屯（スキー場に近い）・陳相屯（塔山、奉集堡等の古跡に近い）・吳家屯（萬寶山戰跡に近い）等の小都邑がある。

○撫順	（粁）
自大連	四三六・二
（東京—關ヶ原）	四三五・五
自長春	三六一・六
（下關—玉島）	三六〇・七
自安東	三一五・四
（米原—親不知）	三一三・三

撫順

「撫順炭」の名聲と共に知られて居る撫順は、炭坑事業の隆盛に伴ひ、年々發展の速度を加へて伸びつゝある。新市街は大正十三年に、石炭の露天掘擴張のために、舊市街の支那町を殘し、日本人街の大部分が現在の場所に移轉したもので、市街は渾河に沿ひ、楊柏堡河を隔てゝ舊市街と相對し、撫順城に近い。城内は諸機關が千金寨（今の舊市街）に移轉して以來淋れてゐる。

此の附近一帶には永安橋・炭礦・古陶窯址・日露戰跡・大悲寺・城内等の名所古跡が多い。南滿鐵道は渾河から分岐して此の地に終る支線を有し、石炭の搬出に繁忙を極めて居る。なほ此の一帶からは良質の米を產する。（炭坑に關しては滿鐵會社の項を參照）

滿鐵炭坑部（炭坑事務所）・警察署・守備隊・憲兵隊・中學校・高等女學校・圖書館・病院・小學校等があつて、管內人口七萬九千人のうち、內地人は一萬七千餘人である。

撫順沿線には楡樹臺・孤家子・深井子・李石寨等の小都邑がある。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY



ハルピン



蒙古の駱駝

Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY



大連ロシア町波止場



鴨綠江上のスケート大會

Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY

第九　滿洲の對外關係

滿洲の對外關係――露西亞との關係――英米其他との關係――日本との關係

○ロシア
○日清戰爭
○北清事變
○日露戰爭

滿洲の對外關係

滿洲の對外關係は、其の接壤國の露西亞との交渉から始つて居る。次いで世界の各地に版圖や勢力圈を劃定して廻つた英國も亦遼河々畔に其の常套手段の跡を印してゐる。而して、日清・北清の兩役前後に於て、日本が漸く亞細亞大陸の一角に地歩を築くための試みを始めた頃から、各國は競ふようにして支那に着眼し始めた。即ち日清戰後の三國干渉の結果、露國は滿洲に確實な地歩を占め、獨・佛・英等諸國は支那本土に夫々の勢力範圍を設定した。然るに日露講和後に於ては、露西亞は其の南滿に延ばした東方浸略の手を收め

て外蒙古・北滿に退き、日本の勢力が之に代つた。爾來滿洲の豐富な天然資源に對しては、歐米各國が等しく垂涎し種々の手段を採つて、此の地方の利權を得ようと試みたが、現在に於ては、北と南とに據つて露西亞と日本とが此の地方の特殊權益を保有して居る以外に、他國の浸入を認められない。

○支那本土

然れども支那全土から見れば、英國は最初牛莊を開いて貿易市場を建て、京奉鐵道の開設をなしたが、滿洲に於ける發展は之れに止め、轉じて揚子江岸、西藏、九龍地方、山西省、威海衞等に於て優越的地位を占めた、而して獨逸は山東省に、佛國は廣東省、廣西省及雲南省に勢力を張つた。

○滿蒙

滿洲及蒙古の地域は、その接壤して居る領土との地理的關聯から前記の如く北滿洲の呼倫貝爾、外蒙古、西部內蒙古、伊犁地方に於ては露西亞との交涉が繁く、東部內蒙古及南滿洲に於ては日本との交涉が複雜して居る。而して近代に於ては滿洲を中心とする對外關係は、主として奉天政府の自主的交涉に俟つたが、最近國民革命の成功を見て、南京政府が支那を統一して以來、滿洲の對外交涉の實權が南京の國民政府に移轉し、對日、對露其他の交涉に

當つても、更に一層複雜性を帶びて來て居る。

露西亞との關係

(一)東方進出の國策を樹てた露國は、十七世紀の中葉に入つてから、黑龍江畔に着目し、露支國境を覗いて居た。然るに當時の支那は內政治まり、國外進出・特に北進の機運が發芽して居たゝめに、勢ひ兩國政策の衝突を招いたが、つひに國境を商議することゝなり、兩國代表は一、六八九年及一、七二七年に、國境の劃定をなし、同時に通商條約を締結した。(二)其後露國は、伊犁叛亂の際や、英佛聯合軍の支那侵入の際に於て、支那の內憂外患に乘じ、多くの利權を獲得した。(三)亞いで一、八九五年日清戰爭の媾和議定に因り遼東半島は日本に割讓されたが、露國は獨・佛と共に干涉して之を淸國に返還させその報酬として、一、八九六年九月、シベリア鐵道を延長し、浦鹽迄通ずる北滿洲鐵道(現在の東支鐵道)の敷設權と、南滿洲地方に鐵道敷設の優先權、鑛山採掘權、駐兵の權、膠州灣の租借權等を得た。然るに兩國は更に旅順、大連灣不割

○尼布楚(又はネルチンスク)條約一、六八九年八月二七日
○布拉條約一、七二七年一〇月一二日
○恰克圖條約一、九二七年一〇月二一日
○愛琿條約一、八五八年五月一六日
○英佛聯合軍一、八六〇年
○一、八六〇年北京條約により黑龍江の北方一帶沿海州全域は露領となる
○伊犁叛亂一、八七〇年頃
○カツシニ條約一、八九六年九月八日
○東支鐵道建設及經營に關ずる契約一、八九六年九月八日

Digitized by Google
Original from KEIO UNIVERSITY

○東支鐵道南滿洲線建設及經營條約一、八九八年七月六日條約

○旅大租借一、八九八年三月二七日

○アレキーシーフと奉天將軍增祺は密約締結を約して成らず

○露支同盟條約一、八九六年五月

○カツシニ密約一、八九六年九月八日

○遼島半島租借條約一、八九八年三月二七日

○同上中立地帶協定一、八九八年五月七日

○滿洲利權還附に關する條約一、九〇二年四月八日

○日露戰爭

讓の約等を取極めたと傳つたが、(四)其の翌年に至り、獨逸兵が膠州灣を占領した際に、果然露國は其の十二月シベリア艦隊を旅順に派遣し、翌一、八九八年清國に迫つて、旅順、大連及附近の海面を二五ケ年間租借し、租借地界以北に一の中立地帶を定め、旅順、大連の二港に海陸軍備を設けること、及北滿洲鐵道を南滿洲に延長する權等を得た。(五)更に一、九〇〇年夏に至り、支那に團匪事件起り、滿洲に在つては奉天附近に於て鐵道を破壞し、吉林、璦琿、海蘭泡等は團匪、馬賊、官軍の一部の聯合による暴徒の殺到する處となり、露兵の死傷者を生ずるに及び、露國は鐵道警備の名の下に、滿洲の要地を占領し、滿洲の武備を悉く露國に於て掌握すべく、奉天及露都に於て條約を締結せんとしたが列國及支那政府の反對に會つて中絶した。(六)其後支那政府は滿洲の露西亞勢力の驅逐を志し事毎に談判を繼續した爲、一、九〇二年に至り、露國は讓步して、滿洲の政治を支那に還附し、且つ撤兵し、山海關・營口・新民鐵道等を返還する所謂滿洲還附條約を締結した。

(七)其後英獨協商や日英同盟條約が成り、支那の領土保全、機會均等主義等

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○ポーツマス講和條約により露國は滿洲の權利一切放棄

○日露協約第一回一、九〇七年七月卅日、第二回一、九一〇年七月四日、第三回一、九一六年七月三日

の聲明を見るに至り、露國も亦表面歡迎の意を表し乍ら、事實上露國は滿洲占領の國策を捨てず、朝鮮の獨立さへ危機に瀕したので、日本は屡々抗議して、日本此の危機を除去するための協約を結ばんとしたが、露國は滿洲に關し、日本の發言權を認めず、朝鮮問題に就いても、日本の提案を拒絶するに及び、日本は干戈に訴へて理非を匡さんと宣言し、一、九〇四年二月露國に向つて國交斷絶を通告した。戰後露國はポーツマス條約に基き、南滿洲に於ける一切の權利を日本に讓渡して全く南滿洲侵略の野望を放棄して終つた。(八)斯くして滿洲に於ける日露兩國の勢力は、南北に區分され互に相侵さざるを約し、戰後親交を加へ種々の共同宣言をなし、又修交條約を締結したが、一、九〇九年米國が、滿洲鐵道中立の提議をなした際及錦愛鐵道敷設問題等につき兩國は一致して反對し不成立に終らせた。(八)日露戰後、露國は南滿洲の勢力は失つたけれども、蒙古に對する侵略を依然として繼續する一方、北滿洲に於ける勢力を持續し、一、九一六年三月には支那政府と露亞銀行との間に賓黑鐵道敷設借款契約が成立したが、歐洲大戰參戰中にも拘らず、露國は更に

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○呼倫貝爾（海拉爾）の地位に關する協定一、九一五年十一月六日

○露蒙修交協定及附屬通商議定書一九一二年十一月三日

○露支宣言一、九一三年十一月五日

露支密約を締結して、黑龍江省の一部呼倫貝爾を特別區域として自治を認めしめた。露國は日・英・米・佛等の支那の領土保全・門戶開放・機會均等に關する條約や聲明の發表を見ながらも、外蒙古の侵入を勇敢にも繼續して居た。清末、民國革命の初頭に當り外蒙古の王公・喇嘛等は、支那各省に倣ひ獨立を宣言したが、之に先だち露國は活佛の內意と稱して支那兵の內蒙古に於ける調練を撤退することを支那政府に迫り、次で蒙古の獨立宣言を見るに至つた、此機に乘じ、露國は蒙古をして支那の治下を脫し、舊制度に復歸せしめんため、支那との折衝に當らんとしたが支那が應じなかつたので、積極的に蒙古を援け、支那の蒙古征討を阻止し露蒙密約を締結して、蒙古に於ける特殊利權を獲得した。即ち露國は蒙古の自主權を認め、支那兵の侵入防止に對して援助するが、蒙古政府は露國人に農工商業其他の特權を與へ、爾後對外條約締結に際しては凡て露國の承認を要すること等である。然るに支那は此の密約を無效と宣言したので、露國は抗議し、つひに正式交涉に移り、兩國代表は一、九一三年に於て協定調印を終つた。之によれば、露國は蒙古に於ける支那の宗主

○露蒙支三國協定一、九一五年六月七日
○東清鐵道會社建造經營約款露曆一八九六年八月二七日○同上續約一八九年六月二四日○同上會社條令一八九六年十二月四日

○カラハン宣言

權を認めるが支那は外蒙古の自治權を認め、內政に干涉しない、たゞ一名の高官を庫倫に駐在せしめ、露支の利益に關しては別に商議するといふのである。其後、露・支・蒙三國會議により、外蒙古の自治は確認され、外蒙古の各種經濟上の利權は露國に歸したが、後露國革命に際し、支那は蒙古の自治を取消したので、露國は之に抗議を續けて居る。(九)其後サウエート露西亞の內訌に乘じ、支那は北滿洲及蒙古の權利を恢復せんとし、外蒙古の自治を取消し、他方一九二〇年三月、哈爾濱に於ける三十有餘の露人勞働團體の罷業に際し、吉林督軍鮑貴卿をして、東支鐵道長官ホルワットと會見せしめ、鐵道沿線の警備權を強制的に回收して終つた。

(一〇)是より先、駐支大使カラハンは、前後二回(一、九一九年七月・一、九二〇年九月)に亘つて、所謂「カラハン宣言」なるものを發し、サウエート・露西亞が、支那の國民革命に多大の同情を有つ旨・東支鐵道の原則的放棄を斷行する意思ある旨等を聲明し、大いに支那側の好感を喚つたが、前記鮑貴卿が東支鐵道沿線に於ける警備權の回收に成功したる後、一、九二一年二月に

○東省特別區回收

○露支協定　一、九二四年五月三十一日

○奉露協定　一、九二四年十月八日

至り、支那は大總統令を以つて、東支鐵道附屬地(即ち現東省特別區)の行政權を回收し、翌一、九二三年一月には、東支沿線の露西亞郵便局を閉鎖し、更に其の翌年に至つて、沿線の土地・教育に關する行政權を回收して支那側に於て是が經營を開始する等、東支鐵道及び其の附屬地に於ける主なる權益を回收したが此のために露支の國交は一時斷絕した。(一二)然るにサウエート露西亞は、支那に於て喪失したる自國權益の恢復に努め、支那と交渉を重ね、一、九二四年五月及九月の兩回に亘つて、露支及奉露兩協定を締結した。この結果、露・支兩國間の外交及領事關係は正規に復し、東支鐵道の政治的權益は原則として支那に回收され、露西亞は、純然たる經濟機關として、之を經營する事となり、司法・行政及鐵道用地以外の土地は悉く支那側の管轄となり、更に、奉露協定に於ては、原契約に基く無償還附期間の八十年を六十年に短縮し、この六十年の期間内に於ても兩國會議の上更に短縮し得る事とした。此の他東支鐵道の諸機關・從業職員等の配置に當つても殆んど露・支對等となる等、東支鐵道に於ける露西亞の勢力は著しく減殺さるゝに至つた。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○支那の國權回收熱

○東支鐵道武力回收

○ロシアの抗議

○ハバロフスクの協定

○英國

○南京條約一、九四二年八月二十九日

(一二) 支那は國民革命成功(一九二八年六月)後、國權の回復に著手し最近(一、九三〇年四月)つひに威海衞の回收を達成したる他、更に各國租界の回收を志し、專任委員を設置して居るが、これに先驅して、一、九二九年七月に、奉天官憲は露西亞の疲幣を見越し、武力を以つて東支鐵道の全利權を奪回せんとしたゝめに、永年紛爭を重ねた結果、漸く平靜に歸して居た露・支兩國間の葛藤は、玆に再び蒸し返される事となつた。(一三) 勿論サウエート露西亞は、之を不當として、直ちに抗議を開始したが、支那側は頑强に自說を讓らずして、つひに兩國兵火を交ゆるに至り、其間引續き幾十度となく折衝を重ねた結果、一、九二九年末に至つて、漸くハバロフスクに於て兩國代表の協定成り、東支鐵道は露支・奉露兩協約の原狀に復した、然るに正式會議は追つてモスクワに於て開催する事になつて居る。

英・米・其諸他國との關係

(一) 英國は阿片戰爭の結果、南京條約を締結し香港の割取、揚子江岸主要地の特權等を得て、近代支那を政治的經濟的に列强の切取場とした最初の一

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○天津條約一、八五八年六月二十六日
○芝罘協定一、八七六年九月十三日
○緬甸及西藏に關する條約一、八八六年七月二十四日
○印藏條約附屬章程一、八九三年十二月五日
○緬甸及西藏條約修正協定一、八九七月二月四日
○揚子江沿岸不割讓宣言一、八九八年二月九及十一日
○威海衞租借一、八九八年七月一日
○米國

國であるが、其勢力は滿洲に薄く即ち、天津條約に據る牛莊の開港と、京奉鐵道の利權と、英・米財團の法庫門其他の鐵道問題に於て僅かに滿洲の國際關係に緣故を有するに過ぎない。牛莊は英佛聯合軍と支那との戰爭の結果、芝罘・臺南・汕頭・瓊州・鎭江・漢口・九江・南京と共に開放されたもので、現在の開港場營口が夫れである。其後英國は、天津を開港させ、九龍半島の一角を割取し、又後に至つて、雲南・宜昌・蕪湖・溫州・北海・重慶・甘肅・青海・西藏等に特殊地位を得、更に南支地方に威力を伸ばし、揚子江流域不割讓の約を結び、威海衞を租借し（一九三〇年還付）、鐵道敷設の優先權を獲得し、鑛山採掘權を得る等、他國の追隨を許さないものがあるだけに、歐洲戰後引續いてゐる支那の利權回收熱に最も大きい頭痛を病むのも亦英國である。然るに滿洲地方に於ては、只傍觀的態度を持し僅かに米國の背後に在つて、日露兩國利權への割込策を試みる程度に過ぎない。

(二)英國の利權獲得に發端し、列國は競ふて支那に殺到し、政治上經濟上の利權を割取したが、獨り米國のみは、寧ろ反對に自國內に於ける支那移民

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○日、英、佛、獨、伊、露の六ケ國に同文通牒を通す

○通商上の權利保全に關する日米交換公文―一、八九九年十二月廿日

○ハリマン滿鐵を買收せんとす

○小村外相の反對「滿鐵の讓渡は支那の承諾を要す」

に惱まされた位で、只だ、通商條約を締結して貿易上より支那を覗くに過ぎなかつたが、一、八九九年末に至り支那の門戶開放、機會均等の確保につき日本政府と公文を交換した。次に日露戰爭に關し、米國は戰爭の中止を說き調停を試みポーツマス講和條約となつたが、此頃から米國は、支那方面に經濟的發展を策して居たけれども、各國の植付けた勢力は動かせなかつた。殊に滿洲は當時露國の勢力範圍であつたのを、ポーツマス條約に據り、南滿洲の權益が日本の手に移つたが戰後の疲弊を見越し、米國の鐵道業者ハリマンは日本に來つて、南滿洲鐵道の買收運動を試みた。即ち鐵道の經營を日本の法律に準據し、最初日本人の管理に屬し漸次日米平等權となるべき兩國シンヂケートを組織し之に委せんとし、日本政府の承諾を得て覺書を取換はし歸國の途に就いた。然るに船が桑港に着するや、日本政府から發せられた破約の電報を手渡されたが此れは、講和大使小村伯が歸朝し此の覺書を見てポーツマス條約に違反するものとし、一方二五億の巨費と二〇餘萬の生靈の代償として得たる滿洲の特權を米國に賣渡す不都合を力說して廟議を顚覆せし

○法庫門鐵道案

○滿洲鐵道中立提案

○中立提議ノ内容ハ凡ソ左ノ諸點ニ要約セラル

一、支那ヲシテ滿洲ニ於ケル外國商辦ノ滿鐵及東支鐵道ヲ買收セシム

二、ソノ資金ハ參加ヲ希望シ、機會均等主義ヲ奉ズル關係諸國民ガ提供スルコト

三、資金供給國々民ノ借款期間中、鐵道ノ經營ニ從事シ、且ツ材料ノ提供ニ優先權ヲ有スルコト

四、日露ノ共同參加ヲ要ス

○錦愛鐵道案

○地上權は上天に達し下地軸に及ぶと露國は反對した

めた結果で、米國の滿洲進出の第一歩は斯くして先づ失敗に終つた。然るに米國の滿洲進出の野望は、上述の如き挫折を以て息まず、玆に再び法庫門鐵道案を樹て、英國の援助を得て成立せしめんとし、日本の反對に遇ひ中止したが、其後滿洲に於ける日露兩國の著しい發展を見て米國は割込みを志し二つの滿洲進出策を樹てた。即ち滿洲鐵道中立の提案と錦璦鐵道案とである。滿洲鐵道の中立案とは滿洲に於ける日露兩國經營鐵道を支那をして買收せしめ、その資金を提供して機會均等主義を奉ずる關係諸國民の共同管理にすべしといふのであつたが、米國の意中を看破した日露兩國の强烈な反對に遇つて止んだ。そこで米國は直ちに陣容を變更し、第二案の錦州から小庫倫、鄭家屯を經て璦琿に達する蜿蜒九百餘哩の大鐵道即ち錦璦鐵道建設案（英米六割他國四割）を提げ支那政府との間に借款契約を締結した。此線は、我が南滿洲鐵道及露國の東支鐵道南部線と並行するもので我國は極力反對したが及ばず、終ひに出資國として參加の申込をなすの止むなきに至つた。然るに露國は頑强に之に反對し、一つには東支線の一驛を横斷し、又一つには、露國

○四國借款團

○一、九二二年二月三日ヒューズ氏の陳述

○對支資本團

○對支九ケ國條約

の人口稀薄なる地方に接續するの故を以て排撃し、終ひに不成立に終らしめた。こうして四度滿洲進出に失敗した米國は、其後支那の幣制改革及滿洲の實業開發の資に充つるためと稱し、滿洲に於ける日露兩國の經濟的發展を妨げ、特權を奪取するために、英・佛・獨の三國を語らひ、四國資本團を發企し、支那政府との間に一千萬磅借款の調印を終へたが、日露兩國は、此の借款を以て滿洲に於ける各自國の既得利益を無視し、機會均等主義を破つて、徒らに滿洲を混亂狀態に陷れるものと見做して反對した。時恰かも支那は十月革命の勃發に遇ひ、此の借款は立消えとなつた。斯く滿洲進出計畫の破れること前後五回に及び、米國は方式を變更して出直さねばならない。そこでワシントン會議に於ては、滿洲に於ける米國人の利益の他國と同等たる可き要求をなして居り、又、四國資本團の不結果後、米國內に於ては歐洲戰後列國の疲弊を見越し、單獨で對支銀行團を組織し支那內地に於て一千二百哩に亘る鐵道敷設權を得、大運河借款を豫約し、更に貿易及企業上の特權獲得に努力する等の活動ぶりが傳へられたが滿洲への進出は其後音沙汰がない。(三)猶ほ、

○ルート四原則
一、九二二年二月六日ワシントンに於て調印九ヶ國條約第一條

支那の各地鐵道敷設に關し、英・米・獨・佛等は財團を組織し、借款に應ずる取極をなして居るが、ワシントン會議の最終日程に於て、米國・白耳義・英國・佛國・伊太利・和蘭・葡萄牙の各國は、支那・日本を加へた九ヶ國の名を以て支那に關する列國の政策及關係を規律する要綱を發表した。即ちルートの四原則に基き、支那の領土並に行政權保全、門戸開放、機會均等に關する原則を國際的正文として表示し、又支那委員の提出にかゝる支那に於ける各國の勢力範圍撤廢の要求に對し、各國は討議の結果、支那領土內の特定地方に於て、勢力範圍を設定し、又は、獨占的機會を享有せんとする各國民相互間の協定を互に支持しない事を約した。

日本との關係

○日清戰爭

○媾和條約並附屬議定書明治二八年四月十七日

日本と支那との國際事件は、大部分を滿蒙地方と朝鮮關係に繫いで居る。朝鮮が我國の版圖となつた今日に於て殊に、接壤地域である滿洲地方との國際關係は愈々繁きを加へつゝある。（一）日清戰爭は朝鮮の安全のために支那と戰つて、我國の勝利に終り、媾和條約に據り、朝鮮の獨立は確認せられ、

○義和團事件

○日英同盟協約第一回一九〇二年一月三十日。第二回一九〇五年八月十二日。第三回一九一一年七月十三日。

○日英同盟ニ對スル露佛宣言一九〇二年三月十六日

○日露戰爭

○ポーツマス會議

○日露講和條約一九〇五年九月五日

○日清滿洲善後條約明治三八年十二月二日

○安奉鐵道に關する覺書明治四二年八月十九日

同時に日本は、遼東半島並に附屬島嶼を讓り受くる事となつたが、露・獨・佛三國の横鎗が入つて止むなく還附した。(二)明治三十三年義和團事件に於て、日本は北京に出兵し鎭壓したが、露國は此の亂脈中に、清兵が自國領土内に亂入した事に藉口して滿洲に出兵し、要地を占領して、日英同盟の聲明せる清・韓領土保全策に抵觸する行動を採つたゝめ、抗議に會つて一時差控へたけれども、間もなく佛國と共同にて日英同盟に對する宣言を發し、滿洲侵入の方針を露骨に表したので、日本は單獨にて露國との間に、韓國の保全、滿洲に於ける露國の特權確認を規約せんとしたのに、露國は誠意を示さずして益々滿洲占領の國策を進めたゝめ、明治三十七年、日本は國交斷絶の通知をなし、兩國交戰に移つた。其翌年に及び、戰爭は日本の勝利を重ねて進展しつゝある時、米國大統領の講和勸告に會ひ、兩國は之を承諾してポーツマスに會議し、折衝して講和條約を締結した。即ち露國は韓國に於ける日本の特權を確認し之に干渉せざる事、滿洲に於て獨占的特權を抛棄すること及旅順大連の租借權並に南滿洲鐵道の本支線其他一切の附屬事業を、日本に讓渡す

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○滿洲五案件協約明治四二年九月四日
(一)新民屯・法庫門鐵道
(二)營口支線
(三)撫順・烟臺炭坑
(四)沿線礦務
(五)京奉線延長
○吉會鐵道
○新奉及吉長鐵道に關する條約明治四〇年四月十五日
○同上續約四十一年十一月十二日
○錦愛鐵道問題

る事等である。然るに旅大租借地及南滿洲鐵道に關する權利の讓渡は支那の承認を要するために、日本は更に北京に於て淸國代表と交渉を遂げた。日淸滿洲善後條約が之である。(三)南滿洲鐵道の一支線である安奉線は、日露戰役當時日本軍の手に依つて建設された軍用輕便線であるが、明治四十二年に至り、滿鐵會社に於て之が廣軌改築工事を成さんとするに當り、支那政府は反對に出で頑强に抗議したが、折衝の結果、奉天に於て、滿洲五案件と共に安奉線改築に關する取極が成立した。一方日淸滿洲善後條約締結に際し、支那は南滿洲鐵道の利益を保護する爲めに、之と並行する鐵道の敷設をなさざるべき旨を會議錄中に聲明せるに拘はらず、淸國は英國の一商會と契約し、法庫門、新民屯間の鐵道を敷設せんとしたので、日本は右の條文違反と認め極力之に反對の抗議をなした。このために日英兩國の國際事件を惹起せんとしたが、淸國の意思が條約違反を敢行して日英を離間せんとするにあることが知れ、英國側に於て計畫を中止した、一方日本は支那と協議し、法庫門鐵道の敷設に當りては日本と商議すべき取極をなした。次に、日本は吉林會寧間

Digitized by Google Original from KEIO UNIVERSITY

鐵道敷設に關する投資權を得たが、其第一段として、長春、吉林間の吉長鐵道は、日支合辦事業として既に完成し第二段の敦化迄達して居る。

○滿蒙五鐵道

(四)大正二年に至り、日本は支那政府との間に滿蒙五鐵道敷設に方りては資金を日本に仰ぐ可き優先權を認めしむる取極をなしたが、其の豫定線は四平街―洮南、長春―洮南、洮南―熱河、開原―海龍城、海龍城―吉林の五線である。其中、四平街から洮南を經て東支線の一驛昂々溪に至る鐵道だけは、日本の請負鐵道として既に開通營業して居る。

○日支交渉

(五)歐洲大戰中、日本は膠州灣の獨逸租借地を奪取し、支那に還附の目的を以て獨逸と開戰して青島を占領したが、大正四年、之が善後策に就き日支交渉を開始し、山東省、南滿洲及內蒙古に關する件其他を交渉し、幾多の波瀾曲折を經て、南滿洲及東部內蒙古に關する事項につき次の如く條約した。

○山東省に關する條約
○南滿洲內蒙古に關する條約
大正四年五月二五日

即ち(A)旅順・大連の租借期限並に南滿洲鐵道及安奉線に關する期限を孰れも九十九ケ年に延長する。(B)日本人は南滿洲に於て自由に居住往來し、且つ商工業及農業經營のために必要なる土地を、期限滿了後更新する事を得る約束の下に三十ケ年の長きに亙つて商租す

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

○石井・ランシング協定
大正六（一九一七）年一一月二日

○滿蒙四鐵道
大正七年九月二四日

る事が出來る。（C）其他東部内蒙古の在留及合辦事業權、開放地の設定、吉長鐵道に關する件等が定められ、同時に日本は獨逸より奪取した膠州灣の支那國への還附を聲明した。

（六）かくて複雜なる日本の對滿洲關係の諸事象に就ては事毎に世界の注目を惹いたが、大正六年十一月米國は日本の滿洲に於ける特殊の利益を認むる旨、日本と共同にて宣言を發した、即ち石井・ランシング協定である。

（七）山東鐵道を支那政府への引渡しに當り、大正七年日本政府は、滿蒙鐵道敷設に關する兩國の條約を結んだ。之は前記滿蒙五鐵道契約を促進せしめるものと見る可く、即ち滿蒙四鐵道と呼ばれるもので、開原・海龍城・吉林間二三九哩、長春・洮南間一八〇哩、洮南・熱河間四七〇哩及洮熱線の一驛から海港に至る一線等の四線である。此等のうち開原―海龍城（大部分）、海龍城―吉林の兩線は、支那側に於て獨力之が敷設を終つて開通營業して居る。

（八）ワシントン會議に於て、支那側委員は前記日支交渉による南滿洲及東部内蒙古に關する條約の不當なるを指摘し之が取消を提議したが、日本は南

○郵便物交換條約
大正十一年十二月八日○鐵道附屬地郵便協定大正十一年十二月四日

○石井・ランシング協定破棄

滿洲及東部內蒙古の鐵道敷設權又は之に附隨する諸優先權を主張しない事、南滿洲に於ける政治、財政、軍事又は警察の事項に對し日本の顧問又は敎官を傭聘すべき優先權を主張しない事等を聲明した。なほ支那委員は、支那の治外法權撤廢及在支各國郵便局撤廢等を要求したが、前者は各國の聯合調査の上に決定する事となり、後者は條件付にて撤廢すべき事となつた。次で日本は滿鐵附屬地及關東州以外の日本郵便局の撤廢を承諾し、日支郵便物の聯絡其他に就き大正一一年一二月北京に於て郵便物交換條約を締結した。なほ前記石井・ランシング協定は大正一二（一、九二三）年四月兩國の宣言によつて破棄された。

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
KEIO UNIVERSITY



金州天齊廟（地獄極樂寺）



千山の寺院

Digitized by Google
Original from KEIO UNIVERSITY



傅家庄海岸の夏（大連）



スンガリーの夏（ハルピン）

Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY

附錄　滿蒙關係特殊條約抄

○日清媾和條約（明治二十八年四月十七日調印）

（前略）

第二條

清國ハ左記ノ土地ノ主權並ニ該地方ニ在ル城壘兵器製造所及官有物ヲ永遠日本國ニ割與ス

一、左ノ經界內ニ在ル、奉天省南部ノ地。鴨綠江口ヨリ該江ヲ溯リ安平河口ニ至リ該河口ヨリ鳳凰城、海城、營口、ニ亘リ遼河口ニ至ル折線以南ノ地併セテ前記ノ各城市ヲ包含ス、而シテ遼河ヲ以テ界トスル處ハ該河ノ中央ヲ以テ經界トスルコトト知ルヘシ。遼東灣東岸及黃海北岸ニ在テ奉天省ニ屬スル諸島嶼

二、臺灣全島及其ノ附屬諸島嶼

三、澎湖列島即英國「グリーンウイチ」東經百十九度乃至百二十度及北緯二十三度乃至二十四度ノ間ニ在ル諸島嶼

（以下各條略）

○奉天半島還附條約（明治二十八年十一月八日調印）

（前略）

第一條

日本國ハ明治二十八年四月十七日即光緒二十一年三月二十三日締結ノ下ノ關條約第二條ニ因リ清國ヨリ日本國ヘ讓與シタル奉天省南部ノ地方即鴨綠江口ヨリ安平河口ニ至リ鳳凰城海城及營口ニ亘ル以南ノ各城市及遼東灣東岸竝ニ黃海北岸ニ在リテ奉天省ニ屬スル諸島嶼ノ主權ヲ擧ケ本條約第三條ノ規定ニ依リ日本國軍隊カ總テ撤退スル時該地方ニ現在スル城壘兵器製造所及官有物ト共ニ永遠清國ニ還附ス

因リテ下ノ關條約第三條及同條約中陸路交通及貿易ヲ律スル爲メ一ノ條約ヲ締結スヘシトノ規定ハ之ヲ取消ス

（以下各條略）

○日露講和條約（明治三十八年九月五日米國「ポーツマス」ニ於テ調印）

（前略）

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

第五條

露西亞帝國政府ハ清國政府ノ承諾ヲ以テ旅順口大連並其ノ附近ノ領土及領水ノ租借權及該租借權ニ關聯シ又ハ其ノ一部ヲ組成スル一切ノ權利、特權及讓與ヲ日本帝國政府ニ移轉讓渡ス露西亞帝國政府ハ又前記租借權カ其ノ效力ヲ及ホス地域ニ於ケル一切ノ公共營造物及財産ヲ日本帝國政府ニ移轉讓渡ス兩締約國ハ前記規定ニ係ル清國政府ノ承諾ヲ得ヘキコトヲ互ニ約ス

日本帝國政府ニ於テハ前記地域ニ於ケル露西亞國臣民ノ財産權カ完全ニ尊重セラルヘキコトヲ約ス

第六條

露西亞帝國政府ハ長春（寛城子）旅順口間ノ鐵道及其ノ一切ノ支線並同地方ニ於テ之ニ附屬スル一切ノ權利、特權及財産及同地方ニ於テ該鐵道ニ屬シ又ハ其ノ利益ノ爲メニ經營セラルル一切ノ炭坑ヲ補償ヲ受クルコトナク且ツ清國政府ノ承諾ヲ以テ日本帝國政府ニ移轉讓渡スヘキコトヲ約ス

兩締約國ハ前記規定ニ係ル清國政府ノ承諾ヲ得ヘキコトヲ互ニ約ス

（以下各條略）

○滿洲ニ關スル條約（明治三十八年十二月二十二日北京ニ於テ調印）

（前略）

第一條

清國政府ハ露國ガ日露講和條約第五條及第六條ニヨリ日本國ニ對シテ爲シタル一切ノ讓渡ヲ承諾ス

第二條

日本國政府ハ清露兩國間ニ締結セラレタル租借地並鐵道敷設ニ關スル原條約ニ照シ努メテ遵行スヘキコトヲ承諾ス將來何等案件ノ生シタル場合ニハ隨時清國政府ト協議ノ上之ヲ定ムヘシ

（以下各條略）

○旅順・大連灣租借ニ關スル露清條約（千八百九十八年三月二十七日於北京調印）

（前略）

第一條

清國皇帝陛下ハ露國海軍ヲシテ北清ノ沿岸ニ於テ充分恃ムニ足ルヘキ根據地ヲ得セシムルノ目的ヲ以テ旅順口及大連灣兩港ヲ該港ニ連接セル水域ト共ニ露國政府ノ租借的使用ニ供スルコトヲ承諾ス

但シ此租借ニヨリ前記領土ニ對スル清國皇帝陛下ノ主權ハ何等侵害セラルルコトナキモノトス

第二條

前記ノ理由ニ據リ租借的使用ニ供セラルヘキ地區ノ境界

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

ハ大連灣ヨリ北ニ向ヒ該地區ヲ陸上ヨリ充分ニ防禦スルニ必要ナル距離ニ到達スヘキモノトス

本協約ノ條款ニ關聯セル正確ナル境界線及其他詳細ナル事項ハ本協約調印後直ニ聖彼得堡ニ於テ欽差全權大臣許景澄トノ間ニ締結セラルヘキ別個議定書ニ於テ規定スヘシ該境界線劃定後ハ其ノ査定ニ係ル租借領土ノ全地面ハ該地面ニ連接セル水域ト共ニ露國政府ノ完全且排他的使用ニ供セラルルモノトス

第三條

租借期限ハ本協定調印ノ日ヨリ二十五ヶ年ト定ム而シテ後ニ至リ兩國政府間相互ノ協定ニヨリ之ヲ延長スルコトヲ得

第四條

前記期限內ハ露國政府ニ於テ租借セル領土及之ニ接續セル水域ニ於ケル陸海軍總指揮權及最高民政權ハ全部露國官憲ニ屬シ且一人ノ手ニ集中セラルヘシ然レトモ之ニ知事又ハ總督ノ名稱ヲ附スルコトヲ得ス如何ナル清國陸軍ノ軍隊ト雖モ該領土ニ入ルコトヲ得ス清國住民ハ其希望ニヨリ露國ノ租借セル領土ノ領域ヨリ立退クコトヲ得ヘク又露國官憲ヨリ妨碍ヲ受クルコトナクシテ該領域ニ留マルコトヲ得ヘシ租借領土內ニ於テ清國臣民カ罪ヲ犯シタル場合ニハ千八百六十年ノ北京條約第八條ニヨリ清國法律ニ照シ裁判並處罰ノ爲犯人ヲ最近ノ清國官憲ニ引渡スヘキモノトス

第五條

前記租借地境界ノ北方ニ中立地帶ヲ設ク該地帶ノ境界ハ聖彼得堡ニ於テ外務省ト許大臣トノ間ニ劃定セラルヘシ右中立地帶ノ領域ニ於ケル民政權ハ全部清國官憲ノ手ニアルヘキモ清國軍隊ハ單ニ露國官憲ト商議ノ上ニテ該地帶ニ入ルヲ許サルヽモノトス

第六條

兩國政府ハ旅順口カ全然軍港トシテ單ニ露清兩國船艦ノ使用ニ供セラルヘキコトニ同意ス

右兩國以外ノ國ノ軍艦及商船ニ對シテハ同港ハ閉鎖セラルヘシ大連灣ニ關シテハ內灣中旅順口ト同シク特ニ露清兩國艦隊用ニ充テラレタル一灣ヲ除キ同港殘餘ノ水域ハ外國貿易ノ爲ニ開放セラレ各國商船ニ對シ該水域ノ自由出入ヲ許スヘシ

第七條

露國政府ハ租借的使用ノ爲讓渡ヲ受ケタル地面殊ニ旅順口及大連灣兩港ニ於テ自己ノ負擔ニ依リ且自己ノ資力ヲ以テ艦隊及陸軍軍隊ノ爲必要ナル總テノ施設ヲナシ要塞ヲ築キ之ニ守備兵ヲ置ク等凡ソ敵ノ襲撃ニ對スル同地方ノ有效ナル防禦上必要ナル諸般ノ手段ヲ講スヘキモノトス尙露國政府ハ自己ノ負擔ニ依リ燈臺及其ノ他航海ノ安全ニ必要ナ

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

ル豫防的目標ヲ設置シ且之ヲ維持スヘキ義務ヲ負フ

第八條

清國政府ハ千八百九十六年東清鐵道會社ニ許與シタル特許權ヲ本協約調印ノ日ヨリ擴張シテ今後同鐵道幹線ノ一驛ヨリ大連灣マテ竝必要ノ場合ニ於テハ該幹線ヨリ營口市及鴨綠江口間ニ於ケル遼東半島ノ沿岸ニ於ケル一層便利ナル地點マテ敷設セラルヘキ聯絡枝線ニ及ホスコトニ同意ス該追加枝線ニ對シテハ千八百九十六年八月二十七日清國政府ト露清銀行トノ間ニ締結セラレタル契約ノ總テノ條項ヲ正確ニ適用スヘキモノトス前記枝線ノ通過スヘキ方向及地點ハ許大臣ト東清鐵道會社トノ間ニ協定セラルヘシ前述ノ基礎ニヨル鐵道敷設ノ承認ハ如何ナル場合ニ於テモ又如何ナル名目ニ於テモ清國領土ノ獲得又ハ清國主權侵害ノ口實トナルヘカラス

第九條

本協約ハ兩國全權委員カ本書ヲ交換シタル日ヨリ法律上ノ效力ヲ有スヘシ批准交換ハ可成速ニ聖彼得堡ニ於テ之ヲ行フヘシ

右證據トシテ雙方全權委員ハ露語及清語ヲ以テ認メタル本協約二通ニ署名捺印スルモノナリ兩正本ハ對照ノ上一致セルコト判明セルカ本協約解釋上ニ際シテハ露語ノ正本ヲ以テ正確ナルモノトス千八百九十八年三月十五日清曆光緒二十四年三月六日北京ニ於テ本書二通ヲ作ル

ア、パウロフ署名捺印

李　張署名捺印

○旅順・大連灣租借ニ關スル露清續約

（千八百九十八年四月二十五日聖彼得堡ニ於テ調印）

（前略）

第一條

千八百九十八年三月十五日ノ協約第二條ニヨリ遼東半島ニ於テ旅順口及大連灣兩港ト共ニ露國政府ノ使用ニ供セラレタル地區ノ北方境界ハ遼東西岸ニ於ケル「アダムス」灣ノ北部ニ起リ「アダムス」尖山ヲ經テ（尖山モ露領ニ含ム）遼東々岸ニ在ル小村貔子窩附近ニアル灣ノ北端ニ到リ又租借地區ニ接續セル全水域ハ大陸ヲ圍繞セル總テノ島嶼ト共ニ露國ノ使用ニ供セラル兩國政府ハ現場ニ就キ租借領土ノ境界線ヲ一層正確ニ劃定センカ爲特別委員ヲ任命スヘシ

第二條

第一條ニ叙述セル露國租借地區ノ北方境界ノ北方ヲ千八百九十八年三月十五日北京協約第五條ニ規定セル中立地帶トス其ノ最北境界ハ遼東半島西岸ニ於ケル蓋州河口ヨリ岫巖ノ北方ヲ經テ大洋河ニ至リ該河ノ左岸ニ沿ヒテ其ノ河口ニ至ルマデトス該河口ハ中立地帶ニ屬ス

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

第三條
露西亞帝國政府ハ西比利亞幹線ト遼東半島ヲ聯結スヘキ鐵道路ノ終點カ旅順口及大連灣兩港タルヘク該半島沿岸ノ他ノ地點タラサルヘキコトヲ承諾ス又雙方ノ協議ニヨリ豫定鐵道線路ノ布設ニヨリ利益ヲ受クルヘキ地方一帶ニ於テハ外國人ニ對シテ如何ナル鐵道布設權ヲモ許與スヘカラサルコトヲ定ム但シ清國政府カ山海關鐵道ヲ前記新支線ノ最近地點迄延長スルニ當リ自己ノ資金ヲ以テ之ヲ布設スルコトヲ希望スルニ於テハ露西亞帝國政府ハ該延長線ノ布設ニ反對セサルヘキコトヲ承諾ス

第四條
露西亞帝國政府ハ清國皇帝陛下ノ政府ノ請ヲ容レ露國租借領土ニ在ル金州城市ニ對シ必要ナル員數ヨリ成ル都市警察ヲ有スル自治的市制ヲ布クコトヲ許可スヘキコトヲ承諾ス清國軍隊ハ金州城市ヲ撤退シ露國兵之ニ代ルヘキモノトス同市住民ハ金州城市及租借領土北境間ノ通路ヲ使用スルノ權利ヲ享有シ且同市ニ接續シ露國ニ讓渡サレタル水域ヲ日常ノ需用ノ爲ニ使用スルコトヲ得ヘキモ沿岸陸地ヘ對シテハ決シテ何等ノ權利ヲ有スルコトナシ

第五條
清國政府ハ左ノ義務ヲ負フ
(一)中立地帶ノ一區タリトモ露國ノ承諾ナクシテ之ヲ外國人ニ讓渡スヘカラサルコト
(二)中立地帶ノ東西兩岸ニ位スル一港タリトモ之ヲ外國貿易ノ間ニ開放スヘカラサルコト
(三)中立地帶ノ全地域ニ於テ露國官憲ノ承諾ナクシテハ鐵道布設鑛山採掘及一切ノ工業的企業ノ特權ヲ許與スヘカラサルコト

第六條
雙方ノ全權委員ハ上記各條款ヲ協定シタル上露清兩國語ヲ以テ認メタル本議定書二通ニ署名捺印ヲ了セリ、兩正本中議定書ノ解釋ニ當リテハ露語ノ正本ヲ以テ正確ナルモノトス

千八百九十八年四月二十五日聖彼得堡ニ於テ締結ス
伯爵　ムラウキヨフ署名
許　大　臣署名

○南滿洲及東部內蒙古ニ關スル條約

(大正四年五月二十五日北京ニ於テ調印)

(前略)

第一條
兩締約國ハ旅順大連ノ租借期限並南滿洲鐵道及安奉鐵道ニ關スル期限ヲ何レモ九十九箇年ニ延長スヘキコトヲ約ス

第二條

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

日本國臣民ハ南滿洲ニ於テ各種商工業上ノ建物ヲ建設スル爲又農業ヲ經營スル爲必要ナル土地ヲ商租スルコトヲ得

第三條

日本國臣民ハ南滿洲ニ於テ自由ニ居住往來シ各種ノ商工業其ノ他ノ業務ニ從事スルコトヲ得

第四條

日本國臣民カ東部內蒙古ニ於テ支那國國民ト合辦ニ依リ農業及附隨工業ノ經營ヲ爲サムトスルトキハ支那政府之ヲ承認スヘシ

第五條

前三條ノ場合ニ於テ日本國臣民ハ例規ニ依リ下附セラレタル旅券ヲ地方官ニ提出シ登錄ヲ受ケ又支那國警察法令及課税ニ服スヘシ

民刑訴訟ハ日本國臣民被告タル場合ニハ日本國領事館ニ於テ又支那國國民被告タル場合ニハ支那國官吏ニ於テ之ヲ審判シ互ニ員ヲ派シ臨席傍聽セシムルコトヲ得但シ土地ニ關スル日本國臣民及支那國國民間ノ民事訴訟ハ支那國ノ法律及地方慣習ニ依リ兩國ヨリ員ヲ派シ共同審判スヘシ

將來同地方ノ司法制度完全ニ改良セラルル時ハ日本國臣民ニ關スル一切ノ民刑訴訟ハ完全ニ支那國法廷ノ審判ニ歸スヘシ

第六條

支那國政府ハ成ルヘク速カニ外國人ノ居住貿易ノ爲自ラ進ミテ東部內蒙古ニ於ケル適當ナル諸都市ヲ開放スヘキコトヲ約ス

第七條

支那國政府ハ從來支那國ト各外國資本家トノ間ニ締結シタル鐵道借款契約規定事項ヲ標準ト爲シ速ニ吉長鐵道ニ關スル諸協約並契約ノ根本的改訂ヲ行フヘキコトヲ約ス將來支那國政府ニ於テ鐵道借款事項ニ關シ外國資本家ニ對シ現在ノ各鐵道借款契約ニ比シ有利ナル條件ヲ附與シタルトキハ日本國ノ希望ニヨリ更ニ前記吉長鐵道借款契約ノ改訂ヲ行フヘシ

第八條

滿洲ニ關スル日支現行各條約ハ本條約ニ別ニ規定スルモノヲ除クノ外一切從前ノ通リ實行スヘシ

(以下各條略)

○同上ニ關スル交換公文

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ本日調印ノ南滿洲及東部內蒙古ニ關スル條約第一條ニ規定セル旅順大連租借期限ノ延長ハ民國八十六年即西曆千九百九十七年ニ至リ滿期トナリ南滿洲鐵道還附期限ハ民國九十一年即西

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

曆二千二年ニ至リ滿期ト可相成尙其ノ原條約第十二條ニ記載セル運轉開始ノ日ヨリ三十六年ノ後支那國政府ニ於テ買戻スヲ得ルノ一節ハ之ヲ無效トスヘク又安奉鐵道ノ期限ハ民國九十六年即西曆二千七年ニ至リ滿期ト可相成旨御照會ノ趣致領承候

右回答得貴意候　敬具

大正四年五月二十五日

日本帝國特命全權公使　日置　益

陸　徵　祥殿

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ本日調印ノ南滿洲及東部內蒙古ニ關スル條約第二條ニ記載セル商租ノ文字ニハ三十箇年迄ノ長キ期限附ニテ且無條件ニテ更新シ得ヘキ租借ヲ含ムモノト了解相成候旨御照會ノ趣致領承候

右回答得貴意候　敬具

中華民國四年五月二十五日

支那共和國外交總長　陸　徵　祥

日　置　益殿

○滿蒙四鐵道ニ關スル交換公文

以書翰致啓上候陳者貴國政府ニ於テハ日本國資本家ヨリスル借款ヲ以テ速ニ左記地點間ノ鐵道ヲ建設スルコトニ決定ノ旨ヲ聲明セラレタル本日附貴翰致閱悉候

一、開原海龍吉林間

二、長春洮南間

三、洮南熱河間

四、洮南熱河間ノ一地點ヨリ海港ニ至ル間（本線經路ハ追テ調査ノ上決定スルコト）

帝國政府ハ欣然右支那國政府ノ聲明ヲ了承スルト共ニ日本國資本家ヲシテ本件借款ノ商議ニ應セシメムカ爲速ニ必要ナル措置ヲ執ルヘキコトヲ玆ニ致言明候

右回答得貴意候　敬具

大正七年九月二十四日

日本帝國外務大臣　男爵　後　藤　新　平

章　宗　祥閣下殿

○露・佛・獨三國ノ遼東半島還附勸告覺書

（明治三十八年四月二十三日受領）

一、露國公使ヨリノ勸告覺書

露國皇帝陛下ノ政府ハ、日本ヨリ淸國ニ向テ求メタル媾和條件ヲ查閱スルニ其要求ニ係ル遼東半島ヲ日本ニテ所有スルコトハ常ニ淸國ノ都ヲ危フスルノミナラス之ト同時ニ朝鮮國ノ獨立ヲ有名無實トナスモノニシテ、右ハ將來永ク極東永久ノ平和ニ對シ障害ヲ與フルモノト認ム隨テ露國政府ハ日本國皇帝陛下ノ政府ニ向テ重テ其誠實ナル友誼ヲ表

センカ爲メ茲ニ日本國政府ニ勸告スルニ遼東半島ヲ確然領有スルコトヲ放棄スヘキコトヲ以テス

二、佛國公使ヨリノ勸告

佛蘭西共和國政府ノ意見ニテハ遼東半島ヲ領有スルコトハ清國ノ都ヲ危フシ朝鮮國ノ獨立ヲ有名無實ニ歸セシメ且ツ永ク極東ノ平和ニ對シ障害ヲ與フルモノナリトス

佛蘭西共和國政府ハ嘗テ茲ニ日本帝國政府ニ對スル友情ヲ彰表セント欲スルカ故ニ帝國政府ニ向テ該半島ヲ確然所有スルコトヲ放棄アリ度旨友誼上ノ勸告ヲ與フルコトハ佛國政府ノ義務ナリト思考ス

三、獨國公使ヨリノ勸告

本國政府ノ訓令ニ從テ左ノ宣言ヲ致シマス

獨逸國政府カ日清媾和ノ條件ヲ見レハ貴國ヨリ請求シタル遼東ノ所有ハ清國ノ都府ヲシテ何時迄モ不安全ノ位地ニ置キ且朝鮮ノ獨立ヲモ水泡ニ屬サセ依テ東洋平和ノ永續ノ妨ケトナルコトテアルト認メナケレハナリマセヌ夫故ニ貴國政府カ遼東ノ永久ナル所有ヲ斷念ナサル樣ニ本政府カ御勸告致シマス

此ノ宣言ニ付キマシテ次ノコトヲ申上ル樣ニ云ヒ付ケラレマシタ

現今日清事件ノ最初ヨリ本國政府が貴國ニ對シテ其懇親ナル心ノ證據ヲ顯ハシタルハ唯一度ノ事テナイト存シテ居リマス　御承知ノ通リニ昨年十月七日ニモ英國政府カ歐洲各國ニ日清事件ニ干涉スルコトヲ申込ンタカ其節獨逸國カ日本國ニ對シテノ懇篤ニ依テ干涉ヲ斷リマシタ夫カラ又當年三月八日ヲ以テ本公使カ本國政府ノ命令ニ從テ貴國政府カ夥多ノ請求ヲ爲サラナイテ成ルヘク早ク媾和ヲ請フ樣ニ御勸告致シマシタ其時ニ申上ケマシタノハ歐洲ノ諸國カ清國ノ願ヒニ應シテ干涉致スカモ計ラレマセヌト云フコトニ依テ日本國ハ若シ夥多ノ請求ヲセスシテ早速媾和條約ヲ締結ナサルナラ却テ其方カ利益カ有ルテアラウト云フコトテコサイマシタ夫レニ續イテ日本國若シ大陸ノ土地ノ讓與ヲ要求スレハ之レハ最モ干涉ヲ惹起スヘキ要求テアルタラウト申述マシテモ貴國テハ此ノ利己心ナキ勸告ニ應シマセンテコサイマシタ

現在ノ日清媾和ノ條件ハ全ク度ニ過キテ歐洲諸國ノ利益上ニト並ニ譬幾分カハ少ナシト雖モ亦獨逸國ノ利益上ニモ害カアルト認メマス夫故ニ現今ハ本國皇帝陛下ノ政府モ俱ニ抗議ヲ提出シナケレハナリマセヌ且ツ必要カアル場合ニハ其抗議ヲシテ有效ニナラシメルコトモアリマシヨウ三國ニ對スル戰ハ所詮日本國ニ望ミノナイコトテアルカ故ニ貴國此事件ニ付キマシテハ讓ルコトカ出來ナイコトハナカラウト存シテ居リマス尙ホ日本政府カ名譽ヲ失フコトナクシテ今ノ地位ヨリ退ソクコトノ途ヲ講スル爲メニ「コンフエ

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

レンス」ヲ開ク等ノコトヲ望マルレハ其旨ヲ電報ニテ本國政府ヘ送レト云フ内訓ヲモ受ケテ居リマス

○支那ニ關スル九ケ國協定　（千九百二十二年六月二日）

（前略）

第一條

支那國以外ノ締約國ハ左ノ通リ約定ス

（一）支那ノ主權、獨立竝其領土的及行政的保全ヲ尊重スルコト

（二）支那カ自ラ有力且ツ安固ナル政府ヲ確立維持スル爲最完全ニシテ且最障礙ナキ機會ヲ之ニ供與スルコト

（三）支那ノ領土ヲ通シテ一切ノ國民ノ商業及工業ニ對スル機會均等主義ヲ有效ニ樹立維持スル爲各盡力スルコト

（四）友好國ノ臣民又ハ人民ノ權利ヲ減殺スヘキ特別ノ權利又ハ特權ヲ求ムル爲支那ニ於ケル情勢ヲ利用スルコト及右友好國ノ安寧ニ害アル行動ヲ是認スルコトヲ差控フルコト

第二條

締約國ハ第一條ニ記載スル原則ニ違背シ又ハ之ヲ害スヘキ如何ナル條約協定取極又ハ了解ヲモ相互ノ間ニ又ハ各別ニ若ハ協同シテ他ノ一國又ハ數國トノ間ニ締結セサルヘキコトヲ約定ス

第三條

一切ノ國民ノ商業及工業ニ對シ支那ニ於ケル門戶開放又ハ機會均等ノ主義ヲ一層有效ニ適用スルノ目的ヲ以テ支那國以外ノ締約國ハ左ヲ要求セサルヘク又自國民ノ左ヲ要求スルコトヲ支持セサルヘキコトヲ約定ス

（イ）支那ノ何レカノ特定地域ニ於テ商業上又ハ經濟上ノ發展ニ關シ自己ノ利益ノ爲一般的優越權利ヲ設定スルニ至ルコトアルヘキ取極

（ロ）支那ニ於テ適法ナル商業若ハ工業ヲ營ムノ權利又ハ公共企業ヲ其ノ種類ノ如何ヲ問ハス支那國政府若ハ地方官憲ト共同經營スルノ權利ヲ他國ノ國民ヨリ奪フカ如キ獨占權又ハ優先權或ハ其範圍、期間又ハ地理的限界ノ關係上機會均等主義ノ實際的適用ヲ無效ニ歸セシムルモノト認メラルルカ如キ獨先權又ハ優先權

本條ノ前記規定ハ特定ノ商業上、工業上若ハ金融業上ノ企業ノ經營又ハ發明及研究ノ奬勵ニ必要ナルヘキ財產又ハ權利ノ取得ヲ禁スルモノト解釋スヘカラサルモノトス

支那國ハ本條約ノ當事國タルト否トヲ問ハス一切ノ外國ノ政府及國民ヨリノ經濟上ノ權利及特權ニ關スル出願ヲ處理スルニ付本條ノ前記規定ニ記載スル主義ニ遵由スヘキコ

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

トヲ約ス

第四條

締約國ハ各自國民相互間ノ協定ニシテ支那領土ノ特定地方ニ於テ勢力範圍ヲ創設セムトシ又ハ相互間ノ獨占的機會ヲ享有スルコトヲ定メムトスルモノヲ支持セサルコトヲ約定ス

第五條

支那國ハ支那ニ於ケル全鐵道ヲ通シ如何ナル種類ノ不公平ナル差別ヲモ行ヒ又ハ許容セサルヘキコトヲ約定ス殊ニ旅客ノ國籍、其ノ出發國若ハ到達國、貨物ノ原産地若ハ所有者、其ノ積出國若ハ仕向國又ハ前記ノ旅客若ハ貨物カ支那鐵道ニ依リ輸送セラルル前若ハ後ニ於テ之ヲ運搬スル船舶其ノ他ノ輸送機關ノ國籍若ハ所有者ノ如何ニ依リ料金又ハ便宜ニ附直接間接ニ何等ノ差別ヲ設ケサルヘシ

支那國以外ノ締約國ハ前記鐵道中自國又ハ自國民カ特許條件特殊協定其ノ他ニ基キ管理ヲ爲シ得ル地位ニ在ルモノニ關シ前項ト同趣旨ノ義務ヲ負擔スヘシ

第六條

支那國以外ノ締約國ハ支那國ノ參加セサル戰爭ニ於テ支那國ノ中立國トシテノ權利ヲ完全ニ尊重スルコトヲ約定シ支那國ハ中立國タル場合ニ中立ノ義務ヲ遵守スルコトヲ聲明ス

第七條

締約國ハ其ノ何レカノ一國カ本條約ノ規定ノ適用問題ヲ包含シ且右適用問題ノ討議ヲ爲スヲ望マシト認ムル事態發生シタルトキハ何時ニテモ關係締約國等ニ充分ニシテ且隔意ナキ交渉ヲ爲スヘキコトヲ約定ス

第八條

本條約ニ署名セサル諸國ニシテ署名國ノ承認シタル政府ヲ有シ且支那國ト條約關係ヲ有スルモノハ本條約ニ加入スヘキコトヲ招請セラルヘシ右目的ノ爲合衆國政府ハ非署名國ニ必要ナル通牒ヲ爲シ且其ノ受領シタル回答ヲ締約國ニ通告スヘシ別國ノ加入ハ合衆國政府カ其ノ通告ヲ受領シタル時ヨリ效力ヲ生スヘシ

第九條

本條約ハ締約國ニ依リ各自ノ憲法上ノ手續ニ從ヒ批准セラルヘク且批准書全部ノ寄託ノ日ヨリ實施セラルヘシ右ノ寄託ハ成ルヘク速ニ華盛頓ニ於テ之ヲ行フヘシ合衆國政府ハ批准書寄託ノ調書ノ認證謄本ヲ他ノ締約國ニ送付スヘシ

本條約ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トシ合衆國政府ノ記錄ニ寄託保存セラルヘク其ノ認證謄本ハ同政府ヨリ他ノ各締約國ニ之ヲ送付スヘシ

右證據トシテ前記各全權委員ハ本條約ニ署名ス

千九百二十二年二月六日華盛頓市ニ於テ之ヲ作成ス

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

（アメリカ合衆國、白耳義國、英帝國、支那國、佛蘭西國、イタリー國、日本國、和蘭國、葡萄國、各代表者廿八名署名）

○滿洲輸入特權ニ關スル交換公文

（安東經由陸境貨物）

（千九百七年七月十五日）

露國全權大使宛慶親王ノ書翰

以書翰致啓上候陳者六月二十五日（七月八日）附左記貴翰致閲悉候

「拜啓本官ハ露西亞帝國政府カ一箇年ノ有效期間ヲ有スル支那國稅關ヲ東支鐵道ノ終點ニ設置スルコトニ同意シタル旨ヲ本日貴殿下ニ通告スルノ光榮ヲ有シ候、ロシア帝國政府ハ將來大連港ヨリ滿洲ニ輸送スル貨物ニ對シテ許可セラルヘキ凡テノ特權ハ陸境ヨリ滿洲ニ輸送スル貨物ニモ同樣ニ許可セラルヘキコトヲ切望致候故ニ大連港ヨリ輸送スル貨物ニ許可セラレタル凡テノ特權ハ海上通商條約又ハ南滿洲鐵道支線ノ敷設ニ關スル協定ニ規定セラレサルモ鐵道ニ依リ國境ヲ通過シテ輸送スル貨物ニモ同樣ニ許可セラルヘキモノニ候本官ハ我カ政府ノ訓令ニ依リ右ノ如ク貴殿下ニ通告致候」

右通牒ニ關シ我カ全權大臣ハ謹ムテ其ノ趣ヲ領承シタル旨ヲ貴官ニ通告致候　敬具

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

◇大連自由港建設ニ關スル露帝ノ勅令

（千八百九十九年八月一一日）

「ニコラス」皇帝ヨリ大藏大臣ニ與ヘタル勅令

我帝國ハ歐羅巴及亞細亞ニ於テ廣大ナル領土ヲ包有スルカ故ニ東西兩洋ノ人民ノ平和的交通ニ助力スルハ神意ノ命スルトコロナリ斯ノ歷史的目的ヲ遂行セムカ爲我帝國ハ大連港及旅順口港ノ使用權ヲ其ノ接續地域ト共ニ帝國ニ讓與シ且大西比利亞鐵道ニ對シ其ノ附屬地域ヲ貫通シテ黃海ニ至ルノ出口ヲ供與シタル支那帝國ノ友好的援助ヲ享受セリ支那國皇帝陛下ノ斯ル賢明ナル決意ニ因リ舊世界ノ二大陸ノ極限カ一切ノ國民ニ對シ便利ナル交通ノ不可測ノ利益ヲ確保シ且新地域ヲ世界商業活動範圍內ニ招致セシムヘキ直通鐵道線ニ依リ接續セシメラル丶ノ日ハ近キ將來ナルヘシ

斯ル一般的利益ニ關スル計劃ハ我帝國ノ不斷要望スルトコロニシテ帝國ハ一度鐵道ノ敷設セラレタル曉其ノ終點タル大連灣港カ獲得スヘキ第一義的重要ニ著眼セリ、大連灣占領後該港ハ一切國民ノ商船ニ對シ開放セラレタル旨ヲ聲明シタル帝國ハ玆ニ進ムテ該港附近ニ一個ノ都市ヲ建設シ之ニ「ダルニー」ノ呼稱ヲ與フルヲ得策ト思惟スルモノナリ

之ト同時ニ將來ノ土地ノ商業的發展ヲ念ヒ、帝國ハ千八百九十八年三月十五日（二十七日）ノ條約ニ從ヒ、該都市地域カ支那國ニ依リ露西亞國ニ引渡サレタル全期間中該都市ニ對シ一般自由港ニ許與セラルル自由貿易權ヲ左ノ條件ニ於テ許與スルモノナリ

一、都市港及接續地域ニ於ケル一切ノ種類ノ貨物ノ輸出入ハ大藏大臣ノ決定シ及修正スヘキ區劃內ニ於テハ關稅免除トス

二、右自由貿易權ハ運送碇泊及其他港ニ於テ課セラルル各種ノ稅ノ徵收ヲ妨ケス

三、一切ノ入港船舶ハ傳染病ノ侵入ヲ豫防スル目的ヲ以テ發布セラルル檢閱規則ヲ嚴守スヘキモノトス

四、露西亞國ニ輸入セラル丶貨物ニシテ自由貿易權ヲ有スル地域ヨリ發送セラル丶モノハ檢査ヲ受ケ輸入稅ヲ支拂ヒ且外國貨物輸入ニ關スル現行一般條件ニ從ヒテ帝國內ニ入ルモノトス

斯ノ眞ニ平和的ナル將來ノ事業ニ對シ神加護ヲ喚起シツツ朕ハ都市及港ノ建設ノ監督ヲ貴大臣ノ管理ニ俟ツモノナリ

「ニコラス」署名

◇極東太守ノ權能ニ關スル露西亞皇帝ノ勅令

帝國ノ東部國境ニ接壤スル諸州ニ於ケル復雜セル行政問題ヲ顧ルトキハ朕ハ右諸州ヲ統轄スル權力ノ設定セラレムコトヲ希望スルモノナリ

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

斯ル權力ノ行使ニ依リ緊急ナル地方的懸案ノ平和ニ處理セラル丶コトヲ確保スルカタメ且現在「プリ、アムール」州總督治下ノ一切ノ諸州竝關東州ヲ包含スヘキ特別ナル太守領ヲ組成スルノ必要ヲ認ムルカ故ニ朕ハ左ノ勅令ヲ發布ス

第一　極東太守ハ前記諸州ノ民政ニ關シ最高ノ權能ヲ賦與セラレ且諸ノ中央行政廳ニ對シ獨立ノ地位ヲ有スルモノトス　又極東太守ハ東支鐵道ノ利益ノ爲ニ收用セラレタル地域内ニ於ケル秩序及安全ノ維持ニ關シ最高ノ權能ヲ有スルモノトス太守領域外ノ隣接地方ニ於ル露西亞國臣民ノ利害及需要ニ關シ相當ノ注意及保護ヲ與フルハ亦極東太守ノ司ルトコロトス

第二　極東太守領行政法律ノ發布セラルル迄ハ中央及地方官憲ニ對スル太守ノ權能、權利及義務ハ「コーカサス」太守領設置ニ當リ發布セラレタル千八百四十五年一月三十日附勅令ノ原則ニ從ヒテ之ヲ定ムルモノトス太守管下ノ一切ノ行政廳及官吏ハ太守ノ仲介ヲ經ルニ非サレハ諸ノ中央行政廳及其ノ部局ト照會スルコトヲ得ス

第三　前記極東諸州内ニ惹起スル事件ニ關スル諸ノ隣邦トノ一切ノ外交關係ハ太守ノ專管スルトコロトス

第四　太平洋ニ於ケル海軍及太守管下ノ地方ニ駐屯スル一切ノ陸軍ノ統帥權ハ之ヲ太守ニ賦與ス

第五　極東中央官憲ノ行動カ帝國ノ一般的政策及諸ノ中央行政廳ノ行動ニ一致セムカ爲朕ハ朕ノ司會ノ下ニ特別委員會ヲ設置ス該委員會ニ參加スル者ハ總テ朕ノ信任ヲ有スルモノトス

第六　極東太守ニ任命シタル將官「アレキシエフ」ハ本勅令ノ趣旨ヲ有效ナラシメ且前記極東諸州施政法律及其ノ施行細則ヲ作成スルノ義務ヲ負フモノトス　右草案カ朕ノ裁可ヲ得ル爲ニ上呈セラレタル場合ニハ元老院ハ必スヤ適當ナル措置ヲ執ルヘシ

千九百〇三年七月三十日(八月十二日)ペテルブルグニ於テ本書ニ親署シテ之ヲ發布ス

「ニコラス」署名

(千九百〇三年十二月二日)

Digitized by Google　Original from KEIO UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
KEIO UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY

昭和五年七月十五日印刷
昭和五年七月十七日發行

【定價金壹圓】

版權所有

編輯者兼發行者　東京市麹町區丸ノ内二丁目二番地
財團法人東亞經濟調査局
右代表　大川周明

印刷者　東京市京橋區銀座西一丁目七番地
福神和三

發行所　東京市麹町區丸ノ内二丁目二番地
財團法人東亞經濟調査局
振替東京八一五三七番
電話丸ノ内（三三）〇三九九番
（三三）九一九九番

Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY

48

Digitized by Google

Original from
KEIO UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY

48

Digitized by Google

Original from
KEIO UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY

110299331X
慶應義塾図書館
Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY

10810991284
慶應義塾図書館
Digitized by Google
Original from
KEIO UNIVERSITY